カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人 牧山美好
TEL 092-522-5139
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般】東方教会の霊聖と典礼に関する伝統の評価
【布教】第二回アメリカ宣教会議
【日本の教会】家庭生活の充実

2004年1月1日 世界平和の日

教皇メッセージ

常に時にかなった取り組みである平和の教育

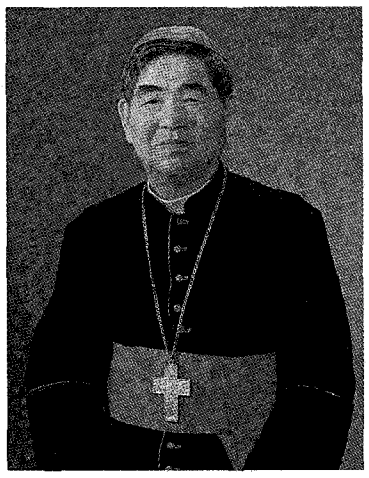


教区年間テーマ

召命は、生きるキリストとの出会いから

教区長新年のメッセージ

新年のお慶びを申し上げます。
私たちの歩みの一つ一つを神様の祝福が暖かく
護ってくださるよう、心を込めてお祈り致します。



新年に当たり、平凡な次のことを思いましょう。

(1) 私たちは信者です

信じるとは神の前に生きることです。神を目の前におき、神に祈りつつ平凡な人の道を歩むことです。人間は独りで生きているのではない。神の前に、神の眼の届くところで人間として行動しなければならないことを思いましょう。

神様は私たちを監視しておられるのではありません。私たちを危険から護り、私たちが神の心に叶うことを実行するよう、配慮していてくださるのです。

この神の眼の前で正しいことを行うように心掛け、特に人々に善を行うよう心掛けましょう。神を敬い、隣人、特に困っている人に善を行なうことが、神の御心だからです。

(2) 周りの人に善を行うこと

周りの人、特に困っている人々に善を行うことが大切なつとめであることは申しました。私たちは日ごとの行動において、小さなことにも、大きな事柄においても、自分に出来る限りの親切を行うように心掛けましょう。

毎日、適切な必要は起こることはないでしょうし、私たちも常に善が行えるとは言えません。ただ、私たちはすぐ側にいる人々に、そのとき出来る親切を行うように務めなければなりません。小さなこと、平凡なことの積み重ねが、神様のお計らいのなかで大きなことに繋がり、素晴らしい効果を生み出すことがあるからです。

世の中には大きなことが起こることがあります。しかし平凡な私たちは、通常そこで大きな役割を持つようには定められていません。私たちは、平凡な小さいことの積み重ねで自分の使命を果たすように方向づけられています。まず、自分の使命を、自分の持ち前を果たしましょう。特別なことの場合には、特別な呼びかけがあると思います。

(3) 福音宣教は私たちの毎日の使命です

私たちはカトリック信者です。信仰を広め、人々を救いの道に導くのは私たちのいわば生来の務めです。毎日の行動を通して、必要に応じては言葉による発言を通して、真の信仰の道に人々を呼び寄せるようにしなければなりません。特別な事でなくても、誠実に生きている人は、人々に何か力強い影響を与えるものです。今年のうちに、一人でも信仰に導くことができるでしょうか。若し今年だめなら、来年は成功するのでしょうか。

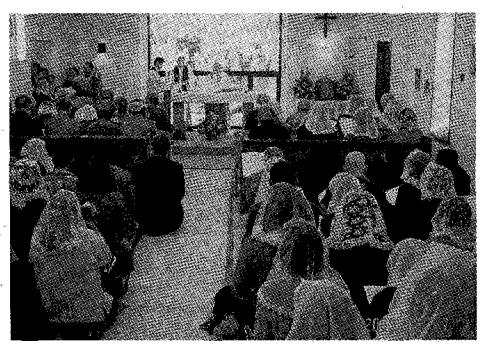
このことに関連することのなかで、一つのお願いがあります。司祭の召し出しのために祈ってほしいということです。福音宣教のため司祭はぜひ必要です。主キリストは「収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主に願いなさい」と言われました。召し出しのために熱心に祈ってくださるよう皆さんにお願い致します。

私たち一人一人の力は小さいもの、弱いものです。聖母マリアの御取り次ぎによって、信仰を伝えるお恵みをお願いしましょう。これは聖マリアの御心にも一致することですから、確かに私たちの願いは受け入れられるでしょう。

全ての方々の上に、特にこの新年の間、神様の祝福をお祈り致します。

2004年1月
福岡教区長
ヨセフ　松永久次郎司教

恵楓園教会聖堂建立50周年



カトリック恵楓園教会は聖堂建立50周年をむかえ、12月7日、記念ミサが行われた。

恵楓園教会と武蔵が丘教会信徒、そして熊本地区をはじめ各地から集った大勢の人々で聖堂はうめつくされた。

聖堂建立以前は、パリ外国宣教会、コロンバン会、そして幾人かの邦人司祭が恵楓園を訪れていた。また修道者、伝導師たちの奉仕があったことも忘れることができない。1951年当時、恵楓園内の礼拝堂でカトリック、仏教、神道など各宗派が時間割りに従って儀式を行っていた。

その頃来園していたコロンバン会のダイヤモンド神父は、信徒のために聖堂建立を、との希望を地区長ハンター神父に相談。この実情をコロンバン会雑誌に掲載したところ、アメリカとアイルランドから寄付金が集まり、聖堂建設に着手することができた。

こうして聖堂は完成し、1953年12月14日に献堂式を行った。新聖堂は天の元后聖マリアの保護に委ね、神に奉献された。翌年には聖堂の一角に納骨堂が完成した。この納骨堂は、平成12年に恵楓園合同納骨堂へ移動している。

この神の家は人々を神の愛で包み、そこで打ち明けられる人々の心の叫びを聞き、苦しみと痛み、涙を見つめ続けてきた。

50周年の感謝ミサの中で、松永久次郎司教は「キリストの来臨を待つ間、苦しみを担って生きることは、全人類を救いへ導く主キリストの十字架の神秘にかたく結ばれ、大いなる神の愛を証しする使命に参与することである」と語った。ミサの終わりに現指導司祭F・マッケイ神父が挨拶し、恵楓園教会は神のはかりしれない恵みの訪れる場所であると述べ、療養所で生活を送る人々の背負ってきた長く苦しい道のりに思い馳せた。

恵楓園教会、天と地を結ぶ希望の架け橋の一端がここにあり、これからも神への賛美がこだますることだろう。

時の話題

司法書士の役割

土生　修

主のご降誕と初春のお慶びを申しあげます。

新しい希望を胸に、それぞれに新年をお迎えのことと思います。「神は細部に宿りたもう」（アビ・ワールブルク）という言葉があります。物事の真理、真実は抽象的な権力、大儀、あるいは理屈のなかに存在するのではなく、私たちが現実に生活を営んでいる「日常の細やかなディテールス（細部）」の内にこそ宿っているという現実直視の精神を意味しますが、信者の皆さんのみならず、司法書士業界においても深くかかわりのある言葉です。

司法書士は、不動産、法人登記の専門職ですが、同時に「街の法律家」とも呼ばれ、法律と市民、企業と社会とを結ぶ絆として、常に「細部」の立場からの真理、真実を追究することが求められます。すなわち、権利の保護、保全のために「神は細部に」の精神を実践することが、司法書士の職業倫理であるといえます。

近年、経済大国を自称する日本でも急速な少子高齢化、個人の自己破産、ローン破綻の激増、高度失業化など深刻な社会問題が表面化しています。これに対し、成年後見制度や介護サービス基盤、貸金業規制法等の法整備も進んでいますが、一方で改めて日々の現実、暮らしの中の「細部」に目を凝らし、絶えず警鐘を発していくことも忘れてはなりません。

年初にあたり、いわゆる「人間が潰れない社会」の構築こそが、社会のセーフティネットとして日常的に身近な人々と接することのできる、司法書士に課せられた重大な役割であると再認識します。

司法書士・大名町教会信徒

高見大司教着座

長崎



教皇ヨハネ・パウロ二世により長崎大司教区教区長に任命されたヨセフ高見三明大司教の着座式が、12月14日、長崎カテドラル浦上天主堂で行われた。任命書の朗読の後、駐日教皇庁大使エムブロース・デ・パオリ大司教から司教帽（ミトラ）と司教杖（バクルス）が授与され、日本代牧区時代のプチジャン司教から数えて第9代目教区長として着座。高見大司教は自らが目指す司教職を標語「教会のために、教会とともに」と、紋章によって表現した。また、大司教は、急逝した故島本要大司教の司教杖を受け継ぎ、宣教する教会を目指し、組織の見直しに積極的に取り組んだ前任者の遺志を継承しながら、伝統ある教区をさらに発展させて行きたいと語った。

みちくさ

周りの人と同じ方を向いているうちは、そう気にならないことも、いざ、一歩踏み出して、もと自分がいた方を振り向くと見える世界が一変する。日常の流れとは違う方向へ身を転ずるには、確かに勇気と力がいる。しかし、自分を知るために、これは必要なことかもしれない▼これまでの人生で、向きを大きく変えることがあった。それは司祭の歩みを始めて、ミサをそれまでとは反対向きになってささげるようになったことである。今も時々、会衆席にいる自分の姿を探すことがある。でも、自分を知るために、共に生きる人たちに気付くために、今はこの場所から、自分の目で見るようにしたいと願う。確かに、主キリストが背中を支えてくれなければ、そこにそうして立ち続けることはできない▼人のからだの中では血液を循環させる仕組みがたえず活動している。呼吸を整えたり脈をみたりする時、あるいは傷口からにじみ出て来て、あらためてそのことに気付かされる。体温が保たれていること自体が、今もその営みが続いている証拠。生命活動を終えた人の体に触れた時、いつもと違う、何かが違うことにはっとする▼これと同じようなことが、人間の精神活動においてもみられないだろうか。心の奥底でたえず対流が起こっている。また地殻変動にも似た動きが生じており、人が気付かない程ゆっくりとした変化が続いている。時折、亀裂が生じ衝撃が走ることもある▼いつの日か、神に招かれるその時には、神の元から、たどってきた人生をふり返ることになるのだろう。

世界平和の日　教皇メッセージ
常に時にかなった取り組みである平和の教育

教皇ヨハネ・パウロ二世は2004年「世界平和の日」メッセージを発表した。今年のテーマは『常に時にかなった取り組みである平和の教育』。教皇は「平和共存の理想を、各個人や民族の意識のうちに根付かせるために働くこと、他の人々に平和への教育を施すことは、キリスト教の特性そのものに属することである」と語る。

メッセージの中で教皇は、平和は実現可能な理想であること、人類を苦しめ続ける悲劇を前にしても希望を抱き、忍耐強く新たな世代にこうした理想を教育し続けていくことこそ、全人類のために良い未来を準備することにつながると説いている。教会はいつの時代にも、平和の教育は平和を愛するすべての人の義務であることをたえず促してきた。教皇は、人類が利己心と憎しみ、支配への渇きと復讐への欲望に揺り動かされている今こそ、協調への道を再発見する必要があると語る。メッセージはテロがもたらす破壊的な傷についても言及している。目的が手段を正当化することはできない、という原則をあらためて思い起こさせ、テロとの戦いで求められているのは、犯罪行為の防止と監視、抑制への効果的な仕組みを備えた法的手段の策定であることを指摘している。

そして教皇はメッセージの結びに、「愛の文明」について次のように語っている。

愛の文明

世界に真の平和を築くためには、正義が愛のうちに成就しなければならないからです。確かに、法は平和へと続く最初の道で、人々は法を守るよう教えられなければなりません。しかし、正義が愛によって補完されていなければ、道の終わりにたどり着くことはできないのです。正義と愛は時に、相反する力のように思えることがあります。しかし実際、それらはある一つの現実の二つの様相にほかならないのです。人間の生のこの二つの様相は、互いに補い合うことで成り立つのです。歴史上の事実は、このことが真実であることを証明しています。それはいかに正義が、恨みや憎しみ、あげくには残虐性からも逃れられなかったことを示しているのです。正義その ものだけでは不十分なのです。まさに正義は、それが愛というより深い力に開かれていなければ、自らを裏切ることさえもあります。

こうした理由から、わたしはしばしば、キリスト者の皆さんとすべての善意の人々に、個人や人々の間の問題を解決するためにはゆるしが必要であることを思い起こすよう呼びかけてきました。ゆるしには正義はあり得ません。わたしの思いが、特にパレスチナと中東地域で続く危機的状況に向かう中、ここで今、もう一度繰り返します。かの地域の人々にあまりにも長い間苦しみをもたらしてきた重大な問題の解決は、単純な正義の論理を乗り越え、ゆるしの論理にも開かれた決断が下されない限り、見いだされることはありません。

キリスト者は、神が愛ゆえに人との関係に入られたことを知っています。そして神は愛を、人からの応答として待っておられるのです。ですから愛は、人間の間に可能な、最も気高い形態の関係なのです。愛は人間の生のすべての分野を活性化し、国際秩序にまで広がらなければなりません。「愛の文明」が支配する人類社会だけが、真の恒久的な平和を享受できるのです。

新年の初めにあたって、すべての言語と宗教、文化のうちに生活する皆さんに向かって、古くからの格言を、もう一度繰り返したいと思います。「愛はすべてを征服する」。そうです、全世界の兄弟姉妹の皆さん。最後には愛が勝利するのです。この勝利が早まるよう一人ひとりが努力しましょう。それは、すべての人が心の中で、最も深く望んでいることだからです。

祈る人の世界 (5)

間違っているかもしれない

御受難会福岡修道院
修練長　来住 英俊 神父

ある本の中に、祈りについてこんな表現があった。「自分の希望や計画が何であれ、御父は別のことを考えておられるかもしれないという可能性に柔軟になり、開かれるようになります。」(P・オサリバン著、『行きづまったとき』P63)

これは物の分かったこの道の苦労人の言葉であると思う。まわりくどい言い方をしないで、「祈れば御父の御旨がしだいに分かるようになる」とストレートに言えばいいようだが、祈りの実りはまずつつましい形で現れる。つまり、自分が大きな思い違いをしている可能性を認めることができるようになる。

＊

キリスト信者はイザヤ書の言葉を使って、「神の思いと人間の思いは違うんだからね」とよく言う。思いがけない不本意なことが起こった後で、自分を納得させるために諺のように使われることが多い。しかし、本当にキリスト者らしいことは、確信をもって事を行っているそのまっただ中にあって、心の深くで、「自分は大きな思い違いをしているのかもしれない」と認めているということである。

使徒パウロにあっては、それはキリストの再臨への待望と深く結びついている。強固な信念の人だったが、再臨のキリストとお会いする時には、「あなたは間違っていた」と告げられるかもしれないことを知っていた。生涯の最後まで腰が低いとか物腰が柔らかいという類の人物ではなかったように思われるが、その意味で謙遜な人であった。

「自分には何もやましいとはないが、それでわたしが義とされているわけではありません。わたしを裁くのは主なのです。ですから、主が来られるまでは、先走って何も裁いてはいけません。」(第一コリント書4章4―5節)

＊

再臨の主に「あなたはあの時、間違っていた」と告げられるかもしれないということは、今自分と意見を異にしている当の相手が正しいのかもしれないということでもある。一理ある程度ではなく、肝心なところが正しいかもしれない。

議論をするとき、わたしたちは相手の意見をよく聞こうとはする。良いものがあれば取り入れようともする。なぜそういうことを主張するのか、相手の立場を理解しようとする寛大さもある。しかし、最も重要なところで相手の方が正しいのかもしれない、という可能性は閉め出していることが多い。相手が懸命に反論してくるときも、「あなたのおっしゃることはよく理解できます」と穏やかに受け答えをするが、悪く言えば「それはとっくに考えてあるよ」という「したり顔」である。根本のところでは自分が正しいという立場は一瞬も捨てられることはない。

それを捨ててみるとどうなるか。つまり、一瞬、心を宙に飛翔させる。そして、「彼が正しい」世界に身を置いてみる。もちろん、すぐに再び「自分が正しい」世界に戻ってきてしまう。しかし、一瞬でもそれができれば、討論している今の現実が新しい光の下に見えるかもしれない。相手が自分よりも若い、経験の少ない人の場合に、とくに試みてほしい。この心の自由な移動が「祈る人の世界」である。

＊

現実を調べ、祈り、現在の自分の精一杯の見識をもって判断し、それを確信をもって行う。それでありながら、神の目から見れば反対者の意見に理があるかも知れないという意識を深く秘めている。

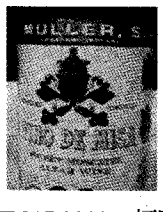
祈らずにできることではないが、このような人こそ、まことに謙遜で柔和な人と言うべきである。その人は真のキリスト者の香りを放ち、周囲を教化するであろう。

主のご降誕と2004年の初春をお祝い申し上げます

教区長　松永 久次郎司教

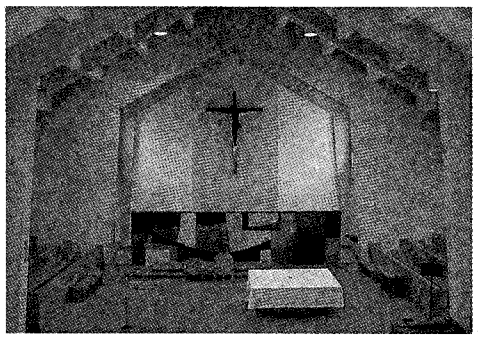
[福岡地区]
司教館　中浜 一男
　松井 忠之
　牧山 美好
糸島　櫻井 尚明
今村　岩永 義人
大楠　堤 敏雄
大牟田　A・スカットロン
小郡　牧山 勝美
久留米　三村 邦明
　田中 重治
古賀　E・ウイリアムス
　J・マホニー
笹丘　T・ドワイヤ
浄水通　今田 昌樹
大名町　中浜 一男
　青木 悟
浦川 務
高宮　小池 如安
茶山　片岡 哲夫
西新　山田 成章
箱崎　下町 豊重
光丘　G・ブルニ
二日市　川上 惣一
本郷　畠山 七郎
吉塚　硫黄 隆二
老司　浦口 均
大神学院　大山 悟
　山脇 守
牧山 強美
白浜 満
湯淺 俊治
川原 昭如
Z・イエール
イエズス会　R・キエサ
　J・モラレス
曽根 忠明
増井 啓
塩谷 恵策
萱場 基
聖パウロ修道会　永富 久雄
御受難会　鈴木 忠一
　来住 英俊
　G・ブレシュッ
美野島　M・コース
ファミリーセンター　S・ライル
[北九州地区]
飯塚　山下 正
黒崎　L・ベリオン
小倉　平田 敬
　杉原 寛信
新田原　竹森 勇
天神町　H・キニュ
戸畑　森山 信三
直方・田川　中村 信哉
水巻　F・ハーン
門司　伊東 成晃
湯川　浦 俊雄
行橋　山元 眞
若松　鵜野 泰年
門司港(管理者)　牧山 重光
八王寺(パリ外国宣教会)　M・ラバルタ
　J・ガイヤール
　J・バイヨ
[佐賀地区]
伊万里　C・ガッザルディ
鹿島・武雄　L・マネルバ
唐津　V・チェリッザ
佐賀　深堀 勝人
　M・ヴィッラ
　A・テンペリーニ
多久　平田 三好
鳥栖　田川 清美
馬渡島　呼子
ロザリオの園　A・アレグリーニ
聖マリア病院　R・マグリン
[熊本地区]
荒尾　大江・崎津・本渡　川添 猛
　川原 拓也
帯山　V・ヤングキャンプ
菊池　R・オウエンス
健軍　中村 彰
島崎・玉名　F・カロール
手取　W・カリー
人吉　H・オッカロール
水俣　E・ホーガン
武蔵が丘　F・マッケイ
八代　J・ノーリス
真命山諸宗教対話霊性交流センター　F・ソットコルノラ
司教館付　平田 三郎司教
久留米信愛女学院短大　高木 善行
召命の家　山頭 原太郎
パストラル　W・キッペス
[海外]
米国　渡辺 隆義

横尾龍彦　むなかた祈りの森　芸術講座
「宗教や芸術は意識層に現れてこない無意識層の問題。心の問題としての霊性や芸術美が人間性の復活に大きな力になることを提唱したい」…横尾龍彦
講座期間：2004年1月26日～2月5日（全5回）
問合せ先：黙想の家　鈴木忠一神父（コーディネーター）
PRAYER GROVE MUNAKATA
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

聖堂献堂50周年 大神学院



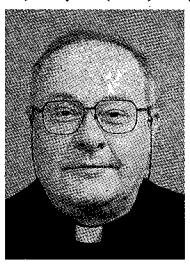
恒例の福岡サン・スルピス大神学院祭が、今年は神学院聖堂献堂50周年の記念日に合わせて11月19日に行われた。

大神学院聖堂の献堂式は1953年11月19日、当時の教皇庁公使ド・フルステンベルグ大司教の司式により執り行われた。聖堂はラテン十字形をしており、その横木に当たる部分が内陣を形成している。会衆席両脇に6つの祭壇が設置されているが、これは第二バチカン公会議以前の典礼ではミサを共同司式することはできなかったため、司祭が個別にミサを捧げていたからである。その後1970年に第二バチカン公会議の典礼刷新に基づいて改造された。それまでの背面式から対面式ミサに変わり、献堂当初の固定祭壇はモザイク壁によって隠されることになり、新たに木製の可動式祭壇が設置された。1983年にも、聖スルピス司祭会来日50周年を機に少し手が加えられた。現在、聖堂正面の壁には大きなドナテーロ作の十字架（複製）が置かれている。この十字架は一度は取り降ろされたこともあったが、途中鎖で吊るされた時期を経て、1990年に元の配置に戻された。窓を飾るステンドグラスは聖堂にひときわ美しい神秘的装いをまとわせている。M・バルトズ氏が製作した。これらは卒業生や歴代の養成担当者をはじめ多くの人々の寄付により少しづつはめ込まれ、1990年12月に最後に残っていた内陣奥の窓に取り付けられ完成した。テーマは天地創造から黙示録にいたるまで幅広く、聖書の出来事やメッセージ、教会の神秘について物語るものとなっている。

神学院祭には長崎教会管区の司教、深堀敏司教（高松教区）、神学院同窓の司祭、そして全国から司祭、修道者、信徒、約150人が集った。聖スルピス会総長と管区長も来日し、喜びの輪に加わった。ミサは糸永一司教（鹿児島教区）の主司式で行われ、献堂以来半世紀の年月を刻んだ聖マリアの奉献聖堂いっぱいに、聖母に捧げるグレゴリオ聖歌が響き渡った。ミサの冒頭で、新しく設置された聖書朗読台が祝福された。叙階の記念も行われ、福岡教区からは司教叙階銀祝の松永久次郎司教、司祭叙階金祝の浦口均神父（老司教会）、銀祝の深堀勝人神父（佐賀教会）、10周年の中村信哉神父（直方・田川教会）が紹介された。

また聖スルピス司祭会のZ・イエール神父の来日50周年を祝った。神父は長年に亘り、神学院養成担当者をつとめ聖書学を講じ、日本における聖書研究の発展に多大な貢献をなした。挨拶にたったイエール神父は、この地で聖堂と同じ年月を歩んだ半生をふり返りながら、すべてを神に感謝し、神学生たち、また共に研究にいそしみ、おしみなく協力してくれた多くの人々に感謝の思いを表した。聖書にかける情熱と、司祭としての柔和な生き方を示し続けたイエール神父は、教え子たち、共に歩んだ人々の心に消えることのない大切なメッセージを託しながら、来年、住み慣れた神学院を離れ、故国カナダへ旅立つ。

木かげ



ハーン フランシス神父

昨年4月から6年ぶりに福岡教区の水巻教会に赴任してまいりました。恵まれた毎日を過ごしています。私は31年の司祭生活の内、大半を四国の教会で過ごしました。

徳島の教会にいた頃、私にとって初の体験だったのですが、教誨師を務めました。正直に言えば怖かったです。その刑務所には長期間の犯罪者が多く、怖いお兄さんがいっぱいいると思い、私のような者がつたない日本語で彼らに何を言えば良いのかと戸惑いました。最終的に神様にその不安の全てを投げ捨てて行くしかないと思って刑務所に行きました。毎月2回1時間宗教の話しをし、その上に月1回篤志面接委員（英語担当）として5年間働きました。結論から言えば素晴らしい体験でした。彼らと共に聖書を分かち合えば分ち合うほど、神の御言葉は

教誨師の務めの喜び

生きたものとして湧き上がってくるのです。大変な過ちをおかして処罰を受けている彼らは誠実に福音に対して聞く耳があり、罪の赦しの話しをすれば彼らは良き便りとして受け入れてくれたのです。いつも聞き慣れ過ぎている司祭や信徒は、同じ福音の回心への呼びかけを聞いても意味がぴんと来ない場合が多いようです。いつも自分の罪が目の前にある囚人たちの反応と喜びの質は違います。

福岡教区に戻って来たとき、古賀教会の主任司祭マヘル神父は、長年教誨師の務めを果たした平田寛神父さんの紹介で教誨師の務めを引き受けてから2年後に、ちょうど私と同じ時期に転勤することになりました。マヘル神父は私に「おまえは教誨師を続けたいですか」と尋ねました。私は迷わず「是非お願いします」と返事しました。今は毎月1回刑務所に通っています。片道は1時間半ぐらいですが喜んで行っています。マタイ福音書に書いてあります。「牢獄で会ったときにわたしを訪れてくれた」と。キリストは確かにあそこで私を待っています。誰よりも自分のために。教区司祭であった平田神父は教誨師の間で非常に評判高く、愛された存在であったと感じています。牧師さんたちを始め、お坊さん、他の宗教者の何人かは、私がカトリック神父と分かればすぐに寛神父様の名前を上げ、「彼の突然の死はとても寂しいことでした」と言うのです。

平田寛神父の後を歩むのは大いなる責任と感じています。と同時に先輩が残して下さった模範に従って歩くことは幸いです。

全ての教誨師のために、また、教会を愛し活発に自分のものとして喜んで奉仕する水巻教会の司祭となった私のためにもお祈りください。この二つの尊い使命を忠実に果たすことができますように、と。

水巻教会主任司祭

礼拝会来日75周年を祝う

礼拝会（聖体と愛徳のはしため礼拝修道女会）は来日75周年をむかえた。福岡修道院では11月24日に記念ミサが挙行された。聖堂は人々で溢れ、祝福と感謝に満ちた祈りと歌声が響きわたった。松永久次郎司教は説教で「神を礼拝すること、そして苦しんでいる兄弟を助けることはキリストが示された愛の掟そのものを生きること」と語り、会固有の務めをこれからも実行し続けていくよう励ました。

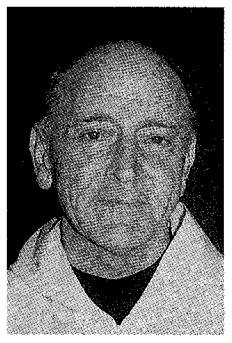


喜びのシスターたち

1928年に最初の礼拝会修道女がスペインから派遣された。戦争の苦難を乗り越えて、現在、東京・横浜・大阪・広島・福岡で活動している。福岡修道院は24年前に創設され、学生とOLのための女子寮を経営している。緊急一時保護施設にはDVから避難してきた女性と同伴児を受け入れている。シスターたちは聖体に活かされて最後の日まで、社会に奉仕する使命を全うしたいと、希望を持って日々を送っている。

訃報

ミチェレナ・カスタネダ・ハイメ神父



厳律シトー会士・トラピスチン伊万里の聖母修道院付き司祭であったハイメ神父は、去る11月27日療養先の病院で帰天され、29日松永司教主司式で伊万里のトラピスチン修道院のチャペルにおいて葬儀ミサが行われた。

ハイメ神父は1916年12月9日生まれで、享年86歳。1940年12月21日司祭叙階され、1953年11月8日来日、50年に亘って西宮、那須、宮古・安心院、新田原・伊万里の各修道院でチャプレンとして奉仕した。

マリア カタリナ 守山淳子修道女

聖クララ会修道女。11月26日に療養先の病院で帰天。享年76歳。1928年6月6日生まれ、1988年4月27日に同会に入会し、2003年5月31日に終生誓願を受けておられた。聖クララ会に入会前は、更正施設の法務教官として働かれていた。

マリア ジョセフィナ 平田フミエ修道女

マリアの宣教者フランシスコ修道会修道女。12月5日に帰天。享年79歳。1924年6月29日生まれ。長崎の黒島の出身で、60年の修道生活の中では特に厨房で黙々と働かれた。毎朝、十字架の道行きを欠かすことがなかった。そしてその労働と祈りの姿を通して他のシスター方の支えとなっていた。

BOOK 読みは専科

★神の慈しみの島 東ティモール 草の根医療チームの記録



亀崎 善江 著

女医で、荻野吟子賞を受賞したシスターが、東ティモールの独立前後の動乱と貧しさと抑圧のなかで、信仰深くけなげに生きる村人たちに、十年間続けた医療奉仕をとおして見つけた、美しい人間のすがたを描いた感動の記録。

女子パウロ会 発行

税抜価格 1400円

◇ ◇ ◇

★毎日のミサの友 サンパウロ・ドンボスコ 共同企画



本書は、信徒のミサ典礼への参加者を実り豊かにすることを目的として企画されたものです。

内容は、カトリック中央協議会から毎月発行されている「毎日のミサ」の3年分を、典礼暦に従って一冊にまとめたものです。ミサ典礼を理解するためには必携の書です。

サンパウロ

税抜価格 5000円

年末休業日

・サンパウロ福岡
12月29日～1月4日
・セントポール FUKUOKA
12月29日～1月4日
・典礼センターピエタ
12月29日～1月7日

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事 ・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ 森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

召命は、生きる キリストとの出会いから

カトリック教会のカテキズム

日　　時：2004年1月25日(日) 15：00～17：00
　　通常毎月第4日曜日（変更日あり）
場　　所：カテドラル大名町教会
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」
講　　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参 加 費：1回　500円
対　　象：教会学校のリーダーやカトリック教会の教えを学びたい人
主　　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第三期神学講座
2004年9月19日(日)まで全8回
(第3日曜日を基本とし変動あり)
③2004年2月1日(日)
「教会憲章」　櫻井尚明神父
♣聖書講座
2004年9月18日(土)まで全15回
(基本的に第1・第3土曜日)
④1月17日(土)
「ヨハネによる福音書　第2章1節～25節」
講師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
受講資格：カトリック信者／主任司祭の推薦を受けた人／自分の信仰を深めたい人／教会での奉仕活動をする人／カテキスタを目指す人
※受講料や単位取得等は下記に問合せ下さい。
☎ 096-352-1515（日向）/ 090-8664-4039（平田）
主催：熊本地区信徒使徒職協議会

2003年度典礼を学ぶ集い

(4)：2004年1月18日(日)
講　師：白浜満神父（大神学院教授）
参加費：600円
テーマ：「閉祭」について
申込先：〒811-4181 宗像市三郎丸608-9
☎ FAX 0940-33-8122　井上元之
♠2003年度最後の集いです。2004年度も企画したいと思います。

第2回 あっちこっちミサ in 福岡

青年 **全員集合！**

とき：04年2月28日(土)・29日(日)
場　所：大名町カトリック教会4階
対　象：福岡教区青年／その他地区青年
費　用：4000円（3食付・宿泊は召命の家）
問合先：「あっちこっちダヨ全員集合！」
プロジェクトチーム
☎ 092-741-3687（大名町教会浦川神父）
Eメール：fakm229@hotmail.com
※全国各地で同じ日・同じ時間に行われる「あっちこっちミサ」。このミサをむかえるにあたり、福岡では2日間の分ち合いを行います。
この機会を利用して、あなたのこれからの信仰や交友を深めてみませんか？

編集後記

主のご降誕と新年のお慶びを申し上げます。
救い主の光が私たちの心をてらし、愛を生きる者へと強めてくださいますように、合わせて世界に平和が実現するように祈念したいと思います。

2004年 案内版 会合と催し 1月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　1月

◇5日(月)～9日(金)　休館日
◇10日(土)～12日(月)　総合人間学講座
◇11日(日)～12日(月)　オブレート会（福岡地区）
◇17日(土)～18日(日)　山口・島根信徒養成研修会
◇24日(土)～25日(日)　在世カノッサ会黙想
◇26日(月)～27日(火)　むなかた芸術講座①
◇28日(水)～29日(木)　むなかた芸術講座②
◇31日(土)～2/1日(日)　むなかた芸術講座③
2月
◇2日(月)～3日(火)　むなかた芸術講座④
◇4日(水)～5日(木)　むなかた芸術講座⑤
◇8日(日)～9日(月)　オブレート会（福岡地区）
◇9日(月)～10日(火)　サン・スルピス黙想
［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 32・3385

真命山霊性交流センター

年間テーマ：聖人の祈りに学ぶ
※初詣で
・1月1日(木)～3日(土)
※祈りの集い
・1月8日(木) 10時～15時
テーマ：聖トマス・アクイナス
指　導：Sr.マリアと S.フランコ神父
問合先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎ 0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

キリスト教一致祈祷週間に！

☆祈祷会
時：1月25日(日) 19時から
所：福岡中部教会(日本キリスト教団)　中央区大名2-4-36
主　題：わたしの平和を与える
説教者：今田昌樹神父

1日(木)	神の母聖マリア	元旦
	世界平和の日ミサ［カテドラル10時］	
	†G．ロウ［1950年人吉教会］	
	†C．バスチ［2002年黒崎教会］	
2日(金)	†J．ドノフ［1985年菊池教会］	
	†牧山藤房［1993年司教館］	
4日(日)	主の公現	
	†E．モーゼ［1998年八王寺］	
7日(水)	†T．フィッシャー［1999年人吉教会］	
11日(日)	主の洗礼	
12日(月)	成人の日	
13日(火)	司祭新年の集い（浄水通教会11時）	
17日(土)	聖アントニオ修道院長	
18日(日)	キリスト教一致祈祷週間（25日まで）	
	第1回福岡教区宣教司牧評議会（司教館）	
	†J．M．マルタン［1975年大牟田教会］	
19日(月)	†L．ガルニエ［1941年大江教会］	
	†J．ツルデル［1999年大神学院］	
21日(水)	聖アグネスおとめ殉教者	
25日(日)	年間第3主日	
	カトリック児童福祉の日（献金日）	
	福岡地区カテキズム勉強会（カテドラル15時）	
28日(水)	聖トマス・アクイナス	
31日(土)	†V．マクナリー［2003年島崎教会］	
2月		
1日(日)	年間第4主日　浄水通教会堅信式	
2日(月)	主の奉献	
	†山川辰幸［2002年二日市教会］	

ゴチック文字は司教日程

福岡

キリスト教一致祈祷会

時：1月25日(日) 19時から
所：福岡中部教会（日本キリスト教団）中央区大名2
主題：わたしの平和を与える
説教者：今田昌樹神父
（笹丘カトリック教会司祭）
主催：福岡キリスト教一致祈祷会実行委員会
☆右記の通りカトリック教会とプロテスタント教会合同の祈祷会を開催します。お誘い合わせの上、多数のご参加をお待ちします。

■福岡ホスピスの会勉強会

［日時］1月11日（日）14時から［場所］大名町カトリック教会［内容］グリーフケアⅡ 日本の弔いの文化の中から／現代の見送り［講師］鍋島隆啓師（天台宗本吉山清水寺住職）／高崎克也氏（会員）［参加費］一般700円・会員500円［問合先］☎092・534・5647小林／深堀

■召命祈願ミサ

［日時］1月15日（木）19時15分から［場所］サン・スルピス大神学院聖堂［指導］山脇守神父（サン・スルピス大神学院）［主催］福岡召命を共に祈る会・大神学校

■召命を共に祈る会

［日時］1月22日（木）14時30分［場所］召命の家［指導］浦川務神父（召命担当）

■在世フランシスコ会集会

［日時］1月25日（日）14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■福岡地区結婚講座

［日時］2004年1月17日（土）から2月11日（水）まで毎週土曜と水曜日の全8回19時～21時30分［場所］大名町カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合先］☎092・541・6207 FAX 092・552・5022 ファミリーセンター

■ミニコンサートご案内

［日時］2月8日（日）11時15分から約1時間［場所］笹丘教会（中央区笹丘1・16・1）［内容］太期晴子さん（笹丘教会信徒）のバイオリン演奏［問合先］☎092・761・4504笹丘教会

■生と老い死を見つめる会

［日時］2月15日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［参加費］700円［問合先］☎092・713・8523大山／607・6992村尾

■第36回福岡典礼聖歌研修会

［日時］2004年1月26日（月）から2月17日（火）まで毎週月曜と火曜日の全8回19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合先］☎096・352・3030 FAX 096・352・1515

佐賀

佐賀祈りの集い

［日時］1月14日（水）10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］1月24日（土）10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4土曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎0952・72・7536吉田

熊本

■聖書を読む会

［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］ルカ福音書を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754阿南

■熊本地区結婚講座

［日時］2004年1月26日（月）から2月17日（火）まで毎週月曜と火曜日の全8回19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合先］☎096・352・3030 FAX 096・352・1515

第31回出会いの集い ♡春をさがしに♡

日　　程：2月11日（建国記念日）
時　　間：10時～17時
場　　所：司教館新館5階（中央区浄水通39）
ミサと講話：浦川務神父
対　　象：20歳以上の独身男女
会　　費：2000円（昼食代含む）
申込み締切日：2月1日
問合先：☎ 090-4347-3319前野
主　　催：カトリック福岡教区カナの会
後　　援：福岡教区信徒協
☆カナの会では真面目に生涯の良いパートナーを求めている方の為に出会いの集いを計画しました。参加をお待ちしています。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人 牧山美好
TEL 092-522-5139
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般】聖地での平和的共存

【布教】大洋州の福音宣教と司祭及び修道者の召命

【日本の教会】心病める人々とともに

福岡教区宣教司牧評議会を開催

…生き生きとした信仰共同体であるために…



開催が待たれていた福岡教区宣教司牧評議会の第1回会合が1月18日（日）、司教館別館会議室で開かれた。教区長松永久次郎司教とこのたび選出された評議員22人が参加。規約をもとに評議会の位置づけと評議員の役割を確認した。福音宣教する生き生きとした信仰共同体をめざす、福岡教区の一体となった歩みが新たに始まろうとしている。

福岡教区宣教司牧評議会は教区長の諮問機関。教区全体における宣教司牧に関することがらを教区長の諮問に応じて調査、研究、審議し答申する。また教区長の要請に応じて、宣教司牧に関する事柄について実際的な結論を提示し、具体案を作成し、その実施を推進することを目的とする。

福岡教区の神の民が一体となり福音宣教共同体を構成し、信仰共同体の充実・発展のため神の民の声を広く聞くことをめざしている。本会規約は2002年7月、教区長より認可を受け、その後、規約に基づいて評議員が選出された。

今回の会議では、役員を選出し、評議会の位置付け、評議員の役割認識と今後の展望について活発に意見を交換した。評議員役員、評議員は次の方々である。なお、評議員は本会の議題を提案し、事務局長を通じて教区長に提出することができる。教区内の全信徒・司祭・修道者は、身近にいる評議員を通して意見を反映させていくことになるので、この機会を積極的に活かしたいものである。

議長：川上惣一師（二日市教会）、**副議長**：櫻井尚明師（糸島教会）・徳富幸治氏（戸畑教会）、**会計**：松井忠之師（司教館）、**事務局長**：中浜一男師（浄水通教会）、**書記**：山口紀子氏（二日市教会）、**評議員**：青木悟師（大名町教会）、G・ブルーニ師（光丘教会）、岩永義人師（今村教会）、平田敬師（小倉教会）、深堀勝人師（佐賀教会）、F・マッケイ師（武蔵が丘教会）、M・コース師（司牧センター）、永富久雄師（聖パウロ会）、萱場基師（イエズス会）、目良豊氏（大名町教会）、得藤巳代治氏（小郡教会）、大水健二氏（新田原教会）、古賀重昭氏（鳥栖教会）、牧山勵氏（唐津教会）、船本満幸氏（武蔵が丘教会）、長濱聡氏（八代教会）、平田悠貴子氏（手取教会）、**修道女連盟**：Sr杉村尚子（マリアの宣教者フランシスコ修道会）、Sr高取ヨシ（聖心のウルスラ宣教女修道会）、**青年代表**：未定。

2004年2月25日 灰の水曜日

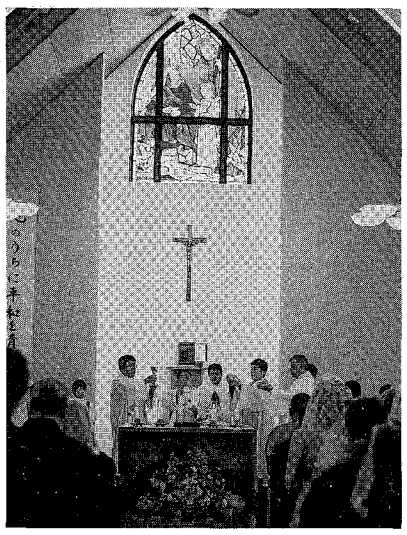


ゆるしの秘跡

四旬節が始まります。回心を呼びかけておられる神の声に心を開きましょう。祈り、節制、愛の業を深めてまいりましょう。（灰の水曜日は大斎・小斎）

一丸となって取組んだ増改築完成

糸島教会



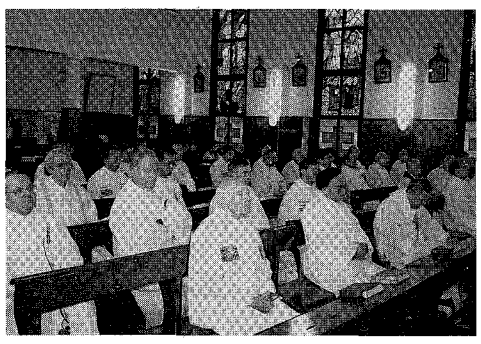
糸島準小教区（主任＝櫻井尚明神父、信徒数358人）では、昨年7月来進められてきた教会堂増改築工事が終わり、12月21日に祝福式が挙行された。司式は松永久次郎司教。

今回増改築の対象となった教会堂は1990年に竣工。当初、信徒会館として作られたため、使用するにしたがい、その構造上、典礼環境として整備が必要な箇所が次第に明らかになった。典礼、特に主日のミサは小教区共同体を作り、活かし、成長させる大切な時・空間である。これを支える教会堂づくりに司祭信徒が一丸となって取り組む姿勢を打ち出し、討議を重ねた。小教区外からも支援者が兄弟的な愛に満ちたまなざしをもって見守った。

こうして念願の教会堂増改築が実現した。すでにあるものを活かしながら、全体として新しさに満ちた典礼空間が現出した。鐘楼部分にはイタリア製ステンドグラスが取り付けられている。中央にはエマオへ向かう弟子にご自身を表されたイエスが描かれた聖櫃が安置されている。

真心込めた奉仕の一年を決意

司祭新年会



1月13日、司祭新年の集いが開催された。浄水通教会で行われたミサには約40人の司祭が参加した。

教区長松永久次郎司教は、神が与えてくださった時といううお恵みを大切にし、たとえ困難なことがらにぶつかることがあっても神への信頼を強くして、この一年も真心込めて奉仕の道を邁進するよう司祭たちを励ました。

ミサ後に司教館別館で祝賀会が行われ、お互いに元気に新年を迎えることができたことを喜びながら、なごやかなひとときを過ごした。

祝福式ミサを司式した松永司教は、「皆さんは、救い主を自分の家に迎えるために、ふさわしい待降節を過ごして来られました」と、神の家を建てるために結集された人々の熱意と努力を称え、その労をねぎらった。

糸島準小教区は1991年4月に創設された。近年、転入等により信徒数の増加が目立っている。子どもたちの元気な声が響く、若さ溢れる共同体である。

時の話題

上野栄作

新年を迎えると多くの人が寺や神社を訪れる。統計によれば国民一人が二つ以上は回る計算になるらしい。参拝の理由を尋ねてみても「ご利益があるから」とか「暇だから取りあえず来ました」等判然としない。

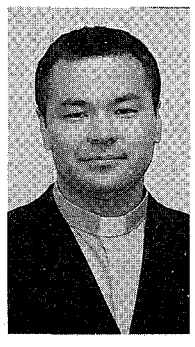
ところで、私は法律を勉強している。しかし結果は悲惨なもの。「出題者の性格が悪い、運が悪い、周りの頭がよすぎる！」と色々と弁解をしてきた。

ある日、一人の弁護士の先生と出会い、厳しい指摘を受けることになる。「法律家はその人が最悪の状態のときに出会う。そんな重大な問題を、おまえのようにツウ』なんかで解けるほど甘かねーよ。自分の頭の良し悪しを嘆く前に本物と格闘してから嘆けよ。苦しんだ人間しか苦しむ人の気持ちがわからまな考えがよぎるが、私はこの一年「本物」探しの旅をしようとおもう。そこには近道や楽な方法はない。しかし、この道は、いついかなる時も通用する道であると信じている。それ以上に自身を支える信仰生活が試される時期でもある。私は、その時々に都合のよい神様などには寄り道をせず、2000年の間、幾多の苦難に見舞われながらも、先人より今に受け継がれる「本物の信仰」を信じ、実践して行けたらと切望している。この一年、皆様の上にも神様からの多くのお恵みがありますようにと心からお祈り申し上げます。

（大名町教会信徒）

本物

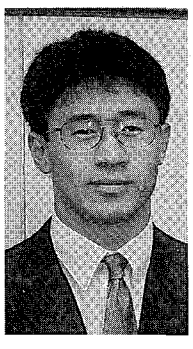
寺浜亮司助祭 司祭叙階式ミサ



3月21日

3月21日（日）午後2時から、ペトロ寺浜亮司助祭（久留米教会出身）の司祭叙階式がカテドラルで行われる。

井手公平神学生 郎読奉仕者へ



3月7日

マキシミリアノ・マリア・コルベ井手公平神学生（佐賀教会出身）は、3月7日（日）午前11時から出身教会の佐賀カトリック教会で「朗読奉仕者」に選任される。

選任式、叙階式ミサに参加し、わたしたち神の民の間から奉仕者として選ばれ進み行く二人のために心を合わせて祈ろう。

みちくさ

灰の水曜日が近付いている。この日から四旬節が始まる。洗礼志願者は入信の秘跡へ向けて大切な段階に導かれる。志願者の歩みを支えながら、キリスト者はこの時期、回心と悔い改めを通して新しい生き方へ移っていくようつとめる。主の過越の神秘に与るのである▼聖書や教父たちは、自分自身、神、および他人とのかかわりに関する回心を表す形として「断食、祈り、施し」の三つについて語っている。回心のきっかけは自分の中に、また隣人とのかかわりの中にある。具体的には、回心のテーマは日常生活の中に見い出される。隣人と和解する努力をすること、貧しい人々への心遣い、兄弟の回心をうながす忠告、生活の見直し、良心の究明、霊的指導、忍苦など▼罪とは神との交わりを断つこと。同時に教会との交わりも損なう。自分の心のありのままを見つめることはたしかに辛い。しかし罪のとげが刺さったままの状態を続けることは不調和と不自由さのなかに身を置くことにほかならない。やがて真の自分を保っていくことが難しくなるだろう▼いつくしみ深い神のもとへ、また教会という神の民の家族の懐へと帰っていく過程こそ、回心の歩みといえよう。回心によって神のゆるしが与えられ、教会との和解がもたらされる。それは神のゆるしといやしをもたらす和解の秘跡「ゆるしの秘跡」によって実現される▼主の受難と死を思い、自分の十字架を担って歩み行こう。復活の朝（あした）に、栄光に輝く主を仰ぎ見ることを待ち望んで。

教皇メッセージ

2004年第12回世界病者の日をルルドで開催
無原罪の聖マリアが宣言されて150年

世界病者の日は、今年で12回目をむかえます。教皇ヨハネ・パウロ二世は病者の日メッセージを発表しました。

以下はその要約です。

(1)ルルドでの特別行事開催

今年、世界病者の日の特別行事はフランスのルルドで開催されます。ルルドは、おとめマリアが1858年2月11日に初めて出現されたところです。おとめマリアはこの地で、ご自分の愛を、特に苦しむ人や病気の人に示そうとお望みになりました。この度、ルルドの聖地が選ばれたのは、今年がちょうど、マリアの無原罪の宿りの教義が宣言されて150周年になるからです。

(2)無原罪の宿り

「わたしは原罪の汚れなく懐妊されたもの」、このことばをもって、おとめマリアは自分と人の健康やいのちを結ぶ絆を表現したかったのではないでしょうか。原罪によって死が世に入った時、神はイエス・キリストの功績により、マリアを罪のあらゆる汚れから守り、救いといのちを私たちにもたらされました。

無原罪の教義は私たちを創造とあがないの秘義の中心へと導きます。

(3)病者 キリストの十字架の使徒

マリアの無原罪の宿りをもって、あがないの大事業が始まるのです。このあがないはキリストの尊い血において実現しました。イエスが死に打ち勝ついのちの源であり、マリアは子どもたちのために心身の健康を確保する思いやりにみちた母です。これこそ、ルルドの聖地が、信心深い巡礼者に繰り返して贈るメッセージであり、肉体的・霊的いやしの意味なのです。マリアは信仰者の魂の内にはたらいて、み子イエスとの出会いに心を開くよう促します。そしてマリアを覆った聖霊は、たとえ肉体的健康の恵みを受けない場合でも、内的な平和と喜びの源となる心の転換、回心の恵みをもたらします。この賜物は、病者の存在を変容し、厳しく困難な試練のうちにある病者を、キリストの十字架の使徒、希望の旗印にします。

(4)イエスの十字架の恵み

人間の苦しみは、あがない主の死と復活のうちに、その意味と救いの価値を見い出します。キリストは私たちのために苦しまれます。彼はすべての人の苦しみをその肩に担い、それをあがなってくださるのです。

キリストの苦しみと一つになった人間の苦しみは、救いの道となります。信仰をもって受け取められた苦しみは、主のあがないの苦しみの秘義に入るための門となりました。

(5)救いの業への参与

マリアは十字架のもとで、おん子の苦悩に特別のかたちで参与しています。マリアは人類の母とされました。

地上に病気や死は存続しますが、信仰の光のもとにキリストの死によって乗り越えられた肉体の死は、永遠のいのちの充満にいたるために必要な通過点となりました。

(6)医療司牧の分野で働く人の固有の任務

いのちは神の賜物であり、その管理は人に委ねられています。生命は存在の初めから自然死に至るまで受け入れられ、尊重され、保護されるべきものです。

今日の科学技術は生命の根源にまで触れることができるという異常な可能性をほのめかしています。遺伝子工学の分野での真の進歩は、受胎の瞬間から人間の権利と尊厳が常に尊重されるとき奨励されます。事実、誰一人、人間の生命を無造作に破壊したり、あるいは操作したりする権限を持っていません。医療司牧の分野で働く人の固有な任務は、このデリケートな領域に関わる人びとを、つねに生命に仕える立場に身をおく責任を感じるように意識化することです。

最後に教皇はルルドで敬われている無原罪のおとめマリアにすべての人を委ねています。人の痛みや苦しみ、死についての正しい唯一のこたえは私たちのために死んで復活された主キリストであることをあかしすることができるよう、マリアがキリスト者一人ひとりを助けてくださるように祈り、メッセージは結ばれています。

文責＝編集部

祈る人の世界 (6)

それは起こりうる

御受難会福岡修道院
修練長　来住 英俊 神父

かっての大人気漫画『スラムダンク』は、毎年予選一回戦で敗退していた高校バスケットボール・チームがインターハイに出場する成功物語である。暴れ者の新入生が大活躍して勝利をもたらすのはスポーツ漫画のお約束どおりだが、重厚なキャプテンのリーダーシップも非常に大きいことが特色になっている。

県大会を勝ち進んで、ついに県内最強といわれる強豪との決勝戦。戦いを前にしたロッカールームで、彼は胸を張って部員たちに語る。「オレはいつも寝る前にこの日を想像していた。湘北が神奈川の王者海南大付属と、インターハイ出場をかけて戦うところを毎晩思い描いていた。一年のときからずっとだ。…絶対勝つ。」少年読者の胸を躍らせる名場面である。

＊

もちろん、彼は勝つためのチーム作りを精力的にやってきたのであって、寝ころんでイメージだけしていたのではない。しかし、毎晩イメージしてきた積み重ねはプレーに大いに影響を与えている。二年間これを続けた彼は、湘北高校が強豪海南大付属に勝つという可能性を体の中に生き生きと感じている。つまり、単なる理論上の可能性ではなく、「それが起こりうる世界」に住んでいるのである。だから、プレーにイマジネーションがあり、緊迫した場面でも萎縮しない。

＊

自分の教会の近隣地域に福音宣教をしたいと思う。「そんなことは不可能だ」という人はいないだろう。神には何でも可能である。しかし、その可能性を生き生きと感じている人はどれだけいるだろうか。「それが起こりうる世界」に住んでいるだろうか。

あのキャプテンに倣って、教会のリーダーが毎晩、たとえば、「二十人の近所の人が信仰を求めて教会を訪れる」ところを想像しつつ祈ったらどうかと思う。もし二年間それを続けたら何かが起こるという気がする。何かというのは、必ず二十人の人が洗礼を受けるという意味ではない。もちろん、そんなことは保証できない。しかし、「何か」意味のあることが必ず起こると思う。

一人が教えを聴くために教会を訪れたという程度のつつましい出来事かも知れない。その程度なら祈らなくても起こるかも知れないが、祈りの積み重ねの後に起こることは、祈らないで起こったことよりも意味が深い。そのたった一人の求道者は二年間毎晩続けたイメージの現実化である。より深い心で迎えることができるだろう。

あるいは、福音宣教のための会議や企画の質が向上するかも知れない。この種の会議が行き詰まるのは、わたしたちの頭が悪いからではない。多くの求道者が訪れるかも知れないという可能性を生き生きと感じていないと、「とにかく何か宣教らしいことをやらなくちゃ格好がつかない」という義理を立てるような雰囲気になる。義理から創造性あるアイデアは生まれない。

＊

祈る人の世界とは、願ったことが「必ず起こる世界」ではない。願った良いことが「起こりうる世界」である。マーティン・ルーサー・キング牧師の「私には夢がある」という有名な演説は、聖書的イマジネーションに富んだ言葉の力によって、「黒人解放がおこりうる世界」を人々の前に開いた。「その世界に入ることによって、多くの人々がいきいきとねばり強く働くことができたのである。

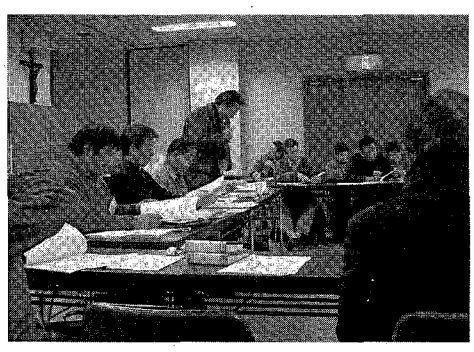
http://www001.upp.so-net.ne.jp/inorinogakko/

「福音宣教の在り方を考える合宿」に参加して

1月11日（日）から13日（火）までカテドラルで、森一弘司教の呼びかけによる合宿が行われ、司祭・修道者・信徒が教区を超え65人参加した。

「漕ぎ出せ、漕ぎ出せ、世の海原へ」この歌がぴったりの内容で2泊3日がとても短く感じた合宿でした。

「教会ではなかなか本音で話が出来ない」という思いが参加者の多くの方にあったようですが、この合宿の最も素晴らしかったことは『誰もが本音で語り合えた』ことだと思います。司祭の悩み、信徒の悩みを直に聞くことによってお互いの壁が取り払われ、身近になったと実感しました。参加するにあたって、宿題のレポート提出が、参加者一人ひとりの思いを知る大切な分かち合いの場となりました。「①あなたにとって教会とは　②宣教という言葉をどう捉えていますか　③日本の教会の宣教は行き詰まっていると思いますか　④これからの宣教に何が大切」。日頃、あまりたに考えることのない質問に戸惑いもありましたが。『日本の教会の宣教の光と影』（森一弘司教著）を読みながら、キリシタン時代から今日までの宣教の在り方を振り返り、今、信徒の立場から何ができるかを考えさせられました。



また、司教・司祭・修道者・信徒が同じテーブルを囲み、お互いの意見をみとめあいながら進めていく会議方法は、多様性の尊重であり、とてもよかったと思います。小教区で活用していきたい方法です。

「何かの結論を出すものではありません」との司会者の言葉で始まった合宿でしたが、とても大きな実を生んだと思います。

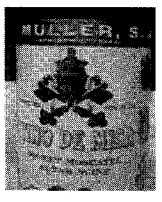
パネラーとして発言された内容は、教区と信徒協の意見の相違、カトリック学校の教育姿勢、地域での社問題の取り組み、平和の活動と教会の動き、霊性などでした。どの内容も日本の中で福音宣教にとって大切なことで且つ緊急なこととして発題されたと思います。私たちに具体的に行動しなければならないことを示してくれました。

森司教が何度も「ナイス1の時の状況とそっくりです」と感想を述べられました。この点は今回の合宿でとても大切なことだと受け止めました。それは、カトリック教会の使命である福音宣教を進めていかなければならないこと、宣教を司教、司祭にのみまかせるのでなく、信徒が積極的に動いて、司教・司祭・修道者と共にすすめてゆくこと、真剣に教会のことを考え本気で取り組むこと、この3点が私の学びとったものです。

それを実行するためには、小教区や教区制度の壁を乗り越えて『福音宣教を推進する全国ネット』を作りあげることは、この合宿に参加した者の責任と義務であると強く感じました。自分から漕ぎ出さないと、いつまで経ってもそこにとどまったままの教会が見えました。「日本カトリック教会」が日本社会から遊離せず、地の塩、世の光となりますように。

黒崎教会信徒　瀬下幸弘

むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

幼子のご降誕が各地で伝えられた

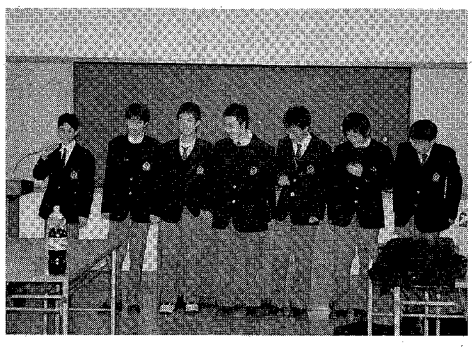
２００３年の待降節・クリスマスに教区の各地で、主の降誕を祝うと共に、クリスマスのメッセージを様々な形で祝い、伝えた様子が送られて来た。１２４年の歴史ある教会、共同体の子どもたち、ミッションスクール、修道会など、それぞれの取り組みを紹介したい。

クリスマスの大江教会



夕闇の中に、天主堂がイルミネーションの輝きによって浮かび上がる。この幻想的な美しい夜景が映し出されるのは天草の大江教会。毎年、青年たちが中心になってクリスマスの飾り付けを行っている。

カトリック校が合同でクリスマスミサ



カトリック学校の聖書研究

今年も25人ほどの青年が天主堂を縁どる電飾、馬小屋作りに取り組んだ。また、同教会ではクリスマスカードを全信者宅に毎年届けている。

部・キリスト教研究部に属する学生と教員が12月18日、浄水通教会に集い、キリストの降誕を祝うミサを行った。

合同でのクリスマスミサは今回が初めて。福岡地区にある泰星学園、雙葉学園、海星女子学院、久留米信愛女学院から、60人を超える中学・高校生が参加した。

ミサの後に司教館別館で交流会が開かれた。各グループの紹介と活動内容の報告が行われ、最初、はにかみながらだった学生も次第に打ち解け、ボランティアについて情報交換するなど会話の輪が広がっていった。この企画に際し、呼びかけを行った教員は、今後もこのような機会を通じてカトリック学校間の交流を深めていけたらと語っている。

ほんとのほんとのクリスマス

CYG

北九州ＣＹＧ（カトリックヤング　ガールの集い、指導司祭＝森山信三神父）では、恒例のクリスマス会『恵みの広場』を12月23日、湯川教会で開催した。今回のテーマは「障害を持って生きるとは」。このテーマを一人ひとりが自分と深く結び付けてとらえるために、ＣＹＧではこの一年にわたり、各教会で、障害ということに向き合ってきた。ボランティアに従事している人の体験談を聞いたり、実際に自分たちも車椅子に乗ってからだの不自由さを体験しながら、恵みの広場を支えるこころを準備していった。



恵みの広場当日、各教会のＣＹＧ会員による体験発表が行われた。子どもたちが向き合ってきたこと、自らの感覚でとらえようとしてきたことを生き生きと語り、その声は会場に居合わせた人の心を強く揺さぶった。若松教会は聴覚障害の体験について発表した。高畑愛穂さんは補聴器を付けてみたり、口の動きを見て何を伝えようとしているかを読み解く体験を通して「聴覚障害者の人たちがどんなに大変なのか、よく分かりました」と語った。

この広場には、障害を持つ子どもと家族も参加し、母親がわが子への思いを話した。そして「子どもは宝物」ということばの響きは、忘れることのできないものとなった。

集いに参加した戸畑教会の市原栞理さんは「私の学校にも、障害のある子がいます。これからはあの時のお母さんが話されたことを思い出し、困っていたら手伝ってあげたいと思います」と話していた。

地域の子どもと11回目のクリスマス

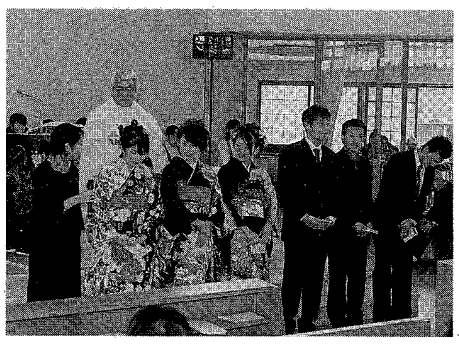
カルメル



カルメル会恒例となった、地域の子どもたちを招いてのクリスマス会が12月23日に開かれた。地域の人々、特に未来ある子どもたちにカトリック教会のこと、そしてカルメル会のことをもっとよく知ってもらおうと、宣教の心から始めたこの集いも、今回で11回目をむかえた。クリスマス会の日時は、町内会の会長さんに通知し、子ども育成会の役員さんを通じて子どものいる各家庭へと伝えられる。今年は地域の保護者15人ほどが参加した。これにボランティアの信徒と70人ほどその家族を含めると70人ほどにふくれ上がった。皆でクリスマスの歌を唄い、野外で劇を楽しんだ。糸島教会の櫻井尚明神父が協力し、子どもたちの心にしっかりと、本当のクリスマスの意味を分かりやすく伝えた。

子どもたちが楽しみにしている野外劇では、ボランティアの信徒の発想、準備協力を受けて、地域の子どもたちが主役を果たした。目で見、行動することによって、より深く子どもたちの心に残るのではないだろうか。子どもたちの「楽しいクリスマスだった！」の声に励まされて、次回は聖誕劇を予定している。

新田原教会の成人式



新田原教会では、例年1月の第1日曜日に成人の集いを行っていただいたが、正月三ヶ日が終ると都会や大学へと帰ってしまう若者が多いため、今年は正月、元旦のミサの中で成人式を行った。

元旦の朝10時のミサの中で、都会から正月休みで帰省中の成人者も含め7人が参加して、成人者の祝福式と紹介が行われた。

ミサの後、記念写真の撮影や、久々に顔を会わせる青年たち同志の交流会などが催された。

木かげ



増井啓神父

祈り

「祈り」ということについて、日々意識している。たとえば、朝早くおきてからの祈り。「この一日をあなたにお捧げいたします」と心の中で祈る。どのようにお捧げするかは、そのときはまだわからないのだけれども、それを唱えるときの心構えしだいで祈りになるときとならないときがある。

聖イグナチオの「霊操」には、次のように書いてある。「朝起きるとすぐ、矯め直したい具体的な罪か欠点を懸命に避ける決心をしなければならない」。

自分の罪や欠点とは、長い付き合いであるので、すぐに思い浮かぶ。それを毎日・毎朝思い浮かべることは、難儀で気が重いことである。自分の殻と布団とにくるまっている間は、確かにそう感じる。そこでわが主のご登場となる。万感の思いを込めて、子の無いハンナが神殿で声にならないうめきを発したように「主よ」、と私は呼びかける。このとき主が大きく私の胸に飛び込んでくるような時もあるし、遠く離れて必死で探さなければならないときもある。そしてまったく主を身近に感じられないときもある。それによって、今の私の霊的状態がわかる。また、起床と同時にその日の気分によって、最初の祈りによって得た気概がそがれていくのを感じる時が多々ある。自分が好き勝手に生活していたころにはほとんど意識していなかった精神や肉体の弱さが、神との一致を喜ぶ霊魂にいかに影響を及ぼすかを痛感するときである。このようなときはどうすべきか。

前述の「霊操」によれば、「決して最初の決心を変更すべきではない」たとえ、物憂く、マイナス思考が働いても、それに従うことは「悪霊の働きである」。

日々の仕事を忠実に行いながら、主に信頼してすべてを主に委ねて、できる限りの善を行わなければならない。油断大敵。

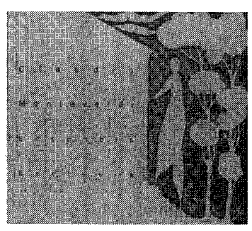
調子の良いときは、「いかに自分が慰めのない時に無力になるかを考えて、できるだけ身を低くするように努めるべきである」。

実際、調子の良いときの対策の方はまだ出来ていないと感じている。祈りの最初の一歩をいかに保ち、発展させていくかに腐心している。

イエズス会士泰星学園勤

BOOK 読みは専科

★CDモンテヴェルディ　祈りの歌　アンサンブル・エクレジア



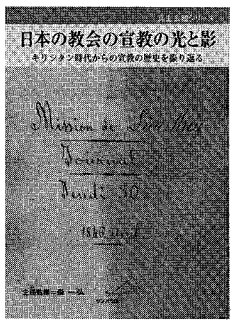
中世、ルネッサンス、バロックを中心に透明感のある美しい歌声とさまざまな古楽器で祈りの歌を奏でてきたアンサンブル・エクレジアが17世紀イタリアの巨匠クラウディオ・モンテヴェルディの宗教曲をとりあげます。ソプラノの美しい歌声と古楽器は、聞く人を光の世界へと導いてくれます。

女子パウロ会　発行

税抜価格　３０００円

◇　◇　◇

★日本の教会の宣教の光と影…キリシタン時代からの宣教の歴史を振り返る…　森　一弘　企画監修



フランシスコ・ザビエルに始まる日本宣教５００年の歴史を総括し、その光と影を検証する野心的な力作です。執筆の視点は「現代における宣教のありかたを考える」ことにおかれます。８人の専門家が総力を挙げて執筆しています。

サンパウロ

税抜価格　１２８０円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
ＴＥＬ092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
ＴＥＬ092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・ＲＣ工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092－526－9176

召命は、生きる キリストとの出会いから

カトリック教会のカテキズム

日　　時：2004年2月22日(日) 15：00～17：00
　　通常毎月第4日曜日（変更日あり）
場　　所：カテドラル大名町教会
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」
講　　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参 加 費：1回　500円
対　　象：教会学校のリーダーやカトリック教会の教えを学びたい人
主　　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第三期神学講座
2004年9月19日(日)まで全8回
(第3日曜日を基本とし変動あり)
③2004年2月1日(日)
「教会憲章」　櫻井尚明神父
♣聖書講座
2004年9月18日(土)まで全15回
(基本的に第1・第3土曜日)
⑤1月7日(土) ヨハネ福音書 第3章1～36節
⑥2月21日(土) ヨハネ福音書 第4章1～54節
講師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
受講資格：カトリック信者／主任司祭の推薦を受けた人／自分の信仰を深めたい人／教会での奉仕活動をする人／カテキスタを目指す人
※受講料や単位取得等は下記に問合せ下さい。
☎096-352-1515（日向）/ 090-8664-4039（平田）
主催：熊本地区信徒使徒職協議会

第2回 あっちこっちミサ in 福岡

青年 全員集合！

とき：04年2月28日(土)・29日(日)

場　所：サン・スルピス大神学院
対　象：福岡教区青年／その他地区青年
費　用：4000円（3食付・宿泊は召命の家）
問合先：「あっちこっちダヨ全員集合！」
　　プロジェクトチーム
　　☎092-741-3687（大名町教会浦川神父）
Eメール：fakm229@hotmail.com
※全国各地で同じ日・同じ時間に行われる「あっちこっちミサ」。このミサをむかえるにあたり、福岡では2日間の分ち合いを行います。この機会を利用して、あなたのこれからの信仰や交友を深めてみませんか？熊本・北九州・大分・山口などからも参加の声が届いてます。

大名町の熱いスープの会

野宿生活者への炊出し支援

大名町カトリック教会では、今年も野宿生活者への支援活動を行います。2月6日(金)から3月12日(金)までの毎金曜日のみ全6回になります。火曜日は行いませんのでご注意ください。大名町教会の厨房で14時から17時までおにぎり作りをしています。頒布活動は21時からはじめます。ご協力をよろしくお願い致します。

2004年 案内版 会合と催し 2月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　2月

◇8日(日)～ 9日(月)　オブレート会（福岡地区）
◇9日(月)～10日(火)　サン・スルピス黙想
◇10日(火)～11日(水)　聖母カテキスタ会
◇13日(金)　むなかた和善の聖書
◇14日(土)～15日(日)　山口・島根信徒養成研修会
◇21日(土)～22日(日)　明治学園・宗教科職員研修会
◇26日(木)～27日(金)　カトリック児童施設職員研修会
◇28日(土)～3/4日(木)　サン・スルピス大神学院黙想
3月
◇7日(日)～ 8日(月)　オブレート・福岡
◇8日(月)　長崎純心聖母会
◇11日(木)　長崎純心聖母会
[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

※祈りの集い
年間テーマ：聖人の祈りに学ぶ
・2月12日(木) 10時～15時
テーマ：日本の殉教者
指　導：Sr.マリアと S.フランコ神父

※黙想会
・座禅と十字架の神秘
日　時：3月26日(金) 17時から 28日(日) 13時まで
問合先：真命山
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

カテドラルでのゆるしの秘跡

日　時：2月21日(土)　10時～12時
場　所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂

1日(日)	年間第4主日	浄水通教会堅信式
2日(月)	主の奉献	
	†山川辰幸［2002年二日市教会］	
5日(木)	26聖人殉教者	
6日(金)	聖アガタ殉教者	
8日(日)	年間第5主日	
10日(火)	**司祭評議会**（司教館10時30分）	
11日(水)	ルルドの聖母	建国記念日
	世界病者の日	
14日(土)	†J.オマラ［1974年荒尾教会］	
15日(日)	年間第6主日	**本郷教会堅信式**
16日(月)	†J.ボア［1957年黒崎教会］	
22日(日)	年間第7主日	
	†F.ベルトラン［1940年門司港教会］	
23日(月)	†パウロ糸永武男［1992年今村教会］	
25日(水)	灰の水曜日［大斎・小斎］	
26日(木)	今村信徒発見記念日（137年）	
	†F.ドルエ［1983年八王寺教会］	
	†G.オーブリ［1985年大神学院院長］	
28日(土)	マルチノ青木保［1997年浄水通教会］	
29日(日)	四旬節第1主日	**今村教会堅信式**
3月		
7日(日)	四旬節第2主日	
	井手公平神学生朗読奉仕者選任式［佐賀教会11時］	
	ゴチック文字は司教日程	

緊急　イラン地震被災者支援募金

カリタスジャパンが、先のイラン地震被災者への支援のために募金口座を開設しています。
郵便口座：00170-5-95979（イラン地震と明記）

◆福岡

■召命祈願ミサ

［日時］2月5日（木）19時15分から［場所］サン・スルピス大神学院聖堂［指導］深堀勝人神父（佐賀教会主任）［主催］福岡召命を共に祈る会・大神学校

■ミニコンサートご案内

［日時］2月8日（日）11時15分から約1時間［場所］笹丘教会（中央区笹丘1・16・1）［内容］太期晴子さん（笹丘教会信徒）のバイオリン演奏［問合先］☎092・761・4504笹丘教会

■第36回福岡典礼聖歌研修会

［日時］2月11日（水・祭日）10時から16時まで［テーマ］四旬節・聖週間・復活節の典礼聖歌／教会暦の頂点であるこの典礼季節を小教区で豊かに共に祝うために［場所］カトリック笹丘教会（福岡市中央区笹丘1・16・1）駐車場有り［講師］深堀純氏（大名町教会）［参加費］自由献金［昼食代］400円［問合先］☎092・541・3730松山敦子

■生と老い死を見つめる会

［日時］2月15日（日）14時から16時［内容］葬儀についてIII［講師］鬼木保之氏（会長）［場所］大名町カトリック教会［参加費］700円［問合先］☎092・713・8523大山／607・6992村尾

■在世フランシスコ会集会

［日時］2月22日（日）14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■召命を共に祈る会

［日時］2月26日（木）14時30分［場所］召命の家［指導］浦川務神父（召命担当）

■美野島司牧センターから

美野島衣類バンクでは、男性用冬物衣類・毛布・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者も募っています。［問合先］☎092・431・1419

中国の姉妹による♪ふれあいコンサート♪

日時：2月22日(日) 14時
場所：カトリック新田原教会 テレジア館ホール
入場料：前売　1200円
　　当日　1500円
問合：☎0930-22-0685江村

佐賀

平和を共に考える2月11日 佐賀の集い

日　時：2004年2月11日(水) 14時
会　場：佐賀カトリック教会
演　題：「平和の使徒職」
講　師：宮原良治司教(大分教区長)
参加費：無料
問合せ先：☎0952-30-9015　森内
主　催：佐賀カトリック正平協

■佐賀祈りの集い

［日時］2月18日（水）10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］2月28日（土）10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4土曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎0952・72・7536吉田

■聖書を読む会

［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］ルカ福音書を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754阿南

第31回出会いの集い ♡春をさがしに♡

日　程：2月11日(建国記念日)
時　間：10時～17時
場　所：司教館新館5階（中央区浄水通39）
ミサと講話：浦川務神父
対　象：20歳以上の独身男女
会　費：2000円(昼食代含む)
申込み締切日：2月1日
問合先：☎090-4347-3319前野
主　催：カトリック福岡教区 カナの会
後　援：福岡教区信徒協
☆カナの会では真面目に生涯の良いパートナーを求めている方の為に出会いの集いを計画しました。参加をお待ちしています。

訃報

マリー　ボワセリエ　修道女

マリアの宣教者フランシスコ修道会。2003年12月25日(木)帰天。享年99歳。修道生活79年。故国フランスを離れ日本での生活は76年に及んだ。熊本の待労院診療所で看護婦として奉仕した。

アンナ　竹山ハルエ　修道女

ショファイユの幼きイエズス修道会。2003年12月28日(日)帰天。享年76歳。長崎県の大曽教会出身。修道生活48年。熊本信愛女学院購買部、大神学院などで奉仕した。

使徒ヨハネ　井手一郎様

久留米教会信徒で医療法人雪ノ聖母会聖マリア病院の初代院長。2004年1月20日帰天。享年92歳。1991年教皇ヨハネ・パウロ二世より聖シルベストロ騎士団長勲章を受章。

編集後記

大寒の福岡に、雪が積もりました。足早に玄関に駆け込み、扉を風に向かって押し返してほっとした時、ふと、この冬の寒さを、体感以上につらく受けとめている人々のことが思われました。ふきつける風がおさまるようにと願わずにはいられません。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
電話 092-721-2032　FAX 092-739-3930

カトリック 福岡教区報

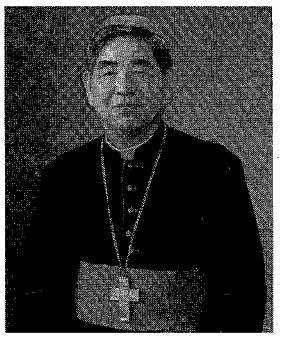
松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般】土着の人々の土地と権利の尊重
【布教】宣教会とアフリカの地方教会
【日本の教会】宣教司牧のために

2004年四旬節司教教書

キリスト者の日常生活



＋父と子と聖霊のみ名によって。アーメン。

今回は平凡なキリスト者の日常生活について考えてみたいと思います。特別な使命に召された者、特別なカリスマをいただいた者は別として、平凡で普通な私たち信徒一同のことです。

ところで、私たちはカトリック信者です。どのように生きてゆかねばならないのでしょうか。私たちの生活はどのようでなければならないでしょうか。

一　神への信仰

それはまず、神への信仰が第一です。私たちは神のやさしいみ心の前に生きています。神は私たちをいつも見守っていてくださいます。何か悪いことをしないかと監視しておられるのではなく、何か悪いことが起こらないかと、心配の心で見ていてくださると言えます。この神の慈しみの中に生きていることを私たちは忘れてはならないと思います。

この慈しみの神のみ前で、私たちは平安な心、信頼の心で毎日を送るようにしなければなりません。行き過ぎた心配をしないように、神のみ心に反することをしないように、神をお喜ばせするように心掛けねばなりません。

この神の前にいるということは、神への恐れを醸し出したり、監督を受けているとの圧迫感を造るのではなく、慈しみの全能のお方に護られているとの安らぎを与えるものなのです。本当に私たちは安心なのです。力ある方のみ心のもとにあるからです。

そこで私たちは神に賛美を捧げ、神に祈り、神のみ心にかなったことを行うよう努力しなければなりません。神のみ国を建設することを求めねばなりません。信者の一般的使命は、神のみ国の建設にあることを考え、今日一日、自分の家族で、私たちの周りの社会の人とともに、そのためにどれだけ努力したかを省みることが必要なのです。

二　隣人への親切

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。また隣人を自分のように愛しなさい。律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている」（マタイ22・37以下）といわれています。私たちは神への信仰とともに、周りの人々への親切を心掛けねばなりません。

隣人愛はキリスト者の第一の実行課題です。私たちは隣人愛を心掛けているか、と常に考え合わせなければなりません。一日の反省に当たって、何か一つでも隣人愛のために行ったかを考える必要があります。それに反して、隣人愛に反することを行ったのではないかと、省みて見る必要があると思います。

もちろん、私たちは毎日、隣人愛のため大きなことができるのではありません。私たちの身近にあることで、隣人のために何かを実行すればよいのです。その日その日の捧げ物として、隣人に好意を示す何かを、善意をもって行うようにすればよいのです。愛徳の行いを何もすることなく一日を過ぎることのないように心掛けましょう。

私たちは移住・移動者や外国人のためにも何ができるかを考え、最善を尽くしましょう。親切をこめたよい行い、人のためになる言動に励みましょう。

また隣人のためにお祈りすることも大切です。私たちの真心を込めたお祈りはとても有効であり、力あるものです。地上のことだけではなく、この世を越える事柄についても隣人のためお祈りすることを忘れてはなりません。そのお祈りは、その目的のためのみならず、本人自身のために、本人に関わりのある人のためにも、善い効果をもたらすに違いありません。他人を愛することは自らを愛することでもあります。

三　自己を整える

私たちは身体を持つ動物です。食欲、性欲などの欲望を正しく抑制しなければなりません。人間としての尊厳を保ち、魂を清く保つとともに、すべてを清浄に保つことを考えるべきです。体の欲望を正しく制御しないと人間はその欲望のとりこになる恐れがあります。また健康について正しい配慮を払い、「身体髪膚これを父母に受く、敢えて毀傷（きしょう）せざるは孝のはじめなり」との教えもあることを知らなければなりません。

また身の周りのものの正しい整理、整頓に心掛け、自己の品位と必要に備えるべきだと思います。すべての物に対して正しく美しく行動できるようにしなければなりません。神からいただいた物、神から自己の管理に委ねられた物を相応しく取り扱う者でありたいものです。

また堅実な生活を送るよう心掛けましょう。神から与えられる時間を有効に用い、怠け者になることを避け、充実した毎日を送るようにいたしましょう。周りの人に対しても何か奉仕できるようにしましょう。すぐ側に生きる隣人が私たちの助けを願っているかもしれません。私たちが何らかの意味で隣人をお助けできれば幸いであることを知らねばなりません。周りの人を助けることでキリスト者であることを証したいものです。

このように生きるならば、私たちはよきキリスト者として生活でき、よき市民として貢献できると思います。特別の務めに呼ばれるときは、その使命に特別に応えるようにしましょう。そうしてこそ、私たちキリスト者のよき日常生活といえると思います。

今回はごく平凡なことを考えてみました。皆様がよきキリスト者として日常生活を送られるよう希望いたします。皆様の上に神の祝福と、聖母マリアのご守護をお祈りいたします。

福岡教区長
ヨセフ　松永久次郎

四旬節教皇メッセージ

このような一人の子どもを受け入れるのは私を受け入れるのである



司祭叙階式のお知らせ

日　時：2004年3月21(日)
14時から
場　所：カテドラル大名町教会
主司式：松永久次郎司教
受階者：ペトロ寺浜亮司助祭

選任式のお知らせ

日　時：2004年3月7日(日)
11時から
会　場：佐賀カトリック教会
主司式：松永久次郎司教
受選者：マキシミリアノ・マリア・コルベ
井手公平神学生

時の話題

『魅力』

川原順平

半年間、青年企画「あっちこっちダヨ！全員集合」の広報活動を実施した。その道中の会話や訪問先での出会いは、実に有意義だった。しかし、その反応は必ずしも良いとは言えない。

その多くは、「誘ってもらえるのは嬉しいが、青年はいないんですよ。」と返答される状況だった。

確かに今、「教会に青年がいない」と言われる。しかし、本当にそうなのか。もしそうだとしても、そのことが、教会側の青年に対する一種の「あきらめ」や「消極的態度」を認める理由になるのだろうか。

私は、今を、青年が教会に目を向ける絶好の時期だと捉えている。なぜなら、最近話題の教育や福祉、国際交流、ボランティアなどは、長年、教会が取り組んできた分野であり、これらへの関心の高まりは、その実践の場としての教会の可能性へと向かうと思うからだ。また、情報化による思想の氾濫も、本物の思想を実践する場として、その魅力を外部に示す機会を、教会に与えるであろう。

今の青年は、自らの判断で選択し行動するようになってきていると思う。だからこそ、教会がその魅力を積極的に示せば、彼らはそれに気付き、向き合うに違いない。実際、そうして教会の魅力に惹かれ、活躍の場を見つけた青年がいる。彼らは今、主体的に自らの信仰に向き合おうとしているのだ。

今、もう一度、教会独自の魅力を再検討してみてほしい。そして、大好きなものを人に勧めるように、青年に一言、温かい声をかけてみてほしい。

福岡地区青年有志の会会員

聖体奉仕者養成実行委員会を設立

司祭評議会

2003年度第2回司祭評議会が2月10日、司教館別館会議室で開かれた。

聖体奉仕者養成について、養成実行委員会の設立が報告された。本実行委員会は委員長に牧山勝美神父（小郡教会）、副委員長に司祭、信徒、修道者合わせて7人の委員によって構成される。実行委員会は養成開始以後も継続することが確認された。

続いて今後の進め方について討議した。聖体奉仕者養成としている今、教区民ひとりひとりが聖体に対する信仰を強くし、祈りを深めて行くことが求められている。

とが今後の重要な課題。そこで、教区長に趣意書を発行していただく。司祭に対しては意識高揚のため研修会の機会に説明する。また問題点が明らかになった場合には、地区司祭集会で意見を聴取する。信徒に対しては小教区担当司祭が説明し、浸透をはかる。

聖体奉仕者養成講座は9月開講をめざして準備が進んでいる。養成期間は約一年。聖体奉仕者養成が動き始めようとしている今、教区民ひとりひとりが聖体に対する信仰を強くし、祈りを深めて行くことが求められている。

みちくさ

開発すること。山林開発、資源開発、新製品の開発など、ものごとの最先端にある動きを指し示す。価値あるものを追求するのは、昔も今も続く人間の営みである。人類の歩みの中で、物質世界・精神世界の多くの面が切り拓かれてきた。現在も価値は膨張し続けている▼今という時、我々ひとりひとりが歴史の先端に位置している。ひとりの人間として、あるいは人類全体として境界線上に立ち、自己の存在の輪郭を知る▼人間の真の開発をすすめてきたか、考えるべき時がきている。人間がある行為を高次化させていく過程には一定の順序がみられる。しかし発達をとらえるということは単にその順序を追うことだけではない。能力の増大ということだけでは発達は論じられない▼他者との関係が広がり、他者を自己に取り込み、自己を形成していくことによって他者認識が深まる。子どもの発達のためには、家庭での日常生活における経験の広がりが必要である。そこで親への支援・サポートが重要となる▼子どもたちはすごい力をもっている。どんな悲惨な境遇におかれていても、そこから逃れられない苦しさのただ中にあっても、彼らは人を無条件にゆるそうとする。子どもの瞳の奥にあるあのきらきらとした輝きは、彼らの生きる力を表すものなのかもしれない。また、それは私たちに未来を指し示す希望の灯台でもある▼人は誰かを幸せにするために生まれる。いのちが迎えられ、共にあり、やがて送られてゆくとき、こみ上げてくる、ありがとうのおもい。

今年のテーマは、子どもたちが私たちの家庭や社会、教会の中でどのように扱われているかについてよく考えてみるよう、私たちに呼びかけます。

イエスは子どもたちを特に大切にされます。イエスは「わたしの名のためにこのような一人の子どもを受け入れる者は、わたしを受け入れるのである」（マタイ18・5）と言われました。イエスは、私たちが子どもたちに両手を開き、心を開いて受け入れるよう望んでいます。さらに、子どもたちと同じように「最も小さな兄弟」として苦しんでいる人や困窮している人、飢え渇いている人、外国の人、病気の人や投獄された人を受け入れ、愛することを望んでいます。

イエスは何度も、子どものようになる者だけが「天の国」に入ることができる（マタイ18・3参照）と言われました。最も小さい者の一人に「なること」、小さい者を「受け入れること」は、主が今の時代の弟子たちに向かって伝えたい教えです。自身を「小さくする者だけが、最も「小さい」兄弟姉妹たちを、愛をもって受け入れることができます。

教皇ヨハネ・パウロ2世 四旬節メッセージ
一人の子どもを受け入れる者は…

家族を養う責任を担っている両親、人生に真の意味を与える人間的・宗教的価値観を伝える努力を払っている父母がいます。また、困難にある子どもたちの教育活動に従事している人々、紛争や暴力、食料や水の不足、強制移住や様々な不正義に見舞われている子どもたちとその家族の苦しみをやわらげている人々がいます。

しかし、こうした高潔な奉仕がある一方で、虐待、強制売春、薬物の売買や使用への関与など、子どもたちを受け入れない人々の利己主義が存在しています。大人たちの暴力によって深く傷ついている子どもたちがいるのです。強制的に働かされたり、戦闘のために徴用されている子どもたちもいます。家庭の崩壊によって一生の心の傷を負った子どもたちがいます。臓器売買や人身売買に巻き込まれる幼い子どもたちがいます。アフリカで猛威を振るうエイズの悲劇、今や何百万人もの人々がこの病に苦しみ、その多くが誕生の時から感染しているという惨状が報告されています。

この子どもたちは、このような苦しみを受けねばならない理由があるのでしょうか？人間的見地に立てば、これほど心を揺るがす問いに答えるのは決して容易ではありません。信仰だけが、この苦しみのあまりにも深い淵を理解する助けとなります。「死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順」（フィリピ2・7―8）になることで、イエスは人間の苦しみをご自身で担われ、復活の光で照らされました。イエスはご自身の死によって、永遠に死に打ち勝たれたのです。

今年の四旬節が私たちの家庭で、そして社会全体でも、子どもたちの境遇に、より大きな関心が寄せられる機会となりますように。子どもたちは人類の未来なのですから。

（文責＝教区報編集部）

祈る人の世界（終）

わたしはこれをする



御受難会福岡修道院
修練長　来住 英俊 神父

この連載でいう「祈る人」とは、一日に三十分以上を個人の祈りに当てる人のことである。誰にでもこれが必要なのかどうかは分からない。たぶん、そうではないだろう。キリスト信者なら祈るのは当然かもしれないが、毎日30分、1時間と祈ることは別である。目的をもって自主的に選び取るべき行動である。

そこで、日本の社会が、また教会が、このままでは立ち腐れになるかも知れぬという危惧をもつ人がいるなら、祈りに多くの時間を投資することを一つの選択肢として考えてほしい。

＊

わたしたちは毎日、それなりに真面目に働いている。決して怠けてはいない。しかし、次々に目の前に現れる問題を処理しているだけであって、何かを着実に築いているという実感がない。本当に重要なことを手をつけないままに放置してあるような気がする。時間は過ぎていく…このつけはいつか回ってくるだろう。こういう不全感を抱いている人は教会の中にも、修道会の中にも多いと思う。教会外にもいるだろう。

このままではいけないと思うのだが、「本当に重要なこと」に手をつけることができるかというと、やはりできない。そのためには緊急とされている他の仕事から思い切って手を抜かねばならないからである。仕事が自分一身の利害だけにかかわるものであれば、自分の腹を決めるだけでいいかもしれない。しかし、多くの場合、その仕事は他の人々と関わっている。それから手を抜くということになれば、人の期待を裏切ることにもなるし、実際に迷惑をかけることにもなる。「身近な人の気持ちを大事にする」、「人に迷惑をかけない」ことが重視される文化の中では、とても難しいことである。また、「本当に重要なこと」で目に見える成果をあげることができる保証はないのである。

＊

鳥もちにからみつかれたような状態に耐えられなくなって、「とにかく、何かしなければ」と強引に行動に打って出ようとする人が時に現れる。いわゆる「蛮勇」を振るおうとするのだが、これが当てにならないことは政治家の進退を見ても分かる。多くの場合は、濃密な利害や人情のしがらみの前で腰砕けになってしまう。あるいは、自分のよい意図が理解されず批判されることに苛立って立ち去っていく。いったい何が必要なのだろうか。

＊

心理学者からこういう話を聞いたことがある。行動を起こすにあたって最も望ましい心の状態は、「わたしはこれをする」である。つまり、「わたしはこれをすべきである」という使命感の色合いの強いものではない。かと言って、「わたしはこれをしたい」という意欲の色合いでもない。ただ静かで単純な、「わたしはこれをする」であるという。

「わたしはこれをする」という静かな意向を持つ人こそが、閉塞した状況の中で働けるのではあるまいか。待つことができ、行動することができ、批判を受けとめることができる。そして、それは祈りの積み重ねによって個人の魂の内奥に生まれ育つものではないだろうか。スポーツでいえば個人練習に時間をかける。練習試合や大会を数多くこなすだけでは勝てないと思う。

「祈る人の世界」と名付けたこの連載は、「わたしはこれをする」という静かな世界をいくつかの視点で描写しようとしたものである。表題を再掲すると、「兄弟が見える」、「神中心の世界」、「神の国のリアリズム」、「はっきりと見える」、「間違っているかもしれない」、「それはおこりうる」。

http://www001.upp.so-net.ne.jp/inorinogakko/

……

祈る人の世界は今回で終了します。執筆いただいた来住英俊神父様に心から感謝申し上げます。次号からの連載にもご期待ください。（編集部）

宣教司牧評議会 発足によせて

長濱 聰

教区報2月号で報じられたように、福岡教区の宣教司牧評議会が発足した。信徒の評議員の一人として、この会への思いを記したい。

発足の経緯

2000年11月、久留米信愛女学園で開かれたカトリックフェスティバルをご記憶であろう。この催しは単に大聖年の記念行事としてだけではなく、21世紀を迎える教会の心の準備も兼ねて企画されたものであった。準備を進め、多方面の人たちと交わりを重ねる中で、21世紀の教会が目指すべきもの、乗り越えなくてはならない問題、信徒の働きの重大さなどについて啓発された。

フェスティバルが終わり、振り返る中で、この催しで見せた信徒の力の高まりを消してはならない、教会の力として継続させる方法を考えようとの声が上がった。考えてみると、司祭団、修道会、信徒は別個に協議機関をもっているが、教区全体に関わる問題の宣教司牧評議会である。教会法上いくつかの制約は設けられているが、第2バチカン公会議が目指した神の民の声を聞く、という姿勢は貫かれたものとなっている。

スクラムを組もう

2004年1月18日、第一回目の会合が開かれた。せっかく出来た協議の場である。生き生きとした信仰共同体作りに貢献できる会となることを願っている。無関心、問題意識不足のため議題が上がってこないことのないように、或いは上がってきても縄張り意識が働いたり、情報の共有ができない等のためにお座成りの協議しかできず、足が遠のいてしまうことにならないように希望している。そのために、皆さんにお願いしたいことがある。教区の宣教司牧評議会が何を話し合っているのか、関心を持っていただきたい。そして『キリストの使命を託された教会が今何をなすべきか』を絶えず考え、思いを評議員に寄せていただきたい。

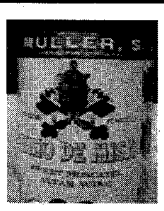
そして一番重要なお願いなのだが、解決すべき問題が生じたとき力を貸していただきたい。いずれ近い将来、何らかの問題解決のために協力を依頼されるときが来る。そのとき、どうか快く引き受け、腕を振るっていただきたい。信徒は今まであまりにも守ってもらう、導いてもらうという姿勢が強すぎたのではないか。信徒にしかできない体験、そこで培った知識、力を教会に反映させる使命を信徒は帯びている。聖職者とは違った世界で生き、研究、努力を重ね、社会を動かす力となっている人も多い。司祭、修道者に劣らず教会に熱い思いを抱き、教会のために働きたいと考えている信徒は少なくない。こうした人々の力を取り込むことで、教会に活力がみなぎってくるのではないか。おこがましくもこんなお願いをするのは、信徒評議員の役目は、信徒の活力を形あるものとするための窓口であると考えるからである。

神の民の声と力とを取り込む装置は出来た。この会が実りを生むかどうかは、各評議員が枠を脱ぎ、腹を割って話し合えるかにかかっているように思う。問題を自分たちだけで抱え込まず、ともに解決策を考える姿勢で臨みたい。

教会の目指すべき姿を述べた教会憲章「信徒について」の一節を附記したい。『信徒と牧者との間のこの親しい交わりから教会のために多くの善がもたらされることを期待すべきである。事実、こうして信徒の中に責任感が強められ、気力が育成され、信徒の力が牧者の働きに容易に結び合わされるようになる。他方、牧者は信徒の経験に助けられて、霊的な事がらにおいても現世的な事がらにおいても、より正確に、より適切に判断することができるようになる。このようにして全教会はその全ての肢体によって強められ、世の生命のために自分の使命をより効果的に果たすことが出来るのである』。

（八代教会信徒）

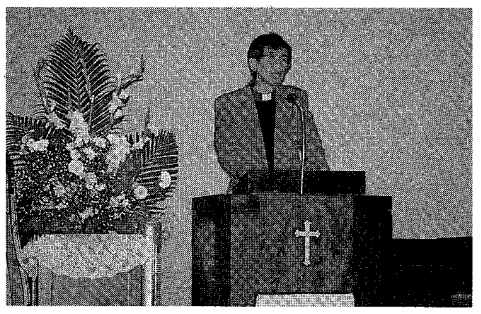
むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

エキュメニズム委員会　日本基督教団福岡中部教会で

キリスト教一致祈祷週間に集い


かみしめるように語りかける今田昌樹神父

私たちは1月18日（日）から八日間、キリスト教一致祈祷週間を過ごした。最終日にあたる25日、日本キリスト教団福岡中部教会（福岡市中央区）でキリスト教一致祈祷集会が開かれた。教派を超えて97人が参加、心をひとつにしながら祈りの時を過ごした。

祈祷会は浜尾正直司祭（日本聖公会）の「私たちの主イエス・キリストの光と平和を！」の言葉で始まった。

ヨハネ福音書の朗読に続いて、今田昌樹神父（カトリック笹丘教会）が今年のテーマ「わたしの平和を与える」（ヨハネ14・27）に添って説教した。「話し合いではなく武力により、土台のない平和を求めている現代において、人は聴こうとはせず、相手に自分の価値観を押し付けてばかりいる。ひとりひとりのかけがえのなさに気付こうとしていない」、神父は一言一言をかみしめるようにして会衆に語りかけた。「義人と罪人の境目は人と人との間にではなく、自分の中にある。隔ての壁は人間の仕業。イエス・キリストによってすでにこの壁は打ち砕かれた。しかし私たちの心の中に、教会の中に、世界の中にまだ残っている。これをイエスと共に打ち砕いて行こう」と呼びかけた。また神父は、アメリカ・ニューヨークのベラザーノ橋が過越の橋と呼ばれることを紹介しながら、「私たちが通るべき橋はキリスト。キリストこそ神の世界と人の世界をひとつに結ぶ橋、人と人とを結ぶ橋なのだから」と語った。

その後、各教派代表者によるとりなしの祈祷が行われ、平和と一致の源である聖霊の力強い恵みを祈り求めた。

平和を共に考える2月11日佐賀の集い


にこやかに話される宮原良治司教

平和を共に考える2月11日佐賀の集い（主催＝佐賀カトリック正義と平和協議会）が開催され、会場のカトリック佐賀教会に80人が集った。

大分教区長宮原良治司教が「平和と使徒職」と題して講演を行った。司教は「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだと思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすためだ」（マタイ10・34）を引用しながら、神の光に触れると不純なものが取り去られる、神の定められた秩序を尊重してはじめて平和が生まれると述べた。

さらに教皇ヨハネ23世回勅「パーチェム　イン　テリス」をもとに、平和の柱である「真理、正義、愛の奉仕、自由の行使」について確認し、平和は神の愛の炎を受け、キリストの弟子になろうとする愛の実践の中から生まれると説いた。キリスト者の役割は和解と平和の推進である。司教は、十字架上のキリストに従い、平和を願い求めつつゆるし合うことこそ、世界に平和を構築する第一歩であると語った。

また、平和の使徒職、それはキリストの姿にあやかりながら、世の光となって、希望を持って和解と平和を推進して行くことである、と話した。

木かげ


大山悟神父

家庭と召命

「祈りを始めるよ。ローソクに火をつけなさい」という母親の声に、これから始まる退屈な時間に若干の嫌気を感じながらも、ローソクに火を灯す作業にわくわくしていた。そして祈りが終わると、ほのかな充実感と甘美さを味わっていたことを覚えている。

家庭…それは何なのだろうか。小さいとき、家庭から得たものは数え切れないほど多くある。なかでも祈りの体験は大きかった。今でも家庭という言葉を聞く時に最初に思い出されるのは、父母を含めて兄弟たちが一緒に祈っていた姿である。その次には囲炉裏を囲んで食事をしている姿が思い出される。

ところで司祭、修道者の召命が減っている。もちろん種々の形での召命に燃えている人たちも多くいるが、それらの熱意が広がりにくい土壌があるようだ。それは世俗化が進んでいるからであろう。

聖なるものを日常生活の中に取り込み、それにより日常を聖化しようとしてきた。かつて聖なるもの、貴いものとされたものが、日常の中で簡単に触れられるようになった。この世界が聖なる者と触れる時、大いに人は燃え上がった。人は自分の弱さや罪深さを知り、自分を限りなく超えた神に助けを祈った。そして新しい命を得た。

しかし聖なるものが世俗化し始めると、日々頂く恵みを当然と考えるようになった。恵みがいつも共にあるようになると、いつしか神に上げる（超越的）祈りを忘れた。神の内在になれてしまった私たちは、自分がなす事と神がなす事の区別をつけなくなった。もはや人は神に祈ることをしなくなった。

人は神の超越と内在のバランスの中で生きている。神に心の目を上げることがないなら、時空の有限性の価値観に覆われ傲慢になる。神の内在を感じないなら、霊的ゆとりを失い、自分のあり方を正当化しようとして、他人の信仰のあり方を責めるようになる。

神の超越と内在のバランスを日常の中で自然と体得する場が家庭である。家庭に愛と祈りを回復するなら、同じ信仰を持つ共同体はもっと明るく活発になり、種々の次元での召命が活性化されるのではないだろうか。

（福岡サン・スルピス大神学院院長）

今村信徒発見137周年記念ミサ


祝福する司祭たち

1867年2月26日、筑後今村地区のキリシタンは、浦上から訪ねてきた4人の信者の前で、親から受け継いできた信仰を明らかにした。今村地区の信徒発見、この素晴らしい出来事から今年137年を数える。2月22日には、今村教会で記念ミサがささげられた。司式は今村教会出身の青木悟神父（大名町教会主任）が担当した。信徒発見125周年以来、今村・本郷両教会が協力して記念することが定着し、この日も本郷から畠山七郎神父、信徒が多数参加し、この地に生きた先祖に賜った神のはかりしれない恵みを思い、感謝を新たにした。

今村での信徒発見、信仰告白のきっかけとなったのは、四旬節の務めを大切にすることころであった。今村のキリシタンは悲しみ節（四旬節）の小斎の掟を忠実に守り行っていた。彼らは禁教時代、司祭不在であったにもかかわらず、水方によるバプチズモ（洗礼の秘跡）、いくつかのラテン語の祈りを伝えていた。また聖母マリアを大切にし、その地上の生涯を63年と考え、63遍の「ガラサ（恵みあふれる聖マリア…の祈り）」を唱える信心を実践していた。そして殉教者ジョアン又右衛門を尊敬し、その取り次ぎを願い、殉教の場所、墓地について大切に伝えていた。

記念ミサの典礼は、祖先の信仰を顕彰し、その模範に倣い、信仰の遺産を後世に伝えるというテーマを鮮明に打ち出すものだった。何ものにも代え難い信仰の遺産、それを受け取った今村信徒の誇りと、次代を生きる人々に少しでも深めて伝えたいとの思いが強く伝わってきた。

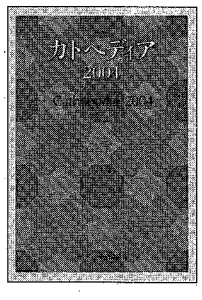
作文コンクール入賞作品を発表　75周年記念行事実行委員会

大変遅くなりましたが、作文コンクールの審査結果をお知らせいたします。

☆優秀作品
『キリストにおいての一致』
磯野沙月さん
（浄水通教会　高校1年）

☆入賞作品
＊子どもの部＊
『ぼくのゆめ』
いぐちなおゆきさん
（新田原教会　小学2年）
『かみさま　ありがとう』
松山りりさん
（糸島教会　小学3年）
『私の教会』
椎山　怜美さん
（新田原教会　小学5年）
＊大人の部＊
『恩人』
安本峯子さん
（湯川教会信徒）
『信仰の喜び』
佐久本くるみさん
（手取教会信徒）
『ある一つの歴史』
松本直世さん
（聖母訪問会修道女）

★カトペディア2004

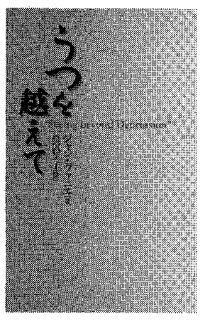


12年振りの改訂版である。カトリック教会の歴史、現代のカトリック教会、第2バチカン公会議後の教会、他のキリスト教との関係、諸宗教との関係、中国のカトリック教会などアジアの教会、諸大陸の教会、日本のカトリック教会の歴史、現代の日本の教会、日本カトリック司教協議会に公認されているカトリック教会の運動団体とその活動などが掲載されている。

カトリック中央協議会　発行
税抜特別価格　3600円
（10月から4500円）

◇　◇　◇

★うつを越えて
ジャン・バニエ著
原田葉子訳



現代、うつに苦しむ人は非常に多い。ラルシュ共同体の創立者ジャン・バニエが、どのようにうつと向き合い、希望を捨てずに心を解き放つことができるか、うつを越えて闇から光にいたる道を、やさしい言葉で簡潔に語る。

この本は、心が傷ついているすべての人に向けて書かれている。

女子パウロ会　発行
税抜価格　1200円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

召命は、生きる キリストとの出会いから

聖ヨゼフの月　案内版　会合と催し　3月のこよみ

カトリック教会のカテキズム

日　　時：2004年4月25日(日) 15：00～17：00
　　3月の勉強会はお休みです。
場　　所：カテドラル大名町教会
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」
講　　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参 加 費：1回　５００円
主　　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第三期神学講座
2004年9月19日(日)まで全8回
(第3日曜日を基本とし変動あり)
⑤2004年5月16日(日)
「カテキズムとは何か」　大山　悟 神父

♣聖書講座
2004年9月18日(土)まで全15回
(基本的に第1・第3土曜日)
講師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
※受講料や単位取得等は下記に問合せ下さい。
☎096-352-1515（日向）/ 090-8664-4039（平田）
主催：熊本地区信徒使徒職協議会

第43回 クルシリヨ開催のお知らせ

日　　時：5月3日(月) 10時（9時30分集合）
　　～5日(水) 16時まで
場　　所：福岡黙想の家
　　☎0940-32-3222　宗像市名残1056
参 加 費：１２,０００円
　　（宿泊、食事、用品代として当日受け付けます。）
携 行 品：ロザリオ、着替、寝間着、洗面具等
　　（筆記用具などは事務局で準備します。）
対 象 者：カトリックの洗礼を受けている方、一度参加された方も、もう一度参加できます。申込は同じ要領です。
指導司祭：下町豊重神父（西新教会主任）
連 絡 先：大谷眞造
　　〒813-0042 福岡市東区舞松原5-23-9
　　☎ FAX 092-661-0120

これまで参加された方の感想から
※私の生涯の中で最高の三日間でした。短い三日間でしたが、キリストをこれ程身近に感じたことはありませんでした。

第43回 朝祷会全国大会《福岡》

大会標語：平和・聖霊による一致
大会聖句：平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を保つように努めなさい。(エフェソ4･3)

記念講演：寺園喜基先生（西南学院長・神学博士）
特別講演：片岡千鶴子（長崎純心大学学長・長崎純心聖母会修道女）
期　日：5月21日(金)～22日(土)
会　場：福岡カテドラル（大名町カトリック教会）

福岡黙想の家ご案内　3月

◇7日(日) ～ 8日(月)　オブレート・福岡
◇8日(月)　長崎純心聖母会
◇10日(水)　ミカエル会
◇11日(木)　長崎純心聖母会
◇22日(月) ～ 26日(金)　オブレート会会議

4月
◇3日(土) ～ 5日(月)　サン・スルピス神学生黙想

※3人の神学生が助祭に叙階されます。お祈りください。
・中村克徳神学生　3月20日(土)　東京　本所教会
・山内十束神学生　3月21日(日)　東京　志村教会
・松本一宏神学生　3月28日(日)　大阪　池田教会
※3月13日(土) 大阪宝塚本部修道院で、後中高典・久保裕己の2人の志願者が初誓願を受けます。どうぞ、お祈りをお願いします。
[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

※祈りの集い
年間テーマ：聖人の祈りに学ぶ
・3月11日(木) 10時～15時
テーマ：十字架の聖パウロ
指　導：Sr.マリアと S.フランコ神父

※黙想会
・座禅と十字架の神秘
日　時：3月26日(金) 17時から 28日(日) 13時まで
問合先：真命山
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

カテドラルでのゆるしの秘跡

日　時：3月20日(土)　10時～12時
場　所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂

3月のこよみ

2日(火)　†R.ミケレ［1988年鹿島教会］
　†J.オブライエン［1990年手取教会］
6日(土)　†H.ジョリ［1966年久留米教会］
7日(日)　四旬節第2主日
　井手公平神学生朗読奉仕者選任式［佐賀教会11時］
　†ミカエル平田寛［2002年門司教会］
9日(火)　松永司教霊名の祝い［浄水通教会11時］
12日(金)　†F.M.ヴェイヨイ［1973年唐津教会］
14日(日)　四旬節第3主日
16日(火)　†L.M.ベリボ［1977年箱崎教会］
17日(水)　長崎の信徒発見記念日
19日(金)　聖ヨセフ／松永司教霊名の祝日
　†J.ベラス［1990年水俣教会］
　†M.ボネ［1959年新田原教会］
20日(土)　春分の日
21日(日)　四旬節第4主日
　寺浜亮司助祭の司祭叙階式［カテドラル14時］
25日(木)　神のお告げ
26日(金)　†J.ドイル［1962年荒尾教会］
　†J.ムルグ［1989年小倉教会］
28日(日)　四旬節第5主日
4月
4日(日)　受難の主日（枝の主日）／世界青年の日
　†ペトロ黒川博［2002年八代教会］
ゴチック文字は司教日程

緊急　イラン地震被災者支援募金

カリタスジャパンが、先のイラン地震被災者への支援のために募金口座を開設しています。
郵便口座：00170-5-95979（イラン地震と明記）

福岡

■福岡祈りの集い
［日時］毎週月曜11時～12時30分［場所］カトリック大名町教会［内容］聖霊による祈り［問合先］☎092・522・5139ブラザー床嶋

■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］3月14日(日) 14時から16時［場所］大名町カトリック教会（中央区大名2）［内容］親しい方を亡くされた体験から［問合先］☎092・534・5647小林

■召命を共に祈る会
［日時］3月18日(木) 14時30分［場所］召命の家［指導］浦川務神父（召命担当）

■在世フランシスコ会集会
［日時］3月28日(日) 14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■生と老い死を見つめる会
［日時］4月18日(日) 14時から16時［内容］2004年度総会［場所］大名町カトリック教会［参加費］700円［問合先］☎092・713・8523大山／607・6992村尾

■召命祈願ミサ
［次回］5月13日(木)の予定［場所］サン・スルピス大神学院聖堂［主催］福岡召命を共に祈る会・大神学校

■第93回福岡結婚準備講座
［次回］5月12日(水)から6月5日(土) 毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分［場所］大名町カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎092・541・6207 FAX 092・552・5022カトリック・ファミリーセンター

北九州

■水巻教会の英語ミサ
毎月第1・第2・第3日曜日の午後2時から、水巻教会で英語によるミサを行っています。お近くで英語を母国語とされる方を見かけたら、是非お知らせして下さい。［水巻教会］☎093・201・0680

■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、男性用冬物衣類・毛布・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者も募っています。［問合先］☎092・431・1419

佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］3月10日(水) 10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］3月27日(土) 10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4土曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎095・72・7536吉田

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］ルカ福音書を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］

精神障害者の会　ユリアナの会

勉強会のお知らせ
日　　時：3月25日(木) 14時～16時
会　　場：カトリック案内所（福岡黙想の家駐車場に隣接）
テ ー マ：精神障害者の迫害の歴史
講　　師：小宮豊先生 小宮クリニック院長（精神科・心療内科・内科）
参 加 費：無　料
問合せ先：☎0940-38-8915
　☎0940-32-3222
世 話 係：吉永昌子
　（ユリアナの会）☎0940-32-2731
※毎月1度の勉強会です。
※どなたでも参加できます。

熊本

☎0952・23・4754 阿南

■花岡山殉教祭
［日時］4月18日(日) 14時
［場所］花岡山（熊本市春日4丁目）［問合先］☎096・352・5610島崎教会

■第71回熊本結婚準備講座
［日時］5月10日(月)から6月1日(火) 毎月曜日と火曜日全8回19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎096・352・3030 FAX 096・352・1515手取教会　安部

編集後記

春、希望の季節。教区では5年ぶりとなる司祭叙階式が行われます。

教皇様は四旬節メッセージを発表し、私たちが四旬節の精神をよく理解して回心と愛のわざに励むよう呼びかけています。これに応えて日本のカトリック教会は、虐げられ、見捨てられ、いのちの危険にさらされている人たちとの共感を大切にするよう一人ひとりに訴え、「愛の献金」を奨励しています。この献金は、優先的に悲惨な状況下にある子どもの救済に充てられます。また募金趣意書・四旬節課題解説のための小冊子『ひびき』などの資料が皆さんの小教区に送付されています。ぜひ手にとってお読みください。

寺浜亮司祭叙階式に参加される皆様へ

叙階式当日、カテドラル大名町教会には駐車できません。遠方の司祭、体の不自由な方のみ利用できます。公共交通機関をご利用ください。お車でおいでの際は、近くの有料駐車場をご利用くださるようお願いいたします。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
電話 092-721-2032　FAX 092-739-3930

1100人が祈った司祭叙階式

ペトロ寺浜亮司神父誕生

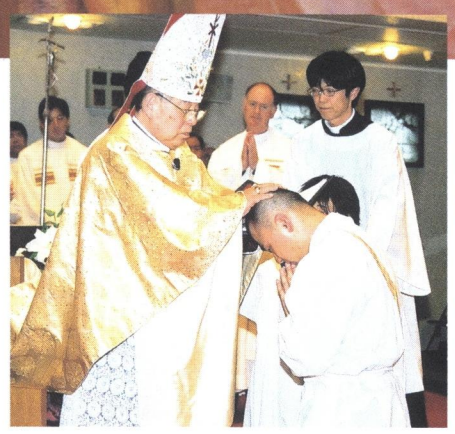
5年ぶりの叙階式に神の民が集い喜びに溢れた

カテドラル

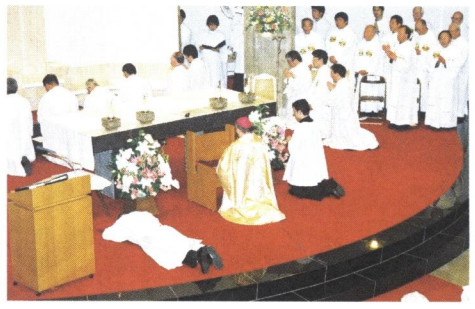
ペトロ寺浜亮司助祭の司祭叙階式が3月21日午後2時から、カテドラル大名町教会において、松永久次郎司教司式により行われた。教区では5年ぶりとなる司祭叙階式に、新司祭の出身教会である久留米教会をはじめ、教区内外から約1100人が集い、司祭誕生の瞬間を見守った。この日、福岡教区神の民は大きな喜びのうちに一つとされ、神に向かって高らかに賛美と感謝をささげた。



カリスを受ける寺浜新司祭



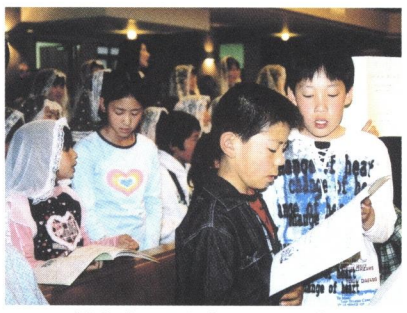
司教の按手を受ける



参加者の連願に合わせ諸聖人の保護を祈る受階者

カテドラルは司祭誕生を心待ちにしていた大勢の人で埋めつくされ、叙階式ミサの開始が近付くにつれ、会場の熱気はさらに高まっていった。開祭を告げる鐘の音が響き渡り、主司式の松永司教、50余人の司祭団、助祭団、侍者と共に寺浜助祭が入堂。福音朗読の後、寺浜助祭が呼び出され、司祭候補者として認められると、「神に感謝」の言葉と共に賛同の拍手が沸き起こった。続いて松永司教は説教で、寺浜助祭のご家族、養成にたずさわった大神学院に対し感謝を表し、参加者に向かっては司祭叙階が神の民が参与するキリストの祭司職を浮き彫りにし、特別に活性化する恵みであることを説き明かした。

また司祭の務めについて、使徒の後継者である司教と結ばれて師、祭司、牧者であるキリストの務めを果たし、神の民のために生きる奉仕者であることを諭した。

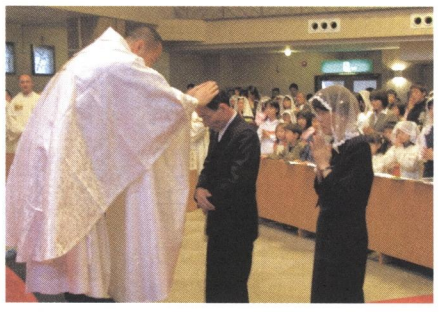


響き渡る子どもたちの歌声



喜びの新司祭とご両親そして司祭団

司教の言葉に耳を傾けた後、受階者は司祭として一生を生きることを約束。その後、床に伏し、参加者一同と心を合わせて諸聖人の連願を唱えた。連願の後、司教は受階者の上に手を置き（按手）、共同司式司祭もこれに続いた。叙階の祈りが荘厳に唱えられ、司祭が誕生した。



最初のご両親への祝福

その後、寺浜新司祭は祭服を着衣、司教は新司祭の手に聖香油を塗った。続いてミサで使われるパンとパテナ・ぶどう酒と水とカリスが奉納され、授与された。

感謝の典礼の後、祝賀式が行われ、初めに教区長があいさつ。続いて司祭団を代表して田中重治神父が歓迎の言葉を述べた。信徒を代表して、信徒使徒職協議会会長の山崎昌典さんは「共に協力し支え合って、神の国の完成のため

司祭異動

▽帯山教会主任＝川添猛（本渡・大江・崎津教会主任）▽本渡・大江・崎津教会主任＝川原拓也（本渡・大江・崎津教会助任）（以上2月25日付）▽呼子教会主任＝中村信哉（直方・田川教会主任）▽久留米教会主任＝浦川務（大名町教会助任）▽久留米教会助任＝三村邦明（久留米教会助任）▽直方・田川教会主任＝杉原寛信（小倉教会助任）▽小倉教会助任＝田中重治（久留米教会助任）▽大名町教会助任＝牧山美好（司教館）▽司教秘書＝寺浜亮司（新司祭）（以上4月1日付）

時の話題

杞憂

久保　守

「来る者は拒まず」を処世の術として自慢している友人がいた。これが適切な身の処し方であるかは分からない。いずれにしても、「来る者は・・・」といっても、誰も来なければ無意味である。

ところで、最近のわが国では「少子化」とか「核家族化」といって、社会の各分野にわたって人口の減少が話題になっている。

ちなみに、総務省の人工統計を調べてみた。確かに数字の上からも、全国の人口増加率が減っている。特に、平成二十二年度からは増加率はマイナスに転化して、毎年そのマイナス率は大きくなっている。あとわずか六年後の話である。身近な九州を取り上げてみても同様であり、わずかに福岡県と沖縄県だけが例外である。

さて、目を大切な教会に転じて、「愛」を掲げる者として、「来る者は・・・」は当然として、来る者が来ないという問題が起こってくる。

問題を、教会の外と内とにわけて、外に対しては、待っているだけでなく、あらゆる機会を利用して働きかける方策を考えなくてはならないだろう。

内に対しては、何よりも魅力のある現代的な教会の建設を考えなくてはなるまい。

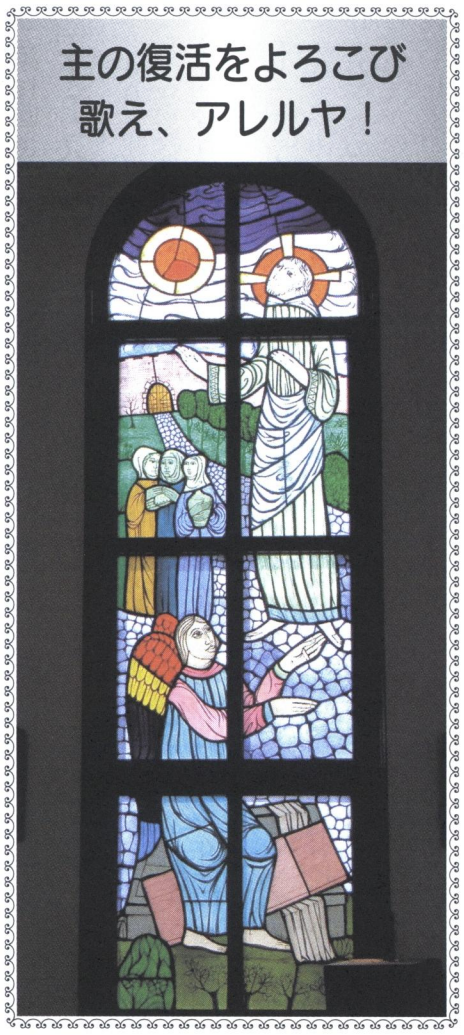
特に堅信を受けた後の青少年の教育が必要であろう。中学・高校と進むにつれて、教会との関係が微妙になってくる。それは、時間の問題を含むと同時に、進展していく知識の問題がある。時間は本人しだいともいえようが、知識は、それなりの制度の確立が必要ではあるまいか。

以上述べたことが杞憂であれば良いのだが。

（西新教会信徒）

みちくさ

今年、福岡教区にも一人の司祭が誕生した。誰でもこのことをお祝している。全ての人と喜びを共にしたい◆ところで、司祭とは何をする人であろう。司祭とは呼んで字のごとく、祭りを司式する人のことと言える。いろいろな説明の中でこれが一番分かりやすいと思う。司祭はミサの祭りを人の先頭にたって、祝う人である。とすれば、この度の祝いは、盛大なミサの祭りに繋がるであろう。ここかしこの教会で、ミサの祭りが沢山の信者の集まりのもとに美しく祝われるであろう◆子どもは子どもで、青年は青年で、壮年は壮年として、また障害を持つ人はその特徴を生かしてミサ聖祭に集い、神の民の喜びを歌うことになると思う◆もともと人がこの世にいる理由は、神を賛美するためである。神に賛美を歌い、その心で毎日の生活を送ることである。そうすれば、人間は幸せになり神の意向は全うされる。司祭を迎えて荘厳にミサの祭りを祝うこと、これが差し当たりわたしたちの務めである◆ミサの祭りを荘厳に祝うとはどういうことかと考える時、すぐ「あなたが祭壇に供え物を捧げようとし、兄弟があなたに反感をもっているのをそこで思い出したら、その供え物をその祭壇の前に置き、先ず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を捧げなさい」というみ言葉を思い出す。また「魂に戦いを挑む肉の欲を避けなさい。また異教徒の間で立派に生活しなさい」とのことばを思いつく◆わたしたちは新しい司祭とともに神に賛美を歌いながら、立派に生きて行くことを期待したい。（H）



浄水通教会のステンドグラス

主の復活をよろこび
歌え、アレルヤ！

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般】聖なる品級への候補者の堅実な準備と叙階された者の永続的養成

【布教】反省のテーマ及び努力の材料である「諸国民のための」宣教精神

【日本の教会】キリストと共に死からいのちへ

第19回世界青年の日教皇メッセージ
「イエスにお目にかかりたいのです」

2004年の世界青年の日にあたり、教皇ヨハネ・パウロ2世は若者に向けてメッセージを発表しました。

テーマは「イエスにお目にかかりたいのです」（ヨハネ12・21）。このことばは、ある日、幾人かのギリシア人が使徒たちに表明した願いです。

教皇は、若者に対して「イエスを見たい」との願望に駆られて使徒に質問したこのギリシア人に倣うよう招きます。またこの願いが、単なる知的好奇心に動かされるだけでなく、人生の意味についての疑問に対する答えを見つけたいという、もっとも深い要求に促されるものであるように願っています。イエスを見るためには何よりもまずイエスに見つめられるままにゆだねる必要があります。

「皆さん、神のみ顔の美しさを見つめたいと望んでいますか？」、教皇は問いかけます。キリスト教は神、イエスの受肉によって私たちの歴史に現存される神との、信仰における出会いです。教皇は先の問いについて性急に答えないで、何よりも自分の内面を静め、神を見たいとの熱望が心の深みから湧き出るに任せ、イエスとの出会いという素晴らしい体験をすることを望んでいます。

本当に自由であるとは、私たちを造られた方を選び取る力があるという意味であり、また、私たちのいのちに対する創造主の支配を受け入れるということです。イエスとの出会いだけが、人生に十分な意味を与えることが出来ます。

そこで、聖体のうちにイエスを見いだすことを学ぶよう促します。そうすれば兄弟や姉妹、なかでも最も貧しい人たちのうちにもイエスを見いだすことができるようになるからです。私たちが愛をもって聖体をいただき、また、熱心に聖体を礼拝するとき、聖体は私たちにとって、愛のおきてを実践するための自由と愛徳の学び舎となります。

己を放棄するということはやさしいことではありません。それは所有欲に動かされた愛や、自己陶酔に溺れた愛から離れることを必要とします。自己を他者に与える愛の喜びに開かれていくためです。

愛することは単なる感情の動きではありません。それは、自分のことよりも他者の善をつねに優先させる意志の行為です。

教皇は、キリストを探し求めること、教会に現存しておられるキリストについて告げ知らせることを忘れないようにと呼びかけます。教会はキリストの救済活動の延長です。教会において、教会を通して、イエスは今日、ご自分を人の目に見えるものとし、人々との出会いを待ち続けておられます。小教区、活動、共同体において、交わり・一致を成長させるため、互いに受け入れ合うことが大切です。

私たちが歩みの途上で十字架に出会うとしても驚いてはなりません。

教皇は1984年のあがないの聖年の終わりに、大きな木の十字架を青年たちに託しました。十字架は人類に対する主イエスの愛のしるし。以来、この十字架は世界青年の日に備えてさまざまな国を駆け巡りました。幾千万の若者たちがこの十字架の周りで祈ってきました。肩にのしかかる重荷を足元に降ろした時、彼らは神に愛されていることを悟り、その多くが人生の道を変える力をいただきました。このイベントがはじめられて20年目にあたる今年、大きな木の十字架は荘厳にベルリンまで運ばれた後、ドイツ全土を巡礼しながら、来年にはケルンに到着することになっています。

教皇は若者の持つ素晴らしい可能性に希望をかけて呼びかけます。「日常生活の現実の中で、死より強い愛の大胆な証人となってください。今日、この挑戦に応じるのはあなたがたです！」。　文責＝編集部

教会について考える（1）


森山信三神父

第2バチカン公会議が終わって40年が過ぎようとしています。私たちの教会は公会議が望んだ教会となっているのでしょうか。あるいはその精神を汲んで、より前進しようとしているのでしょうか。はたまた旧態依然とした教会観にとどまっているのでしょうか。

今回、公文書特に「教会憲章」にもとづいて、公会議が望んだ教会とはどのようなものか、皆様といっしょに考えていきたいと思います。

まず、この公会議の開催を決定したのは、ヨハネ23世教皇でした。77歳というご高齢で教皇職の重責を担われることになった教皇様が、突然世界の司教を集めて、今後の全教会について、討議し決定する公会議の開催を発表されたのは、多くの人々にとって大いなる驚きだったのです。この公会議は、それまでのようにカトリックの教義を守るためではなく、世界に開かれた教会、裁くのではなく対話する教会、社会、とくに苦しむ人々とともに歩む教会を打ち出した点で稀有の公会議だったのです。そしてそのためには、教会が2000年の歴史の中で、身に付けてしまった様々なしきたり、慣習などを今一度見直して、福音に基づくものにする必要がありました。

ヨハネ23世教皇は、次のような言葉を残されています。「伝統とは、過去を荷のように負い続けることではない。伝統とは、たち表れてくる新しい時代の要求に応え得る能力を意味する。この能力の源は原点にある」と。つまり、教会とは何か、その存在意義はどこにあるのか、目的は何かを問うときに、まずはキリストが望まれた教会とはどんなものだったのか、そして弟子たちが受け継いだ教会、ここに戻るよう望まれたわけです。

ある団体の歴史が長ければ長いほど、そこで長い間培われてきたものの中に後世に受け継ぐべき美点と、同時に負の面もあり得ます。憲章の中に「罪びとをふところに抱く教会」という文言がありますが、まさに教会は、負の面を自覚しながら同時に現代社会の中でたち現れてくる様々な事象と誠実に対峙し、すべての人が救われることを望んでおられる神の意志に叶おうとしたのです。

最近よく「自分探し」などという本が店頭に並んでいるのを眼にしますが、この公会議はいわば「教会とは何者か」を問うたと言えるでしょう。ごいっしょにこのテーマで一年間考えていきましょう。

福岡教区創立75周年記念 作文コンクール
優秀賞受賞作品
「キリストにおいての一致」

磯野　沙月

「神父様がミサする時、何着てるの？」「えーっと、アルバとね・・・」。

私には、プロテスタントの信者の友だちがいる。元々プロテスタントの教会に通っていた私と、カトリック系列の学校に通っている友だち。教会や聖書の話になると、たちまち意気投合してしまう。特に二つの宗派の相違点についてよく話すのだが、最終的には「同じ神様を信じている」という所に行きつくのだ。

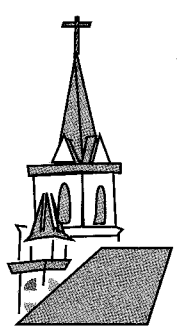
カトリックは、宗派を超えてのキリスト教の一致を願い、私と友だちもそれを願っている。当時の教会のやり方に疑問を持ったルターがプロテスタントをおこしたが、この二つの宗派は同じ土台に立ち、それぞれに違った良い所があるのだ。お互いの違いを認め合えば、キリストの名において一致できるはずである。今、一致のために聖書や「主の祈り」の統一など、すばらしい事が行われているが、私が一番肝心だと思っている、人と人との交流の場がとても少ない事を強く感じている。私にはプロテスタントの友だちがいて、色々な話ができるからこそ、宗派を超えてのキリスト教の一致を強く感じられる。しかし、何も交流の機会を持たない人は、一致という言葉にピンとこない場合が多いのではないかと思う。

そこで、カトリックとプロテスタントの教会の子どもたちが、「イエス様」の名のもとに、同じ時間を共有する場があれば、どんなに楽しいだろう、と思った。讃美歌が違ったって、神様への賛美の仕方が違ったって、「同じ神様を信じているんだ」という事が少しでも感じられれば良いと思う。これからの教会を担う子どもたちから始めれば、一致に大きく貢献できるのではないだろうか。

カトリックとプロテスタントの子どもたちが、共に神様を賛美する姿、これが、私の未来の教会である。

（当時中学3年生）

浄水通教会信徒




今回発見された宗門改めの写し

博多の切支丹宗門改め発見によせて

先頃、博多の切支丹宗門改めの奉行所への報告書が二葉発見されました。今までにこの二葉を含めて三葉しか出ていないと聞きます。一葉は福岡県立図書館に保存されているそうです。早速、この原簿を手に入れ、その真偽について、福岡司教区宣教史委員会幹の酒井修氏（門司教会信徒）の協力を得て、当時、奉行所に報告書を作成した正成寺の住職遠誉、観音寺の住職聴誉の存在などを調査していただきました。

先の二寺の現住職方の寛大なご協力により、署名している住職の存在、筆跡、花押、紙質などについて、寺所蔵の書物と照合して、この二葉の書物が真実のものであることが確認されました。

内容は、一葉は現在の大博町の住民で宗門改めの時に切支丹と称する吉郎兵衛夫婦が存在するとの奉行への報告書。もう一葉は同町住人喜代次と他一人の男性の宗門改めで、彼らが切支丹であるとの報告書です。

黒田孝高（黒田如水）が博多の中呉服町辺りに教会を建てた記録があります。その息子長政は教会を壊し、寺を建てたといわれています。この近辺ではメダイやメダイをつくる時の鋳型などがこれまでも出土しており、古くからキリスト信者がいたことが確認されています。今回の宗門改めの原簿は1795（寛政7）年の宗門改めの時のものです。

キリスト信者は復活を信じる者として、おそらく彼らは肉体とともに滅ぼすための刑として磔ではなく火刑に処せられたものと思われます。

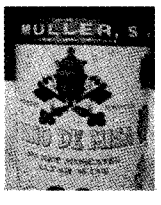
現在、福岡教区の28人の殉教者の列福申請がバチカンに提出されていますが、名も知られていない殉教者たちが現在まで信仰を伝えてくれたことに感謝しなければならないと思います。

長崎や今村のような感動的な信徒発見は見ませんでしたが、福岡市内における信徒発見として感動し、信仰の火種が燃え続けていたことは大きな励みになります。

教区内の28人殉教者の列福を祈願するとともに、厳しい迫害の時代に、宣教師がいなくなった後も信仰を伝えてきた人々に倣い、私たちも伝える信仰を培って行くことが大切です。そのために教会でのいろいろな講座、クルシリヨなど信仰養成の機会をよく利用しながら自らの信仰を深め、「伝える信仰」を養い、司祭・修道者の召命につながることを願っています。

松井忠之神父（教区会計）

むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

佐賀教会出身神学生の選任式を祝った

井手公平神学生朗読奉仕者に…

佐賀教会


聖書を朗読する井手公平神学生

マキシミリアノ・マリア・コルベ井手公平神学生の朗読奉仕者選任式ミサが、3月7日11時から、佐賀教会で松永久次郎司教主司式により行われた。

集会祈願に続いて選任式が行われ、呼び出しに応えて、井手神学生は司教の前に進み出た。司教は朗読奉仕者ついて「教会の宣教活動に協力する者、神の民の中で、神のことばにもとづく信仰の奉仕者」であると述べ、「自分の生活の中にキリストを迎え、ことばと行いをもってキリストを証しするように」と諭した。訓話の後、司教は朗読奉仕者に選ばれた井手神学生を祝福し、続いて「いのちをもたらす神のことばを忠実に伝えてください」とのことばとともに聖書が授与された。その後、井手神学生は朗読台に移動し、朗読奉仕者として聖書を朗読した。

朗読奉仕者に選任された者には、教会から福音宣教の務めを託されている司牧者の指導監督のもとに、典礼集会で神のことばを朗読し、子どもや大人に要理を教え、秘跡にあずかる準備をさせ、キリストの教えを知らない人々に救いの神秘を宣べ伝える任務が与えられる。

木かげ


小池如安神父

私は、6月24日洗礼者ヨハネの祝日に叙階の恵みを受け、今年は司祭生活50年目です。皆さんのために、イエズス様を頭として現すという務めに召されました。どうして私にこんな素晴らしい恵みが与えられたのでしょう。

子どものころのある日曜日、アフリカの宣教師が私の教会に来て説教をしていました。どんな話をされたか覚えていませんが、心の中で「僕もこのような宣教師になる」と決め、この決心が司祭になるまで一度でも揺らぐことはありませんでした。どうしてでしょう。家族のだれからも司祭になるように勧められたことはありません。小学校で教えていた修道士がご自分の会に入るように勧めましたが、「僕は司祭になる」とすぐはっきり断りました。

みんなの力に支えられて

その当時、司祭になるためにどうしたらいいか分かりませんでした。それに私には5人の弟妹がいました。

九年生になったとき、ひとりの修道士が来て、卒業する学生一人一人に会い「今からあなたはどうするつもりですか？」と聞きました。私は「司祭になりたいが家が貧しいのでできない」と答えました。すると修道士は「心配しなくてもいい。私がとても安い寄宿のある神学校を知っています。あなたの親に会いに行きます」と言いました。その時心配していた私は、大きな期待で満たされました。5月の初め頃、修道士は訪ねて来ました。不思議なことに、家族はだれも反対せず、かえって皆は喜び、私が頑張るように励ましてくれました。9月の初め頃、家から300キロ程離れた小神学校に入学しました。

入学後二ヶ月が過ぎた頃のこと、学生たち皆が外で遊んでいると「校長先生が呼んでいるよ」と言われました。校長先生のところへ行くと、そこにはもう一人神父さんがいました。私が何も言わないうちに「あなたがお母さんのお腹にいたとき『この子は神父になる』と私は言ったぞ。あなたのお母さんに聞きなさい」と言われました。クリスマスの休みに、自分の家に帰るとすぐにその話をしたら、母は「その通りだよ」と。

その時から、両親だけでなく、兄弟姉妹をはじめたくさんの人が私のために祈っていたのが分かりました。

みなさん、司祭になるのは自分のためではなく、みなさんの世話をするためです。ですから司祭が増えるよう、みなさんが熱心に祈らなければならないのです。

（高宮教会主任）

よい療養環境を願って聖心病院が移転

熊本



3月16日（火）、熊本イエスの聖心病院（社会福祉法人聖嬰会・ショファイユの幼きイエズス修道会）では、松永久次郎司教の司式のもと、新しい病院の祝福式が行われた。

歴史を振り返ると、1889（明治22）年、4人のシスターの来熊以来115年、その間、常にこの地域の必要に応えるあり方で、最初は路上生活者の訪問から始まり、その後無料診療所、有料診療所、聖心（せいしん）病院を経て、1967（昭和42）年に現在の形である87床の病院となった。1993（平成5）年にはホスピスプログラムを導入し、翌年11月にホスピス病棟が承認されるに至った。カトリック病院として一人ひとりと向き合う姿勢は信頼をもって受け入れられ、「みこころ病院」の名で親しまれている。今後ますます地域に根ざした充実した医療を提供したいと願う反面、病院施設の老朽化という難問に直面していた。

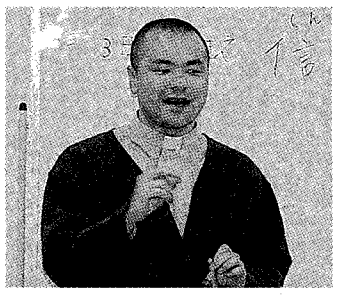
今日、医療環境はますます厳しさを増している。また、修道会内での人材不足という問題もある。その中にあっても、「新しい病院を」と叫び続けさせたのは何だったのか。ホスピス病棟で看護士として働くシスター泉キリ江は「それはホスピスケアを通しての新鮮な気付き、終末の日々に話される患者とその家族の感謝と喜びに満ちたことば（時には忠告）」と語る。「この人々によりよい療養環境を！」との思いは、消えることなくますます強くなっていった。

経済的には、日本財団からの助成金、病院利用者やその家族、その他、多くの人々から支援・協力があった。

これからの病院経営について確かに容易でない道のりではあるが、ホスピスプログラム導入によって得た学びを、新病院にあっては新たに「介護ホスピス」の名のもとに、癌以外の病気の方々の終末期ケアとして活かし、また、在宅支援部門の強化をはかってゆこうとしている。

数少ないカトリック病院の一つとして、新しくなった熊本聖心病院に期待するものは大きい。これまで注がれた神の恵みと、病院をとおしての人々との出会いを支えに、キリストの愛を示す使命に生きるでできない」と答えました。

新司祭の横顔


寺浜亮司神父

おだやかな笑顔が、その場の雰囲気をほっと和ませる。落ち着いた語り口、それでいて力強さを感じさせる。

どうして司祭に？「一人ひとりをあたたかく迎え、毎日正座して神様に祈っている神父様の姿にいつの間にか憧れていました」。

いざ司祭になろうと思っても、なかなか決心がつかなかった。神学校に行くことができたのは、たくさんの司祭、シスターに励まされたから。

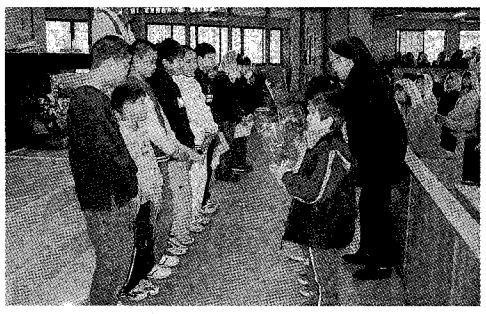
これからどんな司祭に？「自分がこれまで教会で多くの方に支えられてきたように、人の助けになりたい。イエス様はすべての人を大切にしていることを伝えたい」。

多彩な趣味を持つ。水泳、ピアノ（遊び）、筋トレ、インラインスケート、など。

寺浜神父から、召命を考えている方へ＝神学校・修道院は厳しく難しいから自分には無理だと思わないで、神様に自分の本当の気持ちを任せてみては。神様と教会が好きだという気持ちが一番大切だと思いますよ。

教会学校も卒業式

新田原教会

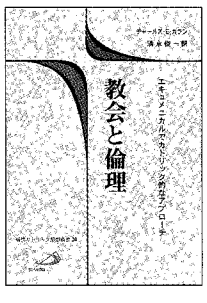

花束を受ける卒業生

新田原教会の教会学校では、三学期・二〇〇三年度の締めくくりとして、3月21日（日）9時の子どものミサで小学6年生9名の「教会学校卒業式ミサ」を行った。

このミサでは、青年たちがフォークミサによる応援と激励の演出で子どもたちの門出を祝った。子どもたちが役割分担してのミサで、主任司祭からのお祝いと励ましの言葉の後「教会学校卒業証書」が授与された。そして、5年生による贈ることばに続いて、卒業生からの感謝のことば、初聖体クラスの子どもから花のプレゼントがあり、全信徒からの拍手をもらい、主任司祭からの祝福を受けて卒業式を終了、派遣された。

BOOK 読みは専科

★教会と倫理
現代カトリック思想叢書20
チャールズ・E・カラン著
清水俊一訳



本書は、1991年から1992年にかけてアメリカの福音ルーテル教会の主催で行われた連続講座に基づいています。倫理・道徳についての教会の権威は、私たちの社会の中で減退しつつあり、多くの人々にとって、教会はもはや倫理や道徳の基準とはなり得ていません。このような状況にあるからこそ、今あえて、教会の使命を誠実に正面から見つめたいのです。

サンパウロ
本体価格　1650円

◇　◇　◇

★だいすきな　かみさま
文　リンダ・バリー
絵　アラン・バリー
日本文　蛯名　啓



「くまちゃんと　いっしょ」シリーズの四冊目、マタイ福音書6章からお祈りが作られています。かわいいくまちゃんが聖書のとうりに毎日過したり、祈ったりするのをたすけてくれるでしょう。

女子パウロ会　発行
税抜価格　620円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

召命は、生きる キリストとの出会いから

カトリック教会のカテキズム

日　　時：2004年4月25日(日) 15：00～17：00
場　　所：カテドラル大名町教会
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」
講　　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参 加 費：1回　５００円
主　　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第三期神学講座
⑤2004年5月16日(日)
「カテキズムとは何か」　大山　悟 神父
♣聖書講座
2004年9月18日(土)まで全15回
(基本的に第1・第3土曜日)
講師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
※受講料や単位取得等は下記に問合せ下さい。
☎ 096-352-1515 (日向) / 090-8664-4039 (平田)
主催：熊本地区信徒使徒職協議会

2004年度　聖書講座（北九州地区）

♠北九州地区聖書講座
2005年の1月16日まで聖書講座開講中です。
・年間テーマ：教会とは何か！
・講　師：森山信三神父（戸畑教会主任）
・会　費：５００円
◆第2回「キリストが創立した教会」
日　時：4月18日(日) 14：00～16：30
場　所：新田原教会
連絡先：☎ 093-293-4981　松尾

2004年度　典礼を学ぶ集い

♠2005年1月30日まで、全4回開催。
①4月18日(日)　四旬節・聖なる過ぎ越しの三日間・復活節
講　師：白浜満神父（サン・スルピス大神学院）
場　所：カテドラル大名町カトリック教会
費　用：1回500円(別途テキスト代200円年分)
問合せ：☎ 0940-33-8122　井上元之

第43回 クルシリヨ開催のお知らせ

日　　時：5月3日(月) 10時 (9時30分集合)
～5日(水) 16時まで
場　　所：福岡黙想の家
☎0940-32-3222　宗像市名残1056
参 加 費：12,000円（宿泊、食事、用品代として当日受け付けます。）
携 行 品：ロザリオ、着替、寝間着、洗面具等（筆記用具などは事務局で準備します。）
対 象 者：カトリックの洗礼を受けている方、**一度参加された方も、もう一度参加できます。申込は同じ要領です。**
指導司祭：下町豊重神父（西新教会主任）
連 絡 先：大谷眞造　☎ FAX 092-661-0120
〒813-0042 福岡市東区舞松原5-23-9

これまで参加された方の感想から

※決して、自分が独りではないことを気づかせてもらいました。たくさんのお恵みを神さまからもらいました。

案内版　会合と催し　4月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　4月

◇2日(金)　水巻教会／十字架の道行
◇3日(土)～4日(日)　受難（枝）の主日黙想会《Fr.鈴木》
◇3日(土)～5日(月)　サン・スルピス新入生黙想会
◇8日(木)～11日(日)　聖なる三日間の典礼と主の復活を祝う黙想《Fr.鈴木／Fr.来住》
◇14日(水)　ミカエル会
◇18日(日)～19日(月)　オブレート会福岡
◇19日(月)～21日(水)　説教セミナー
◇22日(木)　ユリアナ会主催「心の病」相談・学習会
※普段ボランティアやグループ活動に忙しい方々の黙想会などにも最適の場所です。お待ちしています。
［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 32・3385

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

※祈りの集い
年間テーマ：聖人の祈りに学ぶ
・4月22日(木) 10時～15時
テーマ：シエナの聖カタリナ
指　導：Sr.マリアとS.フランコ神父
※黙想会
・自然の中でキリストの復活を祝う
日　時：4月23日(金) 17時から25日(日) 13時まで
問合先：真命山
☎ 0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
※個人、団体で黙想、研修などできます。ご相談ください。

カテドラルでのゆるしの秘跡

日　時：4月17日(土)　10時～12時
場　所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂

4月のこよみ

4日(日)　受難の主日（枝の主日）／世界青年の日
†ペトロ黒川博［2002年八代教会］
5日(月)　†F.ブレンゲ［1946年佐賀教会］
6日(火)　聖火曜日
聖香油ミサ［カテドラル15時］
7日(水)　聖水曜日
†C.シュミッツ［1988年黙想の家］
8日(木)　聖木曜日（主の晩餐）
主の晩餐夕べのミサ［カテドラル19時］
9日(金)　聖金曜日（主の受難）　大斎・小斎
聖地のための献金日
10日(土)　聖土曜日
復活徹夜祭［カテドラル19時］
11日(日)　復活の主日
12日(月)　†パウロ大野正恒［1985年泰星学園］
13日(火)　福岡教区司教座教会献堂記念日
15日(木)　†J.ドレル［1984年直方教会］
18日(日)　神のいつくしみの主日
花岡山殉教祭
司教座教会献堂記念特別献金日
25日(日)　復活節第3主日
小郡教会堅信式
福岡地区カテキズム勉強会［カテドラル15時］
†A.レウトル［1944年新田原教会］
29日(木)　**教区修道女連盟総会［カテドラル10時］**
みどりの日
5月
1日(土)　労働者聖ヨゼフ
2日(日)　復活節第4主日　召命祈願日
ゴチック文字は司教日程

福岡

■生と老い死を見つめる会
［日時］4月18日(日) 14時から16時［内容］2004年度総会［場所］大名町カトリック教会［参加費］700円［問合先］☎092・713・8523大山／607・6992村尾

■ユリアナの会
［日時］4月22日(木) 14時から16時［内容］第3回「こころの病」相談・勉強会［場所］福岡黙想の家2階会議室［講師］小宮豊医師（小宮クリニック院長）［テーマ］神経症性障害［参加費］無料［主催］ユリアナの会（精神障害者支援の会）［問合せ］☎0940・38・8915（11時～16時／月～土）☎0940・32・3222（黙想の家）

■テゼの祈り会
［日時］4月24日(土) 14時から18時半［場所］美野島司牧センター［内容］テゼの歌による黙想と祈りの集い…Brギランを迎えて…［参加費］一般1000円・学生500円［問合せ］☎092・524・6142許斐

■在世フランシスコ会集会
［日時］4月25日(日) 14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■第31回出会いの集い
［日時］5月5日(こどもの日) 10時から17時［場所］カテドラル大名町カトリック教会［インストラクター］吉川信雄氏（光丘教会信徒）［対象］20歳以上の独身男女［会費］2000円（昼食代含む）［問合せ］各教会のカナの会委員へ

■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］5月9日(日) 14時から16時［場所］大名町カトリック教会［講師］沼野尚美氏（六甲病院緩和ケア病棟チャプレン）［内容］緩和ケア病棟での家族との関わり［問合先］☎092・801・5351深堀・小林
［次回］5月13日(木)の予定

■召命祈願ミサ
［次回］5月12日(水) から6月5日(土) 毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分［場所］大名町カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎092・541・6207 FAX 092・552・5022カトリックファミリーセンター

■朝祷会全国大会《福岡》
［日時］5月21日(金) から22日(土)［会場］大名町カトリック教会

■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、男性用冬物衣類・毛布・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者も募っています。［問合先］☎092・431・1419

聖霊による信仰生活刷新セミナー

会　場：大名町カトリック教会
会　費：自由献金
テキスト：新生への門出（６００円）
主　催：福岡地区聖霊による信仰生刷新新セミナー実行委員会
連絡先：☎ 092-522-5139（Br.床島籐吾）
※5月31日まで全7回行います。

セミナー日程表

第1週　4月19日(月) 10時半～
「神の愛」　牧山美好師
第2週　4月26日(月) 10時半～
「救いの御恵」　山元　眞師
第3週　5月3日(月) 10時半
「新しい生命」　青木　悟師
第4週　5月10日(月) 10時半～
「神の賜物の受領」
ドワイヤー師

佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］4月14日(水) 10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］4月28日(水) 10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎0952・72・7536吉田

熊本

■花岡山殉教祭
［日時］4月18日(日) 14時［場所］花岡山＝熊本市春日4丁目［問合先］☎096・352・5610島崎教会

■典礼聖歌研修会
［日時］4月25日(日) 11時から14時半［場所］カトリック帯山教会［指導］深堀純氏（サン・スルピス大神学院講師）［内容］ミサと典礼聖歌［問合せ］☎096・380・5686堺

■第71回熊本結婚準備講座
［日時］5月10日(月) から6月1日(火) 毎月曜日と火曜日全8回19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎096・352・3030 FAX 096・352・1515手取教会　安部

編集後記

今月から二面連載コーナーでは「教会について考える」が始まりました。森山信三神父様（戸畑教会主任）が担当してくださいます。

教皇様が世界青年の日に宛てたメッセージの一部を紹介しました。力強い励ましに満ちています。青年の皆さんにぜひ味わってほしいですね。

まもなく聖週間を迎えます。主の受難と死を黙想し、復活祭を仲間と心を合わせて喜び祝いたいと思います。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般】人間社会の基礎的細胞である家庭
【布教】宣教活動の核心であり魂である聖体
【日本の教会】愛と一致をあらわす家庭

復活徹夜祭に各地で洗礼式

福岡教区神の民に新しい家族が加わった日

――聖香油ミサで司祭叙階金祝を祝う――

枝の主日から主の復活の主日までの8日間（聖週間）は、カトリック教会にとってキリストの受難に心を合わせながら復活の喜びを待つ大切な時。特に主の晩餐の夕べのミサから始まる聖なる過越の三日間は教会典礼の頂点である。聖香油を聖別し司祭職制定を記念するミサでは、金祝を迎えた司祭の祝賀が行われた。また、今年も復活徹夜祭に、福岡教区全体で60人以上が受洗した。



「光を受けなさい！」　…代父母から光をわたされた歓びの受洗者

カテドラルの復活徹夜祭

カテドラルでは、19時から松永久次郎司教司式で復活徹夜祭の典礼が行われた。松永司教は、洗礼志願者に「皆さんは今日希望に満ちた道へ招かれた。たとえ倒れることがあっても忍耐強く歩んでほしい。最後には必ず成功へ、本当の幸せの道へと導かれることを信じてください」と諭した。この日、15人に入信の秘跡（洗礼・聖体）が授けられた。

聖香油ミサ



聖なる油を聖別する松永司教

4月6日（聖火曜日）、カテドラル大名町教会で、約70人の司祭と3人の助祭、信徒・修道者が参加して聖香油ミサが行われた。

松永久次郎司教は説教でヨハネ・パウロ2世教皇が司祭職制定の記念にあたり、全世界の司祭に書き送った手紙を解説した。

「教皇は『キリストの使命に殉じる司祭の数が十分だったことはないが、今日ほど求められている時代はない』と述べ、また『祈りによって教会に召し出しを増やすように』と切に訴えている。さらに教皇は、後に続く若い世代の召命に強い関心を抱くよう促し、召命の具体的な芽生えを教会の侍者のグループに探すことができないか提案している。祭壇の近くで奉仕する彼らを、地区レベルあるいは教区レベルで召命に方向付け、結び付けてゆくことができるよう司祭自身の働きに期待している。司祭自らの手による行いで、またその顔で信仰を表すならば、子どもたちもきっと分かるはず」と語った。

説教の後、全ての司祭は司教の招きに従い、叙階の時に行った約束を更新した。参加者も心を合わせて、司教と司祭のために祈りをささげた。

続いて油の入った容器が3人の助祭によって運ばれた。司教はまず病者の塗油の油を祝福し、ミサの結びに洗礼志願者の油の祝福と聖香油の聖別を行った。

ミサの後、会場を1階講堂に移して叙階金祝の祝賀会が催された。今年、叙階50周年を迎えるのは、田川清美神父（馬渡島教会）、牧山重光神父（門司港教会）、J・マホニー神父（古賀教会）、小池如安神父（高宮教会）の4人。半世紀に及ぶ司祭生活の中で、祈り続けてくれた人々、励まし支えてくれた恩人に対して心から感謝したいと語っていた。



司教のお祝いの言葉に聞き入る田川神父・マホニ神父・小池神父（左から）

世界広報の日



教皇メッセージ
メディアと家庭
―その危うさと豊さ―

時の話題

柚木智子

『人の噂も七十五日』と云い、自然消滅するが、そもそも噂はどこから発生するのだろう。事実を知りたい人が勝手に解釈し、言いふらすことに始まるのではなかろうか。噂自体はあまり罪もないことが多いが、偏見はどうだろう。

ハンセン病やエイズ等への偏見がよくニュースになっている。誤った理解をしていると、人を傷つける凶器にもなる。

先日、娘の授業参観に出かけた。保健の授業で「エイズ」についてだった。その中で先生の言葉が印象的だったので紹介したい。

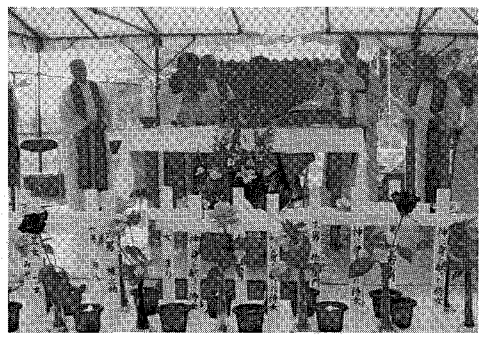
「エイズ感染者は、エイズという不治の病にかかり、病気に対する恐怖の苦しみと20種類もの投薬による治療の苦しみ、そして、偏見による差別の苦しみの三重苦に苦しめられています。私たちの身近に感染者がいたら、どんなことをしますか？」。「かわいそう」と同情することは容易である。でもそれは、かえって患者本人を苦しめることになるかもしれないということを知らなくてはならない。まず、正しい理解をすることが大切である。正しく理解すれば自分の行動にも責任を持つようになる。

もし、自分がエイズ患者だったら、ハンセン病元患者だったらと考えると分かるはずだ。「自分が言われたくないことは、人には絶対言わない」これは、人間社会の基本的なルールである。もちろん、言論の自由は認められている。でも、言った言葉に対して、責任も伴う。人を悪く言う前に、自己を振り返る余裕を持ちたいものである。

（大名町教会信徒）

偏見

列福を祈る花岡山殉教祭に250人



花岡山殉教祭（熊本市）が、4月18日（日）午後2時から、松永久次郎司教と8人の司祭の共同司式のもと殉教広場にて挙行された。今年の天候は雨となったが、地元熊本及び教区各地から、司祭、修道者、信徒約250人が、ここに集った。

式典は、雨に煙るさわやかな新緑の下、とどこうりなく進み、午後4時無事終了した。

毎年捧げられるこの殉教祭は、長年に亘り伝統行事として参加者の数も少しずつ増えているようである。この殉教祭の貴重な恵みを多くの人たちと分ち合い、熱い先祖の信仰を正しく受け継ぐ機会となる事を期待したい。

各委員会担当司祭

教区信徒協＝平田敬師▽典礼＝青木悟師▽教区青年＝中村彰師▽エキュメニズム＝小池如安師▽正義と平和＝中村彰師▽社会福祉＝中村信哉師▽召命育成＝浦川務師▽教区修道女連盟＝平田三好師▽福岡地区婦人会＝松井忠之師▽信仰教育＝櫻井尚明師▽聖書委員会＝森山信三師▽教会学校＝田中重治師▽教区殉教者顕彰推進＝深堀勝人師

お詫びと訂正

教区報4月号の司祭異動の記事の中で三村邦明（久留米教会助任）とありましたのは、三村邦明（久留米教会主任）の間違いでした。お詫びして訂正申し上げます。

みちくさ

私たちにはそれぞれ自分の視野があります。そこからものを考え、日々の生活を送っています。私たちの視野は当然人間の生活を中心にしたものです。しかし、この世界には私たち人間だけではなく、動物、植物、微生物、その他、多くのものが共存しており、それぞれの自分の視野で考え行動しています。なかには本能だけで行動しています。私たちのまわりでは複雑で多くのことが本当にバランスよく保たれています。何も意識していなければ全く気づかないことで、日常に追われ精一杯歩んでいればなおさら周囲の一つひとつのことに目をとめることはできません▼「空の鳥をよく見なさい。あなた方の天の父は鳥を養ってくださる。野の花がどのように育つか、注意してみなさい。野の花でさえ、神は装ってくださる」（マタイ7より）。私たちが知らないところで多くの営みがあり、人類全体でもそれらすべてを把握することはできません▼しかし、私たちが気づかないことをも気に掛けてくださっている方がおられ、今もこの世界のすべての生き物、動物、植物、またわたしたち一人ひとりのことを養い、装ってくださっている。そのことを考えると神様は私たちだけでなくすべてのものを大切にされておられることが分かります。▼新しい生活が始まったこの時期、周りの自然に少し目をとめ、心地よい風を感じてみましょう。案外自分のことがよく見えてくるのではないでしょうか？（P）

世界召命祈願日教皇メッセージ(要約)

働き手を送って下さるよう収穫の主に願いなさい

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」(ルカ10・2)。この聖書のことばをもってメッセージは始まります。教皇は使徒たちに向けられたイエスのこのことばから、よい牧者がつねにご自分の羊たちのために抱いておられる温かい心を知るよう招きます。イエスは、あらゆることを「羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるため」(ヨハネ10・10)に行われます。主は復活の後、福音がいつの時代にも人々に告げ知らされるようにと、ご自分の使命を継続する責任を弟子たちにおゆだねになります。今年の召命祈願日にあたり、教皇はすべての信者が司祭召命のため、奉献生活者の召命のため、宣教の奉仕者の召命のために心をひとつにして祈ることを要請しています。また、実際すでに司祭生活や奉献生活に召されて、より近くからキリストに従っている人たちのため、またキリストが慈しみ深く、教会の大切な職務のために休む暇なく招き続けておられる人たちのために「収穫の主」に祈ることは信者の第一の務めであると諭します。

教皇は世界各地の多くの教会に、召命のために祈る場「高間」が設けられたことを喜び、見守っています。大神学校や修道会・宣教会の養成の場では、この目的で出会いが行われています。また数多くの家庭が、イエスの招きに勇気をもって寛大にこたえるようにと若者たちを励ます小さな祈りの高間となっています。

教皇は、主の教会において、主キリストにのみ仕える召命は神の善良さの計り知れない賜物であり、また執拗に信じて謙遜に願い求めるべき賜物であると述べます。キリスト者は「恵みの時」や「訪れの時」(ルカ19・44参照)を無駄にしないように目覚めて、この賜物につねに自己を開いていくことが求められます。

ここで教皇は、私たちにあらためて召命のための祈りの重要性について思い起こさせます。犠牲や苦しみを伴う祈りは、特別の価値を帯びるものです。苦しみ、しかも「キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たす」(コロサイ1・24)ための苦しみは、最も効果的な執り成しの祈りとなります。世界各地の多くの病める人たちは、聖なる召命を願い求めるために、イエスの十字架に自分自身の痛みを合わせることができます。

教皇は、召命のための祈りが、つねに、いっそう熱心に捧げられることを切に望んでいます。祈り、それは神の秘儀への礼拝であり、神が成就してくださったこと、あるいは、人間の弱さにもかかわらず最後までその実現を放棄なさらなかった「偉大なこと」への感謝です。さらに召命の賜物についての驚きと恩恵を思い巡らす観想的な祈りです。

教皇は「聖体はあらゆる祈りの中心」であり、召命の誕生とその継続にとって、決定的な価値を持っていると述べます。召された者は福音の告知に全面的に献身するための力を、キリストのあがないのいけにえから汲み取ることができるからです。使徒職の広大な畑で働く人が不足しないようにと祈るあらゆるキリスト者共同体は「真の祈りの学びや」になることができます。

教皇は、「神はこれと思う人びとを招かれる」(マルコ3・13参照)と知りつつ、召命のために忍耐強く祈ることは、キリストの役務者が皆心がけねばならないことだと述べます。招かれた人たちのあかしの力、つまり、キリストに自分の生涯をゆだねるようにと他の人々を促すことによって彼らを召命に導くことができる力は、すでに招かれている者の聖性にかかっていると指摘します。これこそ、奉献生活への召命の低下を検証するための手がかりとなるものなのです。召命の減少が、とりわけ宣教国において多くの使徒職の存続を脅かしている現状があります。

さらに教皇は強調しています。「招かれた人、司祭、奉献された人の祈りは、特別の価値を帯びる」と。なぜなら、彼らの祈りはキリストの司祭的祈りに組み入れられるからです。

結びにおいて教皇は、聖霊が、全教会を司祭の召命と奉献生活への召命を請い願うために天の御父に声を上げてくださるよう「祈る民」としてくださるようにと希望を込めて語っています。そして主に選ばれ、招かれた人たちが、忠実で喜びに満ちた福音の証し人であるようにと励ましています。彼らは、そのためにこそ自己の存在を奉献しているのです。

(文責：編集部)

教会について考える(2)

「妖怪の棲む教会」というおもしろいタイトルの本を書かれた著者は、「教会はキョウカイ(境界)の上に建てなければならない」と言います。つまり、教会は、外国人と日本人、男と女、健常者と障害者、金持ちと貧しい人等の区別、「境界線」上に建てるべきだと。

それは、いま挙げたような両者どちらかのためだけの教会であってはならないということでしょう。しかしながら現実の私たちの教会はどうでしょうか。

公会議は教会を次のように定義しました。「キリストにおけるいわば秘跡、すなわち神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり、道具である」と。少し難しい定義ですが、教会は、人が神と出会う場、出会いのしるしであることを確認したわけです。「教会外に救いはない」という言葉に表れているように、それまでの教会は独善的であり、勝利主義的であり、あるいは排他的でした。しかし、この公会議は、教会はその力の源泉を自らに持たず、キリストから受けていること、教会は自己自身を目的としていないことを宣言したのです。阪神大震災を経験した大阪教区は、「新生の明日を求めて」という文書を発表し、「護り」の教会から「交わり」の教会へさらに宣教の共同体への転換を教区挙げて取り組もうとしています。司祭、修道者との協力を重視しながら信徒の使命と役割を全面に出す教会を明記しています。建物として教会が立派に建っていたときは、教会は主にカトリック信者のためのものでした。しかし、多くの建物が被害を受けたときにはじめて聖堂が助けを求めるすべての人の避難所になり、あるいは地域に開かれたものになっていった事実は象徴的なことです。

教会は誰のため、そして何のための教会でしょうか。それはもちろんまず第一に神から呼ばれ、その声に従った人々の集いです。しかし、これら人々のためだけの教会ではありません。まして聖職者中心の教会でもありません。あくまで、現代社会の中で、傷つき悩み苦しむすべての人々のためのものです。現代世界憲章において「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ特に貧しい人々とすべて苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみと苦しみでもある」(1番)と言われているとおりです。であれば教会に属している私たちは、教会に属していない人々の叫びに耳を傾け、ともに歩もうとするか、そこに私たちの存在意義があることになります。私たちが、主日ごとにミサを捧げ、ともに祈るのは、私たち自身の信仰のためであると同時に、その信仰をいかに教会外の人々と分かち合おうとする姿勢を持っているかということだと思います。

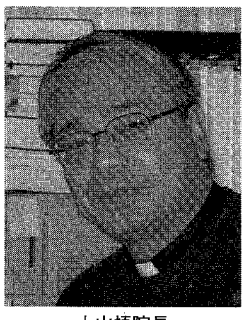
森山信三神父

(戸畑教会主任)

司祭の生きる姿が司祭をつくる

大神学院長に聞く

今年の教区テーマは「召命は生きるキリストとの出会いから」。現在、福岡教区には1人の小神学生、3人の大神学生がいる。召命祈願日にあたり特集をお届けする。



大山悟院長

現代の日本社会にみられるのは物質主義・快楽主義・自由主義です。そこでは神と出会うことが難しいといえます。つまり、有限的次元から超えることが難しいんですね。人間の(外側へ向けての)要求は次々と出てくる。けれどもいつまでたっても内奥に至ることはできないのです。

そこで、神学校では「自分のありのままをみつめること」を大切にしています。今日、司祭の養成をめぐる状況も大きく変化しています。司祭養成を囲いの中で行うことはもはやできなくなってきています。いま、さらす養成への転換をはかっています。その根本には、教会共同体の活性化を第一に考えたいとの強い思いがあります。

己を知ることは、宗教の持つ大きな意味を体験することにほかなりません。人間の生きる諸次元の中で霊性的次元が抜け落ちている感が否めません。霊性的次元以外の次元に終始すると、人間の有限的な世界から抜け出すことが困難となり、ひいては無神論に陥ってしまいます。これだけでは人間は壊れていく。競争原理によって生きてしまうからです。

人間の持つ宗教性、それは神と関わろうとする次元に生きることで輝きを増します。

現在、神学校では霊性の次元を大切にしようとしています。神に聴く祈りを実践しようと呼びかけています。見えない存在との関わりの中で、自分を見つめる者になろうとつとめています。

司祭はminister(奉仕者)です。司祭は神の創造の業に参与します。奉仕者の大切な使命は、人の持つ力を引き出して成長させていくことではないかと思います。一人ひとりの存在、召命を大切にし、それは存在を肯定し合う生き方です。

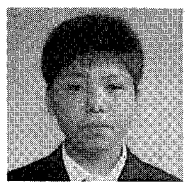
また、司祭は分裂を癒す人です。みことばによる癒し、他者を高め合うことによる癒し、そのために、神との関わりが基礎となります。

教会共同体の善きリーダー、教会共同体をつくることができる司祭になってほしいと思います。また宗教的価値観を保てる司祭をめざしてほしいと思います。

司祭の生きる姿が司祭をつくる、これは真実です。

教会の中で、子どもたちを活かすことにもっと積極的に取り組んでみてはいかがでしょうか。子どもたちの存在を認め、受け入れることで、親・お年寄りも生き生きとなることにつながるのではないでしょうか。

長崎カトリック神学院で学ぶ高田元気君



高田元気君

福岡教区の皆様、いかがお過ごしでしょうか。僕は、長崎カトリック神学院中学三年、高田元気といいます。僕の出身教会は、皆さんと同じ福岡教区の高宮教会です。僕は、中学生になる時に、ここ長崎カトリック神学院に入学しました。そして、長崎南山中学校に入学して、期待と不安を胸に神学校生活がはじまりました。それから2年たった今では、中学生18人、高校生14人と共に、祈りをはじめ、スポーツや勉強などを頑張っています。他にも、書道や華道、茶道などの日本の文化を学んでいます。それと、もちろん神父様になるための勉強もしています。神学校生活は楽しいことだけじゃなく、苦しいこと、いやなこともありますが、これからも神父様になるために頑張りたいと思いますので、応援よろしくお願いします。

今年の11月に神学校体験日があるので小学5、6年生の人は、ぜひ来てみてください。

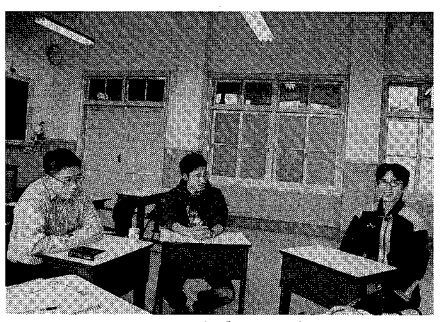
むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室(洗面トイレ付)／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ(赤)(白)
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

召命特集　福岡教区の3人の大神学生にインタビュー
将来、司祭になりたい！


インタビューを受ける3人

出席者：井手公平さん（神学科2年）、十時伸治さん（哲学科2年）、大塚了平さん（哲学科1年）

☆今一番うれしいことは何でしょう。

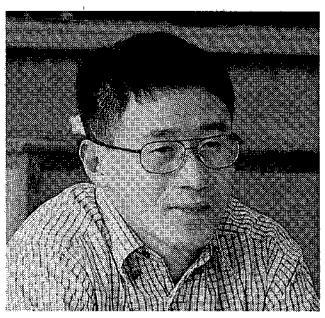
井手　はっきりとした目的があることですね。

十時　出身教会の侍者をしている子どもが「将来司祭になりたい！」って言ってくれたことです。

☆どうして司祭を目指そうと思ったのですか。

十時　小学生の時、司祭叙階式に参加したことがきっかけでした。こういう生き方があるんだということを意識したんです。また、小学3年生の頃から侍者をしながら神父様の姿をすぐ近くで見ていたことも影響していると思います。

井手　劇的な出会いといったものはありませんでしたが、神様から「こっちの道だよ！」と引き寄せられてきたような気がします。「司祭になったらいいよ」と呼ばれているような。確かに、司祭職へのあこがれは持ち続けていました。直接には、神父様やシスターから声をかけてもらったことが大きな励みとなりました。


井手公平さん

☆神学校生活はどうですか。

十時　初めての共同生活で、とまどうことも多かったですね。今年から、日曜日に司牧実習で小教区に行くようになりました。いろいろな人との出会いがあって充実しています。

井手　実習先の教会では主に典礼の奉仕をしています。教会学校の子どもたちとの関わりを大切にしていきたいですね。


十時伸治さん

☆皆さんにとって司祭とはどんな存在ですか。

井手　一人一人ちがっていて、特徴、タレントを持っていますよね。交わりの人というイメージがあります。交わりと協力のモデルでもあります。愛の共同体を作り、愛を証する存在です。また司祭が兄弟的交わりに生きる（＝司祭団）という時に、司祭どうし手を取り合って、たとえ衝突があっても、ゆるしあっていく姿がそこにあると思います。

十時　キリストを映し出す存在です。ミサをささげている司祭はまさにそうだと思います。また聖書にあるキリストの姿を追い求めていく者だと思います。

☆こんな司祭になりたい、という今の希望を聞かせてください。

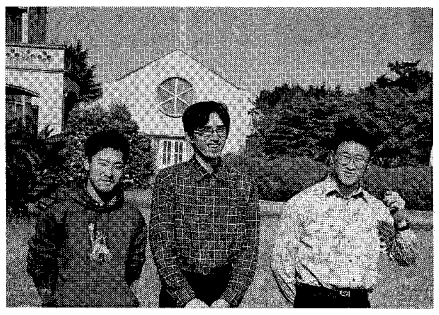
十時　人々を受け入れる司祭になりたいですね。

井手　信者、非信者にかかわらず、対話のできる司祭をめざしたいですね。

☆いま、不安に感じていることについて語っていただけますか。

井手　司祭として、自分がどれだけ貢献できるだろうかということです。不安と向き合いながら人間として成長していきたい。そして卒業をめざします！

十時　自分もやはり同じような不安を持っています。


福岡教区の3神学生…大神学校の庭で

☆これから召命の道を歩み出そうとする人たちへメッセージをおくってください。

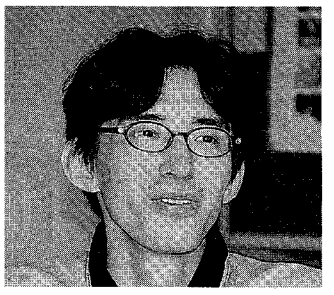
二人＝神様はいつでも、君のことを見ています。そして、君のことを呼んでいます。豊かな実りがきっとあります。

本当の幸せを体験できる生き方だと思います。何事も忍耐は大切…一緒に歩みましょう…また、私たちにも気軽に声をかけてください。

（2004年4月16日福岡サン・スルピス大神学院で）

（聞き手：寺浜亮司、牧山美好…編集部）

新神学生の横顔


大塚了平さん

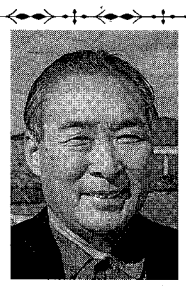
大学在学中の99年、隣国の韓国に語学留学。語学学校の先生と下宿先の夫婦がカトリックの信仰を持つ人たちだった。週に1回、ソウルの明洞教会で行われる3時間の入門講座に参加するようになり、半年後、洗礼を受けた。

熊本に戻ってからは武蔵ケ丘教会に通う。人々との出会い、関わりを通して教会の成員になったという実感を強くした。昨夏は熊本地区青年のキャラバンにも参加した。

ひとりの宣教会司祭の「大塚さん、神父にならないか？」という言葉が司祭への召命を考えるきっかけとなった。神学校に入学した今、教区の人々の司祭を待つこころ、熱い祈りをより強く感じる。

出身教会　熊本県菊池郡合志町出身。
武蔵ケ丘教会
1976年8月11日生まれ。
95年3月熊本高校卒業。
97年富山大学人文学入学。
99年10月韓国光来大学付属韓国語学校で韓国語を勉強。2000年10月ソウル明洞大聖堂で受洗後帰国。
02年富山大学卒業。
04年福岡サン・スルピス大神学院哲学科1年に入学。

木かげ


田川清美神父

一九四一（昭和十六）年四月福岡小神学校に入学しました。しかし、同年十二月八日太平洋戦争が勃発し、各地で激戦が繰り返されました。そのため多くの若者が戦線に送られました。学生達は学徒動員によって、ある者は兵役に、ある者は各地の工場で働くようになりました。

私は工場での働につづいて、昭和二十年四月兵役に従事しましたが、昭和二十年八月十五日終戦を迎え、九月に復員して帰りました。

みんなの力に支えられて

その後、主任神父様をはじめ両親、周囲の人々に励まされて、一九四六（昭和二十一）年四月に大神学校に入学しました。

入学当初は戦後の混乱と物資の不足のため、大変苦労しましたが、神父様方の温かいご配慮と、ご指導のもとに司祭職に必要な課程を終え、一九五四（昭和二十九）年三月十九日、浄水通教会において、深堀仙右衛門司教様より司祭に叙階されました。

司祭叙階後は今村教会、久留米教会、大楠教会、呼子教会を経て馬渡島教会で司牧・宣教に当っています。

過ぎし五十年を振り返ってみますと、今日まで司祭職を続けてこられたのも、ひとえに神様のお恵みと導き、そして皆様のお祈りとご厚意に感謝申し上げるとともに、「あなたがたがわたしを選んだのではない　わたしがあなたがたを選んだ（ヨハネ15・16）という、みことばの真理をしみじみと感じているきょうこのごろです。

これから先も神様のみ旨に従って力の及ぶ限り、神様のため、教会のため、信者のため頑張っていきたいと思っていますので、今後ともいっそうのお祈りとご鞭撻をお願い申し上げます。

馬渡島教会主任

寺浜亮司祭叙階式で侍者

寺浜神父様の叙階式、昨年の助祭叙階式で侍者をさせてもらったので、今年もひそかに侍者をさせてもらえるかも、と期待していたが、「今回は神学生が侍者するから一番前に座っといてもらえないか」と言われた。しかし、当日聖堂で待っていると急きょ友達と二人で侍者を頼まれた。とてもうれしかった。

ミサの開始を告げる鐘の音、聖歌の大合唱、厳粛な雰囲気でミサが始まった。福音朗読後、皆が諸聖人の連願を唱えている時、祭壇にひれ伏す神父様の姿は神様の御前では小さき者のようだった。司教様に続き神父様全員が新司祭の頭に手を置き、その後『主の平和』と互いに挨拶を交わす姿は印象的で聖堂内が平和で満たされた一瞬だった。真っ白な祭服でカリスを手にした姿は少し遠くの人になった様に思えた。神父様が両親へ最初の祝福を与えた時はジーンときた。退堂していく時、今面の笑みを見て同じ時を共有できてとてもうれしかった。

神父様、その癒し系ボイスと優しい笑顔で多くの方々を温かく迎え入れてあげてください。そして、これからも僕たちのためにお祈りください。

（久留米教会青年・豊福大志）

BOOK 読みは専科

★しんげん
日本の社会とカトリック教会に向けて
森　一弘　著



「しんげん」という言葉には、広がりのある豊かな視点がある。行き先が見えない日本の社会と、なかなか刷新の進まない旧態依然とした日本のカトリック教会の現実の中で、著者は、そのときどきに起るいろいろな事件や問題を取り上げながら、人間として生きる道を探り、ともに考えようとする。

女子パウロ会　発行
税込価格　1365円

◇　◇　◇

★エゲリア巡礼記
太田　強正　訳



本書が執筆された西暦400年頃、キリスト教世界では聖地巡礼が非常に高まっていました。こうした背景の中で書かれた本巡礼記は、当時の聖地の状況を知るうえで、また、エルサレムにおける典礼の様子を知るうえで、かけがえのない資料となります。

女子パウロ会　発行
税抜価格　620円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

召命は、生きる キリストとの出会いから

カトリック教会のカテキズム

日　　時：2004年5月23日（日）15：00～17：00
場　　所：カテドラル大名町教会
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」
講　　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参 加 費：1回　500円
主　　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第三期神学講座
⑤2004年5月16日（日）
「カテキズムとは何か」　大山　悟神父
♣聖書講座
2004年9月18日（土）まで全15回
（基本的に第1・第3土曜日）
講師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
※受講料や単位取得等は下記に問合せ下さい。
☎096-352-1515（日向）/090-8664-4039（平田）
主催：熊本地区信徒使徒職協議会

2004年度　聖書講座（北九州地区）

♠北九州地区聖書講座
2005年の1月16日まで聖書講座開講中です。
・年間テーマ：教会とは何か！
・講師：森山信三神父（戸畑教会主任）
・会費：500円
◆第3回「草創期の教会1」
日　時：6月20日（日）14：00～16：30
場　所：戸畑教会
連絡先：☎093-293-4981　松尾

FYCC2 開催決定!

日程／7月30日31日8月1日
対象／中学1年～高校3年
場所／サンスルピス大神学院
問合／fycc2@goodshepherds.net

聖母月　案内版　会合と催し　5月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　5月

◇3日（月）～5日（水）　クルシリヨ
◇8日（土）～9日（日）　祈りの学校／詩編の祈り【Fr.来住】
◇9日（木）～10日（月）　オブレート会・福岡
◇12日（水）　ミカエル会
◇14日（金）　むなかた和善の聖書
◇15日（土）～16日（日）　山口・島根信徒養成研修会
◇20日（木）～21日（金）　日本カトリック児童施設・九州ブロック職員研修会
◇22日（土）～23日（日）　聖母カテキスタ会黙想
ユリアナ会主催「心の病」相談・学習会
◇29日（土）～30日（日）　福岡黙想の家後援会・黙想会
◇30日（日）　後援会総会（13：00）
◇31日（月）～6／2（水）　御受難修道会・共同体の日
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

※祈りの集い
年間テーマ：聖人の祈りに学ぶ
・5月13日（木）10時～15時
テーマ：聖アルフォンソ
指　導：Sr.マリアと S.フランコ神父

問合先：真命山
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

※個人、団体で黙想、研修なども できます。ご相談ください。

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：5月1日（土）・15日（土）　10時～12時
場所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂

5月のこよみ

1日（土）　労働者聖ヨゼフ
2日（日）　復活節第4主日　召命祈願日
3日（月）　クルシリヨ［黙想の家～5日］
5日（水）　†F.ルマリエ［1945年八代教会］
9日（日）　復活節第5主日
笹丘教会・老司教会バザー
10日（月）　†F.チリ司教［1930年初代福岡教区長］
13日（木）　召命祈願ミサ［大神学院19時15分］
ファティマの聖母
15日（土）　†ヨハネ棚町正刀［1968年茶山教会］
16日（日）　復活節第6主日　世界広報の日（献金日）
23日（日）　主の昇天
福岡地区カテキズム［カテドラル15時］
30日（日）　聖霊降臨の主日
合同堅信式［カテドラル14時］
31日（月）　聖母の訪問
6月
1日（火）　ユスチノ殉教者
2日（水）　助祭・司祭候補者認定式［大神学院16時］
ゴチック文字は司教日程

合同堅信式に参加しましょう

日時：2004年5月30日（日）14時
場所：カテドラル大名町カトリック教会
注意：駐車場が不足に付、公共交通機関で。

福岡

■第31回出会いの集い
［日時］5月5日（こどもの日）10時から17時［場所］カテドラル大名町カトリック教会［インストラクター］吉川信雄氏（光丘教会信徒）［対象］20歳以上の独身男女［会費］2000円（昼食代含む）［問合せ］各教会のカナの会委員へ

■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］5月9日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［講師］沼野尚美氏（六甲病院緩和ケア病棟チャプレン）［内容］緩和ケア病棟での家族との関わり［問合先］☎092・801・5351深堀・小林

■スピリチュアルケア研修会
［日時］5月9日（日）9時30分～18時30分［講師］W・キッペス師［場所］サンパウロ福岡センター［研修費］4000円［問合先］☎0942・31・4836

バザー
5月9日（日）11時
笹丘教会・老司教会
お待ちしています。

■第93回福岡結婚準備講座
［次回］5月12日（水）から6月5日（土）毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分［場所］大名町カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎092・541・6207　FAX 092・552・5022カトリック・ファミリーセンター

■召命祈願ミサ
［次回］5月13日（木）の予定［場所］サン・スルピス大神学院聖堂［司式］寺浜亮司神父［主催］福岡召命を共に祈る会・大神学校

■朝祷会全国大会《福岡》
［日時］5月21日（金）から22日（土）［会場］大名町カトリック教会［大会標語］平和・聖霊による一致［特別講演］片岡千鶴子（長崎純心大学学長）［記念講演］寺園喜基先生（西南学院院長）

■第37回福岡典礼聖歌研修会
［日時］5月16日（日）13時から［テーマ］5月・6月の大祝日の聖歌［場所］光丘カトリック教会［講師］深堀純氏［参加費］自由献金［問合先］☎092・541・3730松山敦子

■在世フランシスコ会集会
［日時］5月23日（日）14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■ユリアナの会
［日時］5月27日（木）14時から16時［内容］小宮豊精神科医による学習相談会第4回「精神病性障害」［場所］福岡黙想の家2階会議室［参加費］無料［主催］ユリアナの会（精神障害者支援の会）［問合先］☎0940・38・8915（11時～16時／月～土）

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］5月27日（木）14時から14時半［場所］聖クララ寮聖堂［内容］処女マリアの祝日のミサ曲［講師］坂田孝子氏［問合せ］☎096・386・0686堺敬子

■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、男性用夏物衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者も募っています。［問合先］☎092・431・1419

北九州

■小倉カトリック祈りの集い
［日時］5月28日（金）13時半～15時［指導］ガブリエル神父［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」をあじわう・賛美と感謝の祈り［連絡先］☎070・5538・6186

佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］5月12日（水）10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］5月26日（水）10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎0952・72・7536吉田

熊本

■第71回熊本結婚準備講座
［日時］5月10日（月）から6月1日（火）毎月曜日と火曜日全8回19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎096・352・3030　FAX 096・352・1515手取教会　安部

編集後記

新緑まぶしい季節。教会は聖母月を迎えました。主の復活の神秘を聖母マリアとともに心に深く刻み、喜びを抱いて歩んでいきましょう。

聖霊による信仰生活刷新セミナー

会　　場：大名町カトリック教会
会　　費：自由献金
テキスト：新生への門出（600円）
主　　催：福岡地区聖霊による信仰生活刷新セミナー実行委員会
連 絡 先：☎092-522-5139（Br.床島藤吾）

第3週　5月3日（月）10時半
「新しい生命」　青木　悟師
第4週　5月10日（月）10時半～
「神の賜物の受領」　ドワイヤー師
第5週　5月17日（月）10時半～
「みたし」　マッケイ師
第6週　5月24日（月）10時半
「聖霊のうちでの成長」　小池　如安師
第7週　5月31日（月）10時15分～
「賛美とあかし」　ガブリエル師
「派遣ミサ」　松永司教と司祭団

聖母ご出現の地ファチマ巡礼のお誘い

2004年7月14日（水）～21日（水）の8日間
費　　用：298、000円
旅行条件：最少催行人員25名様／添乗員同行
利用航空会社：全日空／コース：成田→リスボン（1泊）→ファチマ（4泊）→リスボン（1泊）→成田
同行司祭：S.ライル神父
問合せ先：☎092-472-2243 阪急交通社博多支店

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

聖体奉仕者養成要項決まる

ご聖体に対する信仰を深めるとき

聖体奉仕者養成趣意書

この度、福岡司教区においては、諸般の事情を考慮して、ミサのときに司祭と共に聖体を授け、病の床に伏す方々に聖体を運んで授けることを任務とする聖体奉仕者を養成することにいたしました。すでにある地区や修道院では独自に養成が為されたり、あるいは主任司祭の判断によって奉仕者が臨時に任命されたりしてきましたが、そのあり方に違いがあり、ここで教区として一致した見解の下に聖体奉仕者の養成を行うほうがよいと考えました。

あくまでも、聖体授与の通常の奉仕者は司祭および助祭です。しかし、通常の奉仕者が不足している場合、また司牧上、健康上、高齢の理由で執行できない場合、更には聖体拝領者の数が多くて、時間がかかりすぎる恐れのある場合などには、教区裁治権者及び委任を受けた司祭は、規定に従って、養成されたキリスト信者を、臨時の聖体奉仕者に任命することができます。

信徒、修道者を聖体奉仕者として養成することは、洗礼と堅信に基づく「共通祭司職」、「旅する神の民」という観点からも理にかなっていると思います。また、今直ぐ必要性を感じないところでも、不測の事態に備え、あるいは信徒の聖体にたいする信仰と敬心とを鼓舞するためにも、聖体奉仕者の養成は大いに有益だと思います。

聖体奉仕者は、聖体の中にキリストが現存されることを堅く信じているものとして、聖体についての教理を学び、その信仰に相応しい、敬虔な態度を持ち続けなければならないことは申すまでもありません。聖体奉仕者は司祭に次ぐ聖なる務めを行う者であり、また、聖体拝領の目的が聖体の心に従って生きることにあるから、その生活は清浄潔白で、愛徳に熱心であるように努める必要があります。そのうえ、典礼規則を守り、不適切な行為や中途半端な行為を慎むべきです。

養成を受けられるのは、福岡司教区内在住の信徒、修道者で、主任司祭又は修道院の責任者の推薦を受けた方々です。養成の実務に関しては、司祭、修道者、信徒からなる「養成実行委員会」が、教区で作成した「聖体奉仕者養成要綱」に基づいて養成いたします。養成講座は今年の9月から2ヶ月に1回、約1年をかけて行われます。「キリストの教会と信徒の役割」、「キリスト者の生活の源泉であるミサと聖体」、「聖体奉仕者の心得と実践」などを内容としています。近々、実行委員会から養成講座のプログラム、提出書類などについてのお知らせとお願いがあると思いますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

聖体奉仕者養成講座にどなたに出席していただくかは、各位、それぞれの事情を考え、関係者などの意見、気持ちを聞いて決めていただきたいと思います。実践に当たっては拡大解釈をすることなく、福岡司教区の方針にそってすることを望んでいます。この点については、教区司祭の研修会でもとりあげる予定です。

尚、福岡司教区においては、聖体奉仕者の養成ははじめてであり、信徒、修道者の中には戸惑いを感じる方もいるかも知れません。各位は福岡司教区による養成の意図、教会共同体、「共通祭司職」などについて説明をし、支障がないように取り計らってくださるように重ねてお願い致します。

聖体奉仕者養成要綱

I　任務

ミサやその他の典礼祭儀中の聖体授与、および、病者への聖体授与の奉仕を行う。

II　任期

(1) 任期は3年とし、必要に応じて任期の更新を行うことができる。

(2) 任期の更新

a　本人の意思表示に従い主任司祭の判断と推薦をもとにして、教区長が更新する。

b　更新を希望するものは、養成実行委員会が主催する黙想会、または、練成会に参加する。

III　奉仕の範囲

(1) 所属する小教区で、主任司祭の要請と指導のもとに、上記の奉仕を行う。

(2) 小教区を移動した場合

a　福岡教区内であれば、移動先の小教区の主任司祭の判断のもとに、任期の期間は奉仕を続けることができる。

b　福岡教区外であれば、その教区の規定に従う。

IV　心得

(1) 聖体奉仕者は主任司祭の要請と指導のもとに、委ねられ他奉仕を行う。

(2) 聖体奉仕者は主日のミサを大切にし、聖体に対する信仰を深めるようにする。

(3) 聖体奉仕者への任命は、奉仕に対する報酬をその人に保障するものではない。

a　病者への聖体授与のためにかかる費用は、それぞれの小教区が考慮する。

b　病者からの個人的な謝礼は受け取らない。

c　小教区への献金があれば、小教区の会計に入れる。

(4) 病者への聖体授与の奉仕は、病者からの個人的な依頼によってではなく、主任司祭の指示に従って行う。

(5) 聖体奉仕者の任命を受けた者は、養成実行委員会が主催する黙想会、あるいは、練成会に参加する。

聖体奉仕者養成講座

I　養成実行委員会

(1) 司祭、修道者、信徒からなる養成実行委員会を構成する。

(2) 養成実行委員会の事務局を教区本部事務局に置く。

II　養成講座の内容

(1コマ　3時間)

(1) キリストの教会と信徒の役割

キリストとの交わり（聖書、祈り、七つの秘跡、愛の実践）

キリスト者の生活の源泉

I（ミサ）

キリスト者の生活の源泉

II（聖体）

キリストの体への奉仕（病者、高齢者への対応と配慮）

(2) 聖体奉仕者の心得と実践

(3) 聖体奉仕者の任命式

(4) 尚、養成講座の内容は、養成実行委員会の判断に基づいて実施されるものとする。

(5) 聖体奉仕者の任命を受けた者は、養成実行委員会が主催する黙想会、あるいは、練成会に参加する。

(6) 聖体奉仕者の任命式

(7) 尚、養成講座の内容は、養成実行委員会の判断に基づいて実施されるものとする。

III　期間と場所

(1) 養成機関は1年をめどとし、2ヶ月に1回の割合で行う。

(2) 養成コースの開始時期と場所は、養成実行委員会が決定する。

(3) 任命式は、教区長との判断の上で、養成実行委員会が決定する。

IV　養成コースの講師

(1) 養成コースの講師の選任は、養成実行委員会に委ねる。

V　受講者の資格と手続き

(1) 入信の秘跡を受けて3年を経過している福岡教区所属の満22歳以上の信徒、または、修道者で、主任司祭、あるいは、修道会の責任者の推薦を受けている者とする。

(2)

a　入信の秘跡を受けた証明書

b　所属している小教区の主任司祭、あるいは、修道会の責任者の推薦状

c　要請講座に出席する者の申請書

VI　養成コースの費用

(1) 養成コースの費用は、実行委員会が決定する。

(2) 受講者の費用は、それぞれの小教区、修道会で検討する。

キリストの聖体



わたしの記念としてこのように行いなさい。（Ⅰコリント11･24）

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般】神の愛の証人であるキリスト者

【布教】アジア諸国における宗教的自由に対する尊重

【日本の教会】聖体に現存するキリスト

時の話題

聖心のウロコ

Sr.高取ヨシ

先日、ある病院に友人を見舞いに行き、めざましい回復に向かっている友人と、現代医学について感動し話し合っている時、近くで黙って聞いていた若い看護士さんが話しかけて来られた。「現代医学は昔と比べて考えられないほどの進歩がみられるがが、それを受け入れ、回復に向かっているあなたの尊い身体そのものがもっとすばらしいですよね」。突然のこのことばに、私の目からウロコが滑り落ち、目が醒めた。人間の幸福だけをお望みになる神様は、何があろうとも、ご自分に似せて創造された私たちの身体に、すばらしい生きる力を宿してくださっていることに気付かされた。私たちが回復を望んでいる以上に、神様こそが、まず一番先に、もっと元気になるようにと回復をお望みになっていらっしゃる。なんとありがたいことだろうか。

その日以来、毎朝ミサの聖体拝領のたびに、「わたしはここにいるよ。わたしも共に望んでいるよ」との主のみ声が聞こえる。私も「主よ信じます。感謝します。私の心も身体もどうぞお使いください」と心をこめて祈るようになった。

今まで神様は私の心の中で急に留守になることはなかった。私自身が、大切な神様の存在とその偉大なみ手の業をうっかり忘れ、私の心の目に大きなウロコがペッタリ貼りついていたと反省した。私に強い衝撃を与えてくださった看護士さん。これからは、私の生命の恩人として、その方のために祈り続けていきたい。（聖心のウルスラ宣教女修道会）

みちくさ

福岡教区で50余年にわたり、司祭養成のために尽力した宣教師が、住み慣れた神学院を離れ、故国カナダへと旅立つ。聖スルピス会司祭ゼノン・イエール神父。師と出会い、お世話になった者の一人として、心からの感謝を捧げたい▼師が会計を担当しておられた頃のこと。部屋を訪ねると、「ハーイ」と大きな声が返ってきた。机の上に山と積まれた本や書類の向こうから、いつもにっこりほほえんで迎えてくれたのを思い出す。築50年を経て、神学院は施設設備の整備、補修・改築を必要とする時期にさしかかっていた。重責を担い、多忙をきわめる日々。充血した目をこすりこすり、それでも情熱をもってすべてに向かおうとしていた。未来の神学院構想を語る時の師はいつしか生き生きとした表情に変わっていた▼師が日本における聖書学の発展のために果たしてこられた働きについては、これからも多くの人が認め、感謝することだろう。『聖書思想事典』（三省堂）の翻訳ならびに出版は、師にとって忘れ得ぬ出来事にちがいない。本書のあとがきで、「聖書の思想は日本の伝統文化と接触するとき、どのように開花すべきかという難題が私たちの前に横たわっている」と師は述べている。東洋人である日本人が聖書に親しむなら、もっと深い理解が得られるに違いないとの思いを込めて、本書は私たちの手に託されている▼慈しみに満ちた父の心で包んでくれた師、なつかしい故国で健やかに過ごされることを心から祈りたい。

2003年度福岡教区現勢（2003年1月1日～12月31日）

小教区名	在籍信徒数 男	在籍信徒数 女	在籍信徒数 合計	居所不明	死亡	転入 男	転入 女	転出 男	転出 女	洗礼 幼児	洗礼 成人	洗礼 合計	求道者	堅信	ミサ参加者 主日	ミサ参加者 復活	ミサ参加者 降誕祭
糸島	177	203	380	45	1	11	18	3	3	0	0	0	3	0	110	180	200
今村	444	554	998	0	16	3	2	0	2	7	5	12	3	1	700	800	900
大楠	145	200	345	16	0	1	1	4	3	3	3	6	21	4	213	325	840
大牟田	101	190	291	0	2	1	3	0	1	1	0	1	4	0	100	130	200
小郡	186	203	389	48	4	3	4	4	3	2	0	2	1	0	90	180	250
久留米	473	633	1,106	311	11	9	17	10	10	17	19	36	5	0	600	750	900
古賀	408	501	909	13	7	9	14	8	2	4	2	6	12	0	248	555	503
笹丘	349	493	842	17	6	5	7	6	8	2	4	6	3	1	230	250	450
浄水通	189	293	482	73	5	4	2	2	3	1	3	4	138	0	140	260	450
大名町	714	1,064	1,778	203	17	39	41	71	109	21	28	49	55	62	505	805	2,505
高宮	143	238	381	21	5	6	10	8	13	1	3	4	12	0	150	250	350
茶山	234	272	506	51	4	3	2	1	3	1	0	1	1	11	222	325	267
西新	551	684	1,235	19	8	16	23	21	32	5	10	15	2	26	400	450	650
箱崎	107	179	286	9	1	7	12	8	14	9	6	15	4	6	90	150	220
光丘	571	668	1,239	5	1	21	27	5	8	7	0	7	4	10	230	460	510
二日市	287	388	675	9	6	8	6	7	7	1	5	6	13	4	200	350	550
本郷	323	368	691	11	4	6	5	1	0	1	0	1	2	0	350	550	650
吉塚	343	445	788	0	6	13	10	7	8	3	2	5	5	13	150	313	317
老司	267	306	573	26	0	5	3	6	7	5	0	5	1	9	130	300	1,080
福岡計	6,012	7,882	13,894	877	104	170	207	172	236	91	90	181	289	147	4,858	7,383	11,792
飯塚	112	150	262	0	1	0	0	0	0	4	6	10	1	0	70	170	190
黒崎	482	659	1,141	0	9	3	7	2	7	5	0	5	17	0	350	500	800
小倉	881	1,367	2,248	418	15	8	13	15	22	8	19	27	15	1	500	800	1,000
新田原	867	967	1,834	0	10	4	5	5	5	2	0	2	6	0	800	1,400	1,500
田川	62	94	156	26	0	0	1	0	0	1	1	2	2	1	30	60	80
天神町	120	173	293	31	4	1	2	0	2	0	0	0	2	0	75	125	215
戸畑	296	428	724	17	8	0	2	3	5	5	10	15	13	9	210	335	765
直方	97	103	200	6	2	1	3	0	0	2	0	2	5	0	45	100	120
水巻	350	442	792	0	3	4	7	2	1	3	5	8	3	3	150	350	400
門司	208	288	496	30	2	2	2	0	2	1	1	2	0	8	150	230	280
湯川	564	644	1,208	54	14	5	5	6	17	2	8	10	3	26	300	500	450
行橋	369	402	771	21	2	8	8	2	4	6	3	9	3	21	330	430	660
若松	106	155	261	0	3	0	0	0	0	3	2	5	0	0	80	150	200
北九州計	4,514	5,872	10,386	603	73	36	55	35	65	42	55	97	70	69	3,090	5,150	6,660
福岡合計	10,526	13,754	24,280	1,480	177	206	262	207	301	133	145	278	359	216	7,948	12,533	18,452
伊万里	117	152	269	15	1	1	1	0	1	1	0	1	12	0	82	219	294
鹿島	22	31	53	0	1	0	0	1	0	1	0	1	4	0	15	30	60
唐津	221	270	491	29	1	2	1	5	10	4	2	6	3	0	100	200	280
佐賀	300	428	728	112	15	1	3	6	11	4	12	16	4	16	144	316	310
多久	58	63	121	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	25	43	68
武雄	33	49	82	0	1	0	0	1	1	0	1	1	1	1	27	80	105
鳥栖	165	236	401	3	5	5	6	6	3	4	2	6	1	1	100	260	310
馬渡島	173	172	345	0	5	0	1	3	5	2	0	2	0	18	350	380	420
呼子	150	163	313	0	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	120	250	250
佐賀合計	1,239	1,564	2,803	159	33	10	14	22	31	16	17	33	25	36	963	1,778	2,097
荒尾	50	87	137	0	4	1	0	1	3	1	3	4	0	2	40	0	50
大江	128	190	318	1	8	0	0	0	1	5	1	6	3	0	150	270	300
帯山	130	183	313	7	4	8	4	5	3	4	3	7	0	0	80	110	140
菊池	23	56	79	33	0	0	0	0	0	1	1	2	4	0	30	50	50
健軍	192	261	453	0	5	3	6	3	6	3	2	5	2	0	140	200	260
崎津	97	133	230	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	70	150	150
島崎	139	210	349	0	5	2	4	0	2	0	4	4	0	40	195	280	310
玉名	48	75	123	2	1	0	0	0	2	0	1	1	0	1	50	100	100
手取	360	648	1,008	20	24	13	8	10	12	24	14	38	12	28	350	550	750
人吉	59	132	191	0	7	1	3	1	0	1	7	8	1	1	50	160	190
本渡	66	131	197	95	4	2	6	1	2	2	1	3	0	1	30	50	70
水俣	33	52	85	14	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	20	50	80
武蔵ケ丘	136	231	367	1	4	2	5	2	8	1	2	3	6	1	200	250	350
八代	41	96	137	4	1	0	1	0	0	1	0	1	3	0	70	100	200
熊本合計	1,502	2,485	3,987	180	69	33	42	23	39	43	39	82	31	74	1,475	2,320	3,000
教区総計	13,267	17,803	31,070	1,819	279	249	318	252	371	192	201	393	415	326	10,386	16,631	23,549

2003年度福岡教区教勢から

在籍信徒数が前年より27人の減少。なお、上の表中の数字には司祭・修道者・神学生は含まれていない。

受洗者数について、幼児・成人共に前年より減少した。ミサ参加者も減少が続いている。みことばと聖体によって養われるミサの豊かな恵みを思うとき、参加への意識をさらに高めていくことが求められる。高齢者が参加することが困難になってきていることが多いやり、その必要に気付き、祈り、奉仕することによって助け合いたいものである。

一方、教区内の司祭数をみてみると、1970年に108人であったが、80年103人、90年103人、2000年93人、03年86人となっている。66歳以上の司祭が過半数近くを占める。教区司祭数は、ほぼ横ばい。宣教会司祭数は30年前の約半数になっている。

教区神学生（大神・小神学生）数は1970年40人、80年15人、90年14人、2000年2人、そして04年4人である。明るい兆しも見えている。

小教区で、あるいは地区ごとに召命を求めて祈りや集いが行われている。今年3月には新しい司祭が誕生した。教区全体に召命への関心が高まり、召命を育む土壌が確かに作られつつある。忍耐をもって、愛をこめて、司祭を生み出し、育てていこう。

教会は「神の民」（3）

前回は「教会は秘跡」と言われたことについて考えましたが、今回は教会を「神の民」と公会議が定義したことについて考えてみましょう。教会憲章の最初の草案では、始めに教会の位階制（つまり司教、司祭など聖職者のことですが）について論じた後、「神の民、特に信徒について」という順だったそうです。ところが、最終案では、全教会を神の民として提示した後、聖職位階制さらに信徒と続くことになりました。これは単にどちらを先に述べるかという順序だけの問題ではなく、聖職者が教会を構成する第1の要素という考えをくつがえすものだったのです。つまり組織や制度を重んじる教会から神から呼ばれた者の集いとしての教会観への転換でした。では具体的に教会を「神の民」と定義することがどうしてそんなに新しいことだったのでしょう。例えば、今でも多くの教会では司祭が何でも決め、司祭の計画や指示に従って信徒はただ動くだけという教会も多いのではないでしょうか。建物の管理から備品の使用許可まで司祭は、教会内のあらゆる権限を持ちすぎているように思えます。むしろ、司祭中心、司祭主導型から神の民信徒主導へと考え方を変える必要があると思います。

ところでこの「神の民」の原点はもちろん旧約にあるわけですが、神はイスラエルの民をエジプトから導き出し、モーセを指導者として、そしていわば「烏合の衆」だったまでいわば「烏合の衆」だった民を神との友情で結ばれた契約共同体とします。シナイ山に到着した民に神は次のように言われます。「あなたたちは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。」（出エジプト記19：6）ペトロも「あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。」（Ⅰペトロ2・9）というように教会の原点は、その構成メンバーのすべてが神から選ばれ、聖なるものとされたがゆえに、祭司つまり神と人との仲介、取次ぎの役目をもっています。そこにはモーセや預言者たちの役割があったように、いまでも役務として司祭の役割を果たす人は当然必要です。しかしながら「神の民」を全面に打ち出した教会の意図を今一度振りかえってみる必要があると思います。神の招きに応え、そしてともに集う私たち一人ひとりの固有の使命、私にだけ神が与えてくださったカリスマについて考えてみましょう。

森山信三神父（戸畑教会主任）

43回目のクルシリヨ

第43回クルシリヨは、例年通りゴールデンウィーク中の5月3日から5日にかけ、福岡黙想の家で開催されました。

今年からは過去に参加の経験がある人にも呼びかけた結果、30年前に受講された方が1人おられました。その当時とは雰囲気も随分異なり、しかも若い人たちに囲まれて、最初は戸惑っておられましたが、次第に慣れて、最後は元気ハツラツになっておられました。参加者の年齢構成は16歳から80歳までと大変な開きがあったものの、いざ会が始まってみると、その差は全く感じられませんでした。



ところで、参加者の自己紹介によると、参加の動機が会の役員や司祭から促されてではなく、自分から望んだ人が多かったのは、始めの2日間が雨だったため、うぐいすのシャワーを浴びながらの朝の奉献ができなかったことです。

また、今年もたくさんの霊的花束が寄せられ、これが係りの手で張り出されると、参加者はみな目を見張って驚いていました。いままでに霊的花束を作成したり、お祈りを捧げたりしても、参加者にとってこれほど喜ばしいものだとは予想もしなかったそうです。

今年も多くの人たちに支えられて無事クルシリヨを終了できました。スタッフ全員ほっと一息つくとともに、皆さんへの感謝の思いで一杯です。終ってみれば楽しく充実した3日間です。皆さんも是非参加してください。

のではなく、むしろ自分たちで活動の流れを作り出すというのも、例年とは違っていたようです。ただ一つ残念だったのは、始めの2日間が雨だったため、うぐいすのシャワーを浴びながらの朝の奉献ができなかったことです。

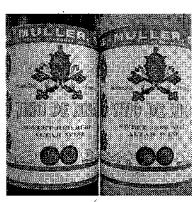
また、今年もたくさんの霊的花束が寄せられ、これが係りの手で張り出されると、参加者はみな目を見張って驚いていました。いままでに霊的花束を作成したり、お祈りを捧げたりしても、参加者にとってこれほど喜ばしいものだとは予想もしなかったそうです。

今年も多くの人たちに支えられて無事クルシリヨを終了できました。スタッフ全員ほっと一息つくとともに、皆さんへの感謝の思いで一杯です。終ってみれば楽しく充実した3日間です。皆さんも是非参加してください。

校の若い先生がおられたことは特筆に値することと思われます。

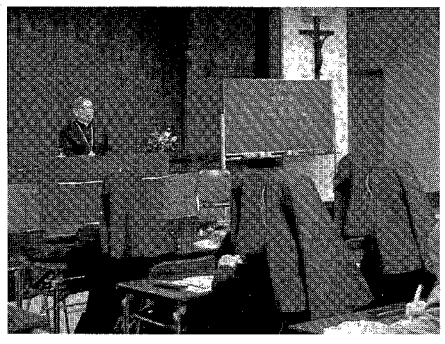
過密スケジュールの中で、いつかその流れに乗って行く

むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

福岡教区修道女連盟2004年度研修会・総会を開催
「穏やかな修道生活を…」と松永司教講話



4月29日（みどりの日）、晴天に恵まれて、福岡教区修道女連盟（会長＝シスター富山憲子、聖心のウルスラ宣教女修道会）の2004年度研修会・総会がカトリック大名町教会で開催された。

教区長松永久次郎司教の講話に始まり、続いて11時から感謝の祭儀が司教司式のもと約80人の修道女たちとともに捧げられた。

司教は「穏やかな修道生活」をテーマに、「人と人との関りにおいては、修道生活も含め一般的に、自分と異なる考えを持ったり、行動したりする相手の非をあげつらい、責め立てて、争うことがしばしばである。一方、聖母マリアの生涯は、どのような出来事や状況に当面しても、まずこれを受け入れ、どのような人々をもキリストの道を共に生き、共に歩む者として迎え入れる穏やかな姿でみたされている。キリストに近くから従う者は、日常のごく平凡な生活の中で関わる一つひとつに自分を開き、霊の力に助けられて隣人を愛し、隣人とともに神のいのちに成長する『穏やかな修道生活』を通して、神への奉献生活を忠実に全うさせていくように」と語った。

司教の力強い励ましを受けて参加者たちは「平凡の秘義」を深めつつ、聖母マリアにならって穏やかに生きる決意を新たにした。

ミサの後に行われた総会では、新・旧役員の交代と挨拶、次いで前年度活動報告と本年度の行事計画、会計報告が行われ、出席者全員の承認を得、神への賛美と希望のうちに新しい年度の歩みを始めた。

美野島司牧センターの取組み
ホームレス自立支援

「福岡おにぎりの会」は美野島司牧センターを活動拠点とするホームレス支援のボランティアグループである。1996年に野宿生活者と共に生きるという視点を持って炊き出し活動を始めた。ボランティアメンバーにはキリスト者だけでなく、地域の人々や学生など様々な人がいる。

おにぎりの会は、12月～1月末の毎週金曜日、炊き出しと夜回りを実施している（冬季以外は月に1回）。

福岡市内には公園や路上で生活している人が500人を超えている。午後6時、美野島司牧センターで450人分のおにぎり・豚汁・ゆで卵を作り、それを持って天神、大濠、舞鶴、中洲、川端、東へ7班に分かれて午後9時頃から夜回りを行い、配っている。食料の他にカイロ、ホームレスの方々に読んでいただくおにぎり便、毛布やジャンパー等を持って行く。これらホームレスへの緊急支援活動は、全て教会への寄付、「おにぎりの会」会費によって運営されている。



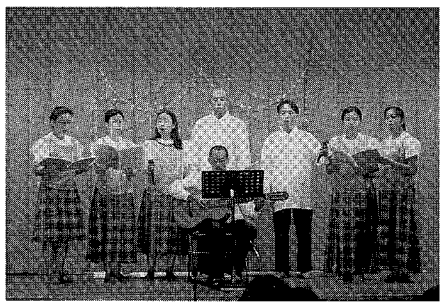
大名町教会における炊き出し

ボランティアの数は20～30人。今年の冬は福岡市内の大学や高校、医療福祉専門学校、遠くは長崎からも学生が参加し、若い人たちのエネルギーに助けられた。2月と3月第2週目までは大名町教会の「熱いスープの会」と共に夜回りを行い、こちらでも泰星高校、福岡雙葉学園高校等の生徒たちの参加があった。

2月15日、150人の参加を得て、NPO北九州ホームレス支援機構、久留米越冬活動の会、福岡すまいの会、福岡おにぎりの会で福岡県ホームレス支援団体連合会発足集会を持ち、県に対し、シェルターや保証人バンクの設立などホームレス自立支援の対策を具体的に実施するよう働きかけを行うことになった。

フィリピンのイムス教区にユースセンターを…
フィリピン青年聖歌隊コンサートと交流会

フィリピン・イムス教区の青年聖歌隊が4月15日、来日し、約2週間の滞在中、手取教会を皮切りに、水俣、八代、玉名、光丘、大名町、佐賀、小倉の8教会でコンサートを行った。



大名町教会ホールでのコンサート

今回、フィリピンから青年聖歌隊が来日した目的は、フィリピンのイムス教区（マニラの隣）・聖ヨセフ小教区のある農村地帯アルフォンソに、青年のためのユースセンターを建設する計画があり、その資金集めに協力すること、そしてこの青年たちを迎えて、福岡教区に住むフィリピン人信者と日本人信者を結ぶ機会を持ち、お互いの交流が深められることをめざそうとするものであった。

昨年秋、松永久次郎司教とイムス教区のルイス・アントニオ・タグル司教との間に取り交わされた手紙で、この計画の準備が始まった。しかし渡航許可申請が進展せず、よううやく日本渡航の許可が出たのが来日予定の三週間前。受け入れの準備、滞在期間中の送迎や移動、ホームステイなど宿泊・食事の提供に際して、実行委員をはじめ多くの人々が協力し進められていった。

訪問した先々で、フィリピン人と日本人の心温まる交流が実現した。青年に同行したギルベルト・ウルビオ神父は、イムス教区・聖ヨセフ教会の様子を詳しく述べ、「若者たちが夢の実現に向けて希望を与えるために、ぜひこの事業に理解と協力をお願いしたい」と呼びかけた。コンサートでは、フィリピンの聖歌、典礼的な踊り、フィリピン各地の方言で歌われる民謡、日本の歌などが次々と披露され、その素朴で祈りに満ちた歌声、指先にまで思いのこもった踊りは人々に深い感動を与えた。

日本での最後の夜、美野島司牧センターで、フィリピン出身者の方々の差し入れにより、盛大な送別会が催された。

公演を終えて、実行委員をつとめた鈴木明郎さん（手取教会）は「多くの人の協力に心から感謝したい。これから教会共同体の活動に外国籍信者も共に参加できるひとつのきっかけになれたのでは」と感想を述べた。

ユースセンター建設資金募金の総額は約150万円にのぼった。なお、ユースセンターの基礎工事は既に始まっており、来年8月に完成予定。

木かげ



伊東成晃神父

意外な人

みなさんこんにちは、私は門司教会の伊東神父です。

門司は海も山もあるとても景色のいいところです。教会には幼稚園も一緒にあって子ども達と毎日楽しく遊んでいます。毎日子ども達と接していると色んなことに気づかせてくれます。自分達が見たこと聞いたこと、うれしかった事や悲しかった事、発見したことなど何でも私に報告してくれるのでとてもうれしいです。

私にしてみれば、そう言うことなどは今までの人生で既に体験済みであるはずなんですが、あらためて体験させられるというか、すべてが再発見、新たに気づかせられるような気がします。

幼稚園児は、まだ言葉の発音が完全でありません。ちょっと季節外れですが、クリスマス頃の出来事です。

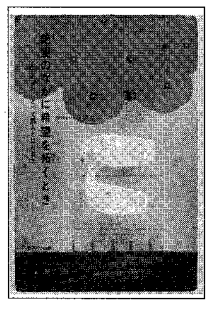
聖劇のセリフで天使のお告げの場面があるのですが「その子をイエスと名づけなさい。その子はいがいな人になり…」と聞こえてきました。一瞬「あれ！」と耳を疑いましたが、すぐに爆笑してしまいました。「いだいなひと」が言えなかったのです。でもよーく考えてみればそうだなーと気づかされました。イエス様は確かに偉大な人には違いありませんが、「意外な人」でもあるはずです。当時の人々がイエス様を排斥して十字架に付けてしまったのはまさに「意外な人」であったからではないでしょうか？

自分達がイメージした救い主とは違ったから、受け入れられずに排斥してしまったのではないでしょうか？彼らは救い主について、神様について勝手なイメージを膨らませ、待ち焦がれていました。しかし、実際にやって来た救い主はイメージとはずいぶん違ったものだったのです。全く予想外の意外な人であったのです。彼らの失望はとても大きかったに違いありません。現代においても神様と私たちとの関わりも何となくしっくりいかないのは、私達が神様について「意外」ということを忘れているからではないでしょうか？神様はきっと意外な存在だということを忘れないようにしておかないと、私達も同じ過ちを犯しかねないような気がします。自分の気持ちで神様をはかるのではなくて、自分の気持ちを神様に合わせなければならないような気がします。今、自分の気持ち、イメージを新たにしたいと思っています。

その後、子ども達が「もろびところびてー」と歌ったのには笑いました。

門司教会主任

★絶望のなかに　希望を拓くとき
あなたにとって隣人とはだれか
矢野宏著



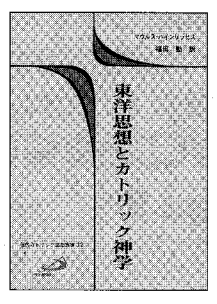
多くの日本人が温かい思いやりの心を失って、久しい。そんな中、慎ましく、目立たず、そっと一隅を照らす人びとを尋ね、インタビューを通して「あなたにとって隣人とはだれか」というキリストの問いを浮き彫りにする。

女子パウロ会　発行

税込価格　1500円

◇　◇　◇

★東洋思想とカトリック神学
マウルス・ハインリッヒス著　福田勤訳



ドイツに生まれ、中国宣教を経て1954年から東京の聖アントニオ神学校で教鞭をとっていたマウルス・ハインリッヒス師。師は東洋独自の考え方とその宗教的価値を探究した。これは第二バチカン公会議が声高らかに宣言した教会の新しい姿勢を先取りした著作である。

サンパウロ　発行

税込価格　2940円

BOOK 読みは専科

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服，聖器具，聖像
信心用品，ベール，
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

召命は、生きる キリストとの出会いから

カトリック教会のカテキズム

日　　時：2004年６月27日（日）15：00〜17：00
場　　所：カテドラル大名町教会
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」
講　　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参 加 費：１回　５００円
主　　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆ 第三期神学講座
⑤ 2004年6月20日（日）
「いやしの秘跡　告解・病者」F・マッケイ神父
♣ 聖書講座
2004年9月18日（土）まで全15回
（基本的に第１・第３土曜日）
講師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
※受講料や単位取得等は下記に問合せ下さい。
☎ 096-352-1515（日向）/ 090-8664-4039（平田）
主催：熊本地区信徒使徒職協議会

2004年度　聖書講座（北九州地区）

♠ 北九州地区聖書講座
2005年の１月16日まで聖書講座開講中
・年間テーマ：教会とは何か！
・講　師：森山信三神父（戸畑教会主任）
・会　費：500円
◆ 第３回　「草創期の教会１」
日　時：６月20日（日）14：00〜16：30
場　所：戸畑教会
連絡先：☎ 093-293-4981　松尾

スピリチュアルケア　福岡一日研修会

日　時：7月３日（土）9：30〜16：30
場　所：サンパウロ福岡センター
研修費：４０００円　昼食は各自でご用意ください。
講　師：W.キッペス師　中島保壽氏
教　材：「スピリチュアルケア」「ともに生きる」
問合先：臨床パストラルケア教育センター　☎ 0942-31-4836

聖母ご出現の地ファチマ巡礼のお誘い

2004年７月14日（水）〜21日（水）の８日間
費　　用：２９８,０００円
旅行条件：最少催行人員25名様／添乗員同行
利用航空会社：全日空／コース：成田→リスボン（一泊）→ファチマ（４泊）→リスボン（１泊）→成田
同行司祭：S.ライル神父
問合せ先：☎ 092-472-2243 阪急交通社博多支店

記念講演会

福岡教区正義と平和協議会 総会と記念講演会

と　　き：2004年７月３日（土）14：30〜
と こ ろ：大名町カトリック教会（福岡市）
記念講演：「今・選択の時を生きる」
講　　師：松浦悟朗司教（大阪大司教区）
連 絡 先：☎ 093-882-2173　守谷栄二

みこころの月　案内版　会合と催し　6月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　６月

◇９日（水）	ミカエル会
◇12日（土）〜13日（日）	明治学園宗教科職員研修会」
◇13日（日）〜14日（月）	オブレート会・福岡黙想の家
◇16日（水）〜18日（金）	イエズス会・学校研修会
◇24日（木）	ユリアナ会主催「心の病」相談・学習会
◇26日（土）〜27日（日）	メメント・モリ［Memento mori］『神の前に生と死を祈る』セミナー開催　講師：シスター高木慶子　会費：15000円（宿泊食費謝礼含む）
7月	
◇２日（金）	むなかた和善の聖書［…参加者募集中…］

［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 32・3385

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

※祈りの集い
年間テーマ：聖人の祈りに学ぶ
・6月10日（木）10時〜15時
テーマ：聖マルガリタ・マリアと聖ファウスティナ
指　導：Sr.マリアとS.フランコ神父

問合先：真命山
☎ 0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

※個人、団体で黙想、研修などもできます。ご相談ください。

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：６月19日（土）／７月３日（土）10時〜12時
場所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂

6月のこよみ

１日（火）	聖ユスチノ殉教者
２日（水）	**助祭・司祭候補者認定式**［大神学院16時30分］
３日（木）	†V.マテオ［2002年御受難会］
５日（土）	†ミカエル西田邦洋［1996年若松教会］
６日（日）	三位一体の主日
10日（木）	召命祈願ミサ［大神学院19時15分］
11日（金）	聖バルナバ
12日（土）	**マリアの宣教者フランシスコ修道会終生誓願式**［島崎教会11時］
	召命を求める徹夜祈祷会（〜13日）
13日（日）	キリストの聖体
	新田原聖体大会：島崎教会聖体行列
18日（金）	イエスのみ心
19日（土）	聖母のみ心
20日（日）	年間第12主日
	高宮教会堅信式
21日（月）	†ドミニコ深堀仙右衛門［1985第3代教区長］
	†トマス平田好［1938門司港教会］
22日（火）	**福岡教区全司祭研修会**（〜24日）
27日（日）	年間第13主日　聖ペトロ使徒座への献金日
	福岡地区カテキズム研修会（カテドラル）
29日（火）	聖ペトロ・聖パウロ使徒
7月	
３日（土）	聖トマ使徒
４日（日）	年間第14主日　**大楠教会堅信式**

ゴチックは司教日程

◆福岡

■召命祈願ミサ
［次回］6月10日（木）［場所］サン・スルピス大神学院聖堂［司式］深堀勝人神父（佐賀教会主任）［主催］福岡召命を共に祈る会・大神学校

■召命を求める徹夜祈祷会
［日時］6月12日（土）19時のミサから13日（日）7時朝の司教ミサまで［場所］大名町カトリック教会［内容］聖体顕示・講話・ミサ［主催］福岡地区召命を共に祈る会

■生と老いと死を見つめる会
［日時］6月20日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［講師］石川美智子氏［内容］臨死体験者［参加費］700円［問合先］☎092・713・8523大山／607・6992村尾

■ユリアナの会
［日時］6月24日（木）14時から16時［内容］第3回「こころの病」相談・勉強会［場所］福岡黙想の家2階会議室［講師］小宮豊医師（小宮クリニック院長）［テーマ］神経症性障害［参加費］無料［主催］ユリアナの会（精神障害者支援の会）［問合せ］☎0940・38・8915（11時〜16時／月〜土）☎0940・32・3222（黙想の家）

■在世フランシスコ会集会
［日時］6月27日（日）14時〜16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、男性用夏物衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者も募っています。［問合先］☎092・431・1419

◆北九州

■北九州地区聖書講座
［日時］6月20日（日）14時［場所］戸畑カトリック教会

■小倉カトリック祈りの集い
［日時］6月25日（金）13時半〜15時［指導］ガブリエル神父［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」をあじわう・賛美と感謝の祈り［連絡先］☎070・5538・6186

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］6月9日（水）10時〜11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］6月23日（水）10時〜12時はミサと祈り．毎月第2水と第4水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎0952・72・7536吉田

◆熊本

■熊本・神学講座
［日時］6月20日（日）13時30分から16時30分［内容］いやしの秘跡／告解・病者［講師］F・マッケイ神父［場所］手取カトリック教会

編集後記

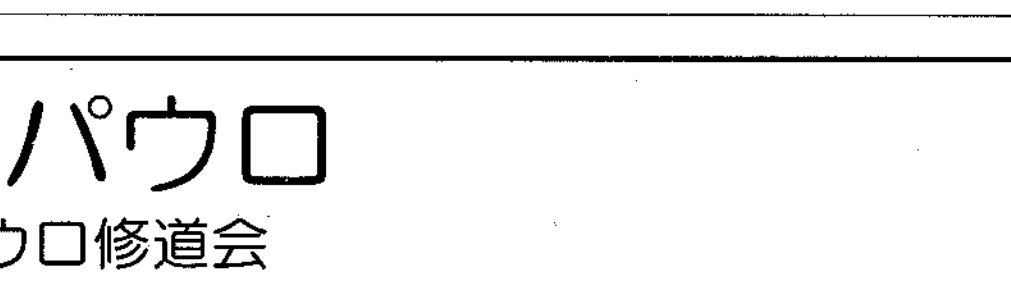
天気になって暑くなったかと思えば、雨が降って涼しくなる。天気がはっきり分かれている少し変な季節だ。外では数十羽のカラス達が「ギャーギャー」と声をあげて木の実を食べている。不思議なことに騒いでるわりには交代しながら実をひとつずつ食べている。何かの決まりがあるのだろうか。ケンカが始まった。どうやら対立する二つのグループが実をめぐって争っているらしい。どこからともなく仲間達が次々に集まってきた。木には皆が満腹するだけの実がないのだろう。つい見入ってしまう光景が続く。しかし、どうやら今日はお開きのようだ。暗くなってくればケンカも終わり。やっぱり何かの決まりがあるようだ。最近の天気と同じ「天気か雨」、「暑いか涼しい」がはっきりしている。カラスは鳴きながらどこかへ帰っていった。今月はここまで。

昨年に引き続き、青年達が中高生サマーキャンプを開催します！

FYCC２ <福岡ユースカトリックキャンプ>

<テーマ> パレット　<対　象> 中学生・高校生
<期　間> 2004年7月30(金)31(土)8月1日(日)
<場　所> 福岡サン・スルピス大神学院
<参加費> 3,700円　<定　員> 50人(7月5日締切)
<申込方法> 各小教区の主任神父様にお尋ねください
<問　合> 092-741-3687(大名町教会:牧山神父)
<e-mail> fycc2@goodshepherds.net
<H　P> http://konnyaku.fc2web.com/
<主　催> FYCC2準備委員会(福岡地区青年有志)

みなさんの参加を、熱く！待っています！



COSMOS
スポーツ用品・ＯＡ・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木 67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17−10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時〜午後６時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般】　神の中における内的調和の発見、愛による兄弟への心の開放

【布教】　福音宣教活動で期待される信徒

【日本の教会】　信徒の宣教

15年振りの終生誓願式を小教区で

マリアの宣教者フランシスコ修道会

健軍教会出身のシスターの終生誓願式に300人

6月12日（土）熊本健軍教会出身のシスター内田雅（マリアの宣教者フランシスコ会＝管区長梶川邦子）の終生誓願式が島崎教会で行われた。同会の終生誓願式が、はじめて小教区で行われ多くの信徒や修道者が教区の内外から参列し祝った。また、新任地が南アフリカ共和国と発表された。



Sr.内田の誓願契約書に署名する松永司教

マリアの宣教者フランシスコ修道会のシスターテレジア内田雅の終生誓願式が6月12日（土）11時から、島崎教会において松永久次郎司教主司式のもと、シスター内田が幼少の頃、主任司祭だった前大分教区長の平山高明司教と、6人の司祭の共同司式により執り行われた。

同修道会では従来、修道院聖堂で行われていた式を、今回はじめて小教区で行った。



会のカリスマを示す３つの品を奉納する姉妹

誓願式には、島崎教会の信徒をはじめ、熊本市内の各教会や修道会から、大勢の信徒や修道者、また立宣者の家族や友人などで、聖堂はいっぱいになった。小教区での初めての誓願式に、道案内や受付、侍者、聖歌隊など島崎教会の信徒の支える姿が歓びにあふれていた。



「南アフリカ共和国」と派遣地が宣言される

松永司教は説教の中で「今日は私たちにとって喜ばしい日です。シスターのいるところにキリストのお恵みが働きます。シスターはキリストと人々の出会いと一致の場であり、神のみことばを伝える場です」とシスターの務めの大切さを説明した。また、シスター内田には「皆の幸せが実現するように、まごころからキリストの愛をもって歩んでください」と励ました。

その後、祭壇の前に呼び出されたシスター内田は、ハッキリとした声で終生誓願を宣立し、ひざまずいて司教から特別の祝福と按手を受け、キリストとの一致を示す指輪を受けた。すると、参列者から大きな拍手が送られた。これによってシスター内田はマリアの宣教者フランシスコ修道会の正式な会員として受け入れられたことになる。

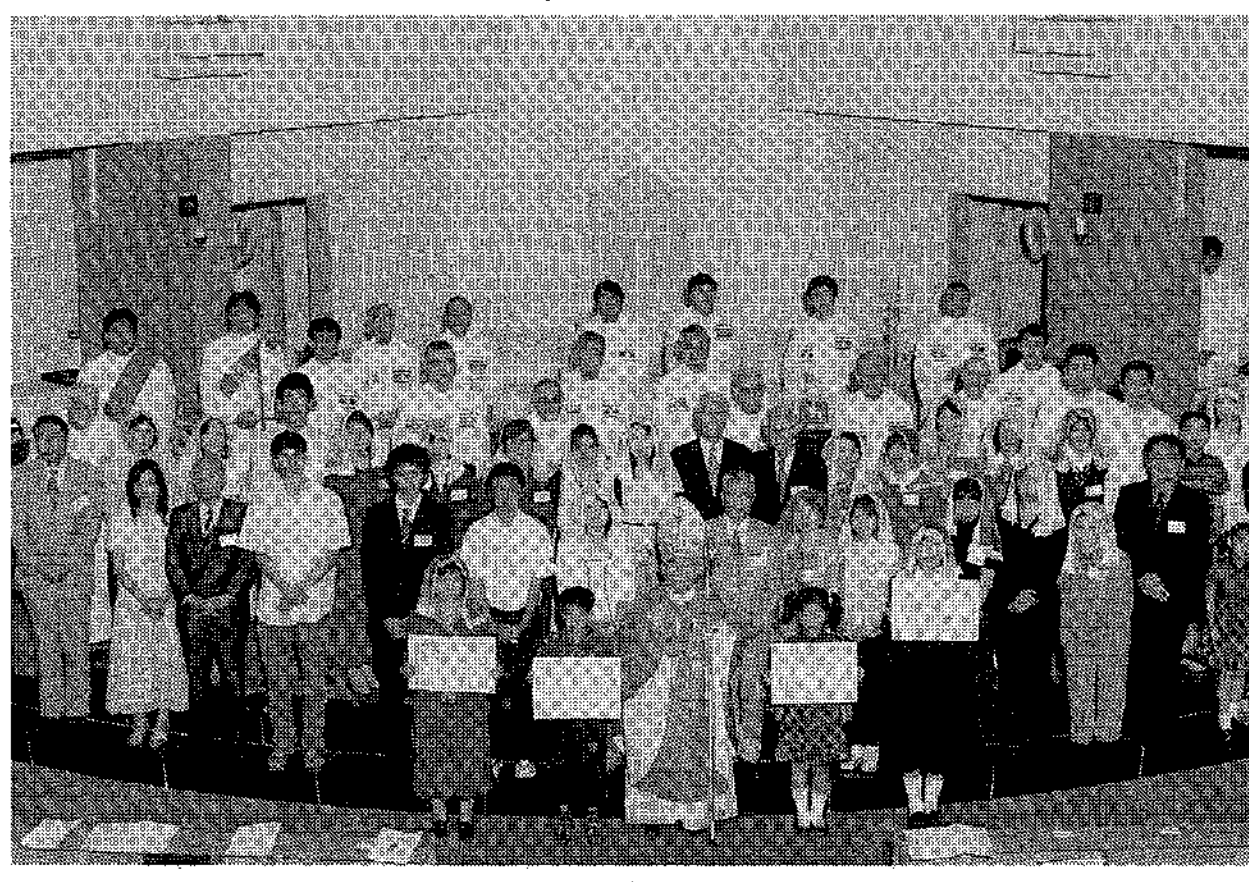
続いて感謝の典礼で、パンとぶどう酒とともに、この修道会のカリスマを示す、聖母にならう純白の花、フランシスコ会の敬父であるアシジのフランシスコが描かれた額、世界75ヶ国に修道院をおいて宣教する修道会の働きを捧げる地球儀が、ベトナムと韓国の修道院から派遣されているシスターによって奉納された。

ミサの最後に、立宣者の派遣が行われ、新しい任地として「南アフリカ共和国」への赴任が、シスター入江純子管区長代理から告げられた。

新任地について尋ねられたシスターは「南アフリカでHIVの方達に関わっていらっしゃるフランシスコ会の根本昭雄神父様が、現地の方と共に居ること、よく歌い、よくふれ合うこと、と話されているのを聞き、何も出来ないが、ひとりでも多くの方と友だちになれるように頑張ります」と笑顔で答えていた。

ミサの後、信徒会館で祝賀式が行われ、大勢が参加して喜びを分ち合った。

大分から参加し、共同司式をした平山司教（前大分教区長）は、祝賀式のあいさつで健軍教会の主任司祭だった当時、幼少期のシスター内田の思い出を「雅さんは小さい頃から大変宣教熱心でした。ある日、小学校の先生がイエス様のことを知らないのに驚き、私の教会にその先生を連れて来たことがあり、大変感心しました」と語った。



合同堅信式と創立75周年記念作文コンクールの表彰式

5月30日（日）、教会の宣教開始を記念する聖霊降臨の主日に、カテドラルで松永久次郎司教主司式により、教区合同堅信式が行われた。今年は8教会から、29人が堅信の秘跡を受けた。この日、参加者はキリストの福音を告げる信仰の証し人を、現代世界へ遣わしてくださいと祈った。

松永司教は説教で「今日、教会が果たすべきつとめは福音宣教。社会にあってキリストの国を力強く建設する者であってほしい」と受堅者を励ました。

悪霊の拒否と信仰宣言に続いて、司教の按手と祈願が行われた。その後、受堅者は司教の前に進み出て、額に聖香油を塗油され、平和のあいさつをかわした。

感謝の典礼の後、祝賀式が行われた。教区信徒信徒職協議会を代表して鳥栖教会の古賀重昭さんが受堅者に祝辞を述べた。受堅者を代表して八尋国隆さん（大名町教会）が謝辞を述べた。

合同堅信式祝賀式に引き続き、教区創立75周年に際して、記念行事実行委員会主催で実施された作文コンクール受賞者の表彰式が行われた。実行委員長の川上惣一神父から審査報告が行われ、受賞者が紹介された。受賞者には、松永司教から賞状と記念品が手渡され、参加者からは祝福の拍手がおくられた。

時の話題

私たちとFYCC2

薬真寺 綾乃

現在、私たち青年は夏の中高生キャンプ（FYCC2）の準備に取り組んでいる。このFYCCは、ある青年の「青年主催の中高生のキャンプをやろう。やりたい人はこのゆびとまれ！」という声にこたえ、他の青年がゆびにとまったのが始まりだ。昨年の夏に第1回が行われ、今年の夏に第2回を開催することになった。

私たち多くの青年が経験している「中高生時代の教会離れ」。そこで、中高生に一番近い存在の私たちに何かできないだろうか…教会から離れがちなこの時期に、様々な体験を通して多くのことを感じ、教会のことをもっと考えて欲しい！という思いがこのキャンプの中心にある。『なぜ教会を離れ、なぜ今ここに戻ってきたのか』、一人ひとりが自分を振り返りながらキャンプの内容を考えている。

このキャンプは青年が中心になって、企画を進めているが、青年以外に神父様、シスター、神学生、信徒の方などたくさんの人々と共に準備してきている。青年の未熟な部分を実践、祈りなど様々な形で支えてくださっているのだ。

こうして、教会を構成する人たちが集い、教会の大切な一員である中高生の為に何かをしようとする姿勢は、とても意義深いことだと思う。また私は、昨年のキャンプを経験し、今年もその準備を進めていく中で、年齢、性別、立場、小教区など様々な垣根を越えて、ひとつの呼びかけにこたえ、同じ場所に集い、出会い、共に過ごすことのすばらしさも実感している。

このキャンプに関わった人たちが、これをきっかけとして、そこで出来た輪を今後広げ、頂いたお恵みを今後の学校、教会など日常生活に生かして欲しいと思う。

（光丘教会青年）

二人の宣教師が帰国

Z・イエール神父　カナダのモントリオールで研究生活



サン・スルピス大神学院で、51年に及ぶ司祭養成の仕事、共同訳聖書、聖書思想事典など数々の業績を残し、6月5日帰国の途についた。

R・オーエンス神父　故国アイルランドで宣教活動



大阪・横浜・福岡各教区の小教区で46年にわたって宣教司牧活動に従事。菊池教会の信徒に惜しまれながら、5月31日帰国の途についた。

みちくさ

先日、街を歩いていたときのことである。ある施設の駐車場の出口を横切ろうとした時「車が出ます。ご注意ください！」という機械のアナウンスが聞こえてきました。わたしはその出口の方を見て車が出てくるのを確認しました。▼しかし、「ちょっと待てよ？」と思いました。ここは歩道なのに、どうして歩行者が車に注意しなければならないのだろうか。踏切などの特殊な場所ならいざ知らず、ここは歩道である。私が学んだ交通ルールでも、どんな時でも歩行者が優先でした。また、歩行者と車ではどちらが強いか、ぶつかって怪我をするのは当然歩行者である。それならば注意するのは歩行者ではなく、むしろ車の方ではないだろうか。注意を促す黄色いランプが回転し、ひたすら「ご注意ください！」というアナウンスが続いていました。▼競争社会や〇〇戦争と言われて、もうずいぶん年月が経ちました。いつの間にか、弱い人間より強い車の方が優先されるのでしょうか。そんな社会になったのでしょうか。『弱い者を助けなさい』（1テサロニケ5・14）ということばはどこに行ってしまったのでしょうか。わたしは「そんな社会ではいけない」と思い、車が出てくる前にサッとその出口を横切りました。「よし！これでいいんだ」と納得しましたが、よく考えてみると、そのときの自分の行動はひとつの競争でした。いつの間にか自分も立派な競争社会の一部になってることに気づきました。そんな自分に恥ずかしさを感じながら、忙しい街のなかを足早に帰りました。

（P）

朝祷会

「平和・聖霊による一致」をテーマに第43回全国大会開催

福岡

カテドラル大名町教会（福岡市）を会場に5月21日（金）と22日（土）の両日、全国から200人あまりが参加し、第43回朝祷会全国大会が開催された。

朝祷会は出勤前の時間に、朝食を共にし祈る祈祷会である。初めは教派も教団も異なるプロテスタント信徒の集いであったが、こうした超教派の信仰者の出会いは大きな喜びと感動を呼び、祈りの輪は全国へと広がりを見せ、次々と新しい会場が生まれていった。これらの人々はやがて一つに集まりたいと願うようになり、1962年に全国大会を開催するに至った。


平和と一致を熱心に祈る参加者

やがてカトリック教会の信徒も参加するようになり、祈りの会は次第にエキュメニカルな色彩を放ち始めた。朝祷運動の中心テーマとして教会のエキュメニカルな一致が浮かび上がってきたのは、第26回、浜松での全国大会の頃からである。


記念講演中の寺園喜基西南学院院長

今回の福岡大会標語は「平和・聖霊による一致」。初日の21日（金）13時に、カテドラルの鐘の音が開会を告げ、礼拝が始まった。

その中で岸英司神父（大阪教区司祭）が説教を担当した。

続いて寺園喜基氏（西南学院院長）による記念講演が行われ、寺園氏は冒頭で福岡における明治期以降のキリスト教宣教史をわかりやすく紹介した。また自身の具体的な人との出会い・関わりをもとに、「生命」と「平和の霊」について語り、聴衆の心を打った。

続いて「学びのとき」が持たれ、朝祷会の前進のために永澤悟氏（ホーリネス札幌新生教会）、飯盛昌三氏（カトリック麹町教会）、歌野清三氏（カトリック健軍教会）が発題した。結びに一同で「平和の祈り」を唱えた。

朝祷会連合総会の後、会場を西鉄グランドホテルに移して、愛餐会が行われた。

大会二日目、8時から早天祈祷会が行われた。説教は鈴木忠一神父（御受難会）が担当した。続いてカトリック有志によってグレゴリオ聖歌が歌われた。

特別講演ではシスター片岡千鶴子（長崎純心大学学長・長崎純心聖母会）が「キリシタンの潜伏と信仰伝承」と題して講演。

大会の結びに閉会礼拝が行われ、斎藤美作氏（救世軍福岡小隊長）が「和解のために奉仕する任務」と題して説教した。

今大会に際してはプロテスタント・カトリックの信徒によって構成される実行委員会により、事前の綿密な準備が行われた。また期間中も参加者の受け入れ、進行などに教派を超えて一致して奉仕するスタッフ、協力者たちの姿が特に印象的だった。

会場では平和・聖霊による一致が、まさに目に見える形で実現した。朝祷会の今を見つめ、未来を開拓しようと志す参加者たちの心に、愛と励ましのメッセージが届けられたに違いない。

朝祷会はイエスをキリストと信じる、全ての人に開かれた超教派の祈りの運動である。キリストの愛に生かされている者の一致を求め、福音の前進と、主にある平和を祈る。また朝祷会はみことばに聴き、賛美を捧げ、心を合わせて祈り、食卓を共にして交わりを深めることをめざしている（『朝祷会綱領』より）。

教会について考える（4）



「教会はいつ誕生しましたか」という質問に皆様はどう答えられますか。

多分「聖霊降臨のとき、すなわち使徒たちの上に聖霊が下り、多くの人が仲間に加わった時」とお答えになる方が多いのではないでしょうか。しかし、教会の誕生は、イエスが十字架上で亡くなられたときという考えも古くからありました。イエスが十字架で亡くなられた時、一人の兵士が槍でイエスのわき腹を突き刺しました。「そのとき血と水とが流れ出た」とヨハネは報告しています。

このことを教父たちは、水と血は、洗礼と聖体の秘跡を象徴し、また、イエスのわき腹から水と血が流れ出たことを、アダムのわき腹からエバが造られたことに結び付けて、新しいエバである教会の誕生を象徴するもの、と説いてきました（フランシスコ会訳聖書注）。

そのとき十字架の下にいた人は、聖母マリア、ヨハネそして数名の婦人達でした。数年間にわたり、イエスから教えを受けた弟子たちはその場にいませんでした。教会は旧約の民イスラエルと比較して、「新しい神の民」とも言われます。その民の核となったのは勿論12使徒です。

もし、教会の誕生をキリストが十字架上で亡くなられた時であるとするならば、教会創立時にその核となるべき人々は、不在であったということになります。むしろ最期までつき従ったのは女性たちであったわけです。

初代教会において、そのイエスの伝承を確立し、後世に伝えるのは、12使徒を中心とした教会ですが、それらに直接触れ、また担った人々は、使徒たちばかりではありませんでした。福音書に記されているように名もなき病人、罪びと、あるいは多くの女性たちでした。

著名な聖書学者である、R.ブラウンは、「イエスは驚くほど組織化がへただった」と述べています。

実際、福音書を読む限り、イエスが積極的にご自分のグループを組織化しようとされたと思われる箇所は見当たりません。

イエスに従った人々は復活後、互いに集まり、教会加入のしるしとして洗礼を大切にします。こうして「弟子の数は非常に増えていき、信者の数が増えていきました。」（使徒6・7及び9・31）

そしてブラウンはこうも書きます。「教会が組織の形態を取ったために、どうしても教会の中で必要な役割が個人に委ねられることになる。一部の人々が聖職者に任命される。・・・しかし忘れてはならない。キリスト者みなに与えられる根本的な賜物すなわち洗礼、聖霊に比べればそんなものは空しい影のようなものだ。私たちが神の王座の前に立つときには、教会の役職などもはや存在しない。洗礼が求めるキリスト者皆に共通の使命にどれほど忠実であったか、・・にかかっている。」と。

森山信三神父（戸畑教会主任）

新田原教会学校の春の黙想会から

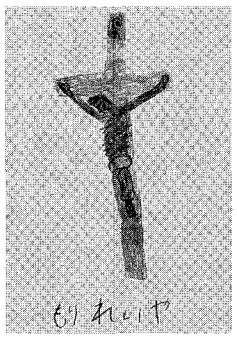
新田原教会の教会学校では、春休みの間に「十字架」をテーマにして黙想会を実施した。十字架について話を聞き、考え、黙想した。また、各学年ごとに「十字架の道行き」の各留の祈りを作成したり、それを用いて十字架の道行の信心を行った。

21世紀の中学生たちが、キリストの十字架とどのように向き合ったか、3人の中学生が『イエス様の十字架を見て』と題して思いを寄せてくれた。

橋口　洸平

イエス様は何もしていないのに、いばらのかんむりをかぶらされ、ムチでたたかれ、十字架をかつぎ歩かされたことは、ざんこくだと思います。十字架は罪人の罰のことだとはじめて知りました。イエス様は何の罪もないのに死刑を言われて、どんな気持ちになったのだろうか。イエス様が十字架からおろされた時、マリア様の気持ちは、とても悲しい気持ちになったでしょう。僕はこれから、十字架で殺されたイエス様のことを考えて教会へ行きたいと思います。

白濱　早紀



十字架を見て思うことは、イエズス様の苦しみは、どんなものだったのか?ということです。

裁判や十字架にかけられても、「自分は、神の子である」と言い続けたイエズス様は、とても強い意思の持ち主だと思いました。

でも、裁判や十字架にかけたのは、私たち人間でした。

イエズス様は、そんな自分を殺そうとしている人間のために、罪のつぐないとして私たちの代わりに死んでいったのでやっぱり、とてもえらいと思いました。そして、イエス様のようによいことをたくさんして、復活祭を迎えたいと思う。

平野　貴浩

僕は今日の話を聞いて、罪もおかしていないイエス様が、十字架につけられたのは、かわいそうだと思った。でも、罪をおかしていないイエス様だったから、皆の罪を背負うことができたんだと思う。

みんなのために罪を背負って死のうとしているイエス様に、ムチなどで、傷をつけたりする人は、よくそんなことができたと不思議に思う。

十字架からイエス様が、おろされたときのマリア様の気持ちは、なんで罪のない私の子が、十字架にかけられなければいけなかったのかと不思議に思い、悲しんだのかもしれない。でも、イエス様が、後に生きかえるということを、マリア様は分かっていたのかもしれない。

イエス様が墓にほうむられるときは、何人もの人が、イエス様の死を悲しんだと思う。イエス様が復活してからは、みんな『イエス様は神様だ』と信じたと思う。

これからは、十字架を見た時、今日の話を思い出して、そして、イエス様のように、よいことをたくさんして、復活祭を迎えたいと思う。

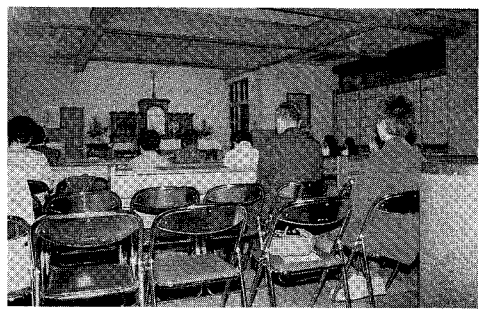
むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン
ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

第15回召命を願う徹夜祈祷会に90人

大名町


深夜、眠気と戦いながら召命を願う参加者

6月12（土）・13日（日）の2日間にわたり、カテドラル大名町教会で第15回召命を願う徹夜祈祷会が行われ、今年は「主が私を呼んでおられる」というテーマで、2日間で約90人が召命を願って祈りを捧げた。オリエンテーションで教区召命担当の浦川務神父は、「今回は新しい司祭・修道者の召し出しを願うだけでなく、現在、召命の道を歩むすべての人々のためにお祈りをお願いします」と説明し、その意向に沿って6つの修道会と青年会が1時間づつ担当し、各々の趣向をこらし祈りを捧げた。講話では寺浜亮司神父が「幼い頃から教会に通い、神父様をはじめ、教会の皆さんとの不思議なつながりで召命の道を歩んできました」と自身の体験を話した。

13日7時からは松永久次郎司教司式で感謝のミサが捧げられた。ミサの中で司教は「多くの方々が召命のためにお祈りくださって感謝いたします。皆さんの祈りは目に見えないが決して無駄にはならず、必ず大きな実りをもたらします。召命のための祈りはキリストが求めておられることで、これが、聞き入れられないことはありません。これからも希望をもって召し出しのためにお祈りください」と参加者すべてを励まされた。

参加した青年は、今回祈りを準備するにあたり聖書を開き、みことばに触れる体験ができたことを感謝のうちに受けとめていた。また『教会がひとつの共同体である』と強く実感しました。早朝の司教様のミサはとてもすがすがしかった」と語った。

島崎教会と新田原教会で聖体行列

島崎教会では

6月13日（日）キリストの聖体の祝日に、熊本の島崎教会では主日のミサに引き続き、恒例の聖体行列が行われた。

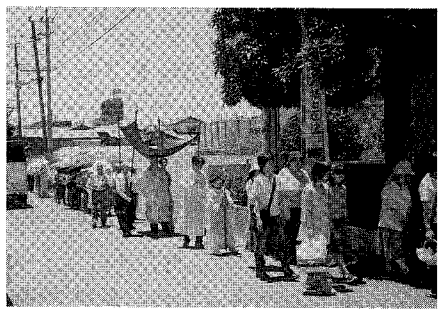
今年は、市内各地から、司祭、修道女、信徒200余人がこれに参加した。

行列は教会の聖堂を出て、北側のマリアの宣教者フランシスコ修道院の聖堂までの間、ロザリオの祈りと聖歌を交互に唱和し、一般公道を進み、修道院の裏門に着く。この敷地内には、待労院、老人ホーム等があり、この各施設の正面にて、高齢者のための聖体祝福式が行われた。また、子ども達の手で紫陽花の花びらが、あたり1面に撒かれた。

その後、行列は修道院の聖堂に着き、喜びと感謝のうちに聖体賛美式が捧げられた。

ところで、島崎教会で行われていた聖体行列は、小教区設立以来、40数年毎年行われてきた。この伝統の中で、行列はミサに引き続き行われるようになった。司祭がミサの最後に告げる「行きましょう。主の平和のうちに」という、この派遣を受けて、行列は開始される。

私たちは、これからも、この聖体行列の中で、とくに世界の平和を祈り求めたい。


ロザリオの祈りを響かせながら行列がすすむ！

新田原教会では

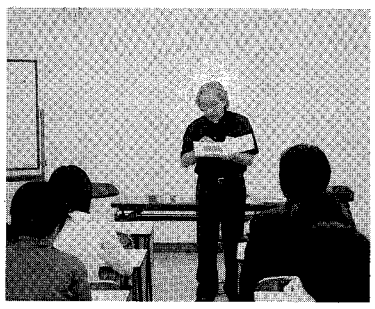
6月13日（日）キリストの聖体の祝日、新田原教会では、聖体行列が行われた。当日は9時から、福岡サン・スルピス大神学院の牧山強美神父司式でミサが行われた。

ミサに続いて、400人ほどの信者が参加して聖体行列が厳かに執り行われた。

梅雨の合間の好天に恵まれ、行列は聖堂を出て、宮崎カリタス修道会幼稚園の門前を通って、新田原聖母病院の敷地内を巡り、信徒会館・テレジア館前に到着。そこに設置された仮祭壇上にご聖体を安置しました。参加者はご聖体に対する賛美をささげ、ご聖体による祝福を受けて行列は終了した。


ご聖体を賛美してたくさんの花が舞う！

福岡地区の有志の青年がカテドラルで黙想会


講話中の鈴木神父と青年たち

福岡地区青年有志の会メンバーが呼びかけて、5月23日（日）にカテドラルで青年の黙想会『大きな木』を開催した。夕方4時、青年たち20人が大名町教会に集まった。

指導は鈴木忠一神父（御受難会）にお願いした。講話のテーマ・内容は青年たちの心にある望みを理解し、それを育てたいとの思いが強く伝わってくるものだった。鈴木神父は『あおくんときいろちゃん』という絵本を読み聞かせ、自分が何色であるかをしっかりと持つこと、他者の持つ色の特徴を認めること、異なる色同士が出会って新しい色になることについて目を開かせた。

その後、グループに分かれて、7ステップの方法で聖書の分かち合いを行い、聖書のみことばについて深く味わうという体験をした。

皆で手作りの夕食をとった後、大聖堂に聖体を顕示し、静かに祈るひとときを過ごした。そこで参加者は「大きな木」とは誰か、はっきりと気づくことができた。また、そのもとに留まることの恵みを実感した。最後に、一人ひとりの心の思いを色紙に書き、折り鶴にして聖体のそば近くにささげた。ろうそくの灯りに照らし出された青年の顔は、新しい力を受け、喜びに輝いていた。

木かげ


山脇守神父

「神父様、ぼく、お年玉あげるね」と言って、小学2年生の男の子がわたしにお年玉の袋の中に2千円入れて持ってきてくれました。これは1999年の正月3日の出来事でした。

わたしは昨年の4月まで、長崎県西端の島、五島の北部にあたる上五島地区の一つ大曽小教区の主任司祭をしていました。大曽小教区は大曽、青方、跡次の3教会からなっていて、朝からの子どもたちの祈りの声は天まで届かんばかりの元気なものです。大人もその子どもたちをやさしく見守りながら一緒にミサにあずかっているような所でした。また風光明媚な観光地としても来客の目を楽しませてくれる所です。それに洋上石油備蓄基地があり、そこだけは異様な雰囲気に包まれている、色々な要素を持った土地柄でもあります。また特に青方は細長い上五島地区の中央に位置しており、信徒の集いなども交通の便など集まり易さもあって、色々な大会が開かれる所でもあります。

神に感謝

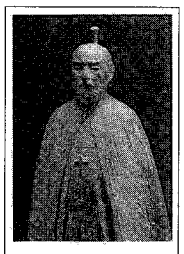
1999年に青方北部地区が土地区画整理されることになり、青方教会が移転新築されようとしたとき、この際青方に上五島地区カトリックセンターを建てようとの話が湧き起こり、教会とカトリックセンターを併せたものを建てることにしました。しかし、その頃からバブル崩壊、また不漁続きで思うように建設資金が集まらずに困っていました。割り当てられたお金は地区の方々も頑張って出してはくれるのですが、別口の寄付金がなかなか集まりませんでした。そして建物を建てる年の正月に見かねた子どもが大切なお年玉をわたしに持ってきてくれた訳です。ところがこの小学2年生の子どもを筆頭にその後も小学生が10人余り、お年玉を持って来てくれるではありませんか。その中身も2千円から5千円と様々でした。

それを聞いた大人たちが「自分たちも何とかします」と言って、お金を集めにまわったり、生活費の一部を出してくれたのでした。もちろんわたしもみんなと一緒に全貯金を出しました。2000年8月22日の上五島地区カトリックセンターの祝別落成の時は建設費は全額払い終わり、借金は全くありませんでした。「最近の子どもはすごい」の一言です。

彼らの大切なお年玉はいつの間にか神様の手に渡され感謝の祈りの後、上五島地区7000人の信徒の心を動かすほどに成長していきました。子どもの惜しみない協力は損をしたくない大人たちの心を開かせ、何倍にもなった実りを与えてくれたのです。わたしは子どもたちのおかげで、小教区の司牧は苦労もあるけど喜びはもっと大きいことを体験させていただきました。今は心ならずも大神学院にいますが、またいつか小教区で司牧できることを夢見ています。そしてそれと同時に大神学生たちが将来司祭となって信徒とともに苦労しながらも、大きな喜びを味わっていただきたいと思います。こんな拙いわたしに司祭の恵みを与えてくださった神様に感謝するとともに、時々不満を言うわたしをお許しくださいと願うものです。（長崎教区司祭・大神学院養成者）

BOOK 読みま専科

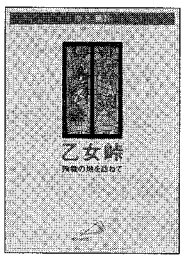
★ユスト高山右近の列福を求める祈り
日本カトリック殉教者列福調査特別委員会認可


舟越保武作 高山右近像（日本二十六聖人記念館所蔵）

高山右近の列福のため、教皇庁に奇跡の事例報告を行う必要があります。この祈りによる奇跡が確認された場合は、左記までお知らせ下さい。お願いします。
（祈り用のカードは小教区にもありますからお尋ね下さい）
〒135・8585
東京都江東区潮見2―10―10
カトリック中央協議会
殉教者列福調査特別委員会
☎03・5632・4445
FAX03・5632・4465

◇　◇　◇

★乙女峠
殉教の地を訪ねて
岸上　英幹　著



本書は島根県津和野で1868年から1872年の間に起った尊くも悲しい殉教の物語です。徳川250年以上の厳しいキリシタン迫害を生き抜いた長崎浦上の信徒たちが「浦上四番崩れ」という弾圧によって、津和野に流刑され、教化、改宗が試みられましたが、彼らの堅い信仰は揺るがず、ついに拷問による棄教が強要されるようになりました。

サンパウロ　発行
税込価格　945円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811−7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092−526−9176

召命は、生きる キリストとの出会いから

カトリック教会のカテキズム

日　　時：2004年8月29日（日）※７月は休会です。
場　　所：カテドラル大名町教会
テキスト：「カトリック教会のカテキズム」
講　　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参 加 費：１回　５００円
主　　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第三期神学講座
⑤ 2004年７月19日（月）13：30〜16：30
「入信の秘跡　洗礼・堅信・聖体」　川添猛神父
♣聖書講座
2004年９月18日(土) まで全15回
(基本的に第１・第３土曜日)
講　師：全回通して中村彰神父(健軍教会主任)
※受講料や単位取得等は下記に問合せ下さい。
☎096-352-1515(日向) / 090-8664-4039(平田)
主　催：熊本地区信徒使徒職協議会

2004年度　典礼を学ぶ集い

日　時：７月18日(日) 14時〜16時
テーマ：世界暦と主日の意義
講　師：白浜満神父(サン･スルピス大神学院)
場　所：カテドラル大名町カトリック教会
費　用：１回５００円
（別途テキスト代200円年分）
問合せ：☎0940-33-8122　井上元之
次　回：②10月10日（日）14時〜16時
♠2005年の１月30日まで全４回開催。

R.カンタラメッサ神父の特別黙想会案内

日　時：2004年８月23日（月）〜26日（木）
場　所：長崎大司教区カテドラル浦上教会
テーマ：「イエス・キリストに招かれて」
…イエスは「来なさい､そうすればわかる」と言われた…
参加費：自由献金
対象者：信徒・修道者・司祭　申込み不要
指導者：教皇聴罪司祭･教皇担当説教者／元ミラノ大学宗教学部長･初代教会史教授
主　催：カンタラメッサ神父指導による黙想会実行委員会
問合せ：カトリックファミリーセンター
☎092-541-6207　FAX 092-552-5022

案内版　会合と催し

福岡黙想の家ご案内　７月

◇２日(金)	むなかた和善の聖書［…参加者募集中…］
◇３日(土)〜４日(日)	山口・島根地区信徒養成研修会
◇10日(土)〜11日(日)	祈りの学校［来住神父］
◇11日(日)〜12日(月)	オブレート・福岡
◇14日(水)	ミカエル会
◇16日(金)〜19日(月)	愛と光の家
◇22日(木)	ユリアナ会「こころの病」相談&学習会
◇25日(日)〜31日(土)	コンベンツァル聖フランシスコ会

※個人黙想もできます。自然と静寂の中で自分を見つめる一時をもって、神に近づく機会をもちませんか？
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

※祈りの集い
年間テーマ：聖人の祈りに学ぶ
・7月8日(木) 10時〜15時
テーマ：聖ベネディクト
指　導：Sr.マリアとS.フランコ神父

問合先：真命山
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
※個人､団体で黙想､研修なども できます。ご相談ください。

カテドラルでのゆるしの秘跡

日　時：７月３日(土)／７月17日(土) 10時〜12時
場　所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂

７月のこよみ

4日(日)	年間第14主日　**大楠教会堅信式**
	†平田正喜［1994年老司教会］
11日(日)	年間第15主日
	聖ベネディクト修道院長
15日(木)	聖ボナベントゥラ
16日(金)	カルメル山の聖母
	福岡教区創立記念日（1927年創立）
18日(日)	年間第16主日
19日(月)	海の日
20日(火)	†平田勇［1980年西新教会］
	†W. シュルツ［1987年吉塚教会］
22日(金)	マグダラの聖マリア
25日(日)	年間第17主日
	†J. ラグレブ［1982年門司天使園園長］
	†J. ブルトン［1957年呼子教会］
26日(月)	聖ヨアキムと聖アンナ
27日(火)	†L. ルリエ［1970年聖小崎育児園園長］
29日(木)	聖マルタ
31日(土)	聖イグナチオ・ロヨラ
	†平田惣五郎［1989年浄水通教会］
8月	
1日(日)	年間第18主日　**久留米教会堅信式**
4日(水)	聖ヨハネ・マリア・ビアンネ
	†M. ボンカズ［1991年田川教会］

ゴチックは司教日程

福岡地区平和を祈る集い

日　　時：2004年８月８日(日)
第一部　講演会
テ ー マ：平和憲法とイラク問題
…憲法９条を世界の宝に…
時　　間：13：00から
講　　師：横田 耕一 先生
（九州大学名誉教授）
実務担当：福岡地区正平協
第二部　平和祈願ミサ
♡在福外国人信徒と共に♡
ミサ：14：30　平和祈願ミサ
司式・説教：松永久次郎司教
実務担当：教区典礼委員会
＊平和について語り、祈りましょう。ミサ後、茶話会も用意されます。

◆福岡

ボランティア一日体験ご案内

日　時：2004年７月９日(金)
場　所：美野島司牧センター
（博多区美野島☎092-431-1419）
主　催：福岡地区婦人会
問合せ：☎090-7159-0141牛尾
各教会地区婦人会担当者
会　費：５００円（昼食代）
※現地集合・現地解散です。

■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］７月11日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［講師］原口勝医師（九州ガンセンター消化器科部長）［内容］末期医療の現状・大病院での受診［参加費］700円［問合先］☎092・874・6321小林

■ユリアナの会
［日時］７月22日（木）14時から16時［内容］第６回「治癒総論」相談・勉強会［場所］福岡黙想の家2階会議室［講師］小宮豊医師（小宮クリニック院長）［テーマ］神経症性障害［参加費］無料［主催］ユリアナの会（精神障害者支援の会）［問合せ］☎0940・38・8915（11時〜16時／月〜土）☎0940・32・3222（黙想の家）

■在世フランシスコ会集会
［日時］７月25日（日）14時〜16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［次回］９月26日（日）（８月は休会）［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、男性用夏物衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者も募っています。［問合先］☎092・431・1419

■東ティモール現地報告会
［日時］７月10日（土）13時半〜15時［場所］泰星中学高等学校合併教室［内容］現地駐在員徳恵利子氏による報告［参加費］無料［主催］日本カトリック司教協議会東ティモールデスク［問合せ］☎092・712・7181（泰星中学高等学校・里見康介）

◆北九州

■小倉カトリック祈りの集い
［日時］７月23日（金）13時半〜15時［指導］ガブリエル神父［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」をあじわう・賛美と感謝の祈り［連絡先］☎070・5538・6186

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］７月14日（水）10時〜11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］７月28日（水）10時〜12時はミサと祈り：毎月第２水と第４水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎0952・72・7536吉田

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時〜11時半／午後の部19時半〜21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］ルカ福音を読む［講師］マルコ・ヴィッラ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754マルコ・ヴィッラ神父

編集後記

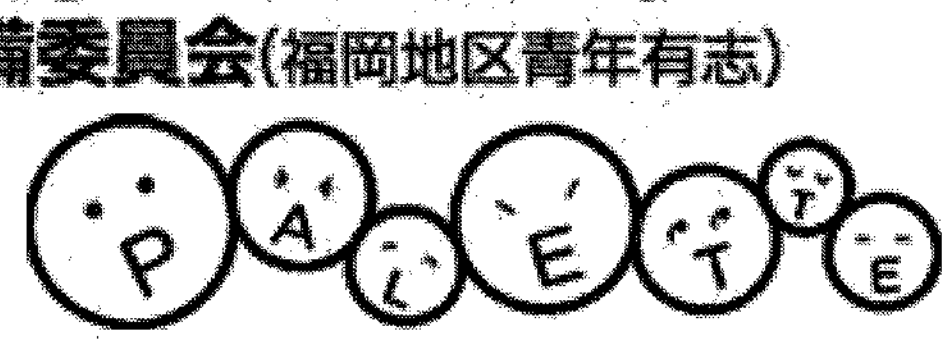
司祭研修会では、今秋から始まる聖体奉仕者養成に向けて活発な討議がなされました。今まさに、ご聖体に対する信仰を強くする時だと感じます。教皇様は今年10月10日から「聖体の年」を全世界の教会で祝うと発表されました。
梅雨空の向こうには真っ青な空、まばゆい夏の太陽。体に気をつけて、暑いこの時期を乗り切りましょう！

昨年に引き続き、青年達が中高生サマーキャンプを開催します！

FYCC２ ＜福岡ユースカトリックキャンプ＞

＜テーマ＞ パレット ＜対　象＞ 中学生・高校生
＜期　間＞ 2004年7月30(金)31(土)8月1日(日)
＜場　所＞ 福岡サン・スルピス大神学院
＜参加費＞ 3,700円 ＜定　員＞ 50人(7月5日締切)
＜申込方法＞ 各小教区の主任神父様にお尋ねください
＜問　合＞ 092−741−3687(大名町教会:牧山神父)
＜e−mail＞ fycc2@goodshepherds.net
＜H　P＞ http://konnyaku.fc2web.com/
＜主　催＞ FYCC2準備委員会(福岡地区青年有志)

みなさんの参加を、熱く！
待っています！



COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木 67 − 3
TEL　0942−77−3199
代表者　ペトロ 平 田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17−10
大石保険事務所　大 石 真 澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時〜午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人 牧山美好
TEL 092-522-5139
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部60円

『聖体と聖体奉仕者』をテーマに司祭研修会

キリストの聖体に奉仕する心を新たに！

福岡教区内全司祭の研修会が6月22日（火）から24日（木）にかけて、朝倉郡杷木町のホテルを会場に行われた。テーマは「聖体と聖体奉仕者」。今秋からいよいよ教区としての聖体奉仕者養成がスタートするのを前に、参加した52人の司祭は活発に意見を交わした。



福岡教区では、4月に教区長松永久次郎司教が「聖体奉仕者養成趣意書」を出し、養成実行委員会において検討し、まとめられた「聖体奉仕者養成要綱」が発表された。今回の司祭研修のテーマとして「聖体と聖体奉仕者」が掲げられたことには、教区のこうした動きの中で、現場にいる司祭が共通した理解をもって一致して取り組んでいくというねらいがあった。

まず、S・フランコ神父（真命山・聖ザベリオ宣教会）が「教会のいろいろな奉仕職の中での聖体奉仕者の役割」について講話を行った。フランコ神父は、初代教会から中世、そして20世紀前半までの教会の歩みの中で、さまざまな奉仕職がどのような人々によって行われてきたかを説明した。その中で、ミサに参加できない人のもとへ聖体を運ぶ務めが、初代教会の頃から、助祭や侍祭（アコリトウス…奉仕者と訳される）らによって果たされてきたことが紹介された。教会迫害者の監視下で、彼らは自らの生命をかけてキリストの体である聖体を守り抜いてきた。司祭たちはあらためて、この奉仕職を生きることの大切な意義を思い起こした。

さらにフランコ神父はトリエント公会議が取り扱ったいくつかのテーマについて触れ、聖体礼拝の重要性が説かれ、ミサの中での叙階された司祭の役割が強調されている点を指摘したのち、第二バチカン公会議での変化とその後の奉仕職のあり方について述べた。フランコ神父は、自らが公会議後の典礼の刷新に関わり、そこで培った豊富な知識、深い霊性によって司祭たちにその経緯を説明した。

第二バチカン公会議は「神の民の神学」を打ち出し、司教を中心とする位階的祭司職と洗礼・堅信による共通祭司職との強い結びつきが確認された。それによって公会議後は、信徒の使徒職も強調されるようになった。そこでフランコ神父は、聖体奉仕者をはじめ、典礼における信徒の奉仕職、たとえば聖書の朗読、答唱詩編の詩編唱者など、さらにその他の奉仕職に（病者・高齢者・弱者の世話、信仰教育、結婚の準備、葬儀とお墓、福音宣教、正義と平和、教会から離れた人の司牧、移民・難民の世話、エキュメニズム、諸宗教対話、など）について話した。

結びに、フランコ神父は典礼が教会の生命の源泉であり頂点であることを思い起こさせ、また、すべての典礼の終わりは、生活の中での典礼の始まりであることを気付かせた。そして聖体の通常の奉仕者である司祭は、一期一会の心で、すなわち今日行うこのミサを「最初のミサ」と同時に「最後のミサ」として捧げていこうと呼びかけた。

二日目の午前は櫻井尚明神父（糸島教会主任）が「聖体の秘跡について」講話を行った。ミサと聖体について、歴史のなかで掟の遵守が重要視されて来た経緯を話し、聖書から現代神学にいたる聖体の秘跡の詳しい理解を説明した。

午後からは、まず聖体奉仕者養成実行委員長の牧山勝美神父(小郡教会主任）が「福岡教区における聖体奉仕者養成要綱」について説明した。続いて白浜満神父（大神学院）が「聖体奉仕者の養成について」と題して講話を行った。

二日目の午後と最終日には質疑応答の時間が設けられ、聖体奉仕者の養成と実践について次々と意見が出され、その必要性や奉仕職の重要性、今後の課題などについて熱心な討議が行われた。

日本カトリック平和旬間
8月6日～8月15日

平和を祈る集い

福岡地区《講演とミサ》
と　き：2004年8月8日(日)
ところ：カテドラル大名町教会
第一部　講演会　13：00～
テーマ：平和憲法とイラク問題
…憲法9条を世界の宝に…
講　師：横田耕一氏（九州大学名誉教授）
第二部　平和祈願ミサ　14：30
司　式：松永久次郎司教
在福外国人信徒と共に祈る

北九州地区《講演とミサと展示・出店》
と　き：2004年8月8日(日) 11：30～
ところ：小倉カトリック教会
平和祈願ミサ　13：20
司式：北九州地区の司祭団
平和講演　15：00
テーマ：100人の村から憲法が見えた
講　師：池田香代子さん
（「世界がもし100人の村だったら」の著者）
展示・出店　終日
アムネスティ・イラクパネル写真展などの展示、バザールなど

8月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】欧州連合とそのキリスト教遺産
【布教の意向】布教地で活動的に働く修道会
【日本の教会の意向】平和を祈る

召命学校 2004

テーマ
『イエス様がぼくを呼んでいる』

日　時：8月17日(火) 15時受付
　　　　8月19日(木) 14時解散
対　象：小学4年生から
　　　　中学3年生の男子
参加費：1000円
参加者数：30人まで
持ってくる物：ロザリオ・
洗面用具・着替え・上履き・
バスタオル・水泳キャップ・
水着・健康保険証の写し
場　所：召命の家（浄水通38）
締きり：8月8日(日)
申込み：浦川神父（久留米教会）
☎0942-32-8011

時の話題

子どもたちの聖歌隊！

平田　幸子

『子どもたちの聖歌隊を！』との呼びかけから5年目になりました。5人からスタートしたメンバーは、今ではみんなをリードしてくれるベテランです。毎年新学期に、初聖体を受けたばかりの新しいメンバーが加わり、今では35人の大家族になりました。

きっかけは、侍者会の頑張りにあります。「男の子たちが侍者で奉仕しているのだから、わたしたち女の子も何かできることを・・・」ということで、チェチリア聖歌隊が誕生しました。全員がそろうことは、なかなかむずかしいですが、月に一度の子どもミサや、毎週日曜日の「拝領の歌」を受け持っていて、それがとても励みになっています。また、久留米教会出身の一人の神父様の朗読・祭壇奉仕者選任、助祭・司祭叙階への段階を、一緒に心を合わせて準備することができ、聖歌でお祝いできたことは聖歌隊にとって大きな喜びとなりました。子どもたちも召命への関心と、一人の新しい司祭が誕生する道のりを側から見ることができたお恵みに感謝しています。

いま、子どもたちは教会学校の各クラスの横のつながりと、聖歌隊を通してできた縦のつながりによって、お互いの関わりが深まり、毎週仲良しのメンバーに会えるので、教会に集まる楽しみが増したようです。これからは、少しずつ典礼聖歌もリードしていってくれることを楽しみにしています。

子どもたちを取り巻く環境には、色々なきびしいものがあります。そういうなかで集まって来る子どもたちは、教会の宝物です。聖歌を通して、神様の声を聞くことができるようにと願いながら、これからもこどもたちと奉仕できる喜びを分かち合い、一緒に歩んでいきたいと思います。

（久留米教会・教会学校チェチリア聖歌隊スタッフ）

訃報

サルヴィ・プラチド神父
（ミラノ外国宣教会司祭）
6月26日、イタリアのミラノ会の施設で胃ガンのため帰天。85歳。サルヴィ神父は、1952年に来日、佐賀県の唐津教会で1978年まで司牧に従事された。

井手クニヱ修道女
（愛苦会）
6月14日、小郡市の病院で帰天。76歳。1949年から清心乳児園の看護師として長年児童福祉に貢献された。

井手道雄氏
（聖マリア病院院長）
7月9日、聖マリア病院で帰天。61歳。90年聖マリア病院院長に就任。医療界で数々の役職を歴任、特に新生児医療に熱心に取組まれた。

お知らせ

カテドラル大名町教会では11月末まで工事のため駐車場が狭くなっています。
ご利用の際は十分注意して下さい。

みちくさ

平凡な人生を生きることを自分の標語としても、何がその標準になるか、何を目指して生きるのか、それとも何の目標も持たないのか、その主張としているのが、必ずしもはっきりしていない◆多分、自分には特別の能力もないから、特別なカリスマも持たないから、静かに世に隠れたような形でこの世にお世話になるだけだ、と言う気持ちであろう。世の中に貢献しようとか、自分の力の限りこの世を造り変えていこうという気持ちがないのではないか、と批判されるかもしれない◆しかし、考えてみれば普通の人はその程度のものに過ぎないともいえよう。何か特別な能力もカリスマも持っていないというのが本当とも言えよう。一つとりえと言えば、静かに平和にこの世を生きていこうと言うところである◆しかし、こんな生き方も消極的過ぎると批判されるであろう。自分の力の限りより良い世界を作るために努力すべきと考えられるからである◆しかし、あまり野心を持たず他人の邪魔をせず、自らの身分に甘んじて、自分だけの生活を築いていくのも一つの生き方とも言えよう。世の中には種々の生き方がある。どれを選ぶかはその人の決定であり、その人の自由である◆しかし、真に神の特別の呼びかけを聞くことがあれば、全てをおいてそれに従うべきである。

（M）

宣教司牧評議会

2004年1月18日に「第一回福岡教区宣教司牧評議会」が開催されました。今月は糸島教会主任・宣教司牧評議会副議長の櫻井尚明神父に評議会に寄せる思いを執筆していただきました。

先日、福岡地区司祭集会で各小教区の信徒総会についての分かち合いがありました。そこで分かち合われたことからわかったのは、いくつかの例外はあるもののほとんどの小教区の信徒総会では宣教司牧についての突っ込んだ話し合いができていないということでした。経済問題や行事についての話がほとんどで、それぞれの小教区がどのように歩んでいくのか、どのように宣教するのか、といった問題についてはほとんど話し合われていないというのが現状のようです。他の地区ではどうでしょうか。

この分かち合いを機会に、日頃の自分の宣教司牧活動を振り返ってみました。そこで見えたのは信仰共同体づくりや宣教活動における次のような点です。

口では「宣教が大事だ」、「共同体はこうあるべきだ」といろいろ言いながらも、実際にどのようにそれを実現するのかということまで考えていなかったり、また考えてみても分からなかったりする自分の姿があります。批判や理想を述べる口は持っていても、「述べたこと」を具体化する奉仕に誠実に励もうとしていないからです。

また「こうすれば、こうなるはずだ」、「こう言えば、こう動くはずだ」という自分の先入観にとらわれて、「そうならない方が間違っているから、仕方がない」という思いであきらめていたり、切り捨てていたりする部分があるような気がします。自分の考えに固執してまず周囲を変えようとし、自分の思い描いていた道筋をたどっていない状況を見て「変わっていない」、「まだ無理だ」とただ悲観的・批判的になるだけで、実はいろいろなところで芽生えている変化の兆しを捉えきれないでいるときもありました。

信仰共同体の一人ひとりの思いを知り大切にしようという姿勢、特に困窮の中にある人々の叫びを真摯に受けとめようとする姿勢が、まだまだ不十分なのです。

また長期的な展望を示して計画的に事を進めようとせずに、何とかその場をこなし(たと思って?)満足していることもあります。その時の私はただ自分の充足感に酔ってしまって、共同体の成長を妨げているということに気づいていません。そのような中では共同体への関わりも一貫性がなく、話し合いもその場かぎりのものになったりします。

ところで今年1月福岡教区宣教司牧評議会の第一回目の集まりが開かれ、私も評議員の一人として参加しました。その中で幾人かの評議員の口から出てきたことばに「この会の性格、立場がよくわからない」というものがありました。これはこれまで司祭、修道者、信徒が一体となって教区全体の宣教司牧について考える場がなかったこと、或いは多分この会の「諮問機関」という位置付けに対して「平等なはずなのに」という気持ちが漂う中での話し合いになったような気がします。

数年来、教区内外のいろいろなところで誠実にキリスト者の使命に生きようとする人々のことを意識して聞いたり、見たりしてきました。そのような人たちの真心を受けとめ、彼らの働きをさらに広げていく手助けをするのが宣教司牧評議会の重要な務めだと思います。

その第一回目の集まりから半年以上が過ぎました。私も副議長を仰せつかったにも拘わらず、この原稿を依頼されるまで、正直に言って何も動いていませんでした。近々第二回目の集まりが招集されるとのこと。議長さんを補佐する者として、上に挙げた点に注意しながらもっと積極的に与えられた使命に生きたいと思っています。

教会について考える (5)

新約聖書は、例えば新聞記事やニュースのようにリアルタイムで報告された書物ではありません。あくまで、復活したキリストと出会った使徒たちが、その体験を中心にして書き記されたものです。

つまりキリストの復活の出来事から、最も古いパウロ文書でも20年程後に書かれたことになります。

また、イエスが墓から蘇られる光景を見た者は誰もいません。あくまで十字架で亡くなったはずの方が、人々の前に現れた、と言います。「現れた」というのは、何か幽霊のような印象を与えますが、それは、イエスが「自らを見せること」を意味します。つまり、イエスは自ら望む人に、望む時にご自分を現されたわけで、それは弟子たちの側からすると、彼らの内的な体験であったとも言えます。

教会は、この弟子たちの体験からスタートしました。十字架上で御父に、そして人々に「霊を渡された」(ヨハネ19・30フランシスコ会訳聖書)イエスは、復活後、弟子たちに息を吹きかけて「聖霊を受けなさい」(同20・22)と言われ、弟子たちの心を創り変えられます。師を裏切り、あるいは否定し、弱さを露呈してしまった弟子たち、彼らの心は閉ざされ、挫折感に満ちていました。イエスが死から生命へと過越されたように、彼らの心もいわば神との交わりを絶たれた状態から解き放たれていきます。この復活体験が土台となって、五旬祭の日、霊が降って、ペトロは大勢の群衆の前で、高々に説教しその日「3000人ほどの人が仲間に加わる」(使徒2・41)ことになります。その場に居合わせた人々は、ユダヤ人のみならず、周辺のあらゆる民族、言語に属する人々でした。

そこには神の働きがごく限られた人から、世界中の人に及んでいく過程が記されています。

私たちの信仰の中心は、復活、すなわち過越しの体験です。今の自分があるのはあの方のおかげ、あるいは自分が最も苦しかった時に頂いたある方の励ましの言葉、あるいはある方との出会いによって生き方が変わって、今の自分がある、そんな体験です。人知を超えて「私たちが求めたり、思ったりすることすべてをはるかに超えてかなえることのおできになる神の働き」(エフェソ3・20)を信じる人々が教会を創ります。ですから教会とは、建物のことだけを意味するのではありません。あくまで、復活したキリストと出会った人々の集いと言うことが出来るでしょう。

私たちも弟子たちと同じように「復活の証人」としてキリストを証しする者となりますように。

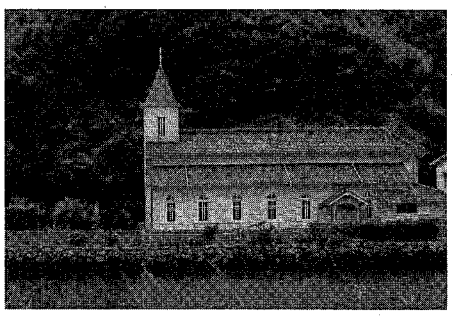
パウロは自分が受け継いだ教えとして、次のように述べています。「キリストは、聖書に書いてあるとおり私たちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。」(1コリント15・3~5)これは最も古い信仰宣言と言えるでしょう。

森山信三神父
(戸畑教会主任)

自由席

上五島巡礼

黒崎 広治


海辺に建つ中の浦教会

大名町教会と能古島巡回教会では、7月7日・8日の二日間、上五島巡礼の旅に出かけました。主任司祭の青木悟神父様以下34人の巡礼団で、フェリー太古の二階特別室を埋め尽くし、深夜発の便で一路上五島を目指しました。

午前7時10分、上五島若松港着。八つの教会を巡る予定でしたが、バスガイドさん、運転手さん(共にカトリック信者さん)のお計らいで、一〇の教会を案内して頂くことができました。

懐かしい「天主堂」の文字を掲げる、古びた教会の静かな佇まい。不揃いの赤レンガの1枚1枚に偲ばれる、この島の先祖の人たちの汗と涙の奉仕の跡。時代を感じさせるこうもり天井。素朴な輝きのステンドグラス、等々。

また、ガイドさんがこの4月まで大名町教会の助任司祭だった浦川務神父様のお知り合いとかで、各教会ごとの温かく心のこもったご説明は、巡礼者である私たちの心に深く沁み透って、上五島の先達の方々の、血と涙にまみれた信仰の証を、実感として私たちの胸に受け止めることができました。

翌日は朝8時に出発。国の重要文化財・頭ヶ島教会(ここでは生憎の土砂降り)巡礼のあと、新築の青方教会で、青木神父様司式によるミサに与り、思い出深い上五島巡礼の旅を終えました。

12時30分青方相川港出発。こんどは日中なので海の眺めが抜群。特に生月・平戸島から松浦・唐津・能古島・博多港と、目をみはる美しい景色は、殆んど海側から眺めた経験のない私たちには、この巡礼旅行の最後を飾る素晴らしいお恵みとして満喫致しました。感謝!18時55分博多港着。解散の時の皆さんの輝くような目と、喜びに満たされたお顔が印象的でした。

大名町教会宣教部

私とトルストイ

福吉 新

私には愛読書が二冊ある。その著者はトルストイ。

トルストイと言えば読書好きなら誰もが知っているロシアの文豪「レフ・ニコラーイエヴィッチ・トルストイ」。

著者の人生は、正教会からの破門、妻との確執で家出、最後は寒村の駅舎で病死と言う過酷なものだった。

私は彼の生き方に共感はできないが、著書には私の人生を左右するほどの感銘を受けた。それも『戦争と平和』等の長編ではなく、短編。

一冊は童話で「イワンの馬鹿」。もう一冊は民話集で『人は何によって生きているか』(女子パウロ会出版)。そこには聖書にかかれている教えが、彼の生きた時代を社会背景として描かれているが、現代社会に生きる私たちも考えさせられるものがある。

前書は小学校から読み返しており、後書は悩み多きときに出会った本で、「愛のあるところには神はまします」、「人間には多くの土地が入用か」、「ろうそく」、「人は何によって生きているか」の4編が収められている。

彼のような文豪が童話や民話を書いているとは意外に思われるが、内容は聖書に出てくる譬え話などを基に書かれ、私の道標として座右の書となっている。

特に、前書は私が中学生の頃から理想と思っていた生き方である。物語は欲深い軍人と商人の2人の兄に対し、馬鹿と蔑まれていた無欲で勤勉なイワン。この無欲と勤勉さが悪魔たちの仕掛けた巧妙な悪巧みに打ち勝ち、理想の国の王となる。作者は主人公「イワン」を馬鹿に仕立てているが、そこにはキリストのあらゆる誘惑に打ち勝つ強さと全ての者をゆるし受け入れる愛が綴られている。また、イワンは父のように生きることは、人々に善い行いをすることであると悟る。これはまさに、御父のみ旨に生きるキリストの姿そのものである。

小倉教会信徒

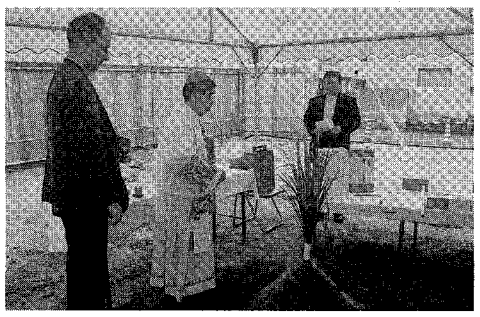
むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室(洗面トイレ付)／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ(赤)(白)
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

佐賀カトリック幼稚園新園舎起工式


建設地を祝福する松永司教

6月25日（金）、佐賀カトリック幼稚園（園長＝深堀勝人神父）において、新園舎建設のための起工式が松永久次郎司教司式のもとに行われた。当日は梅雨空で時折はげしい雨が降ったが、幼稚園職員や保護者をはじめ工事関係者などが参加し、幼稚園の発展と工事の安全のために共に祈りを捧げた。

式の中で司教は「子どもたちは未来の希望であり、わたしたちの宝です。この幼稚園が子どもたちにとって、ますますふさわしい環境になるよう、また、子どもたちが未来の素晴らしい担い手となるように皆で育んで行きましょう」と参加者に話し、幼稚園建設地を祝福した。

市内の中心に位置する佐賀カトリック幼稚園は1953年に開園し、今年で52年目を迎えた。園児数は現在76人で、新しい園舎は11月に完成する予定である。

泰星学園で東ティモールデスク報告会

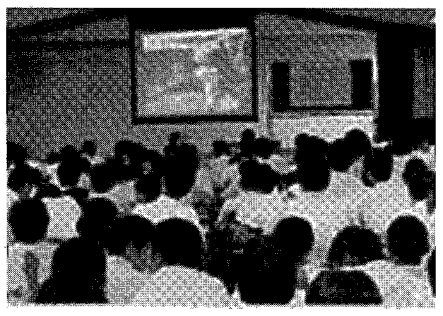
7月10日（土）、泰星中学高等学校（校長＝曽根忠明神父）において日本カトリック司教協議会東ティモールデスク主催の現地報告会が行われた。

報告者は、同デスク所属の徳恵利子氏。徳氏は2001年から現地駐在員として東ティモールで活動している。

今回、一時帰国中で、西日本（広島・長崎・下関など）で報告会を実施しており、その一環として福岡でも開催された。

東ティモールは2002年に独立した世界で一番新しい国。独立に当ってはインドネシアとの間で紛争があり、困難な状況が続いた。

日本の教会では独立前から東ティモールの自立を支援してきており、今回は独立後の東ティモールの最新状況が報告された。


東ティモールの映像に見入る参加者

報告会の中で徳氏は現地の美しい自然を映像で紹介する一方で、独立後の問題点として、国家運営の経験がないことや産業基盤がないことをあげた。

人口の90％が農業か漁業に従事している。また、中古車を仕入れてタクシーをしたり、露天で商売をしている人々も培に依存しており、それ以外の産品は国内での流通組織がないため、余っている物も輸入してみたり、と課題が山積みしている。

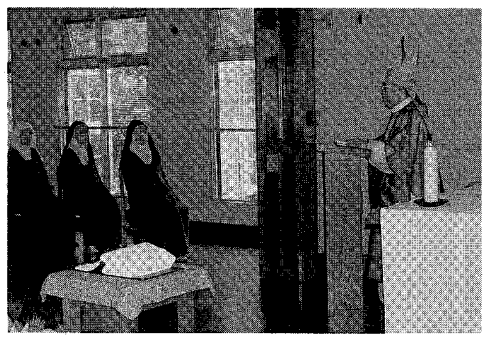
その様な社会の中で徳氏は漁師のコミュニティーに入り、モーターの貸し付けなど地域に根ざした自立のための支援活動を行っていることが説明された。

当日、会場で東ティモール農家の自立を支援するため、東ティモールのコーヒーが販売され、実際に産品を手にした参加者の好評を博していた。

報告会には、教会関係者や福岡雙葉中学高校と泰星中学高校の学生を含め、30人余りの参加者があり、若者たちは、初めて見聞きする異文化を真剣に見つめ、次々と質問をしていた。

これから先、このような若い世代が新しい国際関係を築いていくであろう。教会がそのかけ橋になっていることは素晴らしいことである。

福岡カルメル山の聖母修道院祝いの日


7月16日（金）、女子跣足カルメル修道会（院長＝Sr市田美子＝福岡市西区今宿）において、カルメル山の聖母の祝日を祝うミサが松永久次郎司教司式で行われた。

福岡のカルメル修道会は「カルメル山の聖母修道院」としてこの日を特別な思いで毎年祝っている。説教の中で司教は「この福岡の地にカルメル修道院があることは、大きなお恵みです。全ての人のために、また特に福岡教区のためにこれからも神様のお恵みをお祈り下さい」とシスター達を励ました。

教区正義と平和協議会記念講演会を開催

教区正義と平和協議会では7月3日（土）、カテドラル大名町教会で総会ならびに記念講演会を開催した。講師に大阪大司教区の松浦悟郎司教（日本カトリック正義と平和協議会会長）をむかえ、「今　選択の時を生きる」と題して行われた講演に、集まった人々は熱心に耳を傾けた。

松浦司教は、現代の世界が直面する問題、また国際社会の中で日本が何を選択し、どこへ向かおうとしているかについて、具体的事例を挙げながら言及した。

日本国憲法の基本理念、すなわち国民主権・戦争の永久放棄・基本的人権は世界に誇るべきものである。今日、憲法改正への動きを急ごうとしている状況がある。日本の教会はその動きを注視し、平和憲法に深い関心を寄せていることを述べた。

松浦司教は、人を殺し合う常識に対する、もう一つの生き方は可能であると述べた。そのために、私たちが世界の悲惨な出来事を創造力をもって見直し、考えることが大切である。そして現実を直視する感性を持たなければならない、と諭した。

救いとは何か。それは神の国の完成であり、その建設に関わることである。参加者は、カトリック信者として、人々の解放と救いに参与することができる、との力強い確信を抱いた。

木かげ

70年来、祈りの深みに入ろうと思ってきたわたしは、わたしにも読者にもためになる祈りの準備の方法を見つけました。それはユダヤ教の本で古くからある指導書の中にありました。ユダヤ教徒であるイエスでさえこのような指導を受けたでしょう。その中のいくつかをご紹介します。

祈りの準備

(1)時間または場所を定める

一番妨げのない時間、電話、携帯、客が来ないはずの時間、とにかく神と交わるために邪魔がはいらない環境をつくる。現代社会に住んでいる私たちにとってこの時間を見つけるのは簡単なことではないかも知れません。

場所はできるだけ清潔で祈りにふさわしい場所を選びましょう。神はすべての美のもとだからです。場所を決めると声を出して『この場所を祈りの場所とします、神の霊がここに宿りますように』とします。ろうそく一本か二本とか、香、香りのいい葉などを置いたらよいでしょう。ろうそくの火は神殿でのろうそくを思い出す、香りはエデンの園の香りを思い浮かばせます。昇って行く煙は昇って行く祈りをあらわしています。

(2)体の準備

トイレは先に済ましておくとよいでしょう。祈りの間は心が天から呼び戻されないように。

手を洗うしるしもあります。これによって清くなります、ふさわしくない思いなどを洗い落として日常のせわしさから離れます。

軽い運動によって祈りに使う自分の体全体を準備する。こうすれば頭は落ち着いてきます。私たちは神から受けた息を使って神を賛美します。

(3)祈りの前と後は人との会話を避けるほうがいいです。

沈黙は後に使う言葉を聖化します。しかし愛徳のために人に挨拶をしてもいいです。

神に話す前に心の底で祈る願望を起こします。この願望がなければこれを受けるように神に頼みます。

自分の罪を後悔します。罪を後悔しないと神の赦しを受けることはできません。

神の赦しを受けるために自分の罪を告白します。

神の赦しを受けたことを感謝します。

神を賛美します。

祈りの終わりに十字架のしるしをします。

祈りの前と後は人との会話を避けるほうがいいです。

祈りの準備は祈りの深みに入るためです。

祈りの準備は祈りの深みに入るためです。

祈りの準備は祈りの深みに入るため

召命は、生きる キリストとの出会いから

福岡黙想の家ご案内　8・9月

◇1日(日)～7日(土)　サレジオ会黙想
◇9日(月)～18日(水)　幼きイエズス修道会黙想
◇19日(木)～28日(土)　幼きイエズス修道会黙想
◇29日(日)～9／3日(金)　オブレート会黙想
＊8月中の「祈りの日(火)」はお休み。

9月
◇4日(土)～5日(日)　結婚講座のための黙想
◇12日(日)～13日(月)　オブレート会福岡地区会員黙想
◇15日(水)　ミカエル会
◇16日(木)～17日(金)　カトリック児童施設職員研修会
◇19日(日)～20日(月)　九州アシュラム
◇22日(水)～23日(木)　聖母カテキスタ会黙想
◇27日(月)　日本バプテスト

10月
◇1日(金)～3日(日)　マリッジ・エンカウンター(ME)

[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

カトリック教会のカテキズム

日　時：2004年8月29日(日) 15：00～17：00
　　9月26日(日) 15：00～17：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：1回　500円
主　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第三期神学講座
⑤2004年9月19日(日) 13：30～16：30
「奉仕の秘跡　叙階・婚姻」　田中重治神父
♣聖書講座
2004年9月4日(土)・18日(土)
講師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
場所：手取カトリック教会
主催：熊本地区信徒使徒職協議会

2004年度 北九州地区聖書講座

日　時：9月12日(日) 14時～16時30分
テーマ：草創期の教会Ⅱ
講　師：森山信三神父神父（戸畑教会主任）
場　所：小倉カトリック教会
費　用：1回500円
問合せ：北九州地区信徒協

R.カンタラメッサ神父の特別黙想会案内

日　時：2004年8月23日～26日
場　所：長崎大司教区カテドラル浦上教会
テーマ：「イエス・キリストに招かれて」
参加費：自由献金
対象者：信徒・修道者・司祭　申込み不要
指導者：教皇聴罪司祭・教皇担当説教者／元ミラノ大学宗教学部長・初代教会史教授
主　催：カンタラメッサ神父指導による黙想会実行委員会
問合せ：カトリックファミリーセンター
☎092-541-6207　FAX 092-552-5022

案内版

9月のこよみ

9月
3日(火)　†P.コトレル［1928年熊本地区で宣教］
5日(日)　年間第23主日
筑後地区スポーツ大会（大刀洗運動公園）
7日(火)　**司祭評議会（司教館10時半）**
8日(水)　聖マリアの誕生
10日(金)　日本205福者殉教者
12日(日)　年間第24主日
†A.セトアイン［2003年イエズス会］
14日(火)　十字架称賛
14日(水)　悲しみの聖母
15日(木)　†A.ヒューゼ［1944年司教館］
17日(金)　†P.オジョニ［1982年ロザリオの園］
19日(日)　年間第25主日
20日(月)　聖アンデレ金と同志殉教者　敬老の日
福岡地区信徒協研修会［カテドラル］
23日(木)　北九州地区信徒協レクレーション　秋分の日
26日(日)　年間第26主日
世界難民移住移動者の日（献金日）
29日(水)　聖ミカエル・聖ガブリエル・聖ラファエル
†Y.ヴィオン［1969年司教館］

8月のこよみ

8月
1日(日)　年間第18主日　**久留米教会堅信式**
4日(水)　聖ヨハネ・マリア・ビアンネ
†M.ボンカズ［1991年田川教会］
6日(金)　主のご変容
日本カトリック平和旬間［～15日(日)］
†E・ベノア［1962年門司港教会］
8日(日)　年間第19主日
平和を祈る集い福岡地区（カテドラル13時）
平和を祈る集い北九州地区（小倉教会11時）
12日(木)　†A・ブルトン司教［1954年第2代教区長］
†J・オサリバン［1983年熊本地区長］
13日(金)　和田墓地開放（～15日）
14日(土)　聖マキシミリア・マリア・コルベ殉教者
†木村義巳［1967年馬渡島教会］
15日(日)　聖母の被昇天
教区和田墓地ミサ（14時）
17日(火)　教区召命学校（召命の家：～19日）
18日(水)　†堤要吉［2002年浄水通教会］
19日(木)　†川口康頼［1991年小神学校校長］
20日(金)　†L・デシャンブ［2001年八王寺本部］
†D・グリフィン［2001年玉名教会］
27日(金)　**福岡地区婦人会感謝ミサ**（カテドラル10時）
28日(土)　聖アウグスチヌス司教
29日(日)　年間第22主日　**ゴチックは司教日程**

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：聖人の祈りに学ぶ　日本の伝統文化に基づく霊性
※祈りの集い
・9月9日(木) 10時～15時
テーマ：聖フランシスコ・X
指　導：Sr.マリアとFr.フランコ
※黙想会
日　時：8月4日(水)17時～12日(木)13時
問合せ先：真命山
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

カテドラルでのゆるしの秘跡

日　時：8月7日・8月21日・9月4日・18日　10時～12時
場　所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂

◆福岡

■第4回九州キャンプ（青年）
［日時］8月28日（土）13時～29日（日）13時終了［場所］新田原カトリック教会［テーマ］和（なごみ）［対象］青年ならOK！［参加費］3000円［問合せ］薬真寺健臣（光丘教会信徒）☎090・5023・7446

■生と老いと死を見つめる会
［日時］8月22日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［講師］中河原史子氏（臨床心理士）［内容］「よく聞くコツ」―傾聴について―［参加費］700円［問合先］☎092・713・8523大山／607・6992村尾

■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］9月12日（日）14時から［場所］大名町カトリック教会4階［内容］子宮癌について［講師］井村靖規医師（福岡市民病院婦人科）［参加費］一般700円：会員無料［問合せ先］☎092・874・6321小林・深堀

■チャリティーコンサート
［日時］9月23日（秋分の日）16時開場［お話］竹中賢治医師（福岡市民病院長）［演奏］太期晴子さん（あいれふ四重奏団メンバー）のヴァイオリン［場所］サン・スルピス大神学院大聖堂［入場料］1200円［主催］福岡ホスピスの会☎092・874・6321

■ユリアナの会
［日時］9月23日（木）14時から16時［内容］⑦「乳児期～児童期を中心に発達精神医学」［場所］福岡黙想の家2階会議室［講師］小宮豊医師（小宮クリニック院長）［参加費］無料［主催］ユリアナの会（精神障害者支援の会）［問合せ］☎0940・38・8915（11時～16時／月～土）☎0940・32・3222（黙想の家）＊8月は休会

■第32回出会いの集い
［日時］9月23日（秋分の日）9時半から17時［場所］大名町カトリック教会［ミサ］青木悟神父（大名町教会主任）［インストラクター］吉川信雄氏（光丘教会信徒）［対象］20歳以上の独身男女［参加費］2000円（昼食代含む）［申込み］☎090・4347・3319前野［締切り］9月12日

■在世フランシスコ会集会
［日時］9月26日（日）14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［次回］10月24日（日）［指導］小池如安神父［問合先］☎0924・3・5831岩崎

■第94回福岡結婚準備講座
［日時］9月11日（土）から10月6日（水）までの毎週水曜日と土曜日の全8回19時～21時半［場所］大名町カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎092・541・6207　FAX 092・552・5022ファミリーセンター

■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、男性用夏物衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者も募っています。［問合先］☎092・431・1419

第1回ふくおか キリスト教学校フェア

福岡市内全てのキリスト教学校が参加し、その目指す教育を紹介します。
＊福岡海星女子学院高等学校
＊泰星中学高等学校
＊福岡雙葉中学校・高等学校
＊福岡女学院中学校・高等学校
＊西南学院中学校・高等学校
日時：8月7日(土) 10時から
会場：大名町カトリック教会
基調講演：Sr.渡辺和子
演題：心の教育と親の教育
※参加校生徒による「私達の学校紹介」／「音楽の調べ」等
◎開館中の出入りは自由です。
主催：実行委員会

◆北九州

■小倉カトリック祈りの集い
［日時］8月27日（金）13時半～15時［指導］ガブリエル神父［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」をあじわう・賛美と感謝の祈り［次回］9月24日（金）［連絡先］☎070・5538・6186安藤

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］8月18日（水）10時～12時［日時］9月8日（水）10時～11時半［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］9月22日（水）10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎0952・72・7536吉田

■聖書を読む会
［日時］（8月は休会）毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］ルカ福音を読む［講師］マルコ・ヴィッラ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754マルコ・ヴィッラ神父

◆熊本

■第75回熊本結婚準備講座
［日時］9月6日（月）から10月4日（月）毎週月曜日と火曜日の全8回19時から21時30分［場所］手取カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合先］☎096・352・3030　FAX 096・352・1515（安部）

編集後記

この夏の様々な行事・出来事などを教区報編集部までお送りください。皆様の協力をお願いします。
福岡教区報9月はお休みです。次号は10月になります。
夏バテ・熱中症には十分注意してお過ごしください。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
電話 092-721-2032　FAX 092-739-3930

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

ヨハネ・パウロ二世教皇「聖体の年」を宣言

福岡教区聖体奉仕者養成講座始まる

――キリストの聖体に奉仕する心を新たに！

教皇ヨハネ・パウロ2世は、今年10月10日から2005年秋までを「聖体の年」として制定した。教皇は、全世界のカトリック信者に向けて、教会のいのちの源である聖体に集中するようにと招いている。聖体の年の幕開けに先立ち、福岡教区では聖体奉仕者養成が本格的に始動した。


福岡教区の聖体奉仕者をめざす人たち

聖体の特別年

聖体の年は10月10日、メキシコのグアダラハラで行われる国際聖体大会の開会をもって始まる。日本からも溝部脩司教（高松教区長）を団長とする巡礼団が参加する。この聖体の特別年の結びには、「教会生活と宣教の源泉と頂点である聖体」をテーマにシノドス（世界代表司教会議）が招集されている。

福岡教区の熊本地区では、10年にわたって永久聖体礼拝が続けられてきた。10月16日（土）に聖体大会が健軍教会で開催される。

この一年間、特にカトリック信者一人ひとりが聖体の教えについての学びを深め、正しく熱心に聖体拝領し、聖体訪問などに励むことが勧められる。すでに毎年実施している小教区もあるが、聖体行列も、聖体に対する信仰を力強くあかしするものである。それぞれの教会の状況に合わせ、近くの小教区などと協力・連帯して、聖体が教会の中心であるとの理解を深め、実践へと結びつけて行きたいものである。

聖体奉仕者養成はじまる

福岡教区では、9月5日カテドラル大名町教会に103人の聖体奉仕者をめざす人たちが集まり、養成講座がスタートした。奇しくもこの時に、教皇の呼びかけによって聖体の年が宣言され、教区民にとっても聖体の信仰がいっそう鼓舞されることになった。

聖体と宣教

聖体の年の「世界宣教の日」（10月24日）に宛てたメッセージの中で、教皇は聖体と宣教が切り離すことのできないものであることを述べている。「聖体が教会を築き、教会が聖体をつくる」。聖体が目指すのは「人類がキリストと交わること、そしてキリストのうちに御父と聖霊と交わること」である。私たちは感謝の祭儀にあずかり、主の祭壇を囲むとき、あがないの普遍性と同時に、教会の宣教の使命が急務であることを深く理解することができるようになる、と教皇は指摘している。

折に触れて教皇はカトリック信者一人ひとりの人生での聖体の重要性を強調して来た。聖体が持っている「変える力」は、信仰を生き、福音を伝えるための勇気をもたらす。

教皇は「世界を福音化するためには、聖体の祭儀、礼拝、観想に精通した使徒が必要」と述べている。私たちは聖体を生きるために、この一年、聖体の前で祈ることを大切にしていきたい。

召命の集い

テーマ：『ほら！目の前に！！
キミの生きる道！！！』
日　時：2004年11月3日(水)
8時30分　受付開始

《作品募集》

テーマに沿った絵画・作文・習字など。個人作品、共同作品どちらでもかまいません。優秀作品は表彰させていただきます。

締め切り：10月20日必着
送 付 先：福岡サン・スルピス大神学院「召命の集い」実行委員会
問い合せ：山添神学生
☎092-864-4203

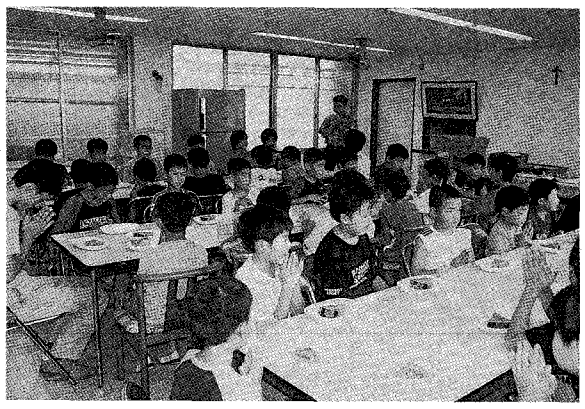
10月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】　信仰に堅実で対話に開かれたキリスト者
【布教の意向】　ラテン・アメリカの生活と広報における カトリック者のふさわしい存在
【日本の教会の意向】　宣教と広報活動

イエス様が僕を呼んでいる　召命の家

教区召命学校（担当：久留米教会主任浦川務神父）が、「イエス様が僕を呼んでいる」をテーマに8月17日から19日に福岡市浄水通の召命の家（旧小神学校）で開校された。福岡、熊本の両県から39人の元気のよい男の子が参加した。すっかり大きくなった召命学校常連のメンバーと新しいメンバーとが一緒に召命について考えながら、祈り、グループ活動、レクレーションなど盛りだくさんのプログラムの3日間を過ごした。



2日目の午前中は、子どもたちが楽しみにしていた川遊びだった。最近、川遊びする子どもの姿は見かけなくなったが、この日だけは仲間と共に遊ぶ子どもたちの元気な声が一面に響き渡っていた。

グループ活動では今年のテーマのもと、み言葉に触れ、互いに教え合いながら分かち合い、一人ひとりが召命についての決心を立てた。

最終日のミサは松永久次郎司教が司式し、「誰」かが司祭召命の道を歩むだろうという「誰」とはどこにもいません。自分こそが召命の道を歩むという気持ちが大切です。ここに集まった皆さんのなかから一人でもたくさんの人が神学校に進むようにお祈りしていますと励ましていた。

閉校式では一人ひとりが立てた決心を皆の前で発表、班のメンバーに別れを告げ今年の召命学校は閉校した。子どもたちは自分が立てた決心を胸に各々の帰路についた。

訃報

J・P　ラベル神父

（サン・スルピス司祭会）

8月7日、カナダ・モントリオールで帰天。

享年84歳。1951年に来日、94年まで43年間福岡サン・スルピス大神学院で司祭養成者として神学生の指導に当りました。大神学院では主に倫理神学、教会法、カテケジスを教えた。福岡教区では教会裁判所「絆の保護官」として勤め、日本カトリック司教協議会で「教理司教委員会」の顧問なども勤めた。ローマでの司教シノドスで里脇大司教や安田大司教の神学顧問としてそれぞれ出席している。

T・グローガン神父

（聖コロンバン会）

7月29日東京の聖母病院で肺がんのため帰天。享年81歳。1950年来日し、福岡教区で司教秘書、熊本の人吉教会や福岡の美野島教会（現司牧センター）の主任として司牧された。80年に福岡教区を離れ大阪、東京、横浜教区で司牧にあたっておられた。

マリアクララ　宮澤ふさみ修道女

（マリアの宣教者フランシスコ修道会会員）

8月23日、熊本の修道院で64年間の修道生活を全うし帰天された。享年91歳。修道生活の大半を熊本で、特に修道院の近くの島崎教会で子どもたちを慈しみ深く指導された。

豊田純江修道女

（ショファイユの幼きイエズス修道会会員）

9月1日、熊本の同修道会経営のイエズスの聖心病院で肝細胞がんのため帰天。享年71歳。1972年終生誓願で40年余りの修道生活を通して看護師として、病院や保育園などで献身的に働かれた。

センバジール　谷口ミサエ修道女

9月16日、仁川の上ヶ原病院で帰天。享年66歳。養護施設で保育士として奉仕した後、大神学院で調理担当として、直腸がんに侵されながらも神学生のために心のこもった食事を供した。

時の話題

Sr.角　鵜子

台風18号が日本を通過し、各地の被害も大なり小なり足跡を残しました。『その台風の強風で北海道大学のポプラ並木が倒れた。・・・モネのように最後を見届ける人もなく突然なぎ倒されたのだろう』（朝日新聞9月15日天声人語）の記事を読み、倉敷の大原美術館でクロード・モネの作品『睡蓮』を鑑賞したことを思い出しました。日本の私たちには、なじみ深い夏の花ですが、北ヨーロッパの人には、色鮮やかな熱帯性の睡蓮は憧れの的だといわれます。モネは県知事に手紙を出し、造園の許可を取り付けてまでも、眺めて楽しむ睡蓮の池を造りました。池の光と色彩の魅力が彼を捉え、朝日や日没の光に輝く睡蓮に魅せられた彼は、数多くの絵を残してゆきました。また、彼の作品に『ポプラ、4本の木』があります。水辺のポプラを描き、空間そのものを変容させた絵画でした。伐採されるはずのポプラに、お金を出し延期させて描いたといわれるその作品には、ポプラの中に自分がいるかのように感じさせる何かがありました。それは、彼の死の一年前に残した言葉『だれもが「私の芸術」を論じ、あたかも理解しなければならないかのように、理解した風を装っているが、本当は、ただ愛しさえすればよいのだ』というなかに理解できるものでした。

最近、権力の下に人があって、国の利益だけを求め、互いに許せない現実にいることを見るとき、心が痛みます。真の愛に生きる勇気を願いたいものです。

（カノッサ修道女会・明光学園校長）

最近思うこと！

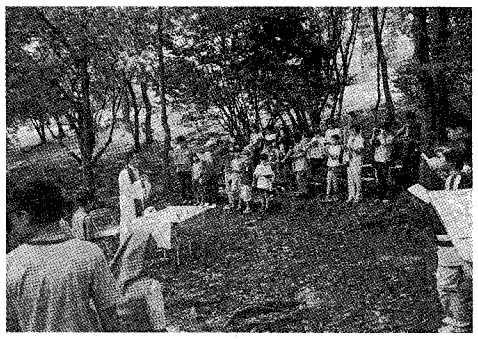
みちくさ

相次ぐテロ、人質事件、殺戮、幼児虐待…。昨日も尊い命が失われた。人の命の、なんとはかないことか。生きたいと望む者の命が絶たれた。こんなにも悲しい、こんなにも苦しい状態が、この世界に存在している▼傷つけ、奪うことが、人間にとって自己を実現する方法であろうか。他人を無視して、他人の持つ権利を侵害して、自分をよく保つことなど果たしてできようか。人は自分一人で生きることはできない。人は関わることなくして生きられない存在なのだから▼人々の悲惨をにじませた大地。この大地そのものが呻きをあげている。争い、倒れた者の血を飲むことにもう耐えられない。人々の涙を飲むことに、耐えられない▼世界が新しい朝を迎える。この朝に、人は何を思うか。この日も武装して顔も心も固くこわばらせながら戦場へ向かおうとするのか。今日は争うまい、そう決意するのか。どちらも人の心にかかっている▼子どもを悲しませてはならない。彼らの瞳を、涙で曇らせてはならない。子どもと向き合うときに、まず自分の心と向き合う。大人の心にある心配や不安は、すぐ子どもに伝わる。弱く、今にも押しつぶされそうな自分でいながら、それを乗り越えて、子どもの心にしがみつきたい。勇気を出して、心を熱くし、命を燃やして引き寄せると、抱きしめた腕の中で、未来を望み、生きたいと願う子どもたちのいのちの鼓動が伝わってくる▼一人ひとりのいのちの輝きを取り戻すことができたら、深い闇がたちこめるこの時代に、希望の道筋を照らし出すことができるだろう。いのちが輝くその一瞬のために、いのちのぬくもりを共に伝え合ってゆきたい。

2004年それぞれの夏

熊本地区サマーキャンプ

菊池



今年のサマーキャンプは8月6・7・8日の三日間、菊池少年自然の家で行われました。今年は、大牟田教会から14人の参加もあり、スタッフ23人の総勢75人でした。

テーマは「出会い」（イエスさまってどこにいるの？）。いくつかの班に分かれて、与えられた聖書箇所について分かち合い、キャンプファイアーのときにテーマに沿った聖劇を発表しました。

子どもたちの感じたことは様々でしたが、とても素直な意見が数多くあり、スタッフも信仰生活について考えさせられました。

2日目のハイキングは班毎にゲーム形式で行われました。その後の川遊びでも、木に取り付けられたロープを使って川に飛び込んだりと元気な姿が光っていました。

3日目には中村彰神父司式で野外ミサが捧げられ、鳥や虫の鳴き声をバックに大きな声で聖歌を歌いました。

例年のこととはいえ、今年も指導に当った中村神父、川添猛神父、S・アルフレッド神父、井手神学生、大塚神学生、シスター益田、リーダーたちをはじめ、時間をかけて準備してくれた運営スタッフの大きな努力が、子どもたちばかりでなく、サマーキャンプに関わった全ての人々に「出会い」という宝物を与えてくれた機会となりました。

FYCC2を開催

大神学院



FYCCとは、福岡の小教区に属する青年有志の企画・運営による中高生のための集いである。

7月30日から8月1日にかけてサン・スルピス大神学院に32人の中高生が参加し、昨年に続き第2回目が行われた。青年有志によるFYCC2実行委員会の数カ月に亘る準備には自分達の勤務の余暇全てを使い、誰かの家や教会で夜明かしすることもしばしば。意見の食い違いが出てくると分ち合いを重ねひとつの線に全員が並ぶまでじっくりと待つ、それは数日になることもあった。もともと、この分野には知識も経験も乏しい青年たちが、それぞれの持っている多彩なタレントを持ち寄り、ゼロから作り上げていった。「中高生のために！」というひとつの気持でつながり、一切の妥協はなかった。

少子化社会に加え、中高生や若者の教会離れはどこに行っても聞かれる言葉だが、この若者たちにはそんな懸念を吹き飛ばすパワーを感じた。

あとはこのパワーを受け止める包容力だと思う。しかし、この若者を支え協力した修道女や司祭、そして有志の婦人たちの献身的奉仕の存在に福岡教区の希望がそこにあることを確信した。

九州青年キャンプ『和』（なごみ）

新田原



今年で4回目となる九州青年キャンプ（今回代表＝薬真寺健臣：光丘教会）が8月28日、29日の2日間、北九州の新田原教会で行われた。沖縄を除く九州各県から約70人の青年達が、『和～なごみ～』をテーマに集まった。お互いが今感じていること、それぞれの地域で取り組んでいることを分かち合いながら、友だちの輪が広がっていった。

「教会から青年が離れていっている」という話を耳にすることがある。しかし、このキャンプに参加した青年たちを見ていると、そんなに心配することでもないのかな、と思ってしまう。参加している人たち一人ひとりが、とても純粋で強い力を持っていることを感じた。ただ、そのエネルギーを出す場がなかなか無いところに問題があるのではないか。今回のキャンプでつながった友だちと、これからの活動をともにしていけば、きっと多くの青年たちが集まり、教会活動を盛り上げてくれることだと思う。

キャンプの最後は、6人の神父と共に、フォークミサが行われた。手作りのフォークミサに、『最後のミサが一番感動した』とミサ典礼と迫力ある聖歌に感動していた。

参加者の感想＝初めて出会った方・再会できた方、今回の青年キャンプで出会う事が出来て本当に良かった！それぞれの場所でみんないろいろな事を抱えて頑張ってるんだなぁと思うと私もまだまだ頑張らなくては、と思いました。

薬真寺健臣代表＝このキャンプを通して神様からいただいた恵みを、今度は私たち参加者一人ひとりが周りの友だちに広げていきたい。そして、また新しい場所で、みんなと再会したい。今回、この私たちを支えてくださった新田原教会の信徒の方々、福岡教区の神父様方・信徒の方々に心から感謝申し上げます。どうも、ありがとございました。

北九州のCYGのキャンプ

夜須高原



北九州では、CYG（カトリックヤングガール：担当＝森山信三神父）が、8月2日から4日まで、恒例の夏のキャンプを行った。

大自然に囲まれた国立夜須高原少年自然の家（朝倉郡夜須町）を舞台に、子どもたちは新しい友だちと出会い、共に神を賛美した。キャンプは遊び、創作活動と、その内容は盛りだくさん。子どもたちはアイデアを出し合い、力をあわせて創作活動に取組んだ。

また、CYG運動会、きもだめし、アスレチック、渓流遊びに元気いっぱい体を動かした。

二日目の夜にはキャンプファイヤーが行われ、劇、楽器演奏、踊りなど、それぞれの班毎に趣向を凝らした出し物を披露した。このキャンプを通じて、参加した子どもたちは、大自然のすがすがしい息吹のなかで、神の創造の偉大なみわざを感じ、仲間とともに過ごす喜びを深く実感した様子だった。

教会について考える（6）

教会は、本来自分の苦しみや悲しみ、あるいはホンネをありのままに出すことの出来る場であるはずだと思うのですが、現実にはそのような場になっているとは言えないようです。よく、教会では「ヨソ行き」の顔をしていなければならないとか、自分の「闇」の部分をさらけ出すと白い眼で見られてしまう、などと言ったことを耳にします。

しかしながら、福音書を読むとイエスが当時の人々をありのままを受け入れてくださったことが記されています。そのことを考えるとき、私たちの教会のあり方も再考すべき点があると思います。

さて、今回からキリストが昇天された後の初代教会の様子を見てみましょう。使徒たちの上（いわば教会内）に降った聖霊の恵みは、そこに集っていたあらゆる地方から来ていた人々（つまり教会外）に及びます。使徒言行録は、共同体内で働く神の霊が、あまねく世界に及ぼされる過程が示されていると言えるでしょう。「その日にキリストを信じる仲間に加わった三千人ほど」（2・41）の人々は、使徒たちを中心にして教会の基礎をつくります。彼らは、「使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心で、また絶えず神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられました」（2・42、47）。使徒たちのようにイエスのそばでその話しを聴き、あらゆる「しるし」を目撃するのではなく、イエスはおられないのにまさに信仰を通じてのみ、キリストの業を受け継いでいくことになります。しかしやがて共同体内に危機が起こります。「そのころ、弟子の数が増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。」（6・1）それは生粋のユダヤ教徒からキリストに従った人々…いわば主流派です…と、そうではない半主流派との対立です。半主流派の人々は、臆することなく自分たちの不満を訴えました。「日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられている」（6・1）と。つまり2章42節にあったように相互扶助の原則が守られていないというわけです。使徒たちはこの訴えを無視することなく、真摯に受け止め、共同体内に起こっている差別に対して立ち上がり、7人の助祭制度という新しい組織をつくります。「こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った。」（6・7）このフレーズは使徒言行録の中で3回ほど出てくるのですが、非常に大切なことばです。教会は、こうして内部の問題を解決していくことによって、社会の必要に応え得る開かれたものとなっていくのです。初代の教会は、まさに家庭のように互いに助け合い、問題があればともに考え、解決に向かい、外に向かってアピールしていく教会へと成長していきます。その流れには現代の私たちの教会が学ぶべき点が多いと思います。

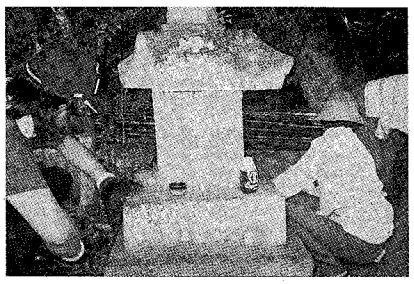
森山信三神父

（戸畑教会主任）

加賀山隼人の陵墓を有志が清掃

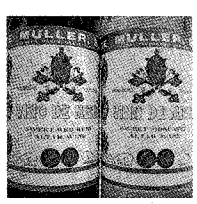
教区28殉教者列福祈願ミサ

日時：10月17日（日）14時　場所：カテドラル大名町教会



酷暑の8月6日に北九州地区の信徒が中心になって加賀山隼人の陵墓（田川郡香春町）の清掃が行われた。今回の清掃は信徒有志の呼びかけによって19人が集まり、4人の司祭も参加した。草に埋もれた墓地をきれいに清掃し、お墓を前に全員で祈りを捧げた。田川教会の信徒会館で昼食をとった後、加賀山隼人が埋葬されたという山のふもとに移動し、当時の歴史や状況に耳を傾けた。

第14回 むなかたてんてんまつり（10月11日）
特別講演：生きること死ぬこと
おはなし：Ｓｒ.渡辺和子
・シルバーコーラス・人形劇・バザール・お食事処・野外ミサ
…お待ちしてます。
PRAYER GROVE MUNAKATA
カトリック福岡黙想の家
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

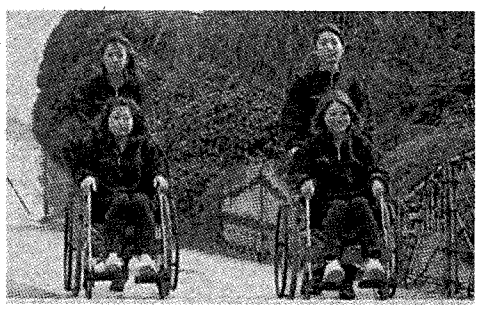
ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
カトリックのご葬儀
木下株式会社
ＴＥＬ092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和３丁目1-5

文部科学省の地域参画型短期大学に

久留米信愛

このたび、久留米信愛女学院短期大学（学長：高木善行師）が文部科学省より、平成16年度の「特色ある大学教育支援プログラム」を提供する短期大学として選定された。


これからの地域福祉を担う介護実習

このプログラムは文部科学省が、現在、大学が直面している少子化、大学全入学時代の到来といった危機のなかで、日本の高等教育機関である大学教育の「質」の向上を追求し、各校の模範となる優れた教育をしている大学を選定し、その模範校には参考として助成金を出す制度である。

今年度は全国約1200の大学、短大の中で534校が申請し、2段階による厳しい審査を経て58校が選定された。久留米信愛女学院短期大学が優れた教育を実践し、意欲的に取組みをしているとして評価され、選定されたのは「地方都市における地域参画型短期大学教育」部門である。

福岡市内5ミッションスクールが共同企画


学校紹介コーナーに立ち寄る参加者

8月7日（土）、キリスト教の教えを建学の精神としても つ、市内の5つのミッションスクールが協力し「学校フェア」が大名町カトリック教会で開催された。

当日、大聖堂でのオープニングセレモニーで「世界平和と子どもたちの未来のために」として各校の校長である司祭、牧師が祈りをささげた。

引き続いて、ノートルダム清心学園理事長であるシスター渡辺和子により、「心の教育と親の教育」と題した基調講演が行われ、中高生や小学生をもつ親を中心に約300人が、時折ユーモアを交えながら子どもたちの成長に対して親がどのように関わっていくべきか、熱く語るシスターの話に耳を傾けた。

午後からは、開催した5校による学校紹介が行われた。各校の生徒たちは、画像あり演劇あり、それぞれの学校生活をユニークに、また堂々と説明していた。

これに参加した人たちは、生徒自身による学校生活の紹介に、彼らが毎日の学校生活にとても前向きに取り組んでいることが感じられた。また、発表する生徒たちの生き生きとした表情から、その学校生活の充実ぶりが伝わって来るようだった。そして、参加した小学生の親たちは、パンフレットなどからは知ることのできない学校生活の様子を知ることができ、ミッションスクールの持つ可能性に触れることができたのではないだろうか。

各学校紹介のコーナーではパンフレットを手に入学試験の様子などを訪ねる親の姿があった。今後も、このような催しを続けることでミッションスクールの可能性と意義を示しながら、自らの可能性の追求にも期待したい。

福岡地区婦人会のモニカ祭

カテドラル


亡くなられた方々のために祈る松永司教

今年も8月27日（金）聖モニカの祝日に福岡地区婦人会のモニカ祭がカテドラルで開催された。ミサと追悼式の司式をした松永久次郎司教は説教の中で「聖モニカの涙は教会の偉大な聖人アウグスチヌスを回心に導きました。皆さんも聖モニカに倣い、祈りによって皆さんのお子さんたちを世界のため、また福岡教区のために働く司祭として捧げてください」と励まされた。

また、追悼式では昨年8月から7月までに亡くなられた教区の司祭・修道者をはじめ会員や縁りの方など百十一人の名前が静かに読み上げられ、故人を偲び祈りが捧げられた。毎年行われているこの追悼式では、祭壇近くに飾られた遺影を見て、「この方が…」と驚きと悲しみを見せる会員の姿もしばしばである。知人の葬儀に小教区が違っていて連絡が遅くなり参加しそびれてしまったのが、今日ご家族と一緒にお祈りできました、という声も毎年聞かれ、感謝される催しになっている。

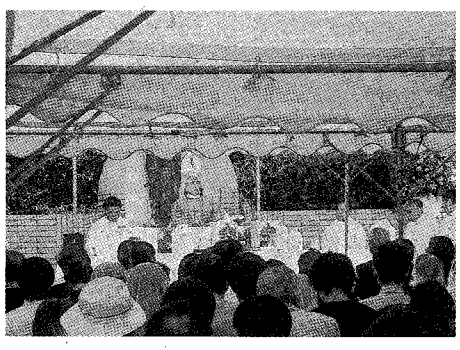
今年の平和旬間　福岡地区と北九州地区



講演中の池田香代子氏

今年もカトリック平和旬間に、各地で平和を考え、平和への熱い祈りが続けられた。

8月8日には、北九州地区「平和の集い」が小倉教会で開催され、約500人が参加した。今年は「子どもたちに平和な未来を贈るために」をテーマに、池田香代子氏（『やさしいことばで日本国憲法』訳者）による講演と平和祈願ミサを行った。



福岡地区でも、同日、大名町教会で約400人が参加して「平和を祈る集い」が開かれた。第一部の講演では、「平和憲法とイラク問題―憲法九条を世界の宝に―」と題して、横田耕一氏が講演した。「九条の意味は、一切の武力行使をしないこと」。横田氏は、日本国憲法と国連それぞれの「平和主義」の違いを指摘し、憲法の考える日本の国際貢献について述べた。第二部の平和祈願インターナショナルミサを司式した松永久次郎司教は、「私たち一人ひとりがすべての人の平和を求めて祈り、堅実な歩みを続けて行こう」と語りかけた。

和田墓地納骨堂でのミサに300人

8月15日聖母被昇天の祭日に和田墓地納骨堂で松永久次郎司教司式により、亡くなった方々の追悼ミサと納骨式が行われ、約300人が参列した。司教は説教で「私たちが亡くなった方のために祈ることはすばらしいことです。特に今日はマリア様の助けを願い共に祈りを捧げてください」と諭された。今年は9人の方の納骨が行われた。

木かげ


田中重治神父

「これはわたしのからである」。司祭になって初めてひとりでミサをささげていた時のことです。聖体拝領をしながら、「本当にこのホスチアはご聖体になったのだろうか、大丈夫だろうか」などと、とても不安な気持ちになったのを今でもはっきり覚えています。もちろん、神学的には叙階の秘跡をちゃんと受けていれば、どんな罪人である司祭でも、聖体の秘跡を生み出せることはわかっていました。しかし、いざ自分自身のことになると、「こんなわたしが?」となるわけです。

司祭になって7年が過ぎた今年の4月、小倉教会に助任司祭として着任しました。中学1年まで過ごした教会であり、初聖体を受け、侍者をして神父様がささげるミサを間近で見ながら、司祭職へのあこがれを抱いた場所です。そのような聖堂で毎日ミサをささげながら、本当に自分がこの場所に立って、司祭としてミサをささげていることが不思議でなりません。複雑な心境の中で、「大丈夫かな」という気持ちと、「おかげさまで」という感謝の気持ちでミサをささげさせていただいています。

こんなわたしが聖別したご聖体をもって病人や高齢者を訪問していますが、どんなに年が離れた若造であるにもかかわらず、神父様と歓迎してくださり、涙ながらにご聖体をいただいている姿を目の当たりにしています。教会でも、子どもたちをはじめ、皆さんが「キリストのからだ」とわたしが聖別したパンを「アーメン」と唱えてうやうやしく頂いている姿がありま す。この手を通して、聖体が聖別されているんだ、そして皆さんもそう信じているんだと実感させられる瞬間です。

ご聖体は愛の形見といわれます。本当に、弱いわたしたち人間のために、そして弱い人間を司祭として用いながら、ご聖体をこの世に与えてくださる神様はすごいと改めて感じています。ミサをささげながら、わたしがそうであったように、子どもたちにイエス様へのあこがれ、司祭・修道者の召命への芽生えのきっかけになれればと願ってやみません。

（小倉教会助任）

こんなわたしが?

BOOK 読みは専科



★知ってほしい　もうひとつのアジア・大平洋地域の現実
山口道孝　著

すぐれた文化と歴史、美しい自然と人々のあふれる笑顔、そして涙が織りなす愛と知恵……。長年彼らに寄添ってきた優しい眼差しの現地レポート。テレビや新聞では見えてこない真実が、数多くの写真や地図からも伝わってくる。

女子パウロ会　発行
税込価格　1300円

◇　◇　◇



★日々の糧　……聖霊と御言葉と祈り……
裏辻洋二　著

まっすぐに生きて、しかも豊かに実を結びたい、だれもそう願います。クリスチャンは聖書、神の御言葉の中に、神がわたしと結んだ約束の御言葉を無数に頂いています。イエスの御言葉をしっかり掴んで、約束が成就するまで神に執拗に願い続ければかなえられます。

サンパウロ
税込価格　1344円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

召命は、生きる キリストとの出会いから

ロザリオの月　案内版　会合と催し　10月のこよみ

カトリック教会のカテキズム

日　時：2004年10月24日(日) 15：00
次　回：2005年１月23日(日) 15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：１回　５００円
主　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第三期神学講座
⑤10月17日(日)　13：30～16：30
「エキュメニズム」　Ｓ．フランコ神父
♣聖書講座
11月６日(土)・20日(土)
講師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
場所：手取カトリック教会
主催：熊本地区信徒使徒職協議会

北九州地区聖書講座

日　時：11月14日(日) 14：00～16：30
テーマ：キリストのからだ＝教会
講　師：森山信三神父神父（戸畑教会主任）
場　所：新田原カトリック教会
費　用：１回　５００円

北九州地区聖書特別講演会

日　時：11月23日(火) 10：00～12：00
講　師：森一弘司教
テーマ：教会とはなにか？
場　所：小倉カトリック教会
問合せ：北九州地区信徒協

典礼を学ぶ集い

日　時：10月10日(日) 14：00～16：00
テーマ：典礼暦《待降節・降誕祭・降誕節》
講　師：白浜満神父（サン・スルピス大神学院）
場　所：カテドラル大名町カトリック教会
問合せ：☎ 0940・33・8122　井上元之
次　回：2005年１月30日(日) 14：00～

土曜公開講座（福岡黙想の家）

伝統的建造物の今日的意義。宣教師と日本の棟梁建築家鉄川与助が教会堂の発展に寄与したもの。
テーマ：日本の教会建築
講　師：川上秀人氏(近畿大学教授)
日　時：2004年10月23日(土) 15：00～17：00
主　催：文化財保存工学研究室(室長＝土田充義)
入場無料
次　回：2005年２月12日《ザビエルの生きた時代》
講　師：稲垣良典氏(九州大学名誉教授)

聖書深読黙想会

日　時：2004年10月25日(月)16時～26日(火)
指導者：奥村一郎神父（カルメル会）
場　所：福岡黙想の家（宗像市）
対　象：どなたでも参加できます。
持参品：聖書、筆記用具、洗面用具他
費　用：１０,０００円
申込み、問合せ：10月23日までに電話で下記へ
☎０４５・３２１・０５００　佐野

福岡黙想の家ご案内　10月

◇1日(金)～3日(日)　マリッジ・エンカウンター（ME）
◇6日(水)　ミカエル会
◇11日(月)　第14回むなかたてんてんまつり
◇11日(月)～15日(金)　福岡教区司祭黙想会
◇17日(日)～23日(土)　サレジオ会黙想
◇23日(土)　文化財保存工学研究室・第５回土曜公開講座
◇23日(土)～25日(月)　防府教会婦人会黙想
◇25日(月)～26日(火)　聖書深読会（25日16時～26日14時）
◇27日(水)～28日(木)　芸術講座（横尾龍彦）
◇30日(土)～31日(日)　芸術講座（横尾龍彦）
※ロザリオの月、ルルドでの祈り。落葉の間にどんぐり、秋風の中での芸術講座。心の癒しにぴったりの季節ではないでしょうか。
[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

眞命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：聖人の祈りに学ぶ
※祈りの集い
・10月14日(木) 10時～15時
テーマ：アビラの聖テレジア
指　導：Sr.マリアとFr.フランコ
※赤とんぼが乱舞する秋の真命山にどうぞ祈りに来て下さい
問合せ先：真命山
☎0968・85・3100
FAX0968・85・3186

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：10月16日・11月６日　10時～12時（第１、第３土）
場所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂
注：11月30日まで工事のため駐車場が狭くなっています。

会合と催し

3日(日)　年間第27主日　唐津教会堅信式
7日(木)　ロザリオの聖母
10日(日)　年間第28主日　天神町教会堅信式
11日(月)　むなかたTENTEN祭り（宗像黙想の家）体育の日
福岡教区邦人司祭黙想会［11日～15日］
15日(金)　聖テレジアおとめ教会博士
16日(土)　熊本地区聖体大会（健軍教会13時）
17日(日)　伊万里教会堅信式
教区28名殉教者列福祈願ミサ［カテドラル14時］
茶山教会合同バザー
†J.グリーン［1994年玉名教会］
18日(月)　聖ルカ福音記者
23日(土)　†Ｊ．Ｐ．ドラビ［1967年黒崎教会］
24日(日)　世界宣教の日（献金日）　小倉教会堅信式
新田原教会・南粕屋教会・西新教会大バザー
27日(水)　†Ｊ．ベルトラン［1987年門司港教会］
30日(土)　聖パウロ修道会会員金祝ミサ（カテドラル11時半）
31日(日)　鳥栖教会創立５０周年・堅信式
教区和田墓地ミサ［和田墓地14時］
今村教会オラショフェスタ聖体行列
†ヨゼフ糸永一［1992年今村教会］

11月
1日(月)　諸聖人
2日(火)　死者の日　†S.アクワビバ［1984年］
3日(水)　召命の集い［大神学院］　文化の日
†Fボア［1977年］
7日(日)　古賀教会バザー
大牟田・荒尾教会合同堅信式　ゴチックは司教日程

墓地委員会お知らせ

和田墓地清掃
・10月17日９時から
ミサ11時半
・予備日：10月24日
和田墓地追悼ミサ
・10月31日(日) 14時
※11月の墓地開放日はありません。

福岡

■チャリティーコンサート
[日時] 10月10日(日) 16時開演 [場所] 糸島カトリック教会 [内容] スイス・聖アントリオ来日コンサート [入場料] ２０００円 [主催] スイス聖アントアントリオ糸島地区実行委員会 [問合せ] ☎０９２・８０７・３２０８中島隆

■在世フランシスコ会集会
[日時] 10月24日(日) 14時～16時 [場所] 高宮フランシスコ会修道院在世会集会所 [内容] アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習 [次回] 10月24日(日) [指導] 小池如安神父 [問合先] ☎０９２・８４３・５８３１岩崎

■ユリアナの会
[日時] 10月28日(木) 14時から16時 [内容] 発達精神医学②思春期～中年期を中心に [場所] 福岡黙想の家２階会議室 [講師] 小宮豊医師（小宮クリニック院長）[参加費] 無料 [主催] ユリアナの会 [問合せ] ☎０９４０・３８・８９１５（11時～16時／月～土）

■生と老いと死を見つめる会
[日時] 10月31日(日) 14時から16時 [場所] 大名町カトリック教会 [講師] 平野頼子氏（ケアプランナー）[内容] 介護保健 [参加費] ７００円 [問合先] ☎０９２・７１３・８５２３大山／６０７・６９９２村尾

北九州

■小倉カトリック祈りの集い
■美野島司牧センターから
美野島衣類バンクでは、男性用衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者も募っています。[問合先] ☎０９２・４３１・１４１９
[日時] 毎月第１木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] 共に祈る [次回] 10月27日(水) 10時～12時はミサと祈り・毎月第２水と第４水曜日。どうぞご参加下さい。[問合先] ☎０９５２・７２・７５３６吉田

■聖書を読む会
[日時] 毎月第１木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] ルカ福音を読む [講師] マルコ・ヴィッラ神父 [テキスト] 聖書

佐賀

■佐賀祈りの集い
[日時] 10月13日(水) 10時～11時半 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] 共に祈る [次回] 10月27日(水) 10時～12時はミサと祈り・毎月第２水と第４水曜日。どうぞご参加下さい。[問合先] ☎０９５２・７２・７５３６吉田

[日時] 10月22日(金)～15時 [指導] ガブリエル神父 [場所] 小倉教会信徒会館２階 [内容] 「みことばをあじわう・賛美と感謝の祈り [連絡先] ☎０７０・５５３８・６１８６安藤

大学事務部職員（学長秘書 兼務）募集
聖マリア学院短期大学

学長の業務補佐を含む一般事務職員(若干名)を公募いたします。
応募資格：大学既卒者（大学院修了者歓迎）で40歳位までの方。
＊カトリックに理解のある方。
選考方法：書類審査、面接
＊書類審査後、候補適任者と面接。
採用時期：2004年11月１日以降
応募方法：履歴書（写真貼付）を書留にて郵送下さい
＊応募書類は返却しません。
応募締切：2004年10月25日（必着）

お問合せ・書類送付先
〒830-8558　久留米市津福本町422
聖マリア学院短期大学
☎0942・35・7271（担当：石井）

熊本

■熊本地区聖体大会
[日時] 10月16日(土) 13時～16時 [テーマ] 教会にいのちを与える聖体 [場所] 健軍カトリック教会 [特別講演] 松永久次郎司教 [問合せ] ☎０９６・３６８・２８２５健軍教会

■熊本・地区対抗運動会
[日時] 11月7日(日) 9時～15時 [場所] マリスト学園グランド [主催] 熊本市カトリック教会青年部 [後援] 熊本信徒使徒職協議会 [問合せ] ☎０９６・３６８・２８２５健軍教会

カリタスジャパンの公開講演会

日　時：10月11日　14時～16時
会　場：大分カトリック会館
内　容：子どもたちが危ない
講　師：原田芳枝氏
（社会福祉法人かいたっくす「カリタスの家」代表）
問合せ：☎ 097・532・3397

研修セミナーご案内

[日時] 11月6日14時～7日13時 [会場・宿泊] 行橋市研修センターゆくトピア [テーマ] 関わりと自分探し [講師] 大山悟神父 [発題者] 佐藤仁彦氏（ラルシュ・かなの家）吐合美由紀氏（自立生活センター鹿児島代表）[参加費] ８０００円（宿泊とも）[主催・申込み] 日本カトリック障害者連絡協議会研修セミナー係／☎０４２６・５６・１５４８

編集後記

この夏、若者たちがキラリ輝いていました。二面でその様子を報じました。夏の主役たちはきっと、あの汗と感動を糧として、豊かな人生を築いていくことでしょう。

COSMOS
スポーツ用品・ＯＡ・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
ＴＥＬ　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（１F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（２F）十字架、ロザリオ、ご像、ＣＤ、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後６時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

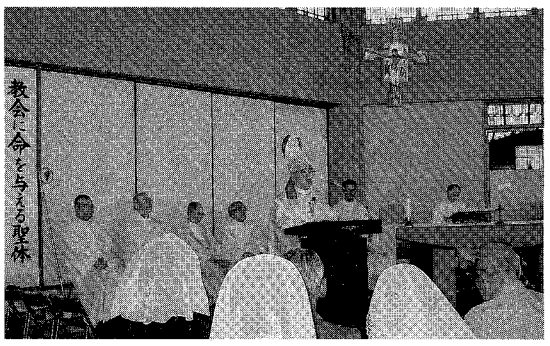
カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL・092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

熊本地区聖体大会

10年目を迎えた熊本の永久聖体礼拝

聖体の年が幕を開けた。10月16日には、健軍教会で熊本地区聖体大会が開催され、松永久次郎司教をはじめ約300人が集った。参加者は熊本で信者・修道者・司祭らによって、10年にわたって続けられてきた永久聖体礼拝の恵みを感謝し、教会にいのちを与える聖体に対する信仰をいっそう深めよう、との思いを強くした。



今回の聖体大会は10周年を迎えた熊本地区の聖体礼拝を記念し10月10日から始まった「聖体の年」に合わせて行われた。『教会にいのちを与える聖体』のテーマのもと、記念講演、聖体礼拝、記念のミサが行われた。

講演で松永司教は回勅『教会にいのちを与える聖体』を解説し、「ご聖体において私達は神と一致し、信者同志が交わり、お互いに一致することができる。この一致の神秘を大切にしていこう」と語った。また熊本地区で永久聖体礼拝が10年にわたって続けられてきたことに感謝と喜びを表し、「これからもご聖体への信心を大切にして、この聖体礼拝を続けていってほしい」と励ました。

続いて行われた聖時間では、ご聖体を祭壇上に顕示して心を合わせて賛美の歌と祈りを捧げ、その後は沈黙のうちにご聖体を礼拝した。またその間、ゆるしの秘跡が行われた。大会の最後に松永司教司式でミサが行われ、集まった全ての会衆とともに、ご聖体のお恵みに感謝して熱心な祈りが捧げられた。

熊本地区における永久聖体礼拝は1995年8月15日（聖母の被昇天の祭日）、終戦50年を単なる記念として終わらせないために、平和への願いを祈り続けようと、健軍教会の小聖堂で開始された。現在も有志が各時間を担当して礼拝を続けている。

福岡教区の邦人司祭が5日間の黙想会

福岡黙想の家



教区邦人司祭の黙想会が、10月11日から15日まで、福岡の黙想の家で行われた。今年の指導は川添猛神父（帯山教会主任）、ユーモア溢れる講師の話に、参加した司祭たちは温かな雰囲気のなかで黙想のときを過ごした。

講話はみことばから始まり、川添神父の長年に及ぶ司祭生活をもとに「ことば・真実と現実・教会の刷新・癒し系・一生もの・アンティーク」といったバラエティーにとんだテーマで進められた。各講話とも神父が小教区の司牧生活のなかで実際に体験し、その経験から司祭としての責任、司牧者の務めの重要さを語った。神父の語る数多くの体験や失敗談を聞いて会場は時折大きな笑い声に包まれた。また神父は講話のなかで、「特に若い司祭に聞いてほしい。教会の急激な変化や教会が抱えている様々な問題のなかで、教会がいつも大切にしてきたものを忘れないでください。そのなかで信者の小さな願いを見落とさないように」と諭された。

福岡・大分教区の司祭親睦試合

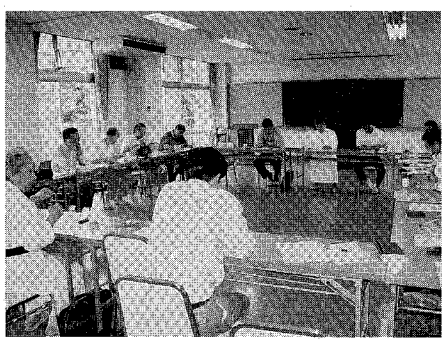


9月28日、新田原グランドで福岡教区対大分教区の司祭団によるソフトボール親睦試合が行われた。大分教区から宮原良治司教率いる「OITA—ENSIS」、迎え撃つ福岡教区は竹森勇神父率いる「福岡GIANTS」、時折小雨の降る中、試合は数本のホームランも飛び出し、両チームとも一歩も譲らない白熱した試合となった。最後は、リリーフエースの竹森神父が見事に押さえ9対8で福岡チームが勝利した。次回はリベンジに燃える大分教区チームの地元で開催予定。

（写真＝握手する両監督）

（関連3面）

司祭評議会来年度教区行事等を決定



司祭評議会が、9月28日（火）司教館で開催された。教区長を含む19人の評議員が参加した。評議会ではまず、現在の福岡教区の現状や具体的な取組み、小教区や司祭の動向について各報告が行われた。これに対し、司祭の減少や教区立幼稚園を含む小教区での宣教・司牧について、教区全体が共通した認識を持ち、取組んでいくことが確認された。また2005年度の教区の主な行事が決定した。

聖香油ミサ：3月22日（聖火曜日）カテドラル15時。
教区合同堅信式：5月15日（聖霊降臨）カテドラル14時。
平和を祈る集い：8月7日（日）カテドラル13時。

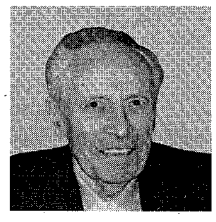
緊急募金にご協力を

10月23日に発生した「新潟中越地震」被災者のため緊急募金をお願いしています。皆様のご協力を下記までお送り下さい。

郵便振替：
01760−6−20729
加入者名：カトリック福岡司教区
通信欄に「新潟中越地震被災者救援」と明記し、11月30日まで。

訃報

ヤコブ・バイヨ神父



9月23日、行橋クリニックで帰天。享年75歳。

1929年2月13日フランスのアンジェ生まれ。1953年5月31日パリ外国宣教会司祭として叙階。間もなく来日、57年から小倉教会、黒崎教会、天神町教会、光丘教会とずっと福岡教区で宣教司牧に尽力され、2000年からは療養生活を続けておられました。JOCの立ち上げなどカトリック青年労働者の活動に奉仕。96年から98年までサン・スルピス大神学校哲学科生に新約聖書入門を教えていた。「みことば」を大切にする宣教師として熱心に奉仕されました。

マリア・ロベルタ 竹村太嘉子修道女（厳律シトー会）

10月12日、急性心筋梗塞で帰天。享年77歳。1969年入会。76年無期誓願。84年から2000年8月まで大院長。

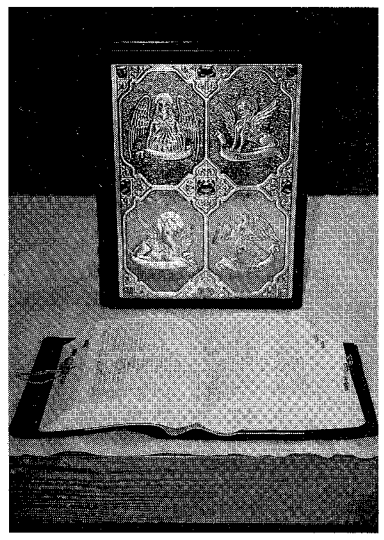
11月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】暮らしの中で聖性に歩む、神に呼ばれた人々
【布教の意向】個人の聖性及びキリストとの親密な一致
【日本の教会の意向】神の愛による招き

聖書週間

11月21日〜28日



わたしにしてくれたことなのである（マタイ25・40）

私の兄弟であるこの最も小さい者の1人にしたのは、

時の話題

聖体の年と聖体礼拝

歌野清三

教皇ヨハネ・パウロ二世は、国際聖体大会開幕の10月10日から、来年のシノドス閉会までを聖体の特別年に定められました。これに先立ち、教皇は昨年、在位25年を記念し、『教会にいのちを与える聖体』と題する回勅を著しました。これらのことから、聖体の重要性を全世界のカトリック信者に強調していることを汲み取ることができるように思います。

熊本地区で1995年8月から開始された「永久聖体礼拝」が十年目を迎えました。聖体の年の開幕は、長年聖体礼拝を続けてきた私たち熊本地区に賜った特別のお恵みとして、心にとめたいと思います。

礼拝に参加している多くの方々が、個人的にもそれぞれすばらしい恵みをいただいておられることが、備え付けの共同の祈りのノートにたくさん記されています。またそのことは、さまざまな交わりの場における証しを通じて伝わってまいります。やはり、ご聖体の主イエス様を訪れて、御前で親しく祈り、直接語ることが最高であることを、自らも体験させていただいています。

昨今、信心業の急速な退行現象が叫ばれているようです。ご聖体に対する信心についても、聖体行列や聖体賛美式はあまり見られなくなりました。聖体訪問や聖体礼拝も薄れてきているように思います。教皇や司教がご聖体を大切にし、基本に立ち戻ることを強く呼びかけておられます。この一年が実りある特別年でありますように、地道に祈り続けていきたいと思います。

（健軍教会信徒）

みちくさ

わたしたちはときどき自分が知らない新しいことや経験したことがないことに戸惑いを感じてしまうことがある。自分が経験したことのない未知のことについて、どのように対処すればいいのか分からなくなるのである。その反対に知っていること、既に経験したことについてはそれほど驚かずに対処できる。昔から慣れ親しんでいることには安心すら覚える▼数年前、ある神父様と話をしていたときのこと「わしたちはいつでも過渡期におるんだぞ。何もいまさら驚いて慌てる必要はない」と言うことば。自分の置かれた新しい環境にうろたえて、弱音を吐いていたわたしにとって重い一言だった。なるほどそのとおりだ。時間が止まることは決してなく、いつも未来へと進んでいる。つまり、現在は過去から未来への過渡期であり、新しい時間、新しいことの連続である▼わたしたちの生活も同じように新しい時間、新しいことの連続、過去から未来への過渡期である。わたしたちはいつもこの新しい時間・新しいことに触れながら未来へと進んでいる。だからといってわたしたち人間は新しく変化するということはなく、現在だけが特別に新しいのではない。毎日過渡期の連続である▼歴史は繰り返されるということばもある。わたしたちの初めて出会う事柄は個人にとっては未体験であっても、人類全体、世界としてはほとんどが既に経験されているのではないだろうか、それならばなおさら驚いて、うろたえる必要はないのかもしれない。

（P）

熊本

またひとり宣教師が帰国
ありがとう…ノリス神父

日本での56年の司牧を終えて、ニュージーランドにお帰りになるJ・ノリス神父様（熊本八代教会）の熊本地区合同の送別会が「感謝の集い」として10月10日（日）に手取教会で行われました。

「私の思いは複雑で、涙と感謝です」と言われる神父様の気持ちをそのままに、直前の季節はずれの強い雨も止み、陽光も射し始めた11時半からノリス神父様の司式による日本で最後のミサが手取教会に関東、北九州、長崎から溢れんばかりの信徒を迎えて捧げられました。健軍教会の中村神父様と長崎の城山教会の遠山神父様が共同司式を務めてくださいました。いつもの力強く、穏やかな声で進められるミサに安らぎを与えられました。神父様のお話は、最初は中国に行く命令だったこと、それが出発直前に日本に変更され、ハンター神父様と昭和23年に戦後間もない神戸港に着いたが誰も出迎えがなかったこと、それで管区のある東京に進駐軍の汽車で行ったら、あなた達の行く先は福岡です、と言われたこと。そして、福岡で日本語を一年間勉強して、26歳で人吉教会の主任司祭になったこと、日本食も大好きになり、日本の風呂桶を郷里に送ったことなどをユーモアを交えて語られた。


手取教会での最後のミサで説教するノリス神父

日本での最初の司牧活動を支えてくれたのが人吉教会のレジオの若い人達だったこと、力づけられたこと、不思議と思える力が与えられたこと、それが神父様の56年間を支えていた、と感謝を込めて語られた。説教の最後にルカ福音書17章19節、「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」のみ言葉どおり、神様の不思議な力を信じてください、と私たちに語りかけられた。

共同祈願では、八代教会、帯山教会、健軍教会、手取教会の各信徒会長によって、神父様への感謝と神様のお恵みが祈られた。閉祭の祈りの最後に、再び「感謝」を述べられて退場される時、閉祭の歌も聴き取れないほどの会衆の拍手で満たされていた。

続けて信徒会館ホールで行われたパーティーには、カリー神父様、マッケイ神父様、ホーガン神父様、中村神父様、遠山神父様、神父様の妹さんのシスター・シシリアも参加され、車椅子で駆けつけられた東京の信徒の方など老若男女およそ150人ほどの信者が集いました。

拍手に迎えられた神父様はタップダンスで登場、みんなの歓迎に応えられました。健軍教会や手取教会の女性の信徒たちが準備された素晴らしい食べ物を味わいながらいろいろな想い出が語られました。

コロンバン会の会報を通して、小学生の時から神父様を知っていたマッケイ神父様の話、青年時代にちゃんと勉強しているのかと叱られ、青年海外協力隊に参加して神父を目指す決心をした遠山神父様の話、受洗して5年目でカテキスタをして名古屋から熊本に神父様に無理に連れてこられたカテキスタ日向さんの話など、…。そして、百歳の時にまた合いましょうと言いながら、写真撮影にお忙しいホーガン神父様。ノリス神父様の影響力の大きさ、人を通して働く神様の恵みの偉大さを感じた一日でした。

最後に、神父様の妹さんでシスター・シシリアさんのピアノ演奏に続いて、「わたくしは良き牧者のイエス・キリストの道具にしか過ぎません。皆さん、ガリラヤ湖のペトロを思い出してください。イエス様から目をそらせば沈みます。イエス様から目を離さないでください。これで最後です。これからいつもの通り昼寝をします」と、笑いと拍手の渦の中を退席されました。

取材協力＝鈴木明郎

真命山・諸宗教対話・霊性交流センターに集う
第6回宗教宗派の垣根超えて平和への祈り
玉名

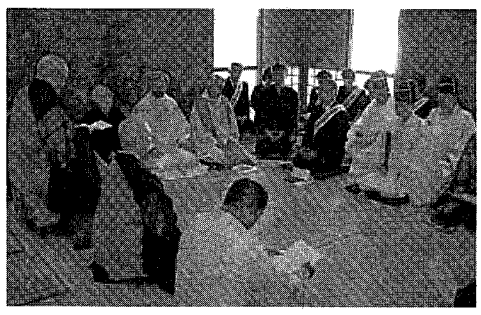
10月3日（日）、第6回宗教指導者の「平和を願う祈りの集会」が開催されました。

1986年教皇ヨハネ・パウロ二世は、全世界の宗教指導者を招いてイタリアのアッシジで、はじめての「世界諸宗教者平和祈念集会」を実現させ、以後、この集会は聖エジディオ共同体の協力により毎年開かれています。

熊本県玉名郡菊水町蜻浦では、真命山諸宗教対話・霊性交流センターのイニシアティブで、1993年の第1回以来、隔年ごとに開催され、今年は第6回にあたります。美しい秋空のもと、今年は仏教から天台宗、曹洞宗、浄土真宗、生命山シュバイツアー寺、立正佼成会が参加し、その他の宗教から大本、天理教、イスラム教、カトリックの代表を加えて50数名の参加者がありました。

集会の初めは、まず本堂に集まり、真命山の院長であるフランコ・ソットコルノラ神父が歓迎の言葉を述べ、続いて園田善昭神父（コンベンツアル聖フランシスコ修道会）によって現代世界で行われている「平和祈念集会」について報告がありました。その後、「平和をもたらす人は幸い」の歌の調べとともに、近くの祈りの丘に場所を移しました。そこで各宗教代表者はそれぞれの宗教による平和を願う祈りをささげ、そのあと再び、本堂で平和の誓いの署名をし、全員で諸宗教対話の守護者である聖フランシスコの平和の祈りを唱えました。

式後、庭でささやかなパーティがあり、そこには新しい出会いと再会の喜びもありました。美しい有明海に夕日が沈むころ参加者は再会を約して、それぞれ平和を願う深い心の思いを胸に抱きしめながら下山しました。


様々な宗派の宗教家が熱心に世界平和を祈った

教会について考える (7)

キリスト教という宗教は、ユダヤの地に始まり、ローマそしてギリシャの思想や文化を取り入れ、あるいは取り込んでヨーロッパ世界に根を下ろすことになります。その基礎を築いた人物といえばやはり、ペトロとパウロということになるでしょう。両者ともに生粋のユダヤ人で、旧約の教え、ユダヤの慣習に徹底して生きる人でした。ペトロは、それらを乗り越えながら初代教会の礎となりました。

一方パウロは、当時の地中海ヨーロッパ地方を駆け巡り、得意のギリシャ語を操って、ギリシャ世界いわゆる異邦人のキリスト教化に尽くした人物です。今回はそのペトロのあるエピソードを読んでみましょう。信徒言行録10章に記されているコルネリウスとの出会いです。コルネリウスとは、百人隊長でローマ人ですから、もちろんユダヤ教の割礼を受けていませんが、旧約聖書の神を信じる敬虔な人物でした。一方、ペトロはエルサレム教会の中心人物で、キリストの弟子となって何年も経っていました。しかし、なおもモーセの律法（旧約の掟）を守り、不浄な物を避け、古い慣習を守り続けており、まだそれらのものから抜けきれないでいました。ところが、コルネリウスとの出会いを通して、彼は「神は人を分け隔てなさらないこと」10・34「どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられる」こと10・35。信者になるためには、割礼の有無、掟を守っているか等の条件は不要であること等を悟ります。彼がこのようなことに気づいていくのは、自分とは全く異質の、あるいは律法で禁じられている異邦人を迎えることなどにとらわれることなく、ローマ人の話しに耳を傾けることから始まったのです。私たち人間はどうは、各地に深い爪あとを残しました。福岡教区内でも、多くの方々が被災されました。心からお見舞い申し上げます。

日本列島を次々と襲った台風


台風18号通過後の今村教会の内部と瓦が壊れた屋根

台風
今村天主堂にも甚大な被害

失意と深い疲労のうちに不便な生活を余儀なくされている方々になぐさめが与えられ、そして一日も早い復興が実現しますことをお祈り申し上げます。

教会及び関連の施設などが、台風や水害などに被災した際には、福岡司教館・教区本部事務局までご一報ください。

ヨゼフ深堀敏司教が退任後を手取教会で

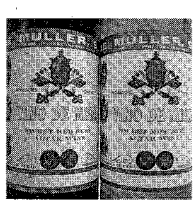
高松教区長を27年務めた福岡教区出身の深堀敏司教は、新教区長溝部脩司教の着座式後、熊本の手取教会で引退後の生活を送ることになった。7月26日、手取教会の司祭館に移られた。

2004年9月18・19日にかけて広島教区幟町教会でNWM（ネットワークミーティング）が開かれました。NWMはカトリックの青年、青年活動を支えている信徒・修道者・司祭が自由に集い、今かかえている問題や信仰等を分ち合い、交流することを目的に開かれています。今回は広島で、全国から約70人の青年が参加し、福岡からも8人が参加しました。今回は「命と家族」、「平和と愛」、「職場や学校でキリスト者としてどう生きるか」などのテーマにわかれて分かち合いを行いました。各々の考えを出し合い、周りの意見を聞きながら、自分達のテーマの結論を出し合いました。その後の交流会では、全国の青年がお互いに日ごろ行っている活動や、自分の考えなどを和やかな雰囲気の中話し合いました。最後に広島教区カテドラル幟町教会で、三末篤實司教司式の主日のミサに参加しました。



福岡教区青年
ネットワークミーティング
広島

むなかた祈りの森
グループ・個人の黙想、研修会等に…
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

福岡雙葉小学校50周年を祝う



10月8日（金）福岡雙葉小学校（校長：Sr金森美子）の創立50周年を記念して松永久次郎司教司式でみことばの祭儀と式典が行われた。在校生をはじめ卒業生、教職員および姉妹校のシスターたちが集い、神様の豊かな恵みと祝福を感謝した。

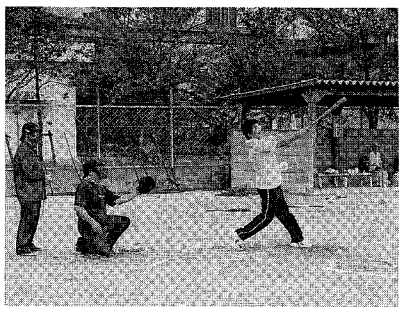
みことばの祭儀で司教は「一人ひとりは大切な存在であり、互いに尊重しあうことの大切さ」を話した。つづいて子どもたちによって聖歌が歌われ、会場は温かい雰囲気に包まれていた。

式典に続く祝賀会に、元職員や卒業生などが集まり久しぶりの再会を喜び合い、思い出に花を咲かせていた。

「わたしたちは、キリストの体です」という司教の言葉を聞いた子どもたちは「神様からいただいた体を大切にして、お友達と協力しながら、神様にお捧げしたい」、「五十周年から百年にむけて、すばらしい雙葉をつくって行きたい」と決意を新たにしていた。

創立者であるニコラ・バレ神父の精神が行きつづける学校、未来を背負う子どもたちの夢が実現することを願って止まない。

福岡・大分司祭団が親睦試合　新田原


気合いの一振り！

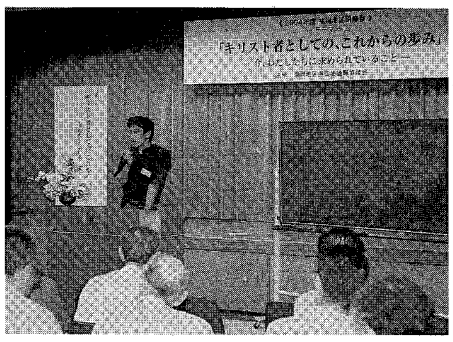
9月28日（月）新田原グランドで行われた福岡教区対大分教区の司祭団による初めてのソフトボール親睦試合は、大分教区からの申し出により決まり、両者約3ヶ月間のトレーニングを積み（？）試合に臨んだ。

大リーグ顔負けの試合会場には前大分教区長の平山高明司教をはじめ、福岡教区も山頭源太郎神父、川添猛神父、川原拓也神父率いる天草地区信徒も応援に訪れ、両チームに熱のこもった声援が送られていた。福岡が先行していた試合に宮原司教のホームランも飛び出し、最終回に大分教区が1点差まで追いつくなど、目の離せない展開に応援団も手に汗。竹森神父の見事な押さえで9対8、福岡GIANTSの勝利に声援は最高潮となった。

試合後は場所を新田原教会に移し、親睦バーベキュー大会が行われ、お互いの健闘を称え合い、終始和やかな雰囲気のうちに終わった。

第2回は大分教区の強い要望により2005年5月に大分で行われることになった。

百人参加の福岡地区信徒協研修会

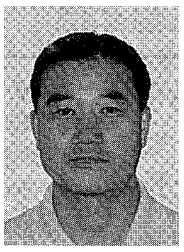


福岡地区信徒使徒職協議会（会長：山崎昌典：糸島教会信徒）は、地区研修会を9月20日（月）、大名町教会で開催した。信徒、修道者、司祭、約100人が参加。講師に森山信三神父（戸畑教会主任）を迎え、「キリスト者としてのこれからの歩み～今わたしたちに求められていること～」をテーマに研修を行った。

森山神父は「教会は神と人間が出会い、親密に交わるしである」と述べ、すべての人が等しく聖性へと招かれていることを強調した。参加者は第二バチカン公会議の教会観に基づいて、信徒の使命・役割をあらためて確認した。講演の後に、小グループで分かち合いを行った。それぞれの小教区、共同体の現状をふまえ、「交わりとしての教会」を実現するためにどのようにしたらよいか、意見を交換した。初めて教会を訪れた人に対して、その人の苦しみ・悩みのそばに寄り添い、その人の神との出会いをサポートすることができれば、といった声が聞かれた。

社会の中で、キリスト者として福音の価値観を生かしながら歩んでいくことが、いま私たちに求められている。

木かげ


杉原寛信神父

この4月からつとめている田川カトリック幼稚園の誕生会のプログラムは、お誕生日を迎えた子どもたちへ、他の子どもから歌のプレゼント、先生たちによるミニショータイム、そして一人ひとりに幼稚園から小さなプレゼントを贈る。それに一つ加えていただいて、子どもたち一人ひとりを祝福している。

ストラをかけ、ホール壇上に並んでいる子どもたち一人ひとりに十字架のしるしをして頭に手を置き、「誕生日を迎えた○○君（ちゃん）に、全能の神、父と子と聖霊の祝福が豊にありますように」と。

子どもたちは胸の前に手を合わせ目をつぶって「アーメン」の答え。

9月の誕生会。10数名の子どもたちをいつものように祝福した。その夜、用があってある保護者に電話をかけ話していたところ、電話のそばに子どもがいてしきりに電話に出たがっているようで、「どうぞ」すると電話に出た男の子が言った。『神父様、今日お誕生日を迎えたお友だちに神様の祝福をくれてありがとうございました。話したかったのはこれだけです』そしてすぐに母親に受話器を渡した。

「うちの子が何か失礼なことをいいませんでしたか」、「いいえ、とてもうれしいことを言ってくれました」そして子どもの言ったこと、幼稚園の誕生会での祝福のことを話し、言った。「息子さんをほめてあげてください」、「ハイ、ほめてやります」。

翌日、幼稚園でその子を見つけて尋ねた。「昨日の夜、A君は神父様にお電話で、お友だちに祝福をあげたことのお礼を言ってくれたね。どうしてお誕生日を迎えていないA君が他のお友だちのためにお礼を言ったの？」その子の返事は一言『ありがたかった』と。

この5才の男の子の心の中を開いて見てみたいものだ。皆が人の幸せを思い巡らし、『ありがたかった』と**ひびき合えたなら・・・。**

宮沢賢治の言葉がある「世界全体ガ幸福ニナラナイウチハ、個人ノ幸福ハアリエナイ」。

直方・田川教会主任司祭

ありがたかった

むなかたてんてんまつり

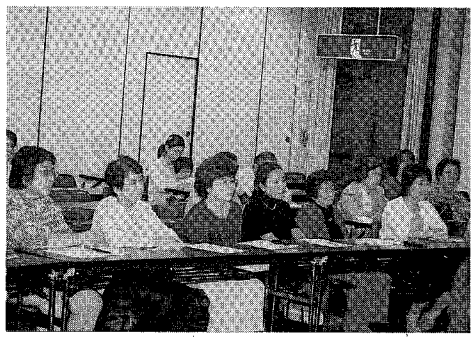
10月11日（月）晴天の中で行われた。「前日の雨でほこりが立たずに…」と笑顔の駐車場係り。恒例の黙想の家のこの行事も10周年、地域に根ざした催しになった。

本館でのSr.渡辺和子の特別講演、「生きること　死ぬこと」に廊下まで溢れる人々。



今年も様々な福祉事業所のボランティアや青年たちのバザール、食堂に長蛇の列。これも名物になった「もちつき」に飛び入りのつき手に喝采。締めは、むなかた祈りの森でのミサ。テーマは「一つになろうキリストのうちに」。皆を一つにまさに10月10日（体育の日）。したまつりだった。来年は、

「女性の黙想会」に50人　福岡地区婦人会



10月5日、大名町教会で「女性の黙想会」（主催＝福岡地区婦人会）が行われた。昨年までヤングママの黙想会と称していたが、今年からはヤングにこだわらず子育てに悩む多くの人に対象を広げ実施されることになった。浦川務神父（久留米教会主任）を講師に迎え、約50人が参加した。

今回のテーマは「家庭における子どもたちの信仰の育て方」。自らの体験をまじえつつ、語りかける浦川神父の言葉は参加者の胸を打った。

現在、子育て奮闘中の女性に参加した動機を聞いたところ、「子育てをする中で、子どもに信仰をどのように伝えていったらよいのか知りたくて参加しました」と話していた。また「黙想会に参加して信仰の意味を深く知ることが出来ました。自分自身が信仰を深め、子どもにその姿を見てもらえる母親になりたいと思います」と感想を語っていた。

黙想会の間に、ミサ・ゆるしの秘跡も行われた。婦人会スタッフがベビーシッターとなり、参加者は落ち着いて家族を思いながら、祈るひと時を過ごしていた。

BOOK 読みは専科

★CD Winter Classics
ハーブの調べによる
クリスマス名曲集
ハープ＝
ジョージア・ケリー



ジョージア・ケリーの奏でるハープはクリスマスの喜びを静かに伝えている聖夜を飾ったあの天使たちのクリスマスのメロディ・・・。透明なハープの響きにのせてなつかしいクリスマスの名曲をプレゼント！

女子パウロ会　発行
税込価格　2415円

◇　◇　◇

★出会い（Encuentro）
……祈りのための手引き……
イグナチオ・ララニュガ　著



「祈りと生活の作業場」の創始者、スペイン生まれのカプチン会司祭のイグナチオ・ララニャガ神父の祈り。主との親しい交わりに、また悲しいとき、喜びのときに、賛美や感謝をささげるときにこの「出会い」の中の祈りがきっと心に染みわたるでしょう。

サンパウロ
税込価格　1050円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

召命は、生きる キリストとの出会いから

カトリック教会のカテキズム

日　時：2005年１月23日(日) 15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：１回　５００円
主　催：福岡教区信仰教育委員会
※教会学校のリーダーや公教要理をもう一度学びたい方にお勧めです。

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第四期神学講座
②11月21日(日) 13：30～16：30
「現代世界憲章」　山内　清海　神父
③2005年１月16日(日) 13：30～16：30
「啓示憲章」　牧山　美好　神父
④２月20日(日) 13：30～16：30
「ナイスⅠ・Ⅱをへて福音宣教」
橋本　勲　神父
⑤５月22日(日) 13：30～16：30
「聖書を知る旅」　高見　三明　大司教
⑥６月19日(日) 13：30～16：30
「宗教改革」　石井　健吾　神父
⑦７月17日(日) 13：30～16：30
「人間の生命尊重と責任」
松本　信愛　神父
⑧９月18日(日) 13：30～16：30
「キリスト者の祈り」　川添　猛　神父

♣聖書講座
(1)11月６日(土) ／(2)11月20日(土)
「ヨハネによる福音書」を引き続き読みます。
＊原則、第１・第３土曜日　14時～16時
＊2005年９月17日まで全15回
講　師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
場　所：手取カトリック教会
主　催：熊本地区信徒使徒職協議会神学講座実行委員会
問合先：手取教会　☎096-352-3030

北九州地区聖書講座

北九州地区聖書講座
第五回：11月14日(日) 14時～16時半
テーマ：キリストのからだ＝教会
場　所：新田原カトリック教会
第六回：2005年１月16日(日) 14時～16時半
テーマ：現代に向けて
場　所：戸畑カトリック教会
講　師：森山信三神父神父（戸畑教会主任）
費　用：１回５００円

北九州地区聖書特別講演会
日　時：11月23日(火) 10：00～12：00
講　師：森一弘司教
テーマ：教会とはなにか？
場　所：小倉カトリック教会
問合せ：北九州地区信徒協

案内版

福岡黙想の家ご案内　11月

◇６日(土) ～ ７日(日)　山口・島根信徒養成研修会
◇10日(水)　ミカエル会
◇13日(土) ～ 14日(日)　北九州レジオ
◇16日(火) ～ 17日(水)　小倉教会・白百合会
◇20日(土) ～ 21日(日)　在世カノッサ会黙想会
◇22日(月) ～ 23日(火)　聖母カテキスタ会黙想会
◇25日(木)　ユリアナ会『心の病』相談&学習会

※恒例のテンテンまつりも、大勢の人が参加して無事に終りました。11月死者の月、主のもとに旅立たれた親しい方々のために祈り、また、ご自分の喪失のこころを癒すために静かな祈りの時を持ってはいかがでしょうか。待降節も間近です。いつでも、お待ちしています。

[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：聖人の祈りに学ぶ
※祈りの集い
・11月11日(木) 10時～15時
テーマ：福者三位一体のエリザベット
指　導：Sr.マリアとFr.フランコ
問合先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：11月20日・12月４日　10時～12時（第１、第３土）
場所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂
注：11月30日まで工事のため駐車場が狭くなっています。

死者の月

会合と催し

11月のこよみ

7日(日)　年間第32主日
大牟田・荒尾教会合同堅信式
聖体奉仕者養成講座②／古賀教会バザー
9日(火)　ラテラン教会の献堂
教区全司祭集会（司教館14時）
14日(日)　年間第33主日
武蔵ケ丘教会堅信式／大楠教会バザー
†フランシスコ中田籐太郎［1999年高宮教会］
21日(日)　王であるキリスト
新田原教会堅信式
聖書週間（～28日）
†Ｐ．ポール［1996年黙想の家］
22日(月)　聖セシリアおとめ殉教者
23日(火)　熊本・奉仕者任命式［手取教会11時］
†Ｂ．シュルツ［1996年吉塚教会］
勤労感謝の日
25日(木)　聖カタリナおとめ殉教者
大神学院祭［10時半］
27日(土)　†Ｓ．ズワノニ［1962年唐津教会］
28日(日)　待降節第１主日
糸島教会堅信式
30日(火)　聖アンデレ使徒

12月
3日(金)　聖フランシスコ・ザビエル司祭
5日(日)　待降節第２主日／宣教地司祭育成の日（献金）
宣教司牧評議会

ゴチックは司教日程

◆福岡

■第34回福岡ホスピスの会
［日時］11月14日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［講師］野島一彦先生（九州大学大学院人間環境学府教授）［内容］介護する家族に寄添うとき［参加費］７００円［問合先］☎０９２・８７４・６３２１福岡ホスピスの会事務所

■SE・CO　1日黙想会
［日時］11月23日（火）10時半から15時［場所］聖心のウルスラ宣教女修道会祈りの家（粕屋郡篠栗町）［指導］杉原寛信神父（直方・田川教会主任）［参加費］１３００円（弁当代含）［申込先］FAX０９２・５８１・６８３８龍優子

■ユリアナの会
［日時］11月25日（木）14時から16時［内容］「発達精神医学(3)老年期を中心に」［場所］福岡黙想の家２階会議室［講師］小宮豊医師（小宮クリニック院長）［参加費］無料［主催］ユリアナの会［問合せ］☎０９４０・３８・８９１５（11時～16時／月～土）☎０９４０・３２・３２２２（黙想の家）［世話係］☎０９４０・３３・２７３１吉永昌子

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］11月25日（木）11時から14時［場所］聖クララ寮聖堂（福岡市南区塩原）［内容］レクイエムのミサと研修［司式］裏辻洋二神父（イエズス会）［講師］坂田孝子氏［問合せ］☎０９６・３８０・５６８６堺敬子

■在世フランシスコ会集会
［日時］11月28日（日）14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［次回］10月24日（日）［指導］小池如安神父［問合先］☎０９２・８４３・５８３１岩崎

■ソロモン友の会・DBVG海外ボランティア活動報告会
［日時］11月28日（日）13時半［場所］光丘教会［内容］タイ・フィリピン・ネパールでの活動報告［問合せ］☎０９２・５９６・７３３３薬真寺

◆北九州

■小倉カトリック祈りの集い
［日時］11月26日（金）13時半～15時［指導］ガブリエル神父［場所］小倉教会信徒会館２階［内容］「みことば」をあじわう・賛美と感謝の祈り［連絡先］☎０７０・５５３８・６１８６安藤

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］11月10日（水）10時～11時半［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］11月24日（水）10時～12時はミサと祈り：毎月第２水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎０９５２・７２・７５３６吉田

◆熊本

■聖書を読む会
［日時］毎月第１木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］ルカ福音を読む［講師］マルコ・ヴィッラ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎０９５２・２３・４７５４マルコ・ヴィッラ神父

■熊本・地区対抗運動会
［日時］11月７日（日）９時～15時［場所］マリスト学園グランド［主催］熊本市カトリック教会青年部［後援］熊本信徒使徒職協議会［問合せ］☎０９６・３６８・２８２５健軍教会

いのちと心　シンポジューム

日時：11月17日14時～
場所：あいれふ大ホール（福岡市健康づくりセンター10階）
講師：Huth夫妻（ドイツの精神科医）
参加費：1800円
主催：宗教・宗派を超えて共に考える会
後援：カトリック福岡司教区　他
問合せ：☎０９２・８７１・５０４４大山悟神父

美野島司牧センターを掃除しましょう

日　時：2004年11月26日(金)
10時～12時半(現地集合／現地解散)
スケジュール：
10：00～11：30　センター内の清掃
11：30～12：30　ミサ
★各自で雑巾持参のこと
申込み締切り：11月21日
申込み：各小教区の地区婦人会委員
主　催：カトリック福岡教区福岡地区婦人会

■美野島司牧センターから
＊美野島衣類バンクでは、男性用衣類・靴下・洗面道具・靴・米など寄付をお願いしています。
＊火曜・金曜日11時から衣類バンクの奉仕者も募っています。
[問合先] ☎０９２・４３１・１４１９

編集後記

10月23日に新潟県中越地方で発生した地震によって、数多くの人々の命が失われました。そして、数多くの方々が身体と心に大きな痛み・苦しみを背負い、不安と窮状を抱えながら不自由な生活をおくっています。避難所の体育館やビニールハウスで、また自家用車やバスの中で、肩を寄せ合っている人々のことが思われます。寒さに耐え、悲しみに耐え、希望の明かりの見えない状況を何とか乗り越えてほしい、そう願わずにはいられません。北陸の厳しい冬の訪れは近く、一刻も早い、人々が少しでも安心できる生活環境作りのための支援が求められています。

COSMOS
スポーツ用品・ＯＡ・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
ＴＥＬ　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（１Ｆ）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（２Ｆ）十字架、ロザリオ、ご像、ＣＤ、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後６時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

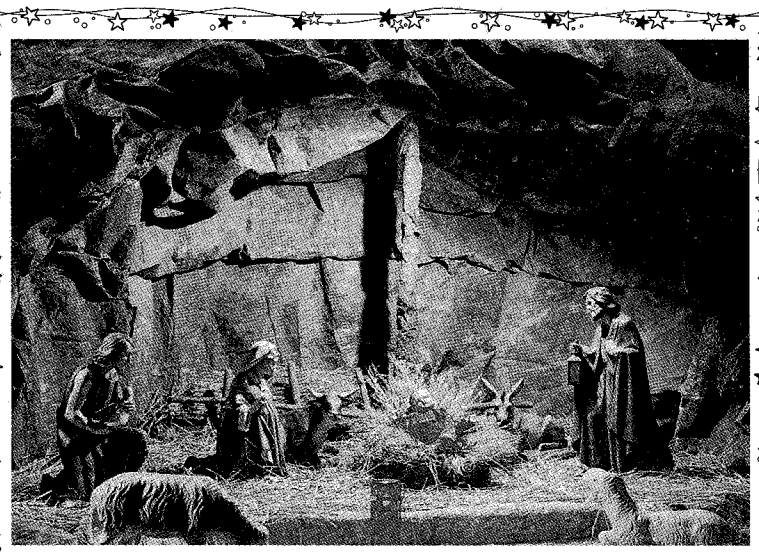
カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

12月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】子どもは神からの尊い贈り物
【布教の意向】福音の文化内開花とイエス・キリストの受肉
【日本の教会の意向】主イエス・キリストの平和と光



神の子イエス・キリストの光が
すべての人の心を照らしますように

鳥栖カトリック教会創立50周年を祝う

200人の信徒・歴代の主任司祭も喜びをともに

涙の聖母・鳥栖教会（主任＝平田三好神父）が創立50周年を迎えた。10月31日、松永久次郎司教司式により、堅信式と感謝のミサが行われた。16人が堅信の秘跡を受けた。祝賀式には歴代主任司祭をはじめ、周辺の小教区から司祭、信者が集い、鳥栖カトリック幼稚園関係者も多数参加し、喜びを深めた。



10月31日午前10時、鳥栖カトリック教会の創立50周年記念ミサが松永久次郎司教主式により催された。

ミサのなかで松永司教は参加者に「歴代の神父様たちの努力によって、鳥栖教会は50周年を迎えることができました。しかし、小教区の50周年は一人だけのものではなく、皆のものです。鳥栖は九州の中心に位置しており、心臓と呼べる場所です。私たちがこの九州の中心で主に感謝と賛美を捧げることは素晴らしいことです。また、50周年を記念して、私たちは何が本当に正しく具体的に大切か、聖霊は私たちに対して何を証しさせているのか、このことを今一度改めて考えなければなりません」と語った。



鳥栖教会は、明治24年（1891年）、近隣の基山に信徒が誕生して以来、約60年間は隣の久留米教会に所属していた信徒たちが、自らの手で山から木材を切り出し、現在の基山巡回教会を立てたのが1952年。翌1953年佐賀地区がミラノ外国宣教会の司牧担当となった時点の1954年に鳥栖教会が現在地に設けられた。最初は倉庫を改造した聖堂であったが、1979年には、幼稚園共々現在の鉄筋コンクリート建築に建て替えられた。

基山教会設立から数えると52年間、信徒誕生から119年の間に、司祭2人、修道士1人、修道女11人を送り出し、現在籍信徒402人を数えるまでに発展してきた。

一方、幼稚園は1955年に創設され、1957年には第1回生9人の卒園式が行われた。以来、今日までに37人の卒園児を送り出している。職員の大半が鳥栖教会の信者であることも幸いして、教会学校でも信徒たちの熱い期待に応えようと日々努力している。

現在の鳥栖教会は、信徒の高齢化と若年信徒の教会離れ傾向に拍車がかかりつつあるのが悩みの種と、主任司祭や年長者たちも懸念している。

しかし、参加者の顔は、今日いただいたお恵みをどのように活かそうかと、次の百周年に向って輝いていた。

福岡教区28殉教者列福祈願ミサ



福岡教区の殉教者ディエゴ加賀山隼人ほか27人の顕彰と列福を祈願するミサが、11月1日（月・諸聖人の祭日）14時から、カテドラル大名町教会で松永久次郎司教司式のもと行われた。

祭壇前には殉教者の名前が記された28本のろうそくがともされ、参加者は殉教者の一日も早い列福を願って熱心に祈りを捧げた。松永司教は説教の中で、28人の殉教の出来事を年代を追って紹介し、「殉教者たちは偉大な人々であるが、彼らは普通の人間であった。殉教は天の国を求める人々にとって大切な証しとなった」と語った。ミサの後、殉教者顕彰担当の深堀勝人神父は、引き続き殉教者の列福のため祈ってほしいと語った。殉教者たちの愛の証、燃えるともし火として、私たちの心を照らしている。

アンリ・キニュ神父帰天



日本での宣教のため福岡教区で44年にわたり司牧に務められた、天神町教会主任のアンリ・キニュ神父（パリ外国宣教会）が10月27日（水）18時30分帰天された。享年72歳。突然の訃報に多くの人が戸惑いを隠せなかった。奇しくも一ケ月前、長年キニュ神父と共に司牧をされていたジャック・バイヨ神父（2004年9月23日帰天）を天国へ見送ったばかり。訃報を知った人々は驚きと深い悲しみに包まれていた。28日夜、キニュ神父が主任司祭として務めていた天神町教会で通夜が営まれた。



天神町教会では10月10日に堅信式があり、この時堅信を受けたばかりの子どもたちも参列し「キニュ神父様、教会学校や一緒に遠足に行ったことなど神父様との楽しい思い出がいっぱいです。わたしたちのやさしい神父様が突然いなくなってとても不安です。これからも天国でわたしたちを見守ってください。わたしたちも神父様から教えていただいたことを忘れません」と祈りを捧げていた。

翌29日11時より黒崎教会（主任＝ベリオン神父）で松永久次郎司教司式のもと葬儀ミサ・告別式が執り行われた。葬儀ミサにはパリ外国宣教会の管区長O・シェガレー神父をはじめ、福岡教区司祭団、多くの信徒、修道者が参列し亡くなった神父のために祈りを捧げた。

キニュ神父は1932年1月15日フランスのメラに生まれ、1958年6月28日司祭に叙階された。戸畑教会、小倉教会、黒崎教会、光丘教会、天神町教会で宣教司牧に尽力された。JOC（カトリック青年労働者連盟）などで活躍され、集まった人々にいつもやさしい笑顔で語りかける姿が印象的であった。

ドミニク相馬家子修道女（幼きイエス会）帰天

11月11日帰天。享年93歳。

1945年4月1日初誓願、長年にわたり福岡雙葉幼稚園で子どもたちの教育にあたり、また幼児教育に携わる教職員の指導にも当っておられた。

時の話題

1つの助け合い！

高橋修司

約10年前の阪神淡路大震災での医療活動の経験から、1つの助け合いの姿を報告したいと思います。私達（医師、看護師、運転士、事務職員ら）は医薬品、衛生材料や必要な食料や水、寝袋等を救急車とトラックに積み込んで被災地に向かいました。神戸市内の避難所で「カトリック医療施設協会」として医療活動を始めましたが、今回の新潟県中越地震同様に長期化する避難生活を見て、更に継続した活動が必要だと考えていました。用意した物資はすぐに底をつくはずでしたが、活動を続けるうちに各団体の方々や多くのボランティアが私達の支援を始めて下さり、必要な情報収集、移動、衣食住等が不都合なくできる組織が知らぬ間に出来上がっていたのです。一個人や一団体ができる支援は小さくとも、多くの人の支援の輪が広がると想像以上のことができるようです。そして支援をしている時はきっと自分も「誰か」に支援されているのではないでしょうか。

また、このたび台風、新潟県中越地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。（久留米聖マリア病院　事務部長）

みちくさ

造り主である神は私たちのことを何かと気づかい、私たちのためを思って、必要に応じてお手紙を送りたいと思われているのではなかろうか。そしてそのお手紙の一つが四季の移り変わりではなかろうか◆春には様々な花が咲き、この大自然を美しく飾る。草も木も華やかな彩りを見せ、秋の実りに向かっての力強い出発の美しさを描き出す。万物は明日の実りを目指して働き始めるのである◆夏には緑の祭りが催される。八月の暑さにも関わらず生命の営みは旺盛である。地上の果物を実らせ地中の野菜を成長される。日本では水田も実り豊かさを演出するのである。◆秋は静かで安らかな実りのときとなり、木の実も野菜も収穫を祝う。一年の働きを慎み深くそして誇らしげに差し出し、穏やかに冬の日を待つのである◆冬は黙って時を過ごすかのごとく見えるが、来年の春を迎える準備の営みをするのである。声をあげず、足音は立てないが、耐えて準備の務をめ果たす。新しい活動の日に備えて、春の日を穏やかに待つのである◆こんな四季が毎年新たにされ、毎年決まったことが繰り返される。この毎年繰り返されるものが、何かを私たちに囁かないだろうか。あの方はなにを語られたいのであろうか◆私たちに明日の出発を思い、力強く働き始めることを勧め、困難に堪えて務めを続け、実りの時までその務めを果たし終えることを教えるのではなかろうか◆私たちは神のお手紙をよく読みその心を生かすことを学ばねばならないと思う。（J）

2004年福岡大神学校の召命の集い

11月3日（水）サン・スルピス大神学院（院長＝大山悟神父）で、恒例の「召命の集い」が、テーマ「ほら、目の前に、キミの生きる道！」で開催され、約1200人の信徒・修道者・司祭が参加した。福岡地区信徒協や福岡地区青年有志、福岡修道女連盟のシスターなどの支援を得て、今年も多くの催しが、神学校の建物の内外で繰り広げられた。オープニングのミサで説教を担当したのは長崎大司教区の山口竜太郎助祭。山口助祭のイキイキとした話を掲載させて頂いた。


語りかける山口助祭

皆さんは、今日、大神学校に来るまで、どんな道を通ってきましたか。

誰と一緒に来ましたか。車やバスの中でどんな話をしてきましたか。別に変わったことがあったり特別な話をしたわけではないかもしれません。でも、そんな何気ないことの中に大切なものが隠されているということがあります。

神学生は、お祈りの中で自分が今まで神様のどんなお恵みの中で生きてきて、神父様になろうとしているのかと考えるときがあります。わたしが考えるときよく浮かんでくるのは、小学校に入ったばかりの私がばあちゃんに手を引かれながら、毎朝ミサに行っている風景です。私は4人兄弟ですが、ばあちゃんはなぜか私だけを起こして教会に行っていました。父も母も他の兄弟も、他の家族はみんな寝ていました。私が長崎の神学校に入学する前に、ばあちゃんは天国の神様のもとに行ってしまいました


未来の福岡教区の司祭たちは、だれ？

から、なぜ私だったのかそれは今となってはわかりません。

でも、思うのは私は、ばあちゃんによってイエス様に出会わせてもらったということです。隣の席で祈る姿で、毎朝教会に行くと言う姿によって、そして、手を引いてくれた優しさによって、信仰を生きるということを教えてもらったように思います。

イエス様は今日私たちに「私は道である」と言う言葉をくださいます。ちょっとわかりにくいかもしれません。皆さん、どうぞパンフレットの表紙を見てください。イエス様が二人の子供と手をつないでいる絵があります。イエス様はいつも私たちと共に歩いてくれています。それは私とイエス様だけでなく。他の誰かと一緒に歩いていくのです。今日大きなバスで神学校まで来たお友達、どうでしょう。いつも家の車に乗るのとは違う楽しさがありませんでしたか。イエス様もたくさんの人と一緒に歩きたいと思っていらっしゃいます。この絵の中には二人の子供とイエス様だけですが、もっとたくさんの人、全世界の人と手をつないでイエス様は歩きたいのです。

今日家に帰ったら聖書のマタイ福音書の一番最後を読んでみてください。イエス様は次のように言われています。「あなた方は行って、すべての民を私の弟子にしなさい。私は世の終わりまで、いつもあなた方と共にいる」（マタイ28・19a、20b）たくさんの人をイエス様のところに連れて行って、一緒に手をつなごうと言えるのは、神父さまであり、シスターです。イエス様のために、そしてたくさんの人々の笑顔のために働いてみたいなと思いませんか。みんなは神様から命をいただきました。いのちだけでなく、何かよいものをそれぞれいただいています。思いやりや勇気、忍耐する心をいただいています。

私たちはそれを自分のためだけでなく、誰かのために使うとき「ああ、生きているな」と感じることができます。いのちを輝かすことができます。イエス様はすばらしい方だという風にいつも教えてくれるから、神父様やシスターの笑顔が素敵だなと思うことがあるんだと思います。時々、神父様やシスターが怒るのは「何とかしてでも、イエス様から離れてほしくない」と言う心からの気持ち、真剣な気持ちの現れです。どうぞ今日一日、周りにいるたくさんの神父様、シスター、神学生の顔を見てみてください。話をしてみてください。一緒に遊んでいる絵があります。イエス様はいつも私たちと共に歩いてくれています。それは私とイエス様だけでなく。他の誰かと一緒に歩いていくのです。今日大きなバスで神学校まで来たお友達、どうでしょう。いつも家の車に乗るのとは違う楽しさがありませんでしたか。イエス様もたくさんの人と一緒に歩きたいと思っていらっしゃいます。この絵の中には二人の子供とイエス様だけですが、もっとたくさんの人、全世界の人と手をつないでイエス様は歩きたいのです。

今日家に帰ったら聖書のマタイ福音書の一番最後を読んでみてください。イエス様は次のように言われています。「あなた方は行って、すべての民を私の弟子にしなさい。私は世の終わりまで、いつもあなた方と共にいる」（マタイ28・19a、20b）たくさんの人をイエス様のところに連れて行って、一緒に手をつなごうと言えるのは、神父さまであり、シスターです。イエス様のために、そしてたくさんの人々の笑顔のために働いてみたいなと思いませんか。みんなは神様から命をいただきました。いのちだけでなく、何かよいものをそれぞれいただいています。思いやりや勇気、忍耐する心をいただいています。

私たちはそれを自分のためだけでなく、誰かのために使うとき「ああ、生きているな」と感じることができます。いのちを輝かすことができます。イエス様はすばらしい方だという風にいつも教えてくれるから、神父様やシスターの笑顔が素敵だなと思うことがあるんだと思います。時々、神父様やシスターが怒るのは「何とかしてでも、イエス様から離れてほしくない」と言う心からの気持ち、真剣な気持ちの現れです。どうぞ今日一日、周りにいるたくさんの神父様、シスター、神学生の顔を見てみてください。話をしてみてください。一緒に遊んでみてください。イエス様は今日一日、私たちの中にいて、一緒に笑ってくださるイエス様を見つけてみましょう。一緒に手をつないでくれるイエス様を見つけてみましょう。イエス様が私たちの中にいらっしゃること、そして、いつも呼びかけてくださる「私に従いなさい」という声が感じられるかもしれません。イエス様の声に「はい」とこたえて、行動していくことこそ、私たちの生きる道です。これから先、イエス様から離れることのないように、そして、この中の子供たち、青年たちの中から一人でも多くの神父様やシスターへの道を歩み始める人が出るように祈っていきましょう。


今年も力作が揃った

召命の集い参加者の皆さんに感謝！

召命の集い2004にご参加くださった皆さん、本当にありがとうございました。当日は皆さんの暖かい協力によってすばらしい一日となり、皆さんのなかにイエス様のやさしい笑顔をたくさん見ることができました。今年の召命の集いは恒例の劇をビデオで上映しましたが、ご覧になっていただけましたでしょうか？このビデオを通じて召命のことを少しでも理解していただければ幸いです。なお上映会場、その他で案内に不足がありましたことを深くお詫び申し上げます。召命の集い後のアンケートではさまざまな意見をいただきましたが、その他、何かお気付きの点がございましたらぜひお聞かせください。今後の召命の集いをよりよくするために、神学生一同精進していきます。

最後に松永司教様をはじめ、ご協力くださった神父様方、修道者の方々、信徒の皆様、本当にありがとうございました。何よりもまず皆さんの力によって召命の集いは成り立っているということを改めて感じました。これからも司祭、修道者の召命のためにお祈りください。本当にありがとうございました。

（大神学院召命の集い実行委員長：山添克明神学生）

召命学校に参加して

犬童　充貴


僕がこの召命学校にはじめて参加したのは去年でした。

はじめは、とても不安で胸がいっぱいでした。この集いにきて最初に話をした人は、神父様方や大神学生の方たちでした。いろいろとこの学校のことを、詳しく教えてくださって助かりました。また、召命学校には沢山の出会いがありました。たった2泊3日の中で沢山の友達ができたことがとてもうれしかったです。

そして、今年は再会と新しい人たちとの出会いで、僕にとって初めて召命学校に参加した人たちをサポートしないといけないのかなと思っていました。

召命学校のなかではミサやレクリエーションや川遊びなど、2泊3日という短い時間のなかに仲間と一緒に生活できたことは、僕にとってとても貴重な体験でした。

このような貴重な体験ができたのも多くの人々の支えによってなりたっていることを知りました。食事の準備から片づけまでお世話をしてくださった方々、また退屈しないように楽しいゲームを考えてくださったり、それぞれの所属する教会の信者さんの方の祈りなど、本当に感謝しています。

最後に、これからも良いものを体験し、いろいろなことを学び吸収し、成長できるように神学校への道を進もうと考えています。

この召命学校に参加できて本当によかったです。

（人吉教会＝中学3年生）

教会について考える (8)

「異邦人の使徒」と呼ばれるパウロは、当時のヨーロッパを三回にわたって伝道の旅をし、福音を伝えました。使徒言行録前半は、ペトロが主に登場し、舞台の中心も主にエルサレムにとどまっています。これに対して、後半はパウロが中心で、その活動範囲は、国境を越えて当時の異教徒の中心であったローマにまで及びます。あるとき、神殿の境内で逮捕されたパウロは、ローマまで護送されますが、使徒言行録はローマをその最終章の舞台として幕を閉じます。このことによって著者ルカは、復活後のイエス・キリストが、使徒たちに与えた命令「そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」（使徒1・8）ということが実現されたと述べるのです。（フランシスコ会訳注）パウロが、ローマまで行き着いたということは何を意味するのでしょう。当時ローマ帝国は、地中海西部、東部一帯、パレスチナ、さらに北アフリカにいたるまで、支配の手を伸ばしていきました。つまり、パレスチナという一地域に始まった福音、そして教会は、人間の思惑を乗り越えて世界へと広がるわけです。さらにご承知のとおり、ローマ帝国は、最初はキリスト教を迫害しますが、4世紀には、キリスト教を受け入れ、さらに国教とするにいたります。ここに神の計画の不思議さを感じます。

ところで、その原動力になったのは何でしょう。人間の努力、あるいはパウロの宣教の熱意でしょうか。それもあるでしょう。しかし、そこに働いているのはまさに聖霊です。パウロは、最初はキリスト教徒を迫害するいわばゴチゴチのユダヤ教徒でした。律法の遵守によって、いわば自力によって人は救いに到達できると考えていました。そんな彼を創り変えたのは、神の働きであり、そのときから彼は、自分の弱さを誇り、人は信仰と恵みによって救われると説くようになりました。現代においても教会を導いている方が同じであるとすれば、たとえ、召命、司祭の減少など難しい状況が続いても、恐れるに足らないと思うのです。主の霊の働きに信頼して神の教会の発展のために、ともにその道具となっていきたいものです。

森山信三神父
（戸畑教会主任）

2004年度後援会会員黙想会 森と祈りの集い
［日時］12月17日(金)16時 ～ 19日(日)昼食
［会費］全日程会員価格7、500円（2泊と全食含む）
土・日のみ参加3、750円（1泊と全食含む）
＊新規入会者も会員特別参加費で可（問合せを待っています）
PRAYER GROVE MUNAKATA
カトリック福岡黙想の家
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

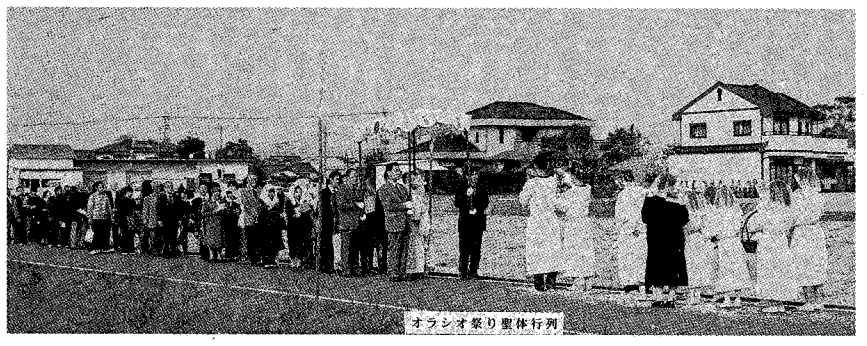
ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
〒810－0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

稲刈りの終った道をご聖体が行く

今村


オラシオ祭り聖体行列

今村教会（主任＝岩永義人神父）恒例行事「ふれあいフェスタオラシオまつり」が10月31日開催され、約200人が参加した。今年は、聖体の年にあたり、聖体行列は特にそれを意識して行われた。行列は住居の間や稲刈りの済んだ田んぼの横を進み、途中、聖母園に立ち寄り、高齢者に聖体による祝福がなされた。

熊本地区14教会の大運動会

マリスト学園



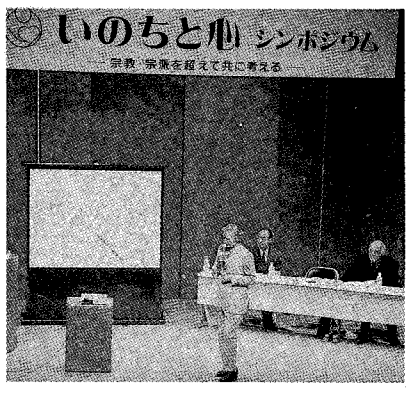
11月7日（日）晴天の空に響き渡る爆竹の音とともに熊本地区『帰ってきた！大運動会？』の幕が上がりました。マリスト学園グラウンドに熊本県内14教会から約500人の参加者が集結しました。

開会式では、来熊されていたコロンバン会総長オサリバン神父様のごあいさつもいただき、青年2人による元気な選手宣誓によって競技がスタートしました。午前の部の障害物競走・ムカデ競争では擦り傷が続出するほど白熱した展開になりました。午後の部はフォークダンスから始まり、仮装行列では神父様・信徒会長がヨン様・天草四郎・マッケンに扮し、会場は笑いの渦に巻き込まれました。

最終種目地区対抗リレーでは大漁旗やドラムなどの鳴り物での盛大な応援が行われ、午前の部で独走態勢に入っていた天草地区を巻き返し、東地区の優勝となりました。大会後に、感謝のミサが捧げられ、各地区の共同祈願を旨に心を一つにして祈りました。

約25年ぶりに行われた運動会の趣旨は、1熊本地区司牧56周年を迎えたコロンバン会への感謝、2熊本地区の親睦の2点です。熊本市カトリック教会青年部が企画し、信徒協をはじめ、各教会の実行委員の協力を得て準備が行われました。ご支援・ご協力をいただいた多くの方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

宗教・宗派を越えた講演会を教区も共催



11月17日午後2時より6時まで、福岡市健康づくりセンター「あいれふ」大ホールにおいて、来日中のドイツ人のフートご夫妻を招いて、「いのちと心のシンポジウム」が行われた。これは福岡市内の宗教者の有志たちが宗教・宗派を超えて「いのちと心」について共に考えるために行ったものである。フート夫妻は2人とも精神科医で、臨床での豊かな精神治療の経験を通して、自然科学に基づく精神医学の在り方には限界があり、スピリチュアルな次元を考慮した関わり、すなわち存在の意味を共に考える関わりが必要である。うつ病や自殺の種々の原因を参加者に問いかけ、また参加者の質問に応えながら、精神的に病む人に対しての関わりを話された。彼らに励ましや自己責任を求めることは禁物で、むしろ教えて頂く、学ぶつもりで関わることが大切で、かれらに添いながら、かれらの内にある生きる力を支えるよう心がける必要がある。人は認められ肯定されるとき、自分の存在のかけがえのなさに気づき、人生の意味を見いだせるようになり、生きる力を増すことができる。人が自分自身の存在の意味を見出だし、また他者の存在を支え、意味を見出させるものになるためには、自分と他人のいのちを生きたものとして感じ取らせる瞑想が有益であると述べられた。

心を病み、いのちを削る生活を強いる社会にあって、宗教の意味も問う講演となった。

ただいた多くの方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

修道生活50年を祝った聖パウロ会・カルメル会

聖パウロ会の喜び



聖パウロ会よろこびの3修道士

10月30日、カテドラル大名町教会で聖パウロ修道会誓願宣立50周年感謝のミサが行われた。修道誓願宣立50周年を迎えたのは、コンラド中村末男修道士、ヨセフ山内重夫修道士、アウグスチノ牧山忠治修道士の3人。親族や友人、そして全国各地から聖パウロ家族の会員が集まり、聖堂内は大きな喜びと感謝の内にあたたかな雰囲気に包まれた。

ミサを司式した松永久次郎司教は、修道生活を「祈り」「奉仕」「犠牲」「神の民の証」のことばで表現し、3人の修道士の50年の奉献生活を修道生を称賛した。そして教会の宝といえる修道生活の誠を仲間とともに生き続けていってほしいと述べた。

説教の後、3人は誓願を更新した。牧山修道士は「私たちがここまで歩んで来られたのも神様のお恵みと、皆様のお祈り、ご指導と励ましがあったからこそ。心から感謝します」と語った。

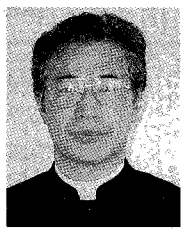
ミサの後、ホールで祝賀会が催された。修道士たちを囲む笑顔の輪が広がっていた。

50年の奉献生活に感謝のカルメル会

10月7日福岡カルメル会修道院でシスター松崎静江が誓願金祝を祝った。シスター松崎は山口県出身で、74歳。シスターは「この日を迎えられたことは神様の大きなあわれみであり、すべてはお恵みで、今日までの50年間、司祭召命と教区の神父様のために祈り続けることができましたことを本当に幸せに思います」と語っている。

カルメル会では6月18日にもシスター福留静（82歳、鹿児島県出身）の誓願金祝を祝い、2004年は恵みの年であった。

木かげ


浦川務神父

まもる信仰生活から宣教する信仰生活へ、限られた宣教者から全信徒が宣教の担い手へと転換が叫ばれるようになって随分時間が過ぎたように思います。様々な試みがなされ、多くのエネルギーが注がれて来ました。その結果、以前には見られなかった教会の姿を見る事が出来るようになり、多くの成果をあげています。しかし、様々の活動、行事を行い、外に向かえば向かう程、何かを置き忘れ、そこに信仰の空洞化を感じます。外に向かっては様々の取り組みを行い、内側である家庭において信仰を伝える事にどれだけ価値を見出して来たでしょうか？

最後は神様がちゃんとよかごとして下さる

結婚の為に訪れる青年と接するたびに何か焦りを感じます。なぜなら、結婚適齢期を迎えている若者は私たちが育ててたからです。もちろん、熱心に信仰を伝えようとしてきたことは事実です。しかし肝心なところでは自分ではなく誰かにお任せするようなやり方ではなかったでしょうか。

「あなたは信仰をどのようにして授かりましたか？」この質問は幼児洗礼を受けた多くの皆さんには答える事が難しいのではないでしょうか。多くの方が「気付いた時には祈りの言葉を口にしていた」のが実情だからです。先輩達の信仰教育は生活そのものでした。

幼い我が子の手に自分の手を添えて十字架の印をし、その子の代わりに食前の祈りを唱えてミルクを与えている姿に信仰の芽生えを見ることが出来ました。また、我が子を腕に抱き朝夕の祈りを唱える姿に信仰が育まれていることを感じました。言葉や理論ではない肌の温もりを感じながらの信仰の伝承でした。親の愛情と信仰とが親から子へ、子から孫へと引き継がれていたのです。今、私たちに一番欠けていることは生活の中での信仰の伝達です。ただ単に子どもたちに「祈りなさい」ではなく、「お祈りしようよ」と子どもたちの傍で一緒に祈ってあげることです。誰かに子どもたちの信仰教育を任せる前に、それぞれが子どもたちと向き合い、一緒に歩いてあげましょう。そこには愛情と忍耐と努力が必要ですが、必ず実を結ぶ時がきます。「最後は神様がちゃんとよかごとして下さる」8人の子どもを持つあるお父さんの口癖です。子どもたちはこの口癖の中に神様への信仰を感じ、それを遺産としたそうです。

久留米教会主任

BOOK 読みは専科



★巡礼地に立つ　フランスにて　高橋たか子著

何世紀も前から現代にいたるまで、世界のあちこちにマリア出現の出来事がある。そのうちフランスに限りルルドをはじめ、有名なマリア出現の巡礼地八箇所を訪ねてくわしい出現の模様や、その時代、その土地に託されたメッセージの意味を探る。

女子パウロ会　発行

税込価格　2100円

◇　◇　◇



★『「ぬくぬく」をもちよって　…わたしたちの教会』　比企　潔　著

「教会ってなんだろう？」といつも考え続けている1人の神父さんと、一匹の不思議なネコ。両者のかかわりを通して教会の姿を解説していく物語。全11章からなり、それぞれ「教会はひとつ」「教会での仕事」「社会との関わり」などをテーマにしながら、教会とは建物ではなく、私たち一人ひとりが教会そのものであると説明していきます。

オリエンス宗教研究所

税込価格　735円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

召命は、生きる キリストとの出会いから

カトリック教会のカテキズム

日　時：2005年１月23日(日) 15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：１回　５００円
主　催：福岡教区信仰教育委員会
※教会学校のリーダーや公教要理をもう一度学びたい方にお勧めです。

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第四期神学講座
③2005年１月16日(日) 13：30～16：30
「啓示憲章」　牧山　美好　神父
④２月20日(日) 13：30～16：30
「ナイスⅠ・Ⅱをへて福音宣教」
橋本　勲　神父

♣聖書講座
⑲１月15日(土) ／ ⑳２月５日(土)
「ヨハネによる福音書」を引続き読みます。
＊原則、第１・第３土曜日　14時～16時
＊2005年９月17日まで全15回
講師：全回通して中村彰神父(健軍教会主任)
場所：手取カトリック教会
主催：熊本地区信徒使徒職協議会神学講座実行委員会
問合せ先：手取教会　☎096-352-3030

北九州地区聖書講座

北九州地区聖書講座
第六回：2005年１月16日(日) 14時～16時半
テーマ：現代に向けて
場　所：戸畑教会
講　師：森山信三神父神父（戸畑教会主任）
費　用：１回５００円

美野島司牧センター支援 クリスマスチャリティーコンサート

日時：12月５日(日) 18：30開演
場所：大名町カトリック教会大聖堂
出演：石多エドワード
(東京オペラ協会、オペラプラザ福岡芸術監督)他
第１部：日中合作歌劇「蓬莱の国…始皇帝と徐福」より
第２部：ミュージカルなど世界の歌はいかが？
第３部：クリスマスソングをどうぞ
入場料：大人3000円/高校生以下2000円(当日500円増)
問合せ：オペラプラザ福岡　☎092-327-4576 福田

第57回福岡市民クリスマス

日時：2004年12月13日(月) 18時30分開演
場所：福岡市民会館大ホール(福岡市中央区)
入場無料
※クリスマスメッセージ／福岡女学院ハンドベル／西南大学グリークラブ／劇団小羊の演劇「あなたに贈るクリスマス」
♥誘いあって共に主の降誕を祝いましょう！

案内版

福岡黙想の家ご案内　12月

◇３日(金)～５日(日)　ユースフルライフ・カウンセリングワークショップ
◇５日(日)～６日(月)　オブレート会・福岡
◇８日(水)　ミカエル会
◇11日(土)～12日(日)　メメント・モリ　セミナー
◇17日(金)～19日(日)　森と祈りの集い
◇22日(水)～23日(木)　明治学園小学校職員研修会
◇23日(木)～25日(土)　主のご降誕を祝う黙想会
◇26日(日)～29日(水)　善きサマリア人修道会会議
◇29日(水)～1月3日(月)　善きサマリア人修道会黙想
2005年
◇1月4日(火)～7日(金)　休館
※クリスマスを静かな黙想の家「森の教会」で過しませんか？
[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：聖人の祈りに学ぶ　秘儀を深めて」です。
※祈りの集い（毎月第２木曜日）・12月9日(木) 10時～15時
テーマ：十字架の聖ヨハネ
指　導：Sr.マリアとFr.フランコ
※2005年のテーマは「ご聖体の
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎ 0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：12月18日・1月15日　10時～12時（第１、第３土）
場所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂
※基本的に第１・第３土曜日。変更になる場合もあります。

会合と催し

12月のこよみ

５日(日) 待降節第２主日／宣教地司祭育成の日（献金）
八代殉教祭（9：30）
宣教司牧評議会［司教館14：30］
８日(水) 無原罪の聖マリア
９日(木) 召命祈願ミサ［大神学院19：15］
12日(日) 待降節第３主日　美野島司牧センター堅信式
†M.コーフィールド［2001年島崎教会］
13日(月) 聖ルチアおとめ殉教者
第57回福岡市民クリスマス（福岡市民会館）
14日(火) 十字架の聖ヨハネ
17日(金) †M.コニリー［1990年手取教会］
18日(土) †J.マグラ［1976年荒尾教会］
19日(日) 待降節第４主日
†パウロ青木功［1973年行橋教会］
20日(月) †M.ソーレ［1917年久留米教会］
23日(木) †A.ベニエ［1983年飯塚教会］　天皇誕生日
24日(金) 主の降誕夜半ミサ［カテドラル20：30］
25日(土) 主の降誕（クリスマス）
26日(日) 聖家族の祝日　（聖ステファノ殉教者）
27日(月) 聖ヨハネ使徒福音記者
2005年１月
１日(土) 神の母聖マリア／世界平和の日［カテドラル10時］
†Ｃ．バスチ［2002年黒崎教会］　元旦
２日(日) 主の公現　†J.ドノフ［1985年菊池教会］
†ヨゼフ牧山藤房［1993年西新教会］
４日(火) †E.モーゼ［1998年門司港教会］
ゴチックは司教日程

福岡

■メメントモリ　セミナー
［日時］12月11日（土）16時から12日（日）16時まで［講師］シスター高木慶子（「生と死を考える会」全国協議会会長）［テーマ］愛する人を亡くされた方の悲嘆と心のケア［場所］カトリック福岡黙想の家［会費］１５０００円（宿泊・食事・講師謝礼含む）［問合せ］☎０９４０・３２・３２２２吉田

■生と老い死を見つめる会
［日時］12月19日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［講師］山下祐二先生（チャイルドライン事務局長）［内容］傾聴について［参加費］７００円［問合先］☎０９２・７１３・８５２３大山／６０７・６９９２村尾

■在世フランシスコ会集会
［日時］12月26日（日）14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎０９２・８４３・５８３１岩崎

■第35回福岡ホスピスの会
［日時］1月9日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［内容］熊本みこころホスピス医師）井田栄一先生（みこころホスピス医師）［参加費］７００円［問合せ］☎０９２・８７４・６３２１事務所

■第92回結婚準備セミナー
［日時］1月26日（水）～2月19日（水）まで毎週土曜と水曜日の19時から21時半［場所］大名町カトリック教会［参加費］カップルで１４０００円［問合せ先］☎０９２・５４１・６２０７ FAX０９２・５５２・５０２２ファミリーセンター

■ユリアナの会
［日時］1月27日（木）14時から16時［内容］統合失調症(1)［場所］福岡黙想の家２階会議室［講師］小宮豊医師（小宮クリニック院長）［参加費］無料［主催］ユリアナの会［問合せ］☎０９４０・３８・８９１５（11時～16時／月～土）

北九州

■小倉カトリック祈りの集い
［日時］12月17日（金）13時半～15時［指導］ガブリエル神父［場所］小倉教会信徒会館２階［内容］「みことば」をあじわう・賛美と感謝の祈り［連絡先］☎０９４０・３３・２７３１吉永
☎０９４０・３２・３２２２（黙想の家）［世話係］☎０９４０・３３・２７３１吉永

佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］12月８日（水）10時～11時半／午後の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］12月22日（水）10時～12時はミサと祈り・毎月第２水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎０９５２・７２・７５３６吉田

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］ルカ福音を読む［講師］マルコ・ヴィッラ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎０９５２・２３・４７５４マルコ・ヴィッラ神父

熊本

■熊本地区召命練成会
［日時］12月26日（日）14時から27日（月）15時まで［場所］手取カトリック教会［対象］小・中・高生、大人も可［連絡先］☎０９６・３５２・３０３０

■冬期結婚準備セミナー
［日時］1月24日（月）～2月15日（火）まで毎週月曜と火曜日全８回。19時～21時半まで［場所］カトリック手取教会［参加費］カップルで１４０００円［問合せ先］☎０９６・３５２・３０３０ FAX０９６・３５２・１５１５（安部）

若者の集い…ワールドユースデー2005「星の巡礼～キリストを目指して～」

《長崎会場》
日時：2005年１月９日(日) 13：30
会場：長崎大司教館(長崎市橋口町)
《プログラム》
13：00＝受付
13：30＝ワールドユースデーについて
司教の話と対話
15：00＝ケルン大会について
16：20＝ミサ

ワールドユースデーを知っている人も知らない人も、2005年のケルン大会に参加する人も参加しない人も、みんなで「わたしたちはイエスを拝みにきたのです（マタイ2：2）」と集い、司教さんと一緒に、巡礼について、教会について、キリストについて、自分達について感じたり、考えたりしてみませんか？

編集後記

『召命は生きるキリストとの出会いから』のテーマを掲げ、私たちは２００４年を歩んできました。引き続き聖体の年に、召命を求めて祈りを深めてゆきたいと思います。

一面に聖心ウルスラ幼稚園に飾られている馬小屋を載せました。一般公開は12月25日（土）から翌年1月5日（水）の期間、10時～12時、13時30分～16時の時間帯です。ぜひ一度お出かけください。

来る２００５年が、皆様にとってよい一年でありますようにお祈りいたします。また、皆様の教区報へのご協力をよろしくお願い致します。

COSMOS
スポーツ用品・ＯＡ・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木 67－3
ＴＥＬ　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、ＣＤ、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後６時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930